

菅塩遺跡群

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇〇八

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 菅塩遺跡群

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 菅塩遺跡群

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

菅塩遺跡群は太田市菅塩町に所在し、北関東自動車道（伊勢崎～県境）の建設工事に伴い、平成14・15・18年に発掘調査が実施されました。

本遺跡の周辺は、成塚向山古墳群、成塚住宅団地遺跡、駒形神社埴輪窯跡など古墳時代の遺跡が多く分布する地域です。このたびの発掘調査においては、縄紋時代早期から前期及び晩期の遺物が数多く発見され、この地域の歴史を解明する上での貴重な資料となっています。

本報告書が考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様、さらには学校教育における学習にも大いに役立つものと確信しております。

最後に、東日本高速道路株式会社、群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会及び地元関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで終始ご協力を賜り、感謝の意を表すとともに、発掘調査・整理事業に携わった担当者、作業員の方々、整理補助員の方々の労をねぎらい序とします。

平成20年12月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇夫





## 例 言

- 1 本書は、北関東自動車道路（伊勢崎～県境）建設工事に伴い発掘調査された菅塩遺跡群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 事業主体 東日本高速道路株式会社
- 3 調査・整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査期間 平成14年9月1日～平成15年11月30日、平成19年1月9日～1月26日
- 5 整理期間 平成19年12月1日～平成20年12月31日
- 6 調査組織  
管理指導 平成14・15年度東毛調査事務所 平野進・能登健・真下高幸  
平成18年度 高橋勇夫・木村裕紀・津金澤吉茂・西田健彦  
事務担当 平成14・15年度東毛調査事務所 佐藤明人・笠原秀樹・柳岡良宏・北野勝美・中澤恵子  
金子三枝子  
平成18年度 笠原秀樹・石井清・須田朋子・柳岡良宏・斉藤恵利子・佐藤聖行・栗原幸代  
今井もと子・内山佳子・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子  
若田誠・武藤秀典  
調査担当 平成14年度 伊平敬・庭山邦幸・金井武・本間昇・齋藤利子・橋本淳  
平成15年度 庭山邦幸・金井武・深澤慶一・橋本淳  
平成18年度 石塚久剛・山田精一
- 7 整理組織  
管理指導 高橋勇夫・津金澤吉茂・木村裕紀・萩原勉・相京建史・佐藤明人  
事務担当 笠原秀樹・佐嶋芳明・石井清・須田朋子・柳岡良宏・斉藤恵利子・矢島一美・齋藤陽子  
今井もと子・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・若田誠・武藤秀典  
整理担当 齊田智彦  
整理補助員 増田政子・鳥村玲子・鈴木春美・佐藤知子・品川秀美  
阿部由美子・木暮芳枝・田中富美子・小島佐恵子
- 8 本書作成の担当者は以下の通りである。  
編集 齊田智彦  
本文執筆 第1章第1節 相京建史 左記以外 齊田智彦  
縄紋土器遺物観察表 橋本淳（1区～14区）石田真（15～17区）  
遺構写真 各発掘担当者（空中写真を除く）  
遺物写真撮影 佐藤元彦  
金属製品保存処理 関 邦一・小村浩一・多田ひさ子  
機械実測 岸弘子・伊東博子・田所順子・小池益美  
写真図版作成及び石器トレース 荒木絵美・安藤美奈子・市田武子・酒井史恵・下川陽子  
高梨由美子・廣津真希子・牧野裕美・矢端真観・横塚由香
- 9 石材同定にあたっては飯島静男氏（群馬地質研究会）にご教示を得た。

10 出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保存してある。

発掘調査及び報告書作成では、以下の方々にご協力・ご指導をいただいた。記して感謝の意を表す。

稲野彰子・太田市教育委員会・地元関係者各位

## 凡 例

- 1 遺構図に使用した方位は、座標の北を表している。
- 2 本書中の遺構番号は、発掘調査時に付したものをそのまま使用しているが、一部変更したものもある。また、整理作業時に近代以降と判断されたものについては欠番としている。
- 3 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。  
遺構図 住居・掘立柱建物 1：60 土坑・ピット・井戸 1：40  
溝・水田・畠 1：200（平面図）、1：40（断面図）  
遺物図 土器 1：3 大型土器 1：4または1：6  
石器 1：3 銅銭 2：3 その他の金属製品 1：2  
ただし、図によってその限りでなく、異なる場合には各々スケールを付した。
- 4 土器断面図中の●印は、胎土に繊維を混入していることを示す。
- 5 石器実測図中で使用したスクリーンパターンは以下の通りである。



- 6 遺物写真の倍率は原則として遺物図に近づけたが、この限りでない。
- 7 本報告書で使用したテフラの略号は以下の通りである。  
浅間A軽石（1783年）As-A 浅間B軽石（1108年）As-B  
榛名二岳渋川テフラ（6世紀初頭）Hr-FA 浅間C軽石（4世紀初頭）As-C
- 8 本報告書で使用した地図は下記のとおりである。  
国土地理院 地形図 1：25,000「桐生・上野境」  
地勢図 1：200,000「宇都宮」

# 目次

口絵・序・例言・凡例

本文目次・挿図目次・写真図版目次

## 第1章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査に至る経緯・・・・・・・・・・ 1

第2節 発掘調査の方法・・・・・・・・・・ 2

第3節 発掘調査の経過・・・・・・・・・・ 3

第4節 基本土層・・・・・・・・・・ 4

## 第2章 遺跡地の環境

第1節 地勢的環境・・・・・・・・・・ 9

第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・ 10

## 第3章 調査された遺構と遺物

第1節 1区の調査・・・・・・・・・・ 13

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 縄紋時代の遺物

第2節 2区の調査・・・・・・・・・・ 13

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 低地部の調査

5 縄紋時代の遺物

第3節 3区の調査・・・・・・・・・・ 15

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 縄紋時代の遺物

第4節 4区の調査・・・・・・・・・・ 17

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 縄紋時代の遺構と遺物

第5節 7・9区の調査・・・・・・・・・・ 18

1 調査の概要

2 第2面の遺構と遺物

第6節 11区の調査・・・・・・・・・・ 19

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 縄紋時代の遺物

第7節 12区の調査・・・・・・・・・・ 20

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 縄紋時代の遺物

第8節 13区の調査・・・・・・・・・・ 21

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

第9節 14区の調査・・・・・・・・・・ 22

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 縄紋時代の遺物

第10節 15区の調査・・・・・・・・・・ 24

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 第3面の遺構と遺物

5 縄紋時代の遺物

第11節 16区の調査・・・・・・・・・・ 26

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 第2面の遺構と遺物

4 第3面の遺構と遺物

5 縄紋時代の遺物

第12節 17・18・19区の調査・・・・・・・・ 28

1 調査の概要

2 第1面の遺構と遺物

3 縄紋時代の遺物

遺構一覧表・遺物観察表

第4章 自然科学分析・・・・・・・・・・ 143

第5章 成果と課題・・・・・・・・・・ 161

報告書抄録

写真図版

## 挿図目次

- 第 1 図 菅塩道路群位置図  
 第 2 図 基本土層模式図  
 第 3 図 調査区、範囲確認トレンチ、土層観察地点、自然科学分析試料採取地点および調査担当者  
 第 4 図 基本土層 (1)  
 第 5 図 基本土層 (2)  
 第 6 図 基本土層 (3)  
 第 7 図 菅塩道路群周辺の地形分類図  
 第 8 図 菅塩道路群周辺道路分布図  
 第 9 図 1 区 1・2 面全体図、2 号溝、1 号土坑、1～7 号ピット  
 第 10 図 2 区 1・2 面全体図  
 第 11 図 2 区 1・2・7・13・14 号溝  
 第 12 図 2 区 11・12 号溝  
 第 13 図 2 区 1～6 号土坑、9・10・15 号溝  
 第 14 図 2 区 3・8・16・17 号溝、耕作痕、段差状遺構  
 第 15 図 2 区 3 面全体図  
 第 16 図 2 区 4～6 号溝  
 第 17 図 3 区全体図  
 第 18 図 3 区 1・2 号溝、水田痕跡  
 第 19 図 3 区 1 号住居・掘り方、3 号掘立柱建物  
 第 20 図 3 区 1・2 号掘立柱建物、1～3 号土坑  
 第 21 図 3 区 4・5 号土坑、2～4・9～31 号ピット  
 第 22 図 3 区 32～47・49～57 号ピット  
 第 23 図 4 区全体図  
 第 24 図 4 区 1 号土坑、1・3 号溝、1 号住居・掘り方  
 第 25 図 4 区 2～7 号土坑、7 号溝  
 第 26 図 4 区 2・8 号溝  
 第 27 図 4 区 4～6 号溝、1～3 号ピット  
 第 28 図 7・9 区全体図  
 第 29 図 7 区 1～3・5 号土坑、1 号ピット  
 第 30 図 7 区 2 号溝、9 区 1 号溝、1・2 号土坑  
 第 31 図 11 区全体図  
 第 32 図 11 区段差状遺構、1 号土坑、1 号溝  
 第 33 図 12 区全体図  
 第 34 図 12 区 1～6・8～10 号土坑  
 第 35 図 12 区 7・11～14 号土坑  
 第 36 図 12 区 15～23 号土坑  
 第 37 図 12 区 24～29・32 号土坑  
 第 38 図 12 区 30・31・33～38 号土坑  
 第 39 図 12 区 39～47・49 号土坑  
 第 40 図 12 区 1・3・4 号ピット、1・5～9 号溝  
 第 41 図 12 区 2～4 号溝  
 第 42 図 12 区 As-B 下水田痕跡、10・11 号溝  
 第 43 図 12 区 10～15 号溝  
 第 44 図 13 区全体図、1～3・5・6 号土坑  
 第 45 図 13 区 4 号土坑、1～6 号溝、1 号溜井  
 第 46 図 13 区 2・3 号溜井、As-B 下水田痕跡  
 第 47 図 14 区全体図、4～7 号溝、1 号畦  
 第 48 図 14 区 1～3・8 号溝  
 第 49 図 15 区 1・2 面全体図、1 号掘立柱建物  
 第 50 図 15 区土坑、ピット全体図  
 第 51 図 15 区 2・3 号掘立柱建物、1 号欄列  
 第 52 図 15 区 1～4 号土坑  
 第 53 図 15 区 1～6・8・9・12～29 号ピット  
 第 54 図 15 区 30～55 号ピット  
 第 55 図 15 区 56～66・71～85 号ピット  
 第 56 図 15 区 86～93・96・97・103～109・111・113～116・118・120・122・123・131・133・134・137 号ピット  
 第 57 図 15 区 1～8 号溝  
 第 58 図 15 区 9～11・23～25 号溝、水田痕跡  
 第 59 図 15 区 3 面全体図、5 号土坑、12・13・20 号溝、138～141・143 号ピット  
 第 60 図 15 区 14～18・21・26 号溝  
 第 61 図 16 区 1 面全体図、1～16 号ピット  
 第 62 図 16 区 1～8、13～16 号溝  
 第 63 図 16 区 1～17 号溝  
 第 64 図 16 区 2 面全体図、水田痕跡  
 第 65 図 16 区 As-B 下水田痕跡 (1)  
 第 66 図 16 区 As-B 下水田痕跡 (2)  
 第 67 図 16 区 3 面全体図、1～3 号土坑  
 第 68 図 16 区 4～8 号土坑、24～27 号ピット  
 第 69 図 16 区 18～29 号溝  
 第 70 図 17 区 18 区全体図  
 第 71 図 17 区 1～18 号溝  
 第 72 図 17 区 1～10 号溝、18 区 1～5 号溝  
 第 73 図 17・18 区 As-B 下水田痕跡  
 第 74 図 17 区 2 面全体図  
 第 75 図 17 区 19～26 号溝  
 第 76 図 17 区 27～34 号溝、19 区全体図  
 第 77 図 古墳時代以降の土器 (1)  
 第 78 図 古墳時代以降の土器 (2)  
 第 79 図 1 区出土土器  
 第 80 図 2 区出土土器 (1)  
 第 81 図 2 区出土土器 (2)  
 第 82 図 2 区出土土器 (3)  
 第 83 図 3 区出土土器  
 第 84 図 4 区出土土器 (1)  
 第 85 図 4 区出土土器 (2)  
 第 86 図 4 区出土土器 (3)  
 第 87 図 4 区出土土器 (4)、11 区出土土器、12 区出土土器 (1)  
 第 88 図 12 区出土土器 (2)、14 区出土土器 (1)  
 第 89 図 14 区出土土器 (2)  
 第 90 図 16 区出土土器 (1)  
 第 91 図 16 区出土土器 (2)  
 第 92 図 16 区出土土器 (3)  
 第 93 図 15・17 区出土土器、出土土器 (1)  
 第 94 図 出土土器 (2)  
 第 95 図 出土土器 (3)  
 第 96 図 出土土器 (4)  
 第 97 図 出土土器 (5)  
 第 98 図 出土土器 (6)  
 第 99 図 出土土器 (7)  
 第 100 図 出土土器 (8)  
 第 101 図 出土土器 (9)  
 第 102 図 銭、金属製品

## 写真目次

PL 1	1区第2面全景（上が南） 2区1・2面全景（西）	PL12	4区3号土坑（南） 4区4号土坑（北） 4区5号土坑（東） 4区6号土坑（南西） 4区7号土坑（南西） 4区2号溝（南東） 4区4号溝（南東） 4区5・6号溝（東）
PL 2	3区2面全景（西） 4区2面全景（西）	PL13	4区7号溝（南東） 4区8号溝（南東） 4区1～3号ピット（南西） 7区1号土坑（南） 7区2号土坑（西） 7区3号土坑（東） 7区5号土坑（西） 7区2号溝（西）
PL 3	12区1・2面全景（上が西） 13区1面全景（西）	PL14	9区1・2号土坑（北） 9区1号溝（西） 11区段差状遺構（東） 11区1号土坑（南） 11区1号溝（西） 12区1号土坑（西） 12区2号土坑（東） 12区3号土坑（東）
PL 4	14区1面全景（南） 15区2面全景（東）	PL15	12区4号土坑（北） 12区5号土坑（北） 12区6号土坑（北） 12区7号土坑（南東） 12区8号土坑（東） 12区9号土坑（南東） 12区10号土坑（南） 12区11号土坑（南西）
PL 5	16区2面全景（西） 17・18区1面全景（北）	PL16	12区12号土坑（北西） 12区13号土坑（南東） 12区14号土坑（南西） 12区15号土坑（東） 12区16号土坑（西） 12区17号土坑（西） 12区18号土坑（北） 12区19号土坑（東）
PL 6	1区1面全景（西） 7・9区2面全景（西） 12区2面全景（北） 16区1面全景（南） 17区2面全景（西） 19区1面全景（西）	PL17	12区20号土坑（東） 12区21号土坑（西） 12区22号土坑（東） 12区23号土坑（東） 12区24号土坑（北西） 12区25号土坑（北西） 12区26号土坑（南） 12区27号土坑（東）
PL 7	1区1号土坑（北） 2区1号土坑（南） 2区2号土坑（南東） 2区3号土坑（南東） 2区4号土坑（南） 2区5号土坑（南） 2区6号土坑（南） 2区1・2号溝（南） 2区3号溝（南） 2区4～6号溝（南東）		
PL 8	2区7号溝（南東） 2区8号溝（南） 2区9号溝（南東） 2区10号溝（東） 2区12号溝（南西） 2区13号溝（南） 2区14号溝（南東） 2区15号溝（東）		
PL9	2区16号溝（南） 2区17号溝（東） 2区段差状遺構（東） 2区高跡（南西） 3区1号溝（北） 3区2号溝（南） 3区水田痕跡（東）		
PL10	3区1号住居遺物出土状況（南） 3区1号住居（南） 3区1・2号掘立柱建物（北） 3区3号掘立柱建物（南） 3区ピット群・土坑（西） 4区跡先痕（上が西）		
PL11	4区1号住居（北西） 4区1号住居遺物出土状況（西） 4区1・3号溝（南東） 4区1号土坑（南東） 4区2号土坑（南西）		

PL18	12区28号土坑(北)	PL25	15区1号土坑(東)		
	12区29号土坑(北)		15区2号土坑(東)		
	12区30号土坑(北東)		15区3号土坑(西)		
	12区31号土坑(北)		15区4号土坑(南東)		
	12区32号土坑(南)		15区5号土坑(西)		
	12区33号土坑(南)		15区1号溝(西)		
	12区34号土坑(南東)		15区2号溝(西)		
	12区35号土坑(西)		15区3号溝(南)		
	PL19		12区36号土坑(南)	PL26	15区4号溝(南)
			12区37号土坑(南)		15区5号溝(南)
12区38号土坑(南)		15区6号溝(東)			
12区39号土坑(東)		15区7号溝(北)			
12区40号土坑(西)		15区8号溝(北)			
12区41号土坑(南東)		15区9号溝(南)			
12区42号土坑(南)		15区10号溝(北)			
12区43号土坑(南東)		15区11号溝(西)			
PL20		12区44号土坑(南西)	PL27		15区12・13号溝(南)
		12区45号土坑(南東)			15区14号溝(南東)
	12区46号土坑(東)	15区15号溝(南)			
	12区47号土坑(東)	15区16号溝(南西)			
	12区49号土坑(北西)	15区17号溝(北西)			
	12区1号溝(北西)	15区18号溝(北西)			
	12区2号溝(南東)	15区20号溝(北)			
	12区3号溝(南)	15区21号溝(北)			
	PL21	12区4号溝(北)		PL28	15区23号溝(南)
		12区5号溝(南)			15区24号溝(南)
12区6号溝(北東)		15区25号溝(南)			
12区7号溝(南)		15区26号溝(南西)			
12区8号溝(南東)		16区1号溝(北)			
12区9号溝(南)		16区2号溝(北)			
12区As-B下水田痕跡(南東)		16区3号溝(南)			
12区10~15号溝(東)		16区4号溝(南)			
PL22		13区1号土坑(南東)	PL29		16区5号溝(西)
		13区2号土坑(西)			16区6号溝(南)
	13区3号土坑(東)	16区7号溝(南)			
	13区4号土坑(南)	16区8号溝(北)			
	13区5号土坑(東)	16区9~12号溝(北)			
	13区6号土坑(東)	16区10・12号溝(南)			
	13区1号溜井(上が北)	16区13号溝(南)			
	13区2号溜井(北)	16区14号溝(北)			
	PL23	13区3号溜井(東)		PL30	16区15号溝(北)
		13区1号溝(東)			16区16号溝(北)
13区2号溝(北)		16区17号溝(北西)			
13区3・4号溝(西)		16区水田痕跡(西)			
13区5号溝(東)		16区As-B下水田痕跡(南西)			
13区6号溝(東)		16区As-B下水田痕跡大畦(西)			
14区1号溝(北)		16区As-B下水田痕跡畦(西)			
14区2号溝(南)		16区As-B下水田痕跡水口(南)			
PL24		14区3号溝(北西)	PL31		16区1号土坑(南東)
		14区4号溝(東)			16区2号土坑(南東)
	14区5号溝(東)	16区3号土坑(南西)			
	14区6号溝(南)	16区4~8号土坑(東)			
	14区7号溝および畦(西)	16区4号土坑(東)			
	15区1・2号獨立柱建物(北)	16区5号土坑(東)			
15区3号獨立柱建物(西)	16区6号土坑(東)				
15区1号欄列(西)	16区7号土坑(東)				

PL.32	16区8号土坑(東) 16区遺物集中箇所(北) 16区岩版出土状況(南) 16区18号溝(南東) 16区19号溝(南東) 16区20号溝(北西) 16区21号溝(南) 16区22号溝(東)	PL.37	17区28号溝(北西) 17区29・30号溝(西) 17区31・32号溝(北西) 17区33号溝(南西) 17区34号溝(南) 18区1号溝(北) 18区2号溝(南) 18区3号溝(東)
PL.33	16区23号溝(西) 16区24号溝(北) 16区25号溝(南東) 16区26号溝(北東) 16区27号溝(北東) 17区1号溝(北) 17区2号溝(南東) 17区3号溝(西)	PL.38	18区4号溝(西) 18区5号溝(南) 18区6号溝(東) 5区範囲確認トレンチ(東) 6区範囲確認トレンチ(東) 8区範囲確認トレンチ(東) 10区範囲確認トレンチ(南東) 20区範囲確認トレンチ(東)
PL.34	17区4号溝(南) 17区5号溝(北) 17区6号溝(西) 17区7号溝(北) 17区8号溝(東) 17区9号溝(西) 17区10号溝(南) 17区11号溝(西)	PL.39	古墳時代以降の遺物
PL.35	17区12号溝(南) 17区13号溝(南) 17区14号溝(東) 17区15号溝(東) 17区16号溝(北) 17区17号溝(北) 17区18号溝(南東) 17区19号溝(北東)	PL.40	古墳時代以降の遺物、1・2区出土縄紋土器
PL.36	17区20号溝(南) 17区21号溝(北西) 17区22号溝(北西) 17区23号溝(北西) 17区24号溝(北西) 17区25号溝(北西) 17区26号溝(南東) 17区27号溝(西)	PL.41	2区出土縄紋土器
		PL.42	2・3区出土縄紋土器
		PL.43	4区出土縄紋土器
		PL.44	4・11・12・14区出土縄紋土器
		PL.45	14・15区出土縄紋土器
		PL.46	16区出土縄紋土器(1)
		PL.47	16区出土縄紋土器(2)
		PL.48	16・17区出土縄紋土器、出土石器(1)
		PL.49	出土石器(2)
		PL.50	出土石器(3)
		PL.51	出土石器(4)、その他の製品





## 第1章 発掘調査の概要

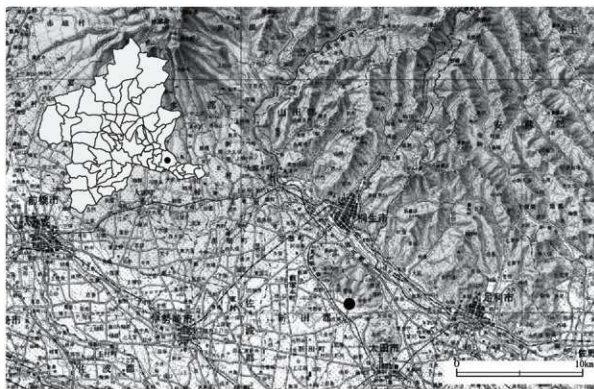
### 第1節 発掘調査に至る経緯

北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmの発掘調査が開始されたのは平成12年度である。平成12年6月、日本道路公団（現東日本高速道路株式会社）、群馬県土木部、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者による協議において、道路公団から橋梁下部工事等の工事優先区間の一部について、平成12年8月から発掘調査実施の要請があった。これを受けて当事業団は用地解決状況、残土場の確保、側道と本線の調査地区分の検討等、調査実施への準備を進めた。

平成12年8月1日、日本道路公団、群馬県教育委員会、当事業団の3者による「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結し、また、協定書に基づく公団と事業団による平成12年度発掘調査の契約が結ばれ、発掘調査は伊勢崎市市道上遺跡から着手となった。

菅塩遺跡群は太田市西部、菅塩町に位置し、発掘調査区域は北関東自動車道本線建設予定地内、延長680mの区間である。調査区西部は太田市域の最西に位置する西長岡町に隣接し、調査区内を市道強戸・西長岡1号線と斜めに交差し、東部で市道の北に隣接、併走する。

平成8年度に道路公団から県教育委員会に北関東自動車道建設事業地内の埋蔵文化財包蔵地の状況について、問い合わせが行われ、県教育委員会は沿線市町村の協力のもとに詳細確認作業を行った。菅塩遺跡群は八王子丘陵を背景に後期古墳群の分布や駒形神社埴輪窯跡、西長岡横塚古墳群、成塚住宅団地遺跡等隣接遺跡との関連から、水田遺跡として周知化され、北関東自動車道事業地内全区間が発掘調査対象地となった。



第1図 菅塩遺跡群位置図

## 第1章 発掘調査の概要

本事業の発掘調査は、伊勢崎方面から太田方面に順次進めることを工程計画の基本としており、平成14年2月の事業協定では、平成14年9月に発掘調査の実施が計画された。特に本遺跡は全区間で北側工事用道路建設と、市道との切り替え工事の優先実施の日程が計画されていた。このため発掘調査は遺跡の東部と西部から2班体制で進め、調査の促進を図って欲しいとの道路公園からの要請を受けていた。

菅塩遺跡の発掘着手は用地未解決地が部分的に存在する状況等を考慮し一部の調査区に限定し、湧水対策工事を施工し、9月12日から発掘調査に着手した。また引き続いて平成14年10月からは西部に別班を追加し、2班体制による発掘調査が開始された。

菅塩遺跡群は遺跡地内の事業地区内全てが発掘調査対象予定地となっていたが、調査実施に先だつての範囲確認調査は用地取得状況等の関係から未実施であり、遺跡の範囲、時代、性格等については、発掘を先行実施している西長岡宿遺跡の状況と、周辺遺跡の発掘調査報告書からの想定にとどまっていた。このため今後の調査計画を策定する上に遺跡地全区間の範囲確認調査を必要としていた。範囲確認調査は、掘水期を待って、平成14年11月、及び15年2月の2回にかけて実施した。

範囲確認調査の結果は、調査区全域に礫層を基盤層に幾条もの谷地が横切る。遺構分布は水田耕土、溝等がほぼ全域で確認された。しかし遺構が確認出来なかった一部の区域は、トレンチ調査の成果による記録保存に留めることとした。

範囲確認調査結果をふまえて策定した調査実施計画に従い、平成14年度下半期から平成15年度にかけて発掘調査が実施された。

## 第2節 発掘調査の方法

調査にあつてのグリッド設定は、国家座標区系(2002.4改正前の日本測地系)を用い、10mを基準とした。各グリッドの名称は、X軸・Y軸ともに座標値の下3桁のみを表記している。一例としてX=37,900、Y=44,500の場合、900-500となる。調査区の名称は、アラビア数字の1区から20区を設定した。

本遺跡の表土除去には、重機(バックホー)を使用し、遺構の確認作業及び覆土除去作業は発掘作業員の手で行った。中近世から縄紋時代の文化層が重複していたが、土層の堆積が薄い地点では、層位的な調査が行われず同じ平面上での調査をおこなった。

遺構の図化は、上記のグリッドを使用し、平面図・断面図ともに1:20、1:40を基本として作成した。発掘作業員による平板測量と、測量会社に委託した電子平板測量を併用している。また、全体図は個別図をもとに編集作成した。

遺構の名称は、各調査区において遺構の種類別にアラビア数字を用いて通番とした。1号住居、25号溝などである。本報告書でも原則として現場で付した遺構番号をそのまま利用しているが、一部整理の都合上変更したものもある。出土遺物は、遺構から出土したものは、そのまま遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記入したものについては、番号を付し、レベルを計測して取り上げた。

写真撮影は、中型と小型カメラを併用し、白黒フィルム、カラースライドフィルムを使用した。また、平成18年度の調査においては中型カメラによる白黒フィルムと、小型デジタルカメラによる撮影を導入している。空中写真については委託によりラジオコントロールのヘリコプターで撮影した。

## 第3節 発掘調査の経過（日誌抄）

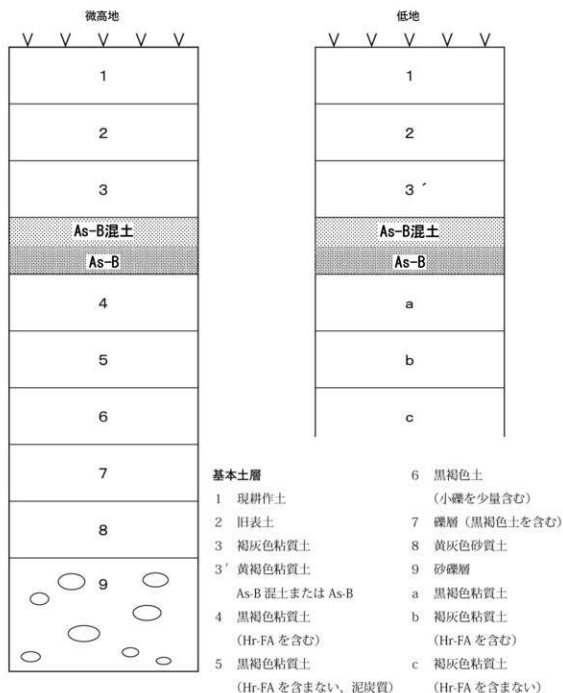
発掘調査は平成14年9月から開始された。遺跡は水田地帯の中にあり、湧水や梅雨、台風のために排水作業を余儀なくされることもしばしばであった。平成15年11月、一部用地が未解決の調査区を除いて一時調査を終了することとなった。平成19年、用地解決に伴い、残りの部分の調査を実施し、平成19年1月には全ての調査を終了した。調査された主な遺構は、竪穴住居2軒、掘立柱建物6棟、土坑95基、溝159条、水田痕跡などである。遺物は、遺物収納箱40箱であった。

以下は、調査日誌の抜粋である。

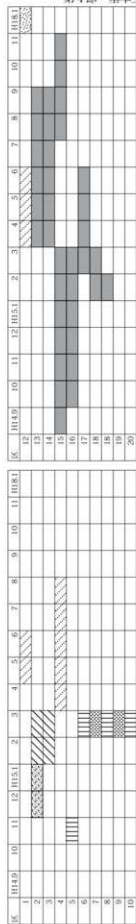
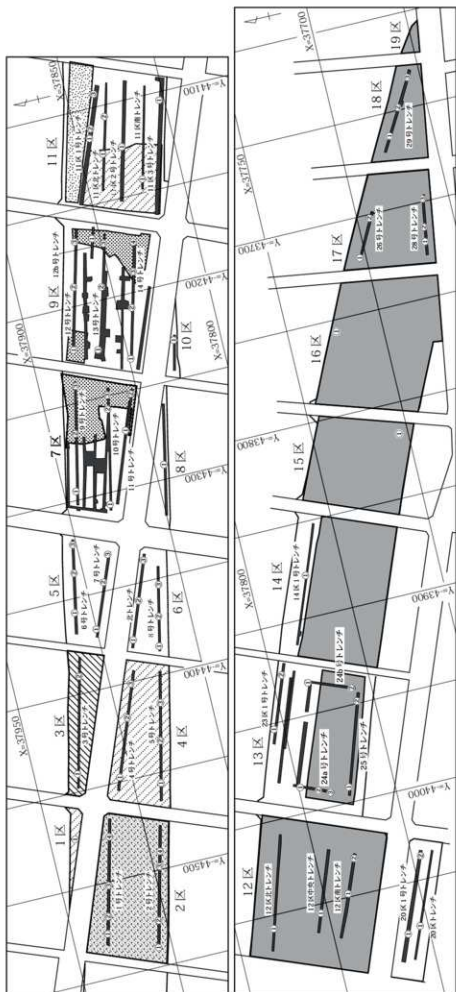
平成14年9月	23日	13区調査開始。17区第2面遺構確認。	
12日	15区調査開始。	24日	11区(西)遺構確認。
26日	15区第1面遺構確認。	28日	4区調査開始。
10月	30日	20区調査終了。	
4日	15区ビット群調査。	5月	
24日	16区調査開始。	2日	11区段差状遺構調査。
11月		6日	13区第1面遺構確認。
4日	範囲確認調査についての協議。	7日	4区第1面遺構確認。
5日	2・7・9・17・18区範囲確認調査開始。	13日	12区第1面遺構確認。
8日	テフラ、プラント・オパール分析試料採取。	23日	13区第1面調査。
15日	16区第1面遺構確認、調査。	30日	1区調査開始。
12月		6月	
3日	15区第2面水田痕跡調査。	2日	1区遺構確認。17区第3面調査開始。
9日	文化課と協議。調査方針の確認。5区は遺構なし。	4日	11区縄紋包含層調査。
11日	2区調査開始。	6日	1区第2面調査。11区調査終了。
16日	2区第1面遺構確認。	10日	17区調査終了。
平成15年1月		13日	1区縄紋包含層調査。4区第2面調査。
9日	16区第2面水田痕跡調査。	18日	1区調査終了。
15日	2区低地部調査。	20日	水田痕跡調査。
17日	15区第3面調査。	30日	4区1号住居調査開始。
2月		7月	
3日	16区第3面調査。19区調査開始。	15日	4区縄紋包含層調査。
4日	18区調査開始。	31日	13区(北)第1～第4トレンチ調査。
5日	3区調査開始。19区第1面遺構調査。	8月	
7日	19区調査終了。	5日	4区・13区(北)調査終了。
12日	18区第1面遺構確認、調査。	8日	13区(南)遺構確認。
18日	3区第2面調査。竪穴住居、ビット群を確認。11～14・20区範囲確認調査開始。	9月	
19日	2区縄紋包含層調査。	4日	13区第1面調査終了。
20日	16区縄紋包含層調査。縄紋晩期の遺物が出土。	8日	12区縄紋包含層調査。13区トレンチ調査。14区調査開始。
25日	11・12・14・20区テフラ、プラント・オパール分析試料採取。	12日	13区調査終了。
3月		16日	14区第1面遺構確認。
3日	7区第1面調査開始。	18日	12区調査終了。
4日	17区調査開始。	10月	
5日	9区第1面調査開始。	23日	14区縄紋包含層調査。15区調査開始。
10日	17区第1面遺構確認、調査。	31日	15区第1面遺構確認。
14日	3区縄紋包含層。7区第2面調査。	11月	
18日	9区第2面調査。	4日	15区第2面調査。
20日	2・3・6～10・15・16・18区調査終了。	14日	14区調査終了。
4月		19日	14区調査終了。
16日	11・12区調査開始。	28日	プレハブ撤収。
17日	20区トレンチ調査開始。	平成19年1月	
21日	17区第2面調査開始。	11日	11区北無調査開始。
		18日	第1面調査。
		26日	調査終了。

#### 第4節 基本土層

本遺跡周辺は、昭和40年代から50年代にかけて圃場整備が実施され現在は水田地帯となっている。そのため、旧地形は不明瞭であったが、遺構範囲確認調査の結果から、礫層の高まりが残る微高地と、旧河道によって形成された低地に分けられることが判明した。特に9区以西で微高地が低地によって分断される様相が顕著であり、13区以东は幅広な谷地が形成されている。標高は、西側の1区では71.90m、東側の18区では67.50mであり、高低差4.40mを測る。



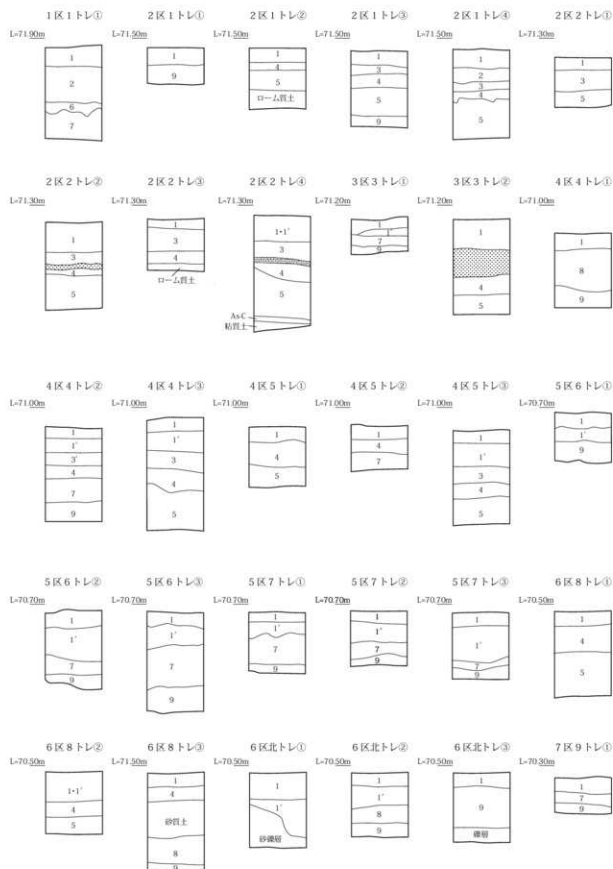
第2図 基本土層模式図



■ 眉山・金井 (標本H14.10~11, 本区・貴塚 H14.11)    ▨ 本区・貴塚・橋本    ▩ 南条・橋本  
 ▨ 深澤・橋本    ▨ 伊平    ▨ 石塚・山田    ▨ 範囲確認  
 ▨ 伊平    ▨ 範囲確認

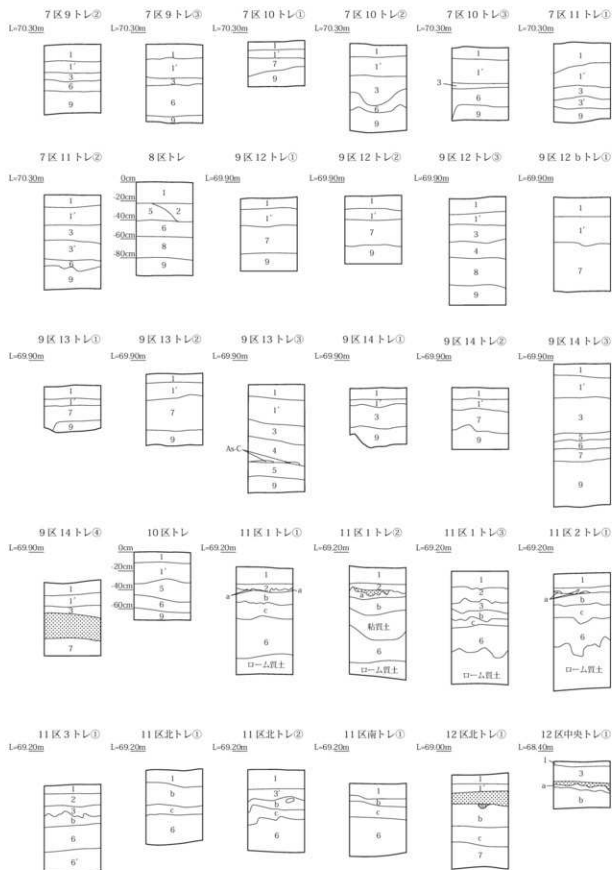
第3図 調査区、範囲確認トレンチ、土層観察地点、自然科学分析試料採取地点および調査担当者

第1章 発掘調査の概要



第4図 基本土層(1)

第4節 基本土層



第5図 基本土層(2)



第1章 発掘調査の概要



第6図 基本土層(3)

## 第2章 遺跡地の環境

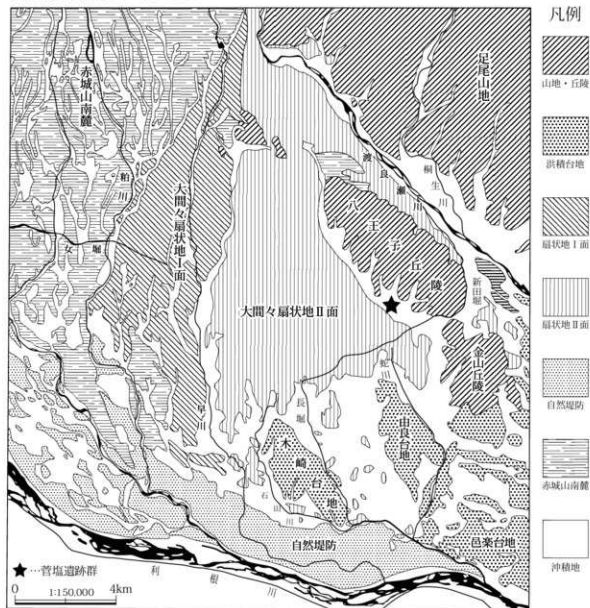
## 第1節 地勢的環境

菅塩遺跡群が位置する太田北部の平野部は、関東平野の北西部、群馬県桐生市から太田市にかけての、渡良瀬川右岸に沿って連なる八王子丘陵から金山丘陵に、南から西接する位置にある。

この一帯は渡良瀬川が更新世に形成した「大間々扇状地（Ⅱ面）」に相当するが、菅塩遺跡群が位置する標高50～60m付近のエリアは、ちょうどその扇端部に相当する。

この扇端部一帯は大間々扇状地の自由地下水が地表面に排出され、扇状地内の伏流水が湧水として地表面に現れるエリアであり、所謂「扇端湧水帯」を形成している。

本地域の基幹河川の1つである蛇川は、その元々の源流がこの扇端湧水であるとされており、本地域の地勢の大きな特徴の1つといえる。



第7図 菅塩遺跡群周辺の地形分類図

## 第2節 歴史的環境

**旧石器時代** 峯山遺跡(29)、村上遺跡(15)、強戸口峯山遺跡(31)、大島口遺跡(89)などが八王子丘陵や金山丘陵一帯に分布する。また、成塚住宅団地遺跡(20)、堂原遺跡(82)など、沖積地内のローム層低台地にもその存在が認められる。

**縄紋時代** 草創期の資料は峯山遺跡で認められ、早期・貝殻痕文系土器は堂原遺跡で出土している。前期・諸磯期の遺跡として堂原遺跡、前沖遺跡(66)など、多数存在する。中期後半・加曾利E式期の遺跡としては堂原遺跡、三枚橋南遺跡(65)などがある。後期・称名寺式、堀ノ内式、加曾利B式期の遺跡は、堂原遺跡の存在が顕著である。晩期の遺跡は石之塔遺跡(図外)があるが太田市域にはその分布が少ない。

**弥生時代** 太田地域には弥生時代の遺跡は少ないが、金山丘陵や八王子丘陵周辺や沖積地内の低台地上において、中期の資料が散見され、西野原遺跡(1)成塚向山古墳群(A)・西長岡東山古墳群(C)では中期後半の良好な資料が出土している。

**古墳時代** 古墳時代前期になると遺跡の分布は急激に増加する。東海系外系土器を多く出土する遺跡としては、大鷲遺跡群(23)、胎屋深町遺跡(79)、唐桶田遺跡(80)新田東部遺跡群(81)などがあり、樽式系・吉ヶ谷式系土器を一定量出土する遺跡としては、成塚向山古墳群・西長岡東山古墳群などがある。両者の存在比率は前者の方が圧倒的に多い。前期古墳としては成塚向山1号墳と寺山古墳(Q)および太田八幡山古墳(図外)があり、また、同時期の方形周溝墓は、成塚住宅団地遺跡、唐桶田遺跡、新田東部遺跡群、西長岡東山古墳群などに多数ある。中期の遺跡は数多く、成塚住宅団地遺跡をはじめ、成塚石橋遺跡(21)、烏山下遺跡(64)、前沖遺跡(66)、新田東部遺跡群、堂原遺跡などが挙げられる。中期古墳としては、中期後半段階の築造と考えられる鶴山古墳(d)、亀山古墳(e)、中期末段階の築造と考えられる烏崇神社古墳などがある。後期には、金山丘陵や八王子丘陵地域における埴輪・須恵器の窯業遺跡が多く分布するようになる。埴輪窯としては、駒形神社埴輪窯跡(10)、成塚住宅団地遺跡があげられ、須恵器窯としては、金山丘陵窯跡群があげられる。後期の集落としては成塚住宅団地遺跡、成塚石橋遺跡、新田遺跡(49)などが挙げられる。

後期の古墳は、後期後半段階の築造と考えられる二ツ山1号墳(V)と二ツ山2号墳(W)、オクマン山古墳(m)、成塚向山2号墳がある。加えて、この時期から終末期にかけては、八王子丘陵・金山丘陵上や、沖積地内の低台地上に多くの群集墳が形成される。大鷲梅穴古墳群(L)、北金井御嶺山古墳群(J)、上強戸古墳群(P)、成塚街道北古墳群(U)貧乏塚古墳群(h)、三枚橋南古墳群(j)、成塚向山古墳群(A)など、枚挙にいとまがない。

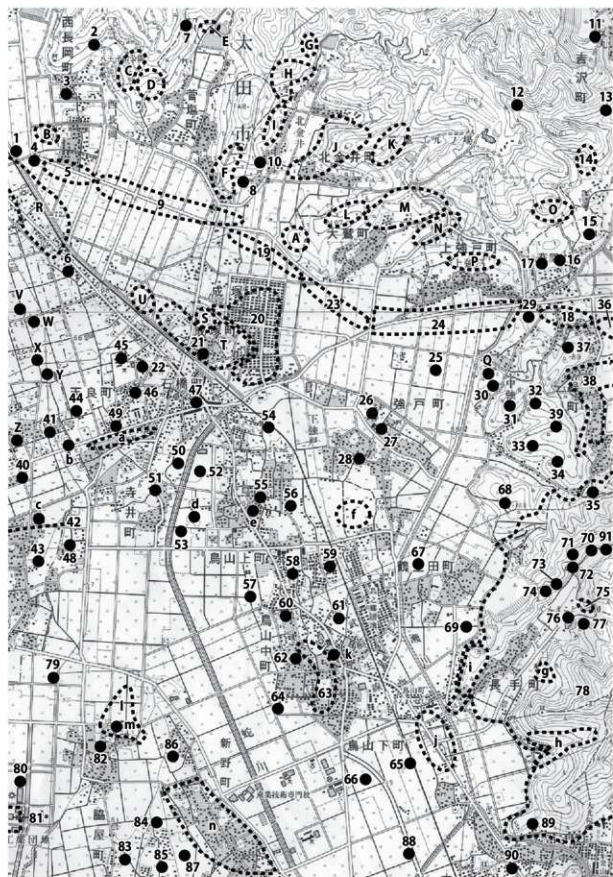
**飛鳥・奈良・平安時代** 7世紀後半の創建と考えられる寺井庵寺(46)や新田郡衙の郡庁の可能性が極めて濃厚である天良七堂遺跡(41)、東山道駅跡(42)など、新田郡の中核城を象徴する遺跡が数多く存在する。また、7世紀末～8世紀にかけては新たな産業もおこることがこの地域の特徴点であり、製鉄遺跡である、西野原遺跡、峯山遺跡がそれにあたる。また同じ時期に、窯業関係では、須恵器窯跡としては金山丘陵窯跡群の中でも高太郎1遺跡(72)や山古窯跡群(75)などが本格的に操業を開始し、さらに八王子丘陵にある萩原窯跡(17)などでは瓦生産が須恵器生産とともに行われるようになる。

**鎌倉時代以降** 中世城館跡が多く存在する。典型的な山城の金山城跡(78)をはじめ、烏山環濠遺構群(63)、大島館跡(90)などがある。

参考文献・ホームページ

- ・太田市教育委員会 1995『太田市の文化財』
- ・太田市 1996『太田市史 通史編 原始古代』
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『年報遺跡・烏山下遺跡』

- ・酒井清治 2007『群馬・金山丘陵窯跡群』駒澤大学考古学研究室
- ・群馬県教育委員会文化課 2002『群馬県文化財情報システム』web版
- ・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『成塚向山古墳群』



第8図 菅塩遺跡群周辺遺跡分布図

## 第2章 遺跡地の環境

菅塩遺跡群周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・平安	中世
A	成塚向山古墳群	○	○	○	○	○	○
B	西長岡古墳群				○		
C	西長岡東山古墳群			○	○		
D	菅塩西山古墳群						
E	菅塩人塚古墳群				○		
F	菅塩山崎古墳群				○		
G	菅塩山崎古墳群				○		
H	北金井西山古墳群				○		
I	北金井西山古墳群				○		
J	北金井御殿山古墳群				○		
K	北金井東通古墳群				○		
L	大塚梅穴古墳群				○		
M	大塚大平古墳群				○		
N	大塚向山古墳群				○		
O	古沢古墳群				○		
P	上瀬戸古墳群				○		
Q	寺山古墳				○		
R	西長岡橋塚古墳群	○	○	○	○	○	○
S	菅塩古墳群		○	○	○		
T	成塚向山古墳群				○		
U	成塚向山古墳群				○		
V	二ツ山古墳 1号墳				○		
W	二ツ山古墳 2号墳				○		
X	大塚梅穴古墳				○		
Y	新井新古墳				○		
Z	堀原古墳				○		
a	寺井古墳群				○		
b	寺井古墳				○		
c	松尾神社古墳				○		
d	鶴山古墳				○		
e	鶴山古墳				○		
f	鶴生田・下瀬戸古墳群				○		
g	三ツ山古墳群				○		
h	秋芝塚古墳群				○		
i	長手古墳群				○		
j	三枚橋南古墳群				○		
k	鳥宗神社古墳				○		
l	鶴屋古墳群				○		
m	オケマン山古墳				○		
n	新野古墳群				○		
1	西野原遺跡		○	○	○		
2	安守山遺跡		○	○	○		
3	長岡城跡		○	○	○		
4	鳥谷戸遺跡		○	○	○		
5	西長岡宿遺跡		○	○	○		
6	安人塚遺跡		○	○	○		
7	菅塩人塚跡		○	○	○		
8	菅塩山古墳群		○	○	○		
9	<b>菅塩遺跡群</b>		○	○	○	○	○
10	別形神社堀輪築跡		○	○	○		
11	岩神遺跡		○	○	○		
12	赤内穴遺跡		○	○	○		
13	赤内遺跡		○	○	○		
14	古沢築跡群		○	○	○		
15	村上遺跡		○	○	○		
16	林原築跡		○	○	○		
17	林原築跡		○	○	○		
18	林原築跡		○	○	○		
19	成塚遺跡群		○	○	○		
20	成塚住七郎地遺跡群		○	○	○		
21	成塚石橋遺跡		○	○	○		
22	寺井庵寺東遺跡		○	○	○		
23	大塚遺跡群		○	○	○		
24	上瀬戸遺跡群		○	○	○		
25	寺の東遺跡		○	○	○		
26	瀬戸の菅原		○	○	○		

遺跡番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・平安	中世
27	瀬戸宮西遺跡		○		○		
28	柳中遺跡				○		
29	塚山遺跡	○	○				○
30	新巻西遺跡				○		
31	瀬戸川口築跡	○	○		○		
32	新巻遺跡		○		○		
33	越々山遺跡	○	○		○		
34	菅々人北遺跡		○		○		
35	菅々人築跡						
36	古塚集平別水田址					○	
37	菅塩山遺跡	○	○		○		
38	古水部西跡				○		
39	菅ノ北西遺跡				○		
40	菅塩遺跡				○		
41	大良七堂遺跡				○		○
42	雁定東山道塚跡 新田地区						
43	七堂遺跡					○	
44	上根遺跡						
45	寺井庵寺北遺跡				○		
46	寺井庵寺跡				○		
47	石橋地蔵久保遺跡				○		
48	寺井本郷遺跡				○		
49	新田遺跡				○		
50	菅ノ宮遺跡				○		
51	久保田遺跡				○		
52	久保遺跡				○		
53	八幡遺跡				○		
54	寺東遺跡				○		
55	上瀬戸				○		
56	鶴山寺中遺跡				○		
57	大光寺跡						○
58	上泉岡遺跡				○		
59	中道遺跡				○		
60	鶴山古所敷遺跡				○		
61	新巻遺跡				○		
62	鳥ヶ谷戸遺跡				○		
63	鶴山岡築遺跡群				○		
64	鶴山下遺跡				○		
65	三枚橋南遺跡				○		
66	新野遺跡				○		○
67	中巻遺跡				○		
68	鶴生田上遺跡				○		
69	関ヶ下遺跡				○		
70	カニ方沢遺跡				○		
71	高太郎築遺跡				○		
72	高太郎上遺跡				○		
73	新巻ヶ谷戸遺跡				○		
74	高太郎下遺跡				○		
75	山去築跡群				○		
76	山去・十八曲遺跡				○		
77	長手口築跡				○		
78	赤山城跡				○		
79	堀原深町遺跡				○		
80	唐樋田遺跡				○		
81	新田東部遺跡群				○		
82	堂原遺跡				○		
83	阿原遺跡				○		
84	堀原中原遺跡				○		
85	原宮免遺跡（堀原義助館跡）				○		
86	野宮遺跡				○		
87	下原遺跡				○		
88	年保遺跡				○		
89	大島口遺跡				○		
90	大島前跡				○		
91	堤人遺跡				○		
92	石之塔遺跡（旧敷塚町）				○		

## 第3章 調査された遺構と遺物

### 第1節 1区の調査

#### 1 調査の概要

遺跡の西端に位置する。圃場整備により As-B 混土層が認められないため、第1面は基本土層6の黒褐色土上面、第2面は基本土層7の黒褐色土を含む礫層上面、及び縄紋包含層の調査をおこなった。第1面で確認された遺構は溝2条（1号溝は現代）、第2面では土坑1基、ビット7基である。

#### 2 第1面の遺構と遺物

**2号溝**（第9図）935-460から930-460に走向する。長さ5.20m、深さ0.45mであり、幅は調査区外のため確認できなかった。溝と呼称したが、底面は比較的平坦で水流の痕跡も確認できないため、水田の可能性も考えられる。遺物は磁器・須恵器土師器などの小片である。

#### 3 第2面の遺構と遺物

**1号土坑**（第9図 PL6）935-455に位置し、規模は1.70×1.66×0.36m、形状は円形であると思われる。2・3区で同様の断面の倒木痕が確認されていることから、1号土坑も倒木痕である可能性が高い。遺物は出土していない。

**1～7号ビット**（第9図）ビットは、楕円形のものが多く、深さは23～53cmである。埋土はいずれも黒褐色土で酷似しており同時期の遺構であると考えられる。

#### 4 縄紋時代の遺物

**土器**（第79図 PL40）調査範囲が狭いため、出土した縄紋土器は52点である。そのうち深鉢17点を図示した。1は田戸上層式併行の口縁部、2は茅山上層式の胴部、3～5は早期後半条痕紋系の口縁部、6～12は同胴部、13は同底部である。14は早期後半の口縁部、15は黒浜式の口縁部、16は諸磯b式の胴部、17は称名寺Ⅱ式口縁部である。なお、石器は出土していない。

### 第2節 2区の調査

#### 1 調査の概要

遺跡の西端に位置し、西長岡宿遺跡と隣接する。南側の低地部と北側の微高地部では、土層が大きく異なる。北側は、表土下が基本土層9の西部、As-B混土下に基本土層4が確認できる中央部、基本土層3の下位層が縄紋包含層の東部に分けられる。よって西部は旧耕作土下、中央部と東部ではAs-B混土を掘り下げながら遺構確認をおこなった。第1面で確認された遺構は溝7条、第2面では土坑6基、溝7条、畝及び水田の痕跡である。

南側ではAs-Bが認められたため、水田を想定して調査をおこなったが、水田の痕跡を確認することはできなかった。また、トレンチを4箇所設定し、古墳時代から古代のものと思われる溝を3条および縄紋時代の河道を確認した。

### 第3章 調査された遺構と遺物

#### 2 第1面の遺構と遺物

**1号溝** (第11図 PL 7) 915-465 から 890-475 に走向する。規模は、長さ 28.70m、幅 1.70 ～ 2.40m、深さ 0.09 ～ 0.23m である。断面は逆漏斗状で、2号溝に切られる。流水の痕跡は不明である。遺物は摩滅した土師器の小片のみである。

**2号溝** (第11図 PL 7) 1号溝とほぼ同位置で確認された。断面は葉研状を呈し、全長は 30.20m で、幅 0.54 ～ 2.00m、深さ 0.10 ～ 0.67m を測る。910-470 グリッド付近で西側から合流する溝も確認され、埋没土は同様である。5層には砂利や小石を含み流水していたものと思われる。

**7号溝** (第11図 PL 8) 915-470 から 920-470 に走向する。規模は、長さ 6.60m、幅 0.36 ～ 0.54m、深さ 0.04 ～ 0.15m で、断面形は半楕円形を呈する。埋土には砂利が含まれ、流水していたものと思われる。

**12号溝** (第12図 PL 8) 925-505 から 895-505 に走向する。規模は、長さ 38.00m、幅 0.90 ～ 0.870m、深さ 0.15 ～ 0.61m で、断面形は逆漏斗状を呈する。埋土の下層には砂層が認められ、流水していたものと思われる。945-495 グリッド付近では幅が最も広く溜井状で、高低差がほとんど見られないため、「ぬるめ」としての機能も考えられる。遺物は、摩滅した土師器や須恵器の破片が出土している。

**13号溝** (第11図 PL 8) 915-495 から 885-480 に走向する。規模は長さ 29.30m、幅 0.46 ～ 1.86m、深さ 0.05 ～ 0.47m で、断面形は逆漏斗状を呈する。埋土には砂層が認められるため流水していたものと思われる。遺物は土師器片、焙烙底部片などである。

**14号溝** (第11図 PL 8) 900-480 から 910-490 に走向し、13号溝と重複する。新旧関係は 13号溝の方が新しい。規模は長さ 17.60m、幅 0.40 ～ 0.86m、深さ 0.06 ～ 0.21m で、断面形は逆漏斗状を呈する。埋土には砂層が認められるため流水していたものと思われる。遺物は土師器や須恵器の小片であるが、摩滅を受けている。

#### 3 第2面の遺構と遺物

**1号土坑** (第13図 PL 6) 930-515 に位置し、規模は  $0.72 \times 0.50 \times 0.08\text{m}$ 、形状は楕円形である。埋土には少量の焼土が含まれている。

**2号土坑** (第13図 PL 7) 920-485 に位置し、規模は  $0.98 \times 0.65 \times 0.20\text{m}$ 、形状は楕円形である。

**3号土坑** (第13図 PL 7) 930-515 に位置し、規模は  $1.11 \times 0.63 \times 0.06\text{m}$ 、形状は長方形である。遺物は、埋土から土師器小片が出土したが図示するには至らなかった。

**4号土坑** (第13図 PL 7) 930-520 に位置し、規模は  $1.00 \times 0.86 \times 0.05\text{m}$ 、形状は方形である。

**5号土坑** (第13図 PL 7) 930-515 に位置し、規模は  $1.50 \times 0.48 \times 0.05\text{m}$ 、形状は不整形である。

**6号土坑** (第13図 PL 7) 915-500 に位置し、規模は  $0.82 \times 0.69 \times 0.18\text{m}$ 、形状は円形である。

2・4～6号土坑は埋土に鍵層となるテフラ等が認められず、遺物も出土していないため、詳細な時期は不明である。

**9号溝** (第13図 PL 8) 900-480 から 905-490 に走向する。規模は長さ 12.14m、幅 0.24 ～ 0.50m、深さ 0.08 ～ 0.13m で、断面形は半円状を呈する。埋土は、Hr-FA と推定される白色軽石を含む粘質土である。遺物はない。

**10号溝** (第13図 PL 8) 900-500 から 885-480 に走向する。規模は長さ 24.40m、幅 0.36 ～ 1.36m、深さ 0.08 ～ 0.30m で、断面形は弧状を呈する。埋土 As-B を含んでいる。遺物は出土していない。

**15号溝** (第13図 PL 8) 900-475 から 905-495 に走向する。規模は長さ 22.40m、幅 0.40 ～ 0.72m、深

さ0.03～0.19mで、断面形は弧状を呈する。埋土は、Hr-FAと推定される白色軽石を含む粘質土である。遺物はない。

**16号溝** (第14図 PL 9) 935-515に位置する。規模は長さ1.30m、幅0.32～0.44m、深さ0.01～0.06mで、断面形は弧状を呈する。埋土は、黒褐色土で遺物は出土していない。

**17号溝** (第14図 PL 9) 925-510から925-490に走向する。規模は長さ17.80m、幅0.48～0.78m、深さ0.03～0.10mで、断面形は弧状を呈する。埋土にはAs-Cが含まれ、下層には砂層が認められることから流水していたものとする。遺物はない。

**畝跡** (第14図 PL 9) 910-745と930-515グリッド付近の2箇所を確認された。半月状の鋤先痕が確認されその埋土はAs-B混土である。なお、東側の耕作痕付近で確認された3号溝と8号溝は畝のサク状痕または区画溝であると考えられる。

**段差状遺構** (第14図 PL 9) 925-495に位置する。上段と下段の高低差は15cmあり、調査段階では水田痕跡とされた。しかし、プラント・オパール分析結果では数値が低く水田としての根拠に乏しいため、段差状遺構とした。

#### 4 低地部の調査

**4～6号溝** (第16図 PL 7) 西トレンチ、中央トレンチ、南トレンチ、大溝南東トレンチの4箇所を設定し、溝の範囲確認をおこなった。溝の上位層にはAs-B、As-Cが堆積しているため、古墳時代以前の遺構であると考えられる。埋土中からは、土師器裏底部片や土師器の小片が出土した。また、これらの溝の下層からは隣接する西長岡宿遺跡から続く縄紋時代の河道も確認された。

#### 5 縄紋時代の遺物

**土器** (第80～82図 PL40～42) 早期から後期にかけて深鉢1点、浅鉢1点及び注口土器1点を図示した。1～5は早期前半押型紋系の胴部、6は田戸上層式口縁部、7～14は同胴部である。15は田戸上層式と考えられる底部、16は鶴ヶ島台式の口縁部、17は茅山上層式の口縁部、18・24は早期後半条痕紋系の口縁部、23・25～29は同胴部である。19～21は早期後半と考えられる胴部、22は同口縁部、30は黒浜式の口縁部、31は同胴部である。32・33・35・37は諸磯b式の胴部、34は同口縁部、43は同底部で、36は同頸部であると考えられる。38は諸磯b～c式の口縁部、39は同胴部、44は同底部である。40・41は諸磯c式の口縁部、42は同胴部である。45は前期後半の底部、46は同浅鉢の胴部、52は同口縁部である。47は浮島式の胴部、48・49は浮島・興津系の口縁部、50・51は同胴部である。53は五領ヶ台式の胴部、54は加曾利E式の胴部、55は堀之内1式の胴部、56は後期注口土器の注口部である。

**石器** 出土した石器のうち12点を図示した。1・3 (第93図 PL48) は石鏃、21・23 (第95図 PL49) はスクレイパー、19 (第94図 PL49) は石匙、25・27・29・33・37 (第95・96図 PL49) は打製石斧、68・69 (第100・101図 PL50・51) は石皿である。

### 第3節 3区の調査

#### 1 調査の概要

調査区の西側では、As-B混土の堆積は認められず、表土下が基本土層7の黒褐色土を含む礫層である。東



### 第3章 調査された遺構と遺物

側ではAs-B混土が確認できたため、基本土層4層上面を第1面とした。微高地と低地部では土層の堆積状況が異なるが、西側は基本土層7、東側は基本土層5の上面を第2面、及び縄紋包含層の調査をおこなった。第1面では溝2条と水田と推定される区画、第2面では古墳時代の竪穴住居1軒、掘立柱建物3棟、土坑5基、ピット57基を確認した。調査区中央より西側の微高地部では、縄紋包含層の調査を実施した。

#### 2 第1面の遺構と遺物

**1号溝** (第18図 PL9) 915-385から905-385に走向する。規模は長さ13.30m、幅0.68～1.20m、深さ0.04～0.18mで、断面形は弧状を呈する。埋土には、小礫を含んでいる。遺物はない。

**2号溝** (第18図 PL9) 915-385から905-385に走向する。規模は長さ13.60m、幅0.55～1.30m、深さ0.01～0.05mで、断面形は弧状を呈する。埋土は不明で、遺物は出土していない。

**水田痕跡** (第18図 PL9) 905-890に位置する。As-B混土下で畦畔の痕跡と思われる高まりを確認した。As-B混土のプラント・オパール分析結果では高い数値を示しているため、水田の痕跡であると考えられる。また、水田西側の溝の埋土はAs-B混土で、水田と同時期の遺構であると考えられる。

#### 3 第2面の遺構と遺物

**1号住居** (第19図 PL9・10) 930-440に位置し、長軸方位はN-36°-Wである。規模は、長軸3.62×短軸3.47×深さ0.18m、面積は26.82㎡で、方形を呈する。埋土にはAs-Cと考えられる白色軽石を含んでいる。部分的に貼床が確認でき、厚さは0.03m程度である。炉及び貯蔵穴は確認できなかったが、住居の中央やや東寄りに径0.43×深さ0.11mと東端に長軸0.96×短軸0.71×深さ0.08mの落ち込みを有する。遺物は、土師器高環(第77図2 PL39)・甕(第77図3・6 PL39)が床直上、甕(第77図5 PL39)が床下から出土している。時期は古墳時代前期初頭と考えられる。

**1号掘立柱建物** (第20図 PL10) 915-420グリッドに位置し、長軸方位はN-10°-Wである。規模は5.36×3.66mである。

**2号掘立柱建物** (第20図 PL10) 915-420グリッドに位置し、長軸方位はN-3°-Wである。規模は長軸は不明、短軸は3.80mである。

**3号掘立柱建物** (第19図 PL10) 920-415グリッドに位置し、長軸方位はN-29°-Wである。規模は3.43以上×3.74mである。

**ピット群** (第21・22図 PL10) 57基のピットを調査した。910-415～925-425に位置し、規模は径0.18～0.60m、深さ0.12～0.42mで、形状は円形または楕円形のものが多い。多数を占める。

1～3号掘立柱の柱穴及びピット群の埋土は酷似していて、As-Bと推定される白色軽石が認められた。また、遺物は出土していない。

**1号土坑** (第20図) 915-420に位置し、規模は0.68×0.65×0.10m、形状は円形である。

**2号土坑** (第20図) 915-420に位置し、規模は1.79×0.93×0.06m、形状は楕円形である。遺物は須恵器甕の口縁片が出土している。

**3号土坑** (第20図) 920-410に位置し、規模は0.93×0.81×0.29m、形状は楕円形である。

**4号土坑** (第21図) 910-420に位置し、規模は0.93以上×0.29以上×0.08m、形状は不明である。

**5号土坑** (第21図) 920-425に位置し、規模は2.10以上×1.52以上×0.11m、形状は楕円形と推定される。遺物は土師器の小片が出土しているが、図示するには至らなかった。

## 4 縄紋時代の遺物

**土器** (第83図 PL42) 出土した遺物のうち深鉢13点を図示した。1は茅山上層式の口縁部、2～7は早期後半条痕紋系の胴部、8は同底部、9は同胴から底部である。10～12は黒浜式の胴部、13は加曽利E式の胴部である。石器は出土していない。

## 第4節 4区の調査

## 1 調査の概要

調査区の南西及び北東部が低地、その間が微高地である。微高地は、圃場整備により表土の直下が縄紋包含層であり、部分的にAs-B混土の堆積が見られる。低地部ではAs-B混土層はほとんど見られない。本調査区では原則として、表土下の基本土層4の上面を第1面、基本土層4の下面を2面、及び1～5号トレンチを設定して縄紋包含層の調査をおこなった。

第1面の遺構は土坑1基、溝2条、畝跡、第2面は古墳時代の竪穴住居1、土坑6基、溝6条、第3面はピット3基および1～5号トレンチの調査を行った。トレンチからはややまとまって遺物が出土したため、範囲を調査区の東側全域に拡張した。

## 2 第1面の遺構と遺物

**1号土坑** (第24図 PL11) 890-395に位置し、規模は $2.39 \times 1.32 \times 0.36\text{m}$ 、形状は長方形である。埋土にはAs-Bが含まれ、土師器小片が出土した。

**1号溝** (第24図 PL11) 875-405から890-420に走向する。規模は長さ27.30m、幅0.50～1.70m、深さ1.00mで、断面形は台形状を呈する。埋土にはAs-Bを多量に含み、遺物は出土していない。

**3号溝** (第24図 PL11) 880-410から890-405に走向する。規模は長さ17.20m、幅0.25～0.60m、深さ0.80mで、断面形は台形状を呈する。1号溝と同様で、ほぼ同時期の溝と考えられる。遺物は土師器製の口縁片が出土しているが、図示には至らなかった。

**畝跡** (第23図 PL10) 870-395から875-410の範囲にわたって確認された。鋤先痕の埋土はAs-B混土であり、中世以降の遺構であると考えられる。

## 3 第2面の遺構と遺物

**1号住居** (第24図 PL11) 885-425に位置し、長軸方位はN-28°-Eである。規模は、長軸3.34×短軸3.08×深さ0.24m、面積は21.64㎡で、方形を呈する。埋土は白色軽石を含む黒褐色土が主体である。部分的に貼床が確認でき、厚さは0.06m程度である。炉及び貯蔵穴は確認できなかったが、住居の中央から北東寄りに1箇所と四隅に径0.41～0.64×深さ0.06～0.20mの落ち込みを有する。遺物は、土師器甕(第77図9 PL39)が床直上から出土している。時期は古墳時代前期初頭と考えられる。

**2号土坑** (第25図 PL11) 875-405に位置し、規模は $1.26 \text{以上} \times 1.28 \times 0.24\text{m}$ 、形状は楕円形と推定される。

**3号土坑** (第25図 PL12) 895-440に位置し、規模は $1.32 \times 1.05 \times 0.25\text{m}$ 、形状は方形である。

**4号土坑** (第25図 PL12) 870-405に位置し、規模は $0.85 \times 0.31 \times 0.25\text{m}$ 、形状は楕円形と推定される。

**5号土坑** (第25図 PL12) 890-460に位置し、規模は $0.70 \times 0.45 \times 0.07\text{m}$ 、形状は楕円形である。

### 第3章 調査された遺構と遺物

**6号土坑** (第25図 PL12) 875-395に位置し、規模は1.45×1.05×0.25m、形状は長方形である。遺物は埋土中から縄紋土器の小片が出土しているが、時期を特定するものではない。

**7号土坑** (第25図 PL12) 870-395に位置し、規模は1.19以上×1.30×0.43m、形状は不明である。

**2号溝** (第26図 PL12) 895-460から875-410に走向する。規模は長さ52.70m、幅1.20～4.40m、深さ0.12～0.27mで、断面形は台形状を呈する。埋土の上層にはAs-Bが堆積している。遺物は土師器小片、須恵器環口縁片が出土しているが、図示には至らなかった。

**4号溝** (第27図 PL12) 875-405から890-430に走向する。規模は長さ32.60m、幅1.10～1.90m、深さ0.16～0.43mで、断面形は台形状を呈する。埋土に白色軽石を含み、下層には砂層が認められるため流水していたものと思われる。遺物は須恵器環 (第77図10 PL39)・土師器高環脚部 (第77図11 PL39) が出土している。

**5号溝** (第27図 PL12) 895-425から895-440に走向する。規模は長さ16.20m、幅0.80m、深さ0.05～0.11mで、断面形は弧状を呈する。埋土に白色軽石を含み、6号溝と部分的に重複する。遺物は土師器の小片が出土しているが、図示には至らなかった。

**6号溝** (第27図 PL12) 895-420から895-440に走向する。規模は長さ23.50m、幅1.60m、深さ0.90mで、断面形は弧状を呈する。埋土に白色軽石を含み、下層には砂層が認められるため流水していたものと思われる。遺物は須恵器環 (第77図12 PL39) が出土している。

**7号溝** (第25図 PL13) 875-395から880-400に走向する。規模は長さ10.20m、幅0.10～0.90m、深さ0.01～0.12mで、断面形は台形状を呈する。埋土は砂層が主体で流水していたものと思われる。

**8号溝** (第26図 PL13) 880-425から885-430に走向する。規模は長さ9.60m、幅0.50～0.80m、深さ0.15～0.31mで、断面形は弧状を呈する。埋土に白色軽石を含み、遺物は出土していない。

#### 4 縄紋時代の遺構と遺物

**1～3号ピット** (第27図 PL13) 885-400に位置し、規模は長軸0.35～0.73m、短軸0.29～0.57m、深さ0.18～0.20mである。ピット周辺からは縄紋土器片などが出土しているが、住居と判断するには至らなかった。

**土器** (第84～87図 PL43・44) トレンチを5箇所設定して調査を行った。遺物は調査区東側に集中している。出土した土器のうち深鉢28点を図示した。1は早期後半条痕紋系の口縁から底部である。2～4・8・9は茅山上層式の口縁部、5・7は早期後半条痕紋系の口縁部、6は茅山上層式の胴部、10～18は早期後半条痕紋系の胴部、19は同底部である。20は前期前半の口縁部、21～23は黒浜式の胴部、24～26は諸磯b式口縁部、27・28は前期後半の胴部と底部である。

**石器** 出土した石器のうち8点を図示した。16 (第94図 PL48) は石錐、22・24 (第95図 PL49) はスクレイパー、26・30・31・35 (第95図 PL49) は打製石斧、56は磨製石斧 (第98図 PL50) である。

### 第5節 7・9区の調査

#### 1 調査の概要

範囲確認調査の結果から、7区は東側、9区は北西部および南東部の調査をおこなった。圃場整備の影響で、As-B及びAs-B混土の堆積は確認できなかったため、旧水田土壌の下の基本土層6の上面を第1面、下面を第

2面として調査をおこなった。確認された遺構は、7区では、溝1条と土坑4基、ピット1基、9区では7区から続く溝1条と土坑2基、河道である。このうち河道は範囲確認をおこない掘削は行っていない。また、7区の第1面で確認された遺構は埋土にビニール等を含むため、近・現代のものと判断した。

## 2 第2面の遺構と遺物

**7区2号溝** (第30図 PL13) 885-260から875-235に走向し、880-265付近で東にほぼ90°屈曲する。規模は長さ40.30m、幅0.27～0.44m、深さ0.36～0.63mで、断面形は台形状を呈する。埋土には礫を多量に含み、流水していたものと思われる。遺物は出土していない。

**7区1号土坑** (第29図 PL13) 855-245に位置し、規模は2.02×0.94×0.15m、形状は長方形である。

**7区2号土坑** (第29図 PL13) 865-245に位置し、規模は1.83×1.54×0.87m、形状は楕円形である。埋土の上層には人頭大の礫が多量に含まれていた。

**7区3号土坑** (第29図 PL13) 865-245に位置し、規模は2.08×1.72×1.06m、形状は楕円形である。埋土の上層には人頭大の礫が多量に含まれていた。遺物は埴輪の小片1点のみである。

**7区5号土坑** (第29図 PL13) 875-240に位置し、規模は2.05×1.60×1.24m、形状は楕円形である。埋土の上層には人頭大の礫が多量に含まれていた。2号溝より古い遺構である。

**7区1号ピット** (第29図) 860-245に位置し、規模は0.47×0.42×0.32m、形状は円形である。

**9区1号溝** (第30図 PL14) 875-220から875-210に走向し、規模は長さ13.60m、幅2.65～3.05m、深さ0.32～0.46mで、断面形は台形状を呈する。7区2号溝と同一遺構で、埋土には礫を多量に含み流水していたものと思われる。遺物は須恵器環(第77図13 PL39)ほか、陶磁器片が出土している。

**9区1号土坑** (第30図 PL14) 875-220に位置し、規模は1.26×1.25×0.90m、形状は方形である。1号溝の埋土除去後に確認された。

**9区2号土坑** (第30図 PL14) 875-220に位置し、規模は0.73×0.65×0.29m、形状は楕円形である。1号溝の埋土除去後に確認された。

## 第6節 11区の調査

### 1 調査の概要

11区は一部用地の解決が遅れたため南側の5分の4を先行して調査した。範囲確認調査の結果から、調査区の西端より約35mの範囲を調査対象とした。圃場整備の影響でAs-B混土層は一部でしか確認できなかったが、基本土層bの上面を第1面、及び縄紋包含層調査を行った。確認された遺構は土坑1基、溝1条、段差状遺構である。また北側の調査区では溝1条が確認された。

### 2 第1面の遺構

**1号土坑** (第32図 PL14) 840-105に位置し、規模は0.37以上×0.77×0.31m、形状は楕円形と推定される。埋土はAs-C及びHr-FAを含む粘質土で、遺物は出土していない。

**段差状遺構** (第32図 PL14) 805-125から845-145にかけて位置する。南北に走向するやや深い溝状の落ち込みと、東西方向に走向する深さ0.05mほどの落ち込みが確認されている。調査段階では水田痕跡とされたが、基本土層6上層のプラント・オパール分析結果では数値が低く水田としての根拠に乏しいため、段差状

遺構とした。

**1号溝** (第32図 PL14) 855-110から845-115に走向し、規模は長さ9.80m、幅1.50～2.50m、深さ0.04～0.16mで、断面形は弧状を呈する。埋土はAs-Bを含み、底部からは杭が出土している。

### 3 縄紋時代の遺物

縄紋包含層にトレンチを設定して調査をおこなったが、遺物は確認されなかった。なお、基本土層bの褐灰粘質土中から称名寺Ⅱ式の深鉢口縁部(第87図11区-1 PL44)が出土している。

## 第7節 12区の調査

### 1 調査の概要

北東の一部に微高地があるが、ほとんどは低地となっている。As-B混土は、調査区南側中央部を除いてほぼ全域で確認できる。よって、基本土層a・bの上面を第1面、基本土層cの上面を第2面、北東微高地部の基本土層7を縄紋包含層として調査をおこなった。第1面の遺構は、溝9条、土坑49基、ピット4基、第2面は溝6条である。

### 2 第1面の遺構と遺物

**土坑** (第34～39図 PL14～20) 埋土の特徴や出土遺物から中近世に属すると思われる土坑を平面形で分類し、順に取り上げた。これらの土坑の長軸方位に着目すると、等高線に対してほぼ直行する方向に掘削されたものが18基、等高線に沿って掘削されたものが7基存在する。

**長方形土坑** 1～6・8・11～13・16・19～21・24～28・30・32・35・36・38～42号土坑が該当する。埋土は、36・38・39号土坑は不明だが、他はAs-Bを含み、うち15基は人為的に埋め戻されたと考えられる。規模は、3m以上のものは21・25・27号土坑で、それ以外は2m前後のものが多い。遺物は27号土坑から土師器の小片が出土しているが混入したものであろう。

**方形土坑** 9・10・18・29・43・44号土坑が該当する。埋土は10号土坑を除いてAs-Bを含み、9・43・44号土坑は砂質である。規模は長軸0.99～1.54m、短軸0.82～1.38m、深さ0.14～0.50mで、遺物は出土していない。

**楕円形土坑** 14・17・33・46・47号土坑が該当する。このうち14号土坑はAs-Bを含む褐灰色土で人為的に埋め戻されたと考えられる。

**円形土坑** 23・34・37・45号土坑が該当する。23・45号土坑はAs-Bを含む褐灰色土で埋没し、前者は人為的に埋め戻されたと考えられる。規模は径0.68～1.01mで、遺物は出土していない。

**不整形土坑** 7・15・22・31・49号土坑が該当する。49号土坑の埋土は不明だが、他はAs-Bを含む褐灰色土で埋没し、22・31号土坑は人為的に埋め戻されたと考えられる。7号土坑は12区で調査された土坑のうち最大の規模で、5.95×2.38×0.28mである。

**1・3・4号ピット** (第40図) 規模はそれぞれ0.60×0.48×0.20m、0.47×0.45×0.13m、0.36×0.31×0.45mで、埋土はAs-Bを含む褐灰色土である。

**1号溝** (第40図 PL20) 835-055から825-050に走向し、規模は長さ9.00m、幅0.30～0.45m、深さ0.07mで、断面形は弧状を呈する。埋土はAs-Bを密に含むにぶい黄褐色土であり、中世の遺構であると考え

られる。

**2号溝** (第41図 PL20) 780-040から760-025に走向し、規模は長さ23.10m、幅0.65～4.30m、深さ0.50mである。幅広のセクションA・Bには埋土中にAs-Bが認められるが、他の地点ではAs-Bは確認されなかった。西側の幅広部分は、底部に礫が確認されていて、溜井である可能性も考えられる。溝の掘削時期はわからないものの、埋土中から陶磁器(未掲載)が多数出土していることから近代まで使用されていたと思われる。

**3号溝** (第41図 PL20) 810-050から775-060に位置し、規模は長さ33.80m、幅0.75～2.85m、深さ0.51mである。埋土にはAs-Bを含んでいるが陶磁器が多数出土しており、近代まで使用されていた溝であると考えられる。

**4号溝** (第41図 PL21) 805-050から800-050に位置し、規模は長さ7.80m、幅0.35～0.75m、深さ0.04mである。埋土はAs-Bを含む褐灰色土で、遺物は出土していない。

**5・6・8・9号溝** (第40図 PL21) 遺構の範囲とセクションの記録のみで詳細は不明。埋土にはAs-Aが含まれている。遺物は陶磁器や焙烙の破片が出土しているが図示するには至らなかった。

**7号溝** (第40図 PL21) 830-065から825-065に位置し、規模は長さ5.45m、幅0.30～0.46m、深さ0.06mである。埋土が表土とよく似ているため、現代の溝である可能性が高い。

**水田痕跡** (第42図 PL21) 790-020から820-040の範囲と830-060の2箇所水田の畦の痕跡を確認した。後の耕作等により削平されているため、高低差がほとんどなく平面のみの記録である。水田耕作土と思われる黒褐色土の上層には部分的にAs-Bが残り、As-B下水田である可能性も考えられる。しかしながら後世の水田の擬似畦畔である可能性も否定できないため詳細な時期は不明である。

### 3 第2面の遺構と遺物

**10～15号溝** (第42・43図 PL21) 調査区内を大きく蛇行していることから自然の流路であると考えられるため、溝の範囲とセクションの記録のみを行った。埋土にはHr-FAおよびAs-Cが混入し、古墳時代の流路であると考えられる。なお、第2面では土師器小型甕(第78図15 PL39)が出土している。

### 4 縄文時代の遺物

**土器** (第87・88図 PL44) トレンチを5箇所設定し、包含層の調査をおこなった。出土した遺物47点のうち、深鉢7点を図示した。1～3は早期後半に属すると考えられる口縁部と胴部である。4・5は花積下層式の胴部、6は中期後半の口縁部、7は後期の底部である。

**石器** 包含層からは石器は確認されなかったが、27号土坑から45(第96図 PL49)の打製石斧が出土している。

## 第8節 13区の調査

### 1 調査の概要

調査区の北側半分が微高地、残りの南側が低地部にあたる。微高地では表土直下で礫層となり、遺構は確認されなかったため本調査は実施していない。南側の低地部でAs-B混土が確認されたため、基本土層a・bを第1面として調査を行った。第1面の遺構は、土坑6基、溝6条、溜井3面である。第2面はトレンチを3箇所設定して調査を行ったが、遺構は確認されなかった。

### 第3章 調査された遺構と遺物

#### 2 第1面の遺構と遺物

**土坑** (第44・45図 PL22) 12区と同様に分類をすると全て長方形土坑に属する。最大のものは4号土坑で5.05×1.10×0.53mを測る。4号土坑は等高線に沿って掘削され、それ以外は長軸方位が等高線と直行する方向に掘削されている。また、5号土坑を除いて埋土にはAs-Bを含み、全ての土坑が人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は出土していない。

**1号溝** (第45図 PL23) 760-945から750-940に走向する。規模は長さ10.00m、幅1.40～3.20m、深さ1.20mで、断面形は台形状を呈する。埋土には砂粒や礫が多く含まれ、流水していたものと思われる。

**2号溝** (第45図 PL23) 775-000から770-995に走向する。規模は長さ1.50m、幅0.25～0.35m、深さ0.95mで、断面形は半円状を呈する。埋土はAs-Bを含む黄褐色土である。遺物は出土していない。

**3号溝** (第45図 PL23) 785-985から780-975に走向する。規模は長さ11.00m、幅0.50～1.70m、深さ0.40mで、断面形は弧状を呈する。

**4号溝** (第45図 PL23) 785-985から780-980に走向し、3号溝と合流する。規模は長さ2.90m、幅0.20～0.40m、深さ0.35mで、断面形は弧状を呈する。

**5号溝** (第45図 PL23) 770-965から765-955に走向し、1号溜井に合流する。規模は長さ13.70m、幅0.25～1.10m、深さ0.05mである。遺存状態が不良で掘り込みがほとんど確認できないため、断面形は測定不可である。

**6号溝** (第45図 PL23) 770-970から765-960に走向する。規模は長さ11.10m、幅0.20～1.45m、深さ0.55mで、断面形は台形状を呈する。

**1号溜井** (第45図 PL22) 760-940に位置し、規模は1.48×1.15m、最深部は0.70mである。埋土はAs-Bを含む灰黄褐色土や褐色土が主体で、下層には砂粒や礫が認められる。6号溝から取水し、1号溝及び南方向へ出水していたものと思われる。底部には礫が敷き詰められていた。掘削されて時期は不明であるが、埋土から陶磁器等の遺物が出土していることから、近世まで使用されていたものと考えられる。

**2号溜井** (第46図 PL22) 775-990に位置し、規模は9.00×1.90×0.23mである。埋土はAs-Bを含む褐色土が主体で、下層には砂粒が混じる。おそらく1号溜井と同時期の遺構であろう。

**3号溜井** (第46図 PL23) 790-990に位置し、規模は3.80×3.05m、深さは0.26mである。埋土にAs-Bは認められず、下層には礫を多量に含む。周辺の状況から考えると、1号溜井と同時期の遺構であると考えられる。

**水田痕跡** (第46図) 調査区の南側で水田の畦の痕跡を確認した。後の耕作等により削平されているため、畦の高低差がほとんどなく平面のみの記録である。12区と同様に、As-B下水田の痕跡あるいは後世の水田の疑似畦畔であると考えられる。

## 第9節 14区の調査

### 1 調査の概要

本調査区は、北側は表土下に微高地の礫層、南側にAs-B混土やHr-FAとAs-Cを含む黒褐色土がわずかに残されている状況であった。よって北東部は縄紋包含層の調査、南西部は水田の痕跡を想定した調査をおこなった。第1面では、溝8条と畦1筋を確認した。

## 2 第1面の遺構と遺物

**1号溝** (第48図 PL23) 760-875から730-880に走向する。規模は長さ36.90m、幅0.04～2.00m、深さ0.10～0.90mで、断面形は弧状を呈する。埋土の状況から近世から近代の遺構であると考えられる。

**2号溝** (第48図 PL23) 755-875から745-875に走向し、1号溝から分岐・合流する。規模は長さ9.90m、幅0.06～1.10m、深さ0.10～0.60mで、断面形は台形状を呈する。1号溝と同時期の遺構である。

**3号溝** (第48図 PL24) 760-860から730-855に走向する。規模は長さ23.50m、幅5.70～6.70m、深さ0.04～0.26mで、断面形は比較的平坦で中央からやや東側が弧状に落ち込む形を呈する。埋土の上層には小礫を多く含み、最下層には流水の痕跡が確認できた。遺物は埋土から鉄砲玉(第102図26 PL51)と銅製品(第102図27 PL51)のほか陶磁器片(未掲載)が多数出土している。

**4号溝** (第47図 PL24) 725-870から725-865に走向する。規模は長さ4.25m、幅0.28～0.64m、深さ0.04～0.14mで、断面形は台形状を呈する。埋土はAs-Bを含む褐灰粘質土で、遺物は出土していない。

**5号溝** (第47図 PL24) 730-880から725-870に走向する。規模は長さ9.30m、幅0.22～0.51m、深さ0.03～0.13mで、断面形は弧状を呈する。埋土はAs-Bを多量に含む褐灰色土で遺物は出土していない。

**6号溝** (第47図 PL24) 730-875から725-875に走向する。規模は長さ5.34m、幅0.30～0.56m、深さ0.03～0.09mで、断面形は台形状を呈する。5号溝と重複し、本溝の方が新しい。埋土の状況から4号溝とほぼ同時期の遺構であると考えられる。

**7号溝** (第47図 PL24) 750-915から725-875に走向する。規模は長さ41.00m、幅0.80～5.10m、深さ0.04～0.23mで、南側の断面形は弧状を呈する。また北側は幅3.50m前後のテラス状の部分有する。遺物は、縄紋土器や土師器の小片が出土しているが図示はしていない。後述の1号畦とほぼ並行に掘削されていることから、畦際の落ち込みである可能性も考えられる。

**8号溝** (第48図) 765-895から740-895に走向する。規模は長さ25.60m、幅7.78～11.00m、深さ0.05～0.15mで、断面形は台形状を呈する。

**1号畦** (第47図 PL24) 730-885から750-915に位置し、規模は長さ37.00m以上、幅1.40～1.98m、高さ0.04～0.11mである。畦は地山の黒褐色であるが、後世の擬似畦である可能性も考えられるため、時期は不明である。

## 3 縄紋時代の遺物

**土器** (第88・89図 PL44・45) 出土した土器のうち深鉢40点を図示した。早期から前期に属するものが大半を占めるが、740-870グリッド付近からは縄紋中期後半の土器片がややまとまって出土した。1は井草式の口縁部、2は稲荷原式の胴部、3～5は田戸下層式の胴部、6～9は田戸上層式の口縁部、10は流出原式と考えられる胴部である。11は鶺鴒ヶ島台式の口縁部、12～14は同胴部、15は早期後半条痕紋系の口縁部、16・17は同胴部、18は早期後半と考えられる胴部である。19は花積下層式の胴部、20・23～25は黒浜式の胴部、21・22は同口縁部、26は諸磯b式の胴部、27～32は十三菩提式の胴部、33は加曾利E式の胴部、34は堀之内1式の胴部、35は称名寺1式の口縁-底部、36は同胴部である。37・38は堀之内2式の胴部、39は加曾利B式の胴部、40は同口縁部である。

**石器** 出土した石器のうち8点を図示した。4・5・15(第93・94図 PL48)は石鏃、17(第94図 PL49)は石錐、20(第95図 PL49)は石匙、32・38(第95・96図 PL49)は打製石斧、61(第99図 PL50)は鉞石である。



## 第10節 15区の調査

### 1 調査の概要

本調査区は、礫層が認められず低地部に相当する。As-B 混土上面を第1面、下面を第2面、基本土層6層の下面を第3面として調査を行った。確認された遺構は、第1面では掘立柱建物3棟、柵列1、土坑4基、ピット134基、第2面では、ピット2基、水田痕跡、第3面では土坑1基、ピット5基、溝10条である。

### 2 第1面の遺構と遺物

**1号掘立柱建物** (第49図 PL24) 730-820に位置し、長軸方位はN-73°-Wである。規模は3.82×3.42mである。

**2号掘立柱建物** (第51図 PL24) 730-820に位置し、長軸方位はN-72°-Wである。規模は3.30×3.19mである。1号掘立柱建物と重複し、本遺構の方が新しい。

**3号掘立柱建物** (第51図 PL24) 725-810に位置し、長軸方位はN-70°-Wである。規模は2.36×2.20mである。

**1号柵列** (第51図 PL24) 730-815に位置し、N-75°-W方向に長さ10.80m、柱穴7基を有する。

**1号土坑** (第52図 PL25) 730-800に位置し、規模は1.19×1.11×1.06m、形状は円形である。埋土の上層には20～30cm大の礫が含まれていた。遺物は、須恵器甕(第78図20 PL40)の底部片が出土している。底部には湧水が認められ、井戸であると考えられる。

**2号土坑** (第52図 PL25) 750-835に位置し、規模は1.26以上×0.61×0.09m、形状は楕円形である。

**3号土坑** (第52図 PL25) 715-820に位置し、規模は2.28×2.07×1.59m、形状は円形である。埋土は人為的に埋め戻されたもので、上層には20～50cm大の礫が投げ込まれていた。遺物は、須恵器甕の底部片が出土している。底部には湧水が認められ、井戸であると考えられる。

**4号土坑** (第52図 PL25) 725-835に位置し、規模は3.05×2.90×1.92m、形状は円形である。底部から1mほどの位置には30～50cm大の礫が投げ込まれていた。ピット3基が存在し、両端の2基は上層の柱穴の可能性が考えられる。遺物は、陶器甕口縁片(第78図21 PL40)と円筒埴輪片(第78図22 PL40)が出土している。底部には湧水が認められ、井戸であると考えられる。

**ピット群** (第50・53～56図) 134基のピットを調査した。740-840と730-820付近の2箇所に集中して確認された。規模は径0.13～0.56m、深さ0.05～0.53mで、形状は様々である。遺物は1号ピットから須恵器甕の胴部片が出土しているが図示には至らなかった。

**1号溝** (第57図 PL25) 730-805から730-815に走向する。規模は長さ7.50m、幅0.50～0.70m、深さ0.07～0.12mで、断面形は台形状を呈する。

**2号溝** (第57図 PL25) 730-825から730-820に走向する。規模は長さ3.90m、幅0.25～0.40m、深さ0.02～0.11mで、断面形は台形状を呈する。

**3号溝** (第57図 PL25) 730-820から710-830に走向する。規模は長さ30.00m、幅0.30～1.00m、深さ0.01～0.25mで、断面形は台形状を呈する。下層には礫や砂層が確認され流水していたものと思われる。

**4号溝** (第57図 PL26) 720-810から715-815に走向する。規模は長さ8.00m、幅0.45～0.60m、深さ0.03～0.10mで、断面形は台形状を呈する。

**5号溝** (第57図 PL26) 710-825から705-830に走向する。規模は長さ6.50m、幅0.20～0.45m、深さ

0.02～0.08mで、断面形は台形状を呈する。

**6号溝** (第57図 PL26) 710-825に位置する。規模は長さ1.40m、幅0.20～0.40m、深さ0.03～0.05mで、断面形は台形状を呈する。5号溝と重複するが、埋土が同じであるので同時期の溝と考えられる。

**7号溝** (第57図 PL26) 715-830から705-835に走向する。規模は長さ11.50m、幅0.25～0.40m、深さ0.02～0.06mで、断面形は台形状を呈する。

**8号溝** (第57図 PL26) 730-815から720-820に走向する。規模は長さ14.00m、幅0.90～2.30m、深さ0.06～0.10mで、断面形は弧状を呈する。

**9号溝** (第58図 PL26) 730-805から715-815に走向する。規模は長さ15.60m、幅1.30～1.60m、深さ0.01～0.09mで、断面形は台形状を呈する。

**10号溝** (第58図 PL26) 730-805から715-810に走向する。規模は長さ14.50m、幅0.80～1.70m、深さ0.06～0.20mで、断面形は弧状を呈する。埋土にはAs-Bを多量に含んでいる。

**11号溝** (第58図 PL26) 715-830から710-820に走向する。規模は長さ11.80m、幅0.20～0.40m、深さ0.02～0.07mで、断面形は弧状を呈する。埋土は不明である。

**23号溝** (第58図 PL28) 750-820から745-820に走向する。規模は長さ4.60m、幅0.65～1.10m、深さ0.07～0.12mで、断面形は弧状を呈する。埋土の特徴から近世以降の溝であると考えられる。

**24号溝** (第58図 PL28) 740-805に位置する。規模は長さ1.00m、幅0.45～0.50m、深さ0.02～0.04mで、断面形は台形状を呈する。埋土は不明である。

**25号溝** (第58図 PL28) 740-800に位置する。規模は長さ3.90m、幅0.35～0.50m、深さ0.04～0.12mで、断面形は台形状を呈する。

### 3 第2面の遺構と遺物

**水田痕跡** (第58図) 700-800から715-815に位置する。As-B混土を耕作土とする水田として調査されたが詳細は不明である。畦の痕跡も高低差がほとんどなく遺存状態はきわめて悪い。

### 4 第3面の遺構と遺物

**5号土坑** (第59図 PL25) 715-835に位置し、規模は1.14×0.78×0.20m、形状は楕円形である。埋土には白色軽石を含んでおり、古墳時代の遺構と考える。

**138～141・143号ピット** (第59図) 規模は径0.15～0.21m、深さは0.06～0.19mである。埋土にはHr-FAを含んでおり、古墳時代の遺構である。

**12号溝** (第59図 PL27) 720-815から700-820に走向する。規模は長さ19.50m、幅0.15～0.80m、深さ0.02～0.18mで、断面形は弧状を呈する。埋土にAs-Bは混入せず、中世以前の遺構であると考えられる。

**13号溝** (第59図 PL27) 715-815から700-820に走向する。規模は長さ16.00m、幅0.30～1.50m、深さ0.03～0.07mで、断面形は台形状を呈する。12号溝と重複し、本溝の方が古い。

**14号溝** (第60図 PL27) 720-830から700-825に走向する。規模は長さ17.70m、幅0.20～0.50m、深さ0.02～0.11mで、断面形は弧状を呈する。

**15号溝** (第60図 PL27) 725-840から710-845に走向する。規模は長さ16.70m、幅0.25～0.60m、深さ0.03～0.21mで、断面形は台形状を呈する。

**16号溝** (第60図 PL27) 735-835から725-845に走向する。規模は長さ18.00m、幅0.25～0.70m、深

### 第3章 調査された遺構と遺物

さ0.03～0.08mで、断面形は弧状を呈する。15号溝と重複するが、新旧は不明である。

**17号溝** (第60図 PL27) 705-815から700-845に走向する。規模は長さ4.70m、幅0.50～1.10m、深さ0.04～0.10mで、断面形は台形状を呈する。

**18号溝** (第60図 PL27) 725-815から720-810に走向する。規模は長さ8.70m、幅0.25～0.40m、深さ0.01～0.10mで、断面形は台形状を呈する。

**20号溝** (第59図 PL27) 715-820から710-820に走向する。規模は長さ3.10m、幅0.20～0.50m、深さ0.03～0.05mで、断面形は台形状を呈する。

**21号溝** (第60図 PL27) 720-810から705-815に走向する。規模は長さ12.00m、幅0.30～0.75m、深さ0.03～0.12mで、断面形は台形状を呈する。

**26号溝** (第60図 PL28) 755-830から745-825に走向する。規模は長さ7.00m、幅0.50～4.30m、深さ0.05～0.16mで、断面形は台形状を呈する。

#### 5 縄紋時代の遺物

**土器** (第93図 PL45) 出土した土器のうち深鉢3点を図示した。1・2は後期前葉の口縁部、3は高井東式の口縁部である。

**石器** 出土した石器は2 (第93図 PL48) の石畿1点である。

## 第11節 16区の調査

### 1 調査の概要

調査区のほぼ全域が低地部であるため、水田遺構を想定した調査を実施した。As-B混土下の基本土層a・bを第1・2面、基本土層cを第3面として調査を行った。第1面では溝17条、ピット16基、As-B混土を耕作土とする水田痕跡を確認した。第2面ではAs-B下水田の痕跡及びそれに伴う畦の基底部を確認した。第3面では溝12条、ピット12基、土坑8基を調査した。このうち24～28号ピット及び4～8号土坑は3面より10cmほど掘削した面を確認した。

### 2 第1面の遺構と遺物

**1～16号ピット** (第61図) 13号ピットを除き690-740グリッド付近に集中している。規模は長径0.22～0.70m、短軸0.04～0.48m、深さ0.05～0.19mで、埋土にはAs-Bを含んでいる。掘立柱建物や柵のように規則正しく配列されたピットではない。

**1～17号溝** (第62・63図 PL28～30) 5号溝を除き、ほとんどの溝が北から南へ走向する。10・11号溝を除き、埋土等の詳細は不明である。計測値は別表を参照。

**水田痕跡** (第64図 PL30) 690-780から700-790に位置する。15区の水田痕跡と同様で、依存状態は悪い。

### 3 第2面の遺構と遺物

**水田痕跡** (第65・66図 PL30) 670-740から720-760に位置する。上層からの攪乱を受けていない黒色粘質土を掘り下げたところ、畦の基底部を確認することができた。畦区画は、南北の座標軸より約15°西に振られていて、大畦の幅は東西方向14.13m、南北方向11.89mである。また、水口状に畦がとぎれている箇所も

確認された。標高は、北西部分が67.56m、南東部分が67.19mで比高差は0.37mである。水田耕作土と推定される黒色粘質土中の上層には部分的にAs-Bテフラも確認されているが、黒色粘質土中にはAs-Bは含まれていない。プラント・オパール分析では比較的高い数値が得られているため、As-B降下以前の水田痕跡である可能性が高いと考える。

#### 4 第3面の遺構と遺物

**1号土坑** (第67図 PL31) 705-710に位置し、規模は1.19×0.60×0.08m、形状は楕円形である。

**2号土坑** (第67図 PL31) 720-775に位置し、規模は1.80×0.55×0.05m、形状は楕円形である。

**3号土坑** (第67図 PL31) 700-770に位置し、規模は1.76×1.41×0.29m、形状は長方形である。

**18号溝** (第69図 PL32) 720-775から700-760に走向する。規模は長さ15.70m、幅0.10～0.50m、深さ0.01～0.08mで、断面形は台形状を呈する。遺物は土師器片が30点出土しているが、図示するには至らなかった。

**19号溝** (第69図 PL32) 735-770から705-760に走向する。規模は長さ24.00m、幅0.26～0.60m、深さ0.08～0.20mで、断面形は台形状を呈する。

**20号溝** (第69図 PL32) 735-770から705-770に走向する。規模は長さ27.70m、幅0.24～0.74m、深さ0.03～0.12mで、断面形は弧状を呈する。遺物は土師器片が10点出土しているが、図示するには至らなかった。

**21号溝** (第69図 PL32) 710-765から705-760に走向する。規模は長さ4.30m、幅0.30～0.50m、深さ0.03～0.11mで、断面形は台形状を呈する。

**22号溝** (第69図 PL32) 725-775から725-770に走向する。規模は長さ3.30m、幅0.50～0.80m、深さ0.02～0.04mで、断面形は台形状を呈する。遺物は土師器片が出土しているが、図示するには至らなかった。

**23号溝** (第69図 PL33) 725-775から730-775に走向する。規模は長さ3.50m、幅0.20～0.50m、深さ0.02～0.04mで、断面形は台形状を呈する。

**24号溝** (第69図 PL33) 705-770から700-770に走向する。規模は長さ3.80m、幅0.30～0.36m、深さ0.03～0.05mで、断面形は台形状を呈する。

**25号溝** (第69図 PL33) 735-780から725-775に走向する。規模は長さ32.40m、幅0.13～1.20m、深さ0.02～0.13mで、断面形は台形状を呈する。遺物は土師器片が出土しているが、図示するには至らなかった。

**26号溝** (第69図 PL33) 730-770から725-775に走向する。規模は長さ5.50m、幅0.18～0.40m、深さ0.04～0.08mで、断面形は台形状を呈する。

**27号溝** (第69図 PL33) 730-765から725-770に走向する。規模は長さ3.30m、幅0.40～0.53m、深さ0.02～0.06mで、断面形は台形状を呈する。

**28号溝** (第33図) 720-775から715-775に走向する。規模は長さ1.00m、幅0.14～0.18m、深さ0.03mで、断面形は台形状を呈する。

**29号溝** (第33図) 720-775から715-780に走向する。規模は長さ1.90m、幅0.30～0.40m、深さ0.04～0.05mで、断面形は台形状を呈する。

**遺物集中箇所** (第68図 PL32) 715-780を中心に、土器や石器、礫などがまとまって出土した。遺物の出土レベルは67.55m付近に集中している。この下層からは4～8号土坑と24～27ピットを確認した。住居跡である可能性も考えられるが、土坑・ピットの掘り込みが浅く遺構のプランが不明瞭、跡が確認されない

### 第3章 調査された遺構と遺物

などの理由から、住居と判断するには至らなかった。

#### 5 縄紋時代の遺物

**土器** (第90～92図 PL46～48) 出土した土器のうち32点を図示した。晩期前半に属するものが大半を占める。遺物の出土状態は、後世の耕作等の影響により摩滅が著しく元位置をとどめていないものと考えられる。1～3は天神原式深鉢の口縁から胴部、11・12は同口縁部である。4・5・14・16～18・21～23は晩期前半の深鉢の口縁から胴部、15・19・20・24は口縁部、13・27は胴部、25は口縁から底部、26・28～32は胴から底部である。7は晩期前半の浅鉢の口縁から底部、9は台付深鉢の台部である。6は安行3c式舟形土器、8は大洞C1式壺形土器の口縁から胴部、10は高井東式深鉢口縁部である。

図示はしなかったが、底部の破片が49点出土している。

**石器** 出土した石器のうち28点を掲載した。6～11・13・14 (第93・94図 PL48) は石鏃、18 (第94図 PL49) は石鏃、34・42・43・47～51 (第95～98図 PL49・50) は打製石斧である。53～55 (第98図 PL50) は順に礫器・岩版・石鏃、58～60 (第99図 PL50) は敲石、63・64・66 (第99・100図 PL50) は凹石、67は (第100図 PL50) は多孔石である。

## 第12節 17・18・19区の調査

### 1 調査の概要

16区と同様に低地部にあたり、事前の範囲確認調査でもAs-Bを含む土層の下に水田耕作土と思われる黒褐色土が確認されていたため、水田遺構を想定して調査をおこなった。As-B混上下の基本土層a・bが第1面、基本土層c下の褐灰粘質土上面が第2面である。第1面で確認された遺構は、17区で溝17条、ピット4基、18区で溝6条、ピット2基、19区で溝1条である。また、17・18区でAs-B下水田の痕跡を確認することができた。第2面は、17区で溝16条を確認したが、18・19区では遺構はない。

#### 1 第1面の遺構と遺物

**溝** (第71・72図 PL33～35) 調査された24条の溝を平面的及び底部の形状から、①蛇行し水路の可能性が考えられるもの、②掘り込みが確認でき、水路または区画溝と考えられるもの、③底部の凹凸が著しく、耕作痕または区画溝と考えられるもの、④掘り込みが確認できず、土色の違いから溝と判断されたものの4類に分類した。

①は17区2・11号溝、18区4号溝で、底部からは礫が確認されている。②は17区1・3～5溝、18区1・2号溝、19区1号溝である。19区1号溝はAs-Bを含む粘質土で埋没していた。③は17区6～10・12～14・16・17号溝である。7・10・12・13・16・17号溝は南北に、6・8・9・14号溝は東西に走向している。④は17区15・18号溝、18区5・6号溝である。

**水田痕跡** (第73図) 17区670-700から705-720、18区650-630に位置する。水田耕作土と推定される黒色粘質土上に部分的にAs-Bが残っている。また、As-Bを含まない溝状のプランが認められ、これを畦の痕跡と仮定して調査をすることで、水田と考えられる区画を確認することができた。黒色粘質土のプラント・オーバー分析結果で高い数値を示しているため、水田痕跡である可能性が考えられる。

## 2 第2面の遺構と遺物

**19号溝** (第74・75図 PL35) 665-680から660-700に走向する。規模は長さ16.20m、幅0.32～1.10m、深さ0.14～0.29mで、断面形は葉研状を呈する。埋土はAs-CおよびHr-FAを含む粘質土である。遺物は土師器裏の胴部片などが出土している。

**20号溝** (第74・75図 PL36) 660-690に位置する。規模は長さ2.40m、幅0.75～0.80m、深さ0.14～0.25mで、断面形は台形状を呈する。埋土はAs-CおよびHr-FAを含む粘質土である。遺物は土師器細片が出土している。19号溝と重複するが、埋土が同じであるため同時期の遺構であると考えられる。

**21号溝** (第74・75図 PL36) 675-715から660-705に走向する。規模は長さ15.00m、幅2.20～9.90m、最浅部0.17mで、湧水のため最深部までは掘削できなかった。埋土のAs-CおよびHr-FAを多量に含み、砂粒も認められるため流水していたものと考えられる。遺物は土師器高環脚部、裏底部片などが出土している。

**22号溝** (第74・75図 PL36) 700-715から695-715に走向する。規模は長さ6.70m、幅0.30～2.00m、深さ0.07～0.24mで、断面形は台形を呈する。埋土はAs-CおよびHr-FAを含む粘質土である。

**23号溝** (第74・75図 PL36) 700-715から685-715に走向する。規模は長さ7.65m、幅0.30～1.10m、深さ0.05～0.24mで、断面形は弧状を呈する。埋土には白色軽石が含まれていない。遺物は土師器細片が出土している。

**24号溝** (第74・75図 PL36) 695-720から685-715に走向する。規模は長さ8.10m、幅0.40～0.65m、深さ0.10～0.17mで、断面形は弧状を呈する。埋土には白色軽石が含まれていない。遺物は土師器細片が出土している。

**25号溝** (第74・75図 PL36) 705-720から675-710に走向する。規模は長さ35.40m、幅1.80～2.10m、深さ0.22～0.40mで、断面形は台形状を呈する。埋土には白色軽石が含まれていない。遺物は縄紋土器(第93図17区-1 PL48)土師器裏底部片(第78図27 PL40)が出土している。

**26号溝** (第74・75図 PL36) 690-715から675-715に走向する。規模は長さ17.80m、幅0.70～2.00m、深さ0.33～0.40mで、断面形は弧状を呈する。埋土には白色軽石が含まれていない。遺物は土師器片が出土している。

**27号溝** (第74・76図 PL36) 685-720に走向する。規模は長さ3.60m、幅0.40～1.10m、深さ0.10～0.16mで、断面形は台形状を呈する。遺物は縄紋土器片や土師器裏底部片が出土している。

**28号溝** (第74・76図 PL37) 695-715から675-710に走向する。規模は長さ20.80m、幅0.20～0.92m、深さ0.03～0.10mで、断面形は台形状を呈する。埋土はAs-CおよびHr-FAを含む粘質土である。遺物は土師器片が出土している。

**29号溝** (第74・76図 PL37) 675-720から675-715に走向する。規模は長さ5.65m、幅0.50～1.40m、深さ0.07～0.33mで、断面形は台形状を呈する。埋土はAs-CおよびHr-FAを含む粘質土である。

**30号溝** (第74・76図 PL37) 675-720に位置する。規模は長さ1.80m、幅0.40～0.45m、深さ0.07～0.15mで、断面形は台形状を呈する。埋土はAs-CおよびHr-FAを含む粘質土で、29号溝と同一遺構であると考えられる。

**31号溝** (第74・76図 PL37) 680-690から670-685に走向する。規模は長さ8.10m、幅0.27～0.42m、深さ0.05～0.07mで、断面形は弧状を呈する。埋土はAs-CまたはHr-FA、礫を含んでいる。遺物は土師器小片が出土している。

**32号溝** (第74・76図 PL37) 680-690から675-690に走向する。規模は長さ6.80m、幅0.15～0.40m、

### 第3章 調査された遺構と遺物

深さ0.02～0.06mで、断面形は台形状を呈する。埋土はAs-CまたはHr-FA、砂粒や礫を含んでいる。遺物は縄紋土器片や土師器細片が出土している。

**33号溝** (第74・76図 PL37) 670-685から665-685に走向する。規模は長さ6.10m、幅0.28～0.83m、深さ0.04～0.12mで、断面形は弧状を呈する。埋土はAs-CまたはHr-FAを含む粘質土である。

**34号溝** (第74・76図 PL37) 675-700から660-700に走向する。規模は長さ14.20m、幅0.25～0.60m、深さ0.03～0.18mで、断面形は弧状を呈する。埋土はAs-CまたはHr-FAを含む粘質土である。

### 3 縄紋時代の遺物

**土器** (第93図 PL46～48) 出土した土器のうち縄紋前期と考えられる深鉢の胴から底部片1点を図示した。

**石器** 出土した石器のうち6点を図示した。12 (第94図 PL48) は石鏃、28・39・40・44・46 (第95～97図 PL49) は打製石斧である。

#### 1区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	位置	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	溝	9	—	—	—	—	—	—	—	現代
2	溝	9	6	935-460～930-460	—	—	5.20	—	0.45	近世
1	土坑	9	—	935-455	円形	N-0°	1.70	1.66	0.36	古墳以前・倒木痕か
1	ピット	9	—	930-465	楕円形	—	0.32	0.22	0.26	古墳以前
2	ピット	9	—	930-465	円形	—	0.50	0.45	0.23	古墳以前
3	ピット	9	—	935-470	円形	—	0.80	0.72	0.51	古墳以前
4	ピット	9	—	935-470	楕円形	—	0.78	0.58	0.53	古墳以前
5	ピット	9	—	935-470	楕円形	—	0.70	0.57	0.23	古墳以前
6	ピット	9	—	935-475	楕円形	—	0.69	0.56	0.29	古墳以前
7	ピット	9	—	935-475	楕円形	—	0.85	0.48	0.37	古墳以前

#### 2区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	位置	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	土坑	13	6	930-515	楕円形	N11°-W	0.72	0.50	0.08	古墳
2	土坑	13	7	920-485	楕円形	N42°-W	0.98	0.65	0.20	中世以前
3	土坑	13	7	930-515	長方形	N46°-W	1.11	0.63	0.06	中世以前
4	土坑	13	7	930-520	方形	N75°-W	1.00	0.86	0.05	中世以前
5	土坑	13	7	930-515	不整形	N86°-W	1.50	0.48	0.05	中世以前
6	土坑	13	7	915-500	円形	N82°-W	0.82	0.69	0.18	縄紋か
1	溝	11	7	915-465～890-475	—	—	28.70	1.70～2.40	0.09～0.23	近世以降
2	溝	11	7	915-465～890-480	—	—	30.20	0.54～2.00	0.10～0.67	近世以降
3	溝	16	7	905-485～920-475	—	—	14.80	0.32～0.80	0.06～0.13	中世
4	溝	16	7	910-535～910-540	—	—	4.56	6.30	0.28～0.83	古墳・河道
5	溝	16	7	915-535～920-540	—	—	4.70	4.20～5.10	0.28～0.47	古墳・河道
6	溝	16	7	920-530～925-535	—	—	5.00	2.80～4.00	0.34～0.62	古墳・河道
7	溝	11	8	915-470～920-470	—	—	6.60	0.36～0.54	0.04～0.15	近世か
8	溝	14	8	910-475～915-475	—	—	4.90	0.28～0.42	0.08～0.11	中近世
9	溝	13	8	900-480～905-490	—	—	12.14	0.24～0.50	0.08～0.13	古墳
10	溝	13	8	900-500～885-480	—	—	24.40	0.36～1.36	0.08～0.30	中世
11	溝	12	—	925-490～895-510	—	—	37.00	2.80～4.34	0.30～0.59	現代
12	溝	12	8	925-505～895-505	—	—	38.00	0.90～8.70	0.15～0.61	近世
13	溝	11	8	915-495～885-480	—	—	29.30	0.46～1.86	0.05～0.47	近世
14	溝	11	8	900-480～910-490	—	—	17.60	0.44～0.86	0.06～0.21	近世
15	溝	13	8	900-475～905-495	—	—	22.40	4.00～7.20	0.03～0.19	古墳
16	溝	14	9	935-515	—	—	1.30	0.32～0.44	0.01～0.06	古墳か
17	溝	14	9	925-510～925-490	—	—	17.80	0.48～0.78	0.03～0.10	古墳

#### 3区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	グリッド	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	溝	18	9	915-385～905-385	—	—	13.30	0.68～1.20	0.04～0.18	中近世か
2	溝	18	9	915-385～905-385	—	—	13.60	0.55～1.30	0.01～0.05	中近世か
1	住居	19	9	930-440	方形	N36°-W	3.62	3.47	0.18	古墳前期
1	土坑	20	—	915-420	円形	N13°-W	0.68	0.65	0.10	中世以降
2	土坑	20	—	915-420	楕円形	N82°-E	1.79	0.93	0.06	中世以降

## 遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
3	土坑	20	--	920-410	楕円形	N-8°-E	0.93	0.81	0.29	中世以降
4	土坑	21	--	910-420	-	-	0.93	0.29	0.08	中世以降
5	土坑	21	--	920-425	楕円形	N-12°-W	(2.10)	(1.52)	0.11	中世以降
1	掘立柱建物	20	10	915-420	-	N-10°-E	5.36	3.66	-	中世以降
2	掘立柱建物	20	10	915-420	-	N-3°-E	-	3.80	-	中世以降
3	掘立柱建物	19	10	920-415	-	N-29°-E	(3.43)	3.74	-	中世以降
1	ピット	20	10	915-420	円形	-	0.53	0.46	0.28	中世以降 2号掘立
2	ピット	21	--	915-415	円形	-	0.36	0.34	0.21	中世以降
3	ピット	21	--	915-415	長方形	-	0.35	0.25	0.23	中世以降
4	ピット	21	--	915-415	楕円形	-	0.33	0.27	0.26	中世以降
5	ピット	20	10	915-425	円形	-	0.40	0.33	0.34	中世以降 1号掘立
6	ピット	19	10	920-415	円形	-	0.33	0.28	0.25	中世以降 3号掘立
7	ピット	19	10	920-415	不整形	-	0.47	0.40	0.37	中世以降 3号掘立
8	ピット	19	10	920-415	円形	-	0.40	0.28	0.20	中世以降 3号掘立
9	ピット	21	--	920-410	円形	-	0.34	(0.25)	0.13	中世以降
10	ピット	21	--	935-415	円形	-	0.33	0.30	0.22	中世以降
11	ピット	21	--	925-420	円形か	-	0.27	(0.18)	0.17	中世以降
12	ピット	21	--	920-425	円形	-	0.32	0.29	0.26	中世以降
13	ピット	21	--	925-420	円形	-	0.40	0.33	0.22	中世以降
14	ピット	21	--	925-420	楕円形	-	0.41	0.32	0.34	中世以降
15	ピット	21	--	920-410	楕円形	-	0.61	0.36	0.24	中世以降
16	ピット	21	--	925-415	不整形	-	0.53	0.32	0.28	中世以降
17	ピット	21	--	920-415	方形	-	0.43	0.37	0.39	中世以降
18	ピット	21	--	920-415	不整形	-	0.55	0.25	0.24	中世以降
19	ピット	21	--	925-415	円形	-	0.30	0.27	0.14	中世以降
20	ピット	21	--	920-415	楕円形	-	0.50	0.40	0.12	中世以降
21	ピット	21	--	920-415	方形	-	0.37	0.34	0.30	中世以降
22	ピット	21	--	925-415	円形	-	0.28	0.25	0.13	中世以降
23	ピット	21	--	925-415	円形	-	0.32	0.27	0.16	中世以降
24	ピット	21	--	925-415	方形	-	0.32	0.27	0.22	中世以降
25	ピット	21	--	925-415	円形	-	0.24	0.20	0.18	中世以降
26	ピット	21	--	925-415	方形	-	0.32	0.30	0.29	中世以降
27	ピット	21	--	925-415	楕円形	-	0.32	0.24	0.20	中世以降
28	ピット	21	--	920-415	長方形	-	0.34	0.27	0.22	中世以降
29	ピット	21	--	920-415	不整形	-	0.57	0.47	0.28	中世以降
30	ピット	21	--	925-415	楕円形	-	0.43	0.30	0.25	中世以降
31	ピット	22	--	925-415	楕円形	-	0.37	0.28	0.13	中世以降
32	ピット	22	--	910-415	円形	-	0.40	0.36	0.31	中世以降
33	ピット	22	--	915-415	楕円形	-	0.40	0.32	0.28	中世以降
34	ピット	22	--	915-415	楕円形	-	0.49	0.38	0.29	中世以降
35	ピット	22	--	915-415	不整形	-	0.45	0.27	0.18	中世以降
36	ピット	22	--	915-415	円形	-	0.32	0.29	0.21	中世以降
37	ピット	22	--	915-420	方形	-	0.27	0.23	0.12	中世以降
38	ピット	22	--	920-420	楕円形	-	0.43	0.35	0.26	中世以降
39	ピット	22	--	920-420	円形	-	0.22	0.20	0.32	中世以降
40	ピット	22	--	915-420	円形	-	0.43	0.37	0.29	中世以降
41	ピット	22	--	915-420	不整形	-	0.45	0.35	0.26	中世以降
42	ピット	22	--	915-420	楕円形	-	0.36	0.29	0.35	中世以降
43	ピット	22	--	915-420	円形	-	0.45	0.41	0.27	中世以降
44	ピット	22	--	915-415	円形	-	0.25	0.21	0.20	中世以降
45	ピット	22	--	915-415	円形	-	0.22	0.20	0.42	中世以降
46	ピット	22	--	915-420	円形	-	0.27	0.24	0.25	中世以降
47	ピット	22	--	915-420	円形	-	0.32	0.28	0.25	中世以降
48	ピット									欠番
49	ピット	22	--	915-420	方形	-	0.28	0.25	0.26	中世以降
50	ピット	22	--	915-425	円形	-	0.28	0.26	0.24	中世以降
51	ピット	22	--	915-425	円形	-	0.35	0.29	0.27	中世以降
52	ピット	22	--	915-425	不整形	-	0.52	0.28	0.22	中世以降
53	ピット	22	--	920-425	円形	-	0.28	0.25	0.15	中世以降
54	ピット	22	--	915-425	円形	-	0.29	0.27	0.20	中世以降
55	ピット	22	--	915-415	円形	-	0.28	0.30	0.30	中世以降
56	ピット	22	--	915-415	長方形	-	0.22	0.18	0.27	中世以降
57	ピット	22	--	915-415	円形	-	0.29	0.28	0.23	中世以降



### 第3章 調査された遺構と遺物

#### 4区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	位置	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	土坑	24	11	890-395	長方形	N56°-W	2.39	1.32	0.36	中近世か
2	土坑	25	11	875-405	楕円形か	N34°-E	1.26	1.28	0.24	中世以降
3	土坑	25	12	895-440	方形	N90°	1.32	1.05	0.30	中世以降
4	土坑	25	12	870-405	楕円形か	N78°-W	0.85	(0.33)	0.25	中世以降
5	土坑	25	12	890-460	楕円形	N22°-E	0.70	0.45	0.07	中世以降
6	土坑	25	12	875-395	長方形	N26°-W	1.45	1.05	0.25	中世以降
7	土坑	25	12	870-395	-	N80°-W	1.19	1.30	0.43	中世以降
1	溝	24	11	875-405～890-420	-	-	27.30	0.50～1.70	1.00	中近世か
2	溝	26	12	895-460～875-410	-	-	52.70	1.20～4.40	0.12～0.27	中世以降
3	溝	24	11	880-410～890-405	-	-	17.20	0.25～0.60	0.80	中近世か
4	溝	27	12	875-405～890-430	-	-	32.60	1.10～1.90	0.16～0.43	中世以降
5	溝	27	12	895-425～895-440	-	-	16.20	0.80	0.05～0.11	中世以降
6	溝	27	12	895-420～895-440	-	-	23.50	1.60	0.90	中世以降
7	溝	25	13	875-395～880-400	-	-	10.20	0.10～0.90	0.01～0.12	中世以降
8	溝	26	13	880-425～885-430	-	-	9.60	0.50～0.80	0.15～0.31	中世以降
1	住居	24	11	885-425	方形	N28°-E	3.34	3.08	0.24	古墳前期
1	ピット	27	13	885-400	長方形	-	0.51	0.31	0.18	縄文
2	ピット	27	13	885-400	楕円形	-	0.35	0.29	0.16	縄文
3	ピット	27	13	885-390	円形	-	0.73	0.57	0.20	縄文

#### 7区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	グリッド	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	溝	-	-	865-825～850-825	-	-	11.3	0.30～0.45	0.21～0.29	現代
2	溝	30	13	885-260～875-235	-	-	40.3	0.27～0.44	0.36～0.63	中近世か
3	溝	-	-	875-260～875-235	-	-	22.4	0.30～0.65	0.05～0.12	現代
1	土坑	29	13	855-245	長方形	N83°-E	2.02	0.94	0.15	中近世か
2	土坑	29	13	865-245	楕円形	N35°-W	1.83	1.54	0.87	中近世か
3	土坑	29	13	865-245	楕円形	N52°-W	2.08	1.72	1.06	中近世か
4	土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
5	土坑	29	13	875-240	楕円形	N12°-E	2.05	1.60	1.24	中近世か
1	ピット	29	-	860-245	円形	N73°-W	0.47	0.42	0.32	中近世か

#### 9区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	グリッド	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	土坑	30	14	875-220	方形	N23°-W	1.26	1.25	0.90	中近世か
2	土坑	30	14	875-220	楕円形	N52°-E	0.73	0.65	0.29	中近世か
1	溝	30	14	875-220～875-210	-	-	13.60	2.65～3.05	0.32～0.46	中近世か
	河造									不明

#### 11区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	グリッド	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期・備考
1	土坑	32	14	840-105	楕円形か	N85°-W	0.77	0.37	0.31	中世以降
1	溝	32	14	855-115～845-115	-	-	9.80	1.50～2.50	0.04～0.16	中世以降

#### 12区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PL	グリッド	形状	主軸	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期・備考
1	土坑	34	14	815-040	長方形	N37°-E	1.02	(0.50)	0.29	中世以降
2	土坑	34	14	810-035	長方形	N48°-W	1.84	(1.06)	0.50	中世以降
3	土坑	34	14	810-035	長方形	N42°-W	1.37	(1.04)	0.43	中世以降
4	土坑	34	15	805-035	長方形	N54°-E	2.19	1.42	0.40	中世以降
5	土坑	34	15	800-020	長方形	N40°-E	2.00	(1.63)	0.60	中世以降
6	土坑	34	15	825-030	長方形	N41°-E	1.07	0.72	0.15	中世以降
7	土坑	35	15	820-045	不整形	N36°-W	5.95	2.38	0.28	中世以降
8	土坑	34	15	810-035	長方形	N43°-W	1.87	(0.96)	0.47	中世以降
9	土坑	34	15	830-045	方形	N29°-W	1.07	0.93	0.30	中世以降
10	土坑	34	15	830-040	方形	N26°-E	1.54	1.38	0.50	不明
11	土坑	35	15	820-030	長方形	N45°-W	2.27	1.00	0.29	中世以降
12	土坑	35	16	820-025	長方形	-	-	0.96	0.45	中世以降
13	土坑	35	16	820-025	長方形	-	-	1.00	0.47	中世以降
14	土坑	35	16	820-025	長方形	N27°-W	2.06	1.35	0.35	中世以降
15	土坑	36	16	815-025	不整形	N88°-W	0.74	0.59	0.10	中世以降
16	土坑	36	16	815-025	長方形	N42°-W	2.54	1.35	0.46	中世以降
17	土坑	36	16	825-060	長方形	N46°-W	1.43	0.77	0.25	中世以降
18	土坑	36	16	820-050	方形	N71°-W	1.29	(1.17)	0.27	中世以降
19	土坑	36	16	825-060	長方形	N60°-W	(1.67)	0.66	0.26	中世以降
20	土坑	36	17	800-005	長方形	-	-	0.97	0.38	中世以降
21	土坑	36	17	800-010	長方形	N47°-W	3.06	1.59	0.32	中世以降

## 遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
22	土坑	36	17	790-030	不整形	N 65° - E	1.00	0.88	0.28	中世以降
23	土坑	36	17	800-015	円形	N 18° - W	0.85	0.77	0.32	中世以降
24	土坑	37	17	880-025	長方形	N 56° - W	2.66	1.08	0.30	中世以降
25	土坑	37	17	785-015	長方形	N 42° - W	3.50	1.13	0.36	中世以降
26	土坑	37	17	790-010	長方形	N 34° - E	2.61	(0.77)	0.34	中世以降
27	土坑	37	17	785-025	長方形	N 45° - W	3.55	1.47	0.30	中世以降
28	土坑	37	18	785-015	長方形	N 50° - E	1.61	1.04	0.27	中世以降
29	土坑	37	18	800-040	方形	N 20° - E	1.27	1.03	0.30	中世以降
30	土坑	38	18	805-015	長方形	N 50° - E	(2.16)	1.43	0.46	中世以降
31	土坑	38	18	805-015	長方形	N 28° - E	(2.57)	2.15	0.52	中世以降
32	土坑	37	18	900-030	長方形	N 42° - E	1.82	1.06	0.35	中世以降
33	土坑	38	18	805-015	楕円形	N 1° - E	0.96	(0.67)	0.09	中世以降
34	土坑	38	18	805-050	円形	N 55° - W	1.00	0.90	0.36	不明
35	土坑	38	18	800-055	長方形	N 80° - E	1.81	1.41	0.37	中世以降
36	土坑	38	19	825-045	長方形	N 36° - E	2.48	1.01	0.19	不明
37	土坑	38	19	820-050	円形	N 7° - E	1.01	0.91	0.23	不明
38	土坑	38	19	800-055	長方形	N 15° - E	1.30	0.90	0.15	中世以降
39	土坑	39	19	800-005	長方形	(N 66° - W)	(1.08)	0.96	0.23	不明
40	土坑	39	19	795-050	長方形	N 71° - W	2.64	1.11	0.41	不明
41	土坑	39	19	825-045	長方形	N 1° - W	1.84	0.80	0.18	中世以降
42	土坑	39	19	775-020	長方形	N 62° - E	1.98	0.89	0.16	中世以降
43	土坑	39	19	810-015	方形	N 42° - E	0.99	0.82	0.14	中世以降
44	土坑	39	20	810-015	方形	N 75° - E	1.15	1.06	0.38	中世以降
45	土坑	39	20	810-010	円形	N 59° - W	0.78	0.68	0.16	中世以降
46	土坑	39	20	785-060	楕円形	N 65° - W	(1.96)	1.28	0.16	不明
47	土坑	39	20	780-060	楕円形	N 71° - W	(1.70)	0.86	0.10	不明
48	土坑									欠番
49	土坑	39	20	800-055	不整形	-	1.44	(0.58)	0.09	不明
1	ピット	40	-	815-025	不整形		0.60	0.48	0.20	中世以降
2	ピット									例本道
3	ピット	40	-	805-045	円形		0.47	0.45	0.13	中世以降
4	ピット	40	-	805-050	方形		0.36	0.31	0.45	中世以降
1	溝	40	20	835-055 ~ 825-050			9.00	0.30 ~ 0.45	0.07	中世以降
2	溝	41	20	780-040 ~ 760-025			23.10	0.65 ~ 4.30	0.50	中世以降
3	溝	41	20	810-050 ~ 775-060			33.80	0.75 ~ 2.85	0.51	近代以降
4	溝	41	21	805-050 ~ 800-050			7.80	0.35 ~ 0.75	0.04	中世以降
5	溝	40	21	785-060 ~ 780-065			8.70	1.60 ~ 3.70	0.13	近代以降
6	溝	40	21	790-065 ~ 785-075			16.50	1.20 ~ 1.80	0.16	近世以降
7	溝	40	21	830-065 ~ 825-065			5.45	0.30 ~ 0.46	0.06	現代か
8	溝	40	21	790-060 ~ 780-050			14.60	0.58 ~ 1.20	0.08	近世以降
9	溝	40	21	790-060 ~ 785-060			3.70	0.60 ~ 0.80	0.06	近世以降
10	溝	42	21	835-045 ~ 795-030			41.50	1.70 ~ 5.40	0.40	古墳か
11	溝	42	21	835-065 ~ 765-020			85.50	1.10 ~ 5.60	0.47	古墳か
12	溝	43	21	810-040 ~ 800-040			14.50	1.60 ~ 2.60	0.47	古墳か
13	溝	43	21	795-075 ~ 765-020			88.00	1.80 ~ 5.80	0.47	古墳か
14	溝	43	21	815-050 ~ 800-050			16.50	1.20 ~ 2.50	0.31	古墳か
15	溝	43	21	815-065 ~ 810-070			6.50	3.30 ~ 3.80	-	古墳か

## 13区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	グリッド	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
1	土坑	44	22	785-990	長方形	N 36° - W	2.19	0.93	0.39	中世以降
2	土坑	44	22	780-990	長方形	N 55° - W	3.53	0.83	0.38	中世以降
3	土坑	44	22	775-970	長方形	N 49° - W	2.22	0.78	0.32	中世以降
4	土坑	45	22	765-960	長方形	N 56° - E	5.05	1.10	0.53	中世以降
5	土坑	44	22	785-985	長方形	N 46° - W	1.24	0.75	0.40	不明
6	土坑	44	22	765-965	長方形	N 49° - W	1.52	1.00	0.40	中世以降
1	溝	45	23	760-945 ~ 750-940			10.00	1.40 ~ 3.20	1.20	中世以降
2	溝	45	23	775-000 ~ 770-995			1.50	0.25 ~ 0.35	0.95	中世以降
3	溝	45	23	785-985 ~ 780-975			11.00	0.50 ~ 1.70	0.40	中世以降か
4	溝	45	23	785-985 ~ 780-980			2.90	0.20 ~ 0.40	0.35	中世以降か
5	溝	45	23	770-965 ~ 765-955			13.70	0.25 ~ 1.10	0.05	中世以降か
6	溝	45	23	770-970 ~ 765-960			11.10	0.20 ~ 1.45	0.55	中世以降か
1	濠井	45	22	760-940	不整形	N 55° - E	14.80	11.50	0.20	近世
2	濠井	46	22	775-990	長方形	N 37° - W	9.00	1.90	0.23	近世
3	濠井	46	23	790-990	方形	N 90°	3.80	3.05	0.26	近世

### 第3章 調査された遺構と遺物

14区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
1	溝	48	23	760-875 ~ 730-880			36.90	0.04 ~ 2.00	0.10 ~ 0.90	近世以降か
2	溝	48	23	755-875 ~ 745-875			9.90	0.06 ~ 1.10	0.10 ~ 0.60	近世以降か
3	溝	48	24	760-860 ~ 730-855			23.50	5.70 ~ 6.70	0.04 ~ 0.26	As B 含まず
4	溝	47	24	725-870 ~ 725-865			4.25	0.28 ~ 0.64	0.04 ~ 0.14	中世以降
5	溝	47	24	730-880 ~ 725-870			9.30	0.22 ~ 0.51	0.03 ~ 0.13	中世以降
6	溝	47	24	730-875 ~ 725-875			5.34	0.30 ~ 0.56	0.03 ~ 0.09	中世以降
7	溝	47	24	750-915 ~ 725-875			41.00	0.80 ~ 5.10	0.04 ~ 0.23	中世以降
8	溝	48	-	765-895 ~ 740-895			25.60	7.78 ~ 11.00	0.05 ~ 0.15	中世以降か
1	柱	47	24				37.00	1.40 ~ 1.98m	高さ0.04 ~ 0.11	中世以降

15区遺構一覧表

1	竪立柱建物	49	24	730-820		N 73° - W	3.82	3.42	-	中世以降か
2	竪立柱建物	51	24	730-820		N 72° - W	3.30	3.19	-	中世以降か
3	竪立柱建物	51	24	725-810		N 70° - W	2.36	2.20	-	中世以降か
1	櫓列	51	24	730-815		N 75° - W	10.80	3.00	-	中世以降か
1	土坑	52	25	730-800	楕円形	N 22° - W	1.19	1.11	1.06	中世以降か
2	土坑	52	25	750-835	長方形	N 53° - W	(1.26)	0.61	0.09	中世以降か
3	土坑	52	25	715-820	円形	N 76° - W	2.28	2.07	1.59	中世以降か
4	土坑	52	25	725-835	円形	N 37° - W	3.05	2.90	1.92	中世以降か
5	土坑	59	25	715-835	楕円形	N 65° - E	1.14	0.78	0.20	古墳か
1	ピット	53	-	725-800	円形		0.29	0.22	0.08	中世以降か
2	ピット	53	-	725-805	楕円形		0.30	0.23	0.15	中世以降か
3	ピット	53	-	725-805	方形		0.26	0.22	0.20	中世以降か
4	ピット	53	-	725-805	円形		0.35	0.30	0.30	中世以降か
5	ピット	53	-	725-805	方形		0.19	0.18	0.15	中世以降か
6	ピット	53	-	725-805	楕円形		0.36	0.27	0.43	中世以降か
7	ピット	49	24	740-805	円形		0.38	0.35	0.48	中世以降か
8	ピット	53	-	730-820	円形		0.21	0.19	0.18	中世以降か
9	ピット	53	-	725-820	長方形		0.30	0.22	0.23	中世以降か
10	ピット	51	24	725-820	円形		0.35	0.31	0.53	中世以降か 2 榎立
11	ピット	49	24	730-825	円形		0.37	0.31	0.47	中世以降か 1・2 榎立
12	ピット	53	-	730-825	方形		0.45	0.40	0.13	中世以降か
13	ピット	53	-	720-805	方形		0.19	0.18	0.09	中世以降か
14	ピット	53	-	720-805	方形		0.24	0.23	0.11	中世以降か
15	ピット	53	-	720-805	円形		0.22	0.19	0.15	中世以降か
16	ピット	53	-	720-805	円形		0.23	0.20	0.12	中世以降か
17	ピット	53	-	715-805	円形		0.23	0.23	0.14	中世以降か
18	ピット	53	-	715-805	長方形		0.29	0.18	0.12	中世以降か
19	ピット	53	-	715-805	方形		0.22	0.19	0.23	中世以降か
20	ピット	53	-	715-805	方形		0.21	0.18	0.24	中世以降か
21	ピット	53	-	715-805	楕円形		0.26	0.21	0.25	中世以降か
22	ピット	53	-	715-805	円形		0.28	0.24	0.17	中世以降か
23	ピット	53	-	715-810	長方形		0.33	0.21	0.20	中世以降か
24	ピット	53	-	720-805	楕円形		0.27	0.24	0.13	中世以降か
25	ピット	53	-	720-810	方形		0.23	0.21	0.23	中世以降か
26	ピット	53	-	720-810	円形		0.23	0.19	0.17	中世以降か
27	ピット	53	-	720-810	方形		0.30	0.28	0.19	中世以降か
28	ピット	53	-	720-810	楕円形		0.23	0.19	0.10	中世以降か
29	ピット	53	-	720-810	円形		0.30	0.29	0.14	中世以降か
30	ピット	54	-	720-810	円形		0.23	0.21	0.08	中世以降か
31	ピット	54	-	720-810	方形		0.35	0.34	0.21	中世以降か
32	ピット	54	-	730-825	長方形		0.21	0.16	0.26	中世以降か
33	ピット	54	-	730-825	方形		0.30	0.26	0.11	中世以降か
34	ピット	54	-	750-835	不整形		0.60	0.32	0.05	中世以降か
35	ピット	54	-	750-835	方形		0.27	0.24	0.17	中世以降か
36	ピット	54	-	745-835	楕円形		0.20	0.16	0.08	中世以降か
37	ピット	54	-	745-835	楕円形		0.20	0.16	0.06	中世以降か
38	ピット	54	-	745-835	楕円形		0.21	0.16	0.11	中世以降か
39	ピット	54	-	745-835	楕円形		0.24	0.19	0.11	中世以降か
40	ピット	54	-	745-835	円形		0.19	0.18	0.17	中世以降か
41	ピット	54	-	745-835	長方形		0.28	0.21	0.14	中世以降か
42	ピット	54	-	745-835	長方形		0.31	0.23	0.11	中世以降か
43	ピット	54	-	740-835	楕円形		0.36	0.20	0.31	中世以降か
44	ピット	54	-	745-840	円形		0.24	0.22	0.15	中世以降か

## 遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
45	ピット	54	—	740-835	楕円形		0.31	0.20	0.06	中世以降か
46	ピット	54	—	740-840	楕円形		0.37	0.26	0.15	中世以降か
47	ピット	54	—	735-835	方形		0.40	0.37	0.09	中世以降か
48	ピット	54	—	745-840	不整形		0.27	0.24	0.14	中世以降か
49	ピット	54	—	745-840	円形		0.18	0.16	0.17	中世以降か
50	ピット	54	—	740-835	円形		0.19	0.16	0.18	中世以降か
51	ピット	54	—	740-840	長方形		0.23	0.18	0.16	中世以降か
52	ピット	54	—	740-840	楕円形		0.20	0.16	0.15	中世以降か
53	ピット	54	—	740-840	円形		0.21	0.18	0.12	中世以降か
54	ピット	54	—	740-840	方形		0.18	0.17	0.08	中世以降か
55	ピット	54	—	740-840	長方形		0.24	0.18	0.12	中世以降か
56	ピット	55	—	735-840	円形		0.36	0.35	0.20	中世以降か
57	ピット	55	—	735-840	円形		0.13	0.11	0.10	中世以降か
58	ピット	55	—	735-840	方形		0.16	0.14	0.20	中世以降か
59	ピット	55	—	735-840	円形		0.21	0.18	0.16	中世以降か
60	ピット	55	—	735-840	楕円形		0.31	0.25	0.17	中世以降か
61	ピット	55	—	740-840	方形		0.26	0.23	0.28	中世以降か
62	ピット	55	—	725-820	方形		0.18	0.15	0.17	中世以降か
63	ピット	55	—	725-825	楕円形		0.22	0.18	0.16	中世以降か
64	ピット	55	—	720-835	円形		0.26	0.24	0.30	中世以降か
65	ピット	55	—	725-840	円形		0.21	0.19	0.21	中世以降か
66	ピット	55	—	725-840	長方形		0.26	0.21	0.07	中世以降か
67	ピット									欠番
68	ピット									欠番
69	ピット	49	—	720-845	方形		0.53	0.45	0.15	中世か・全体図のみ
70	ピット	49	—	720-845	円形		0.32	0.28	0.07	中世か・全体図のみ
71	ピット	55	—	720-810	長方形か			0.20	0.16	中世以降か
72	ピット	55	—	720-810	楕円形		0.26	0.17	0.20	中世以降か
73	ピット	55	—	720-810	長方形		0.32	0.26	0.23	中世以降か
74	ピット	55	—	720-810	方形		0.21	0.19	0.09	中世以降か
75	ピット	55	—	720-810	楕円形		0.34	0.28	0.27	中世以降か
76	ピット	55	—	725-815	方形		0.27	0.24	0.41	中世以降か
77	ピット	55	—	720-815	長方形		0.35	0.26	0.17	中世以降か
78	ピット	55	—	720-815	楕円形		0.25	0.18	0.10	中世以降か
79	ピット	55	—	725-815	楕円形		0.20	0.16	0.14	中世以降か
80	ピット	55	—	725-815	長方形		0.19	0.14	0.08	中世以降か
81	ピット	55	—	725-815	楕円形		0.19	0.15	0.16	中世以降か
82	ピット	55	—	720-815	円形		0.33	0.30	0.34	中世以降か
83	ピット	55	—	725-815	円形		0.50	0.49	0.38	中世以降か
84	ピット	55	—	725-820	楕円形		0.29	0.21	0.20	中世以降か
85	ピット	55	—	720-820	円形		0.28	0.26	0.30	中世以降か
86	ピット	56	—	720-820	楕円形		0.31	0.26	0.15	中世以降か
87	ピット	56	—	725-820	円形		0.22	0.22	0.42	中世以降か
88	ピット	56	—	725-820	長方形		0.20	0.16	0.13	中世以降か
89	ピット	56	—	725-820	楕円形		0.23	0.19	0.09	中世以降か
90	ピット	56	—	720-810	方形		0.23	0.20	0.08	中世以降か
91	ピット	56	—	725-810	円形か		0.35	(0.35)	0.26	中世以降か
92	ピット	56	—	720-805	楕円形		0.31	0.26	0.10	中世以降か
93	ピット	56	—	725-810	円形		0.28	0.25	0.07	中世以降か
94	ピット	51	24	715-810	方形		0.30	0.27	0.42	中世以降か 3 掘立
95	ピット	51	24	725-810	楕円形		0.27	0.20	0.12	中世以降か 3 掘立
96	ピット	56	—	730-810	円形		0.22	0.22	0.06	中世以降か
97	ピット	56	—	730-815	円形		0.19	0.16	0.06	中世以降か
98	ピット	51	24	725-820	円形		0.28	0.27	0.11	中世以降か 3 掘立
99	ピット	51	24	720-820	円形		0.30	0.28	0.33	中世以降か 3 掘立
100	ピット	51	24	730-815	楕円形		0.22	0.20	0.23	中世以降か 1 掘列
101	ピット	51	24	730-815	長方形		0.34	0.25	0.23	中世以降か 1 掘列
102	ピット	51	24	730-820	楕円形		0.32	0.29	0.16	中世以降か 1 掘列
103	ピット	56	—	730-820	円形		0.25	0.23	0.27	中世以降か
104	ピット	56	—	730-820	長方形		0.33	0.26	0.21	中世以降か
105	ピット	56	—	730-820	円形		0.18	0.17	0.16	中世以降か
106	ピット	56	—	730-820	楕円形		0.27	0.24	0.17	中世以降か
107	ピット	56	—	730-820	楕円形		0.30	0.25	0.40	中世以降か
108	ピット	56	—	730-820	円形		0.23	0.22	0.36	中世以降か

第3章 調査された遺構と遺物

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
109	ピット	56	-	730-820	円形		0.17	0.14	0.14	中世以降か
110	ピット	51	24	740-805	楕円形		0.35	0.25	0.37	中世以降か 2掘立
111	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.27	0.18	0.10	中世以降か
112	ピット	51	24	730-820	楕円形		0.34	0.31	0.39	中世以降か 1掘立
113	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.21	0.18	0.04	中世以降か
114	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.16	0.12	0.08	中世以降か
115	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.25	0.19	0.16	中世以降か
116	ピット	56	-	725-820	円形		0.22	0.19	0.20	中世以降か
117	ピット	49	24	725-810	楕円形		0.50	0.32	0.29	中世以降か 1掘立
118	ピット	56	-	730-820	方形		0.23	0.22	0.14	中世以降か
119	ピット	51	24	725-815	円形		0.26	0.21	0.46	中世以降か 2掘立
120	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.24	0.19	0.10	中世以降か
121	ピット	49	24	725-820	長方形か		0.35	0.22	0.32	中世以降か 1掘立
122	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.31	0.27	0.25	中世以降か
123	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.37	0.32	0.30	中世以降か
124	ピット	51	24	740-815	円形		0.28	0.24	0.26	中世以降か 2掘立
125	ピット	49	24	740-815	円形		0.30	0.26	0.25	中世以降か 1掘立
126	ピット	51	24	730-820	円形		0.30	0.30	0.34	中世以降か 1掘立
127	ピット	49	24	740-820	円形		0.29	0.26	0.20	中世以降か 1掘立
128	ピット	51	24	740-820	円形		0.25	0.22	0.41	中世以降か 2掘立
129	ピット	51	24	740-820	長方形		0.28	0.21	0.36	中世以降か 2掘立
130	ピット	49	24	730-825	不整形		0.53	0.35	0.40	中世以降か 1掘立
131	ピット	56	-	730-825	円形か		0.42	(0.28)	0.10	中世以降か
132	ピット	51	24	730-825	楕円形		0.35	0.29	0.30	中世以降か 1掘立
133	ピット	56	-	735-825	円形		0.28	0.25	0.08	中世以降か
134	ピット	56	-	720-840	円形		0.38	0.33	0.38	中世以降か
135	ピット	51	24	730-820	円形		0.36	0.34	0.25	中世以降か 1掘立
136	ピット	51	24	730-825	不整形		0.53	0.35	0.49	中世以降か 2掘立
137	ピット	56	-	730-820	楕円形		0.25	0.20	0.23	中世以降か
138	ピット	59	-	730-815	楕円形		0.34	0.16	0.18	古墳
139	ピット	59	-	710-810	楕円形		0.21	0.15	0.10	古墳
140	ピット	59	-	710-810	長方形		0.23	0.17	0.06	古墳
141	ピット	59	-	705-810	円形か		(0.47)	0.39	0.14	古墳
142	ピット									欠番
143	ピット	59	-	710-810	長方形		0.34	0.23	0.19	古墳
144	ピット	49	24	730-825	不整形		0.56	0.33	0.17	中世以降か 1掘立
1	溝	57	25	730-805 ~ 730-815			7.50	0.50 ~ 0.70	0.07 ~ 0.12	中世以降か
2	溝	57	25	730-825 ~ 730-820			3.90	0.25 ~ 0.40	0.02 ~ 0.11	中世以降か
3	溝	57	25	730-820 ~ 710-830			30.00	0.30 ~ 1.00	0.01 ~ 0.25	中世以降か
4	溝	57	26	720-810 ~ 715-815			8.00	0.45 ~ 0.60	0.03 ~ 0.10	中世以降か
5	溝	57	26	710-825 ~ 705-830			6.50	0.20 ~ 0.45	0.02 ~ 0.08	中世以降か
6	溝	57	26	710-825			1.40	0.20 ~ 0.40	0.03 ~ 0.05	中世以降か
7	溝	57	26	715-830 ~ 705-835			11.50	0.25 ~ 0.40	0.02 ~ 0.06	中世以降か
8	溝	57	26	730-815 ~ 720-820			14.00	0.90 ~ 2.30	0.06 ~ 0.10	中世以降か
9	溝	58	26	730-805 ~ 715-815			15.60	1.30 ~ 1.60	0.01 ~ 0.09	中世以降か
10	溝	58	26	730-805 ~ 715-810			14.50	0.80 ~ 1.70	0.06 ~ 0.20	中世
11	溝	58	26	715-830 ~ 710-820			11.80	0.20 ~ 0.40	0.02 ~ 0.07	中世以降か
12	溝	59	27	720-815 ~ 700-820			19.50	0.15 ~ 0.80	0.02 ~ 0.18	古墳か
13	溝	59	27	715-815 ~ 700-820			16.00	0.30 ~ 1.50	0.03 ~ 0.07	古墳か
14	溝	60	27	720-830 ~ 700-825			17.70	0.20 ~ 0.50	0.02 ~ 0.11	古墳か
15	溝	60	27	725-840 ~ 710-845			16.70	0.25 ~ 0.60	0.03 ~ 0.21	古墳か
16	溝	60	27	735-835 ~ 725-845			18.00	0.25 ~ 0.70	0.03 ~ 0.08	古墳か
17	溝	60	27	705-815 ~ 700-815			4.70	0.50 ~ 1.10	0.04 ~ 0.10	古墳か
18	溝	60	27	725-815 ~ 720-810			8.70	0.25 ~ 0.40	0.01 ~ 0.10	古墳か
19	溝									欠番
20	溝	59	27	715-820 ~ 710-820			3.10	0.20 ~ 0.50	0.03 ~ 0.05	古墳か
21	溝	60	27	720-810 ~ 705-815			12.00	0.30 ~ 0.75	0.03 ~ 0.12	古墳か
22	溝									欠番
23	溝	58	28	750-820 ~ 745-820			4.60	0.65 ~ 1.10	0.07 ~ 0.12	近世以降
24	溝	58	28	740-805			1.00	0.45 ~ 0.50	0.02 ~ 0.04	中世以降
25	溝	58	28	740-800			3.90	0.35 ~ 0.50	0.04 ~ 0.12	中世以降
26	溝	60	28	755-830 ~ 745-825			7.00	0.50 ~ 4.30	0.05 ~ 0.16	古墳か

## 遺構一覧表

16区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
1	ピット	61	—	695-735	長方形		0.53	0.34	0.18	中世以降
2	ピット	61	—	695-735	方形		0.55	0.48	0.12	中世以降
3	ピット	61	—	690-735	円形		0.19	0.18	0.05	中世以降
4	ピット	61	—	690-735	楕円形		0.37	0.15	0.10	中世以降
5	ピット	61	—	690-735	楕円形		0.34	0.18	0.09	中世以降
6	ピット	61	—	705-740	不整形		0.70	0.40	0.14	中世以降
7	ピット	61	—	705-740	方形		0.22	0.18	0.06	中世以降
8	ピット	61	—	705-735	長方形		0.57	0.37	0.19	中世以降
9	ピット	61	—	700-735	長方形		0.24	0.16		中世以降
10	ピット	61	—	710-735	不整形		0.62	0.19	0.13	中世以降
11	ピット	61	—	710-740	方形		0.37	0.30	0.08	
12	ピット	61	—	705-750	長方形		0.50	0.43	0.10	中世以降
13	ピット	61	—	725-785	楕円形		0.39	0.29	0.08	中世以降
14	ピット	61	—	685-690	長方形		0.38	0.30	0.13	中世以降
15	ピット	61	—	705-755	方形		0.32	0.31	0.18	中世以降
16	ピット	61	—	710-735	長方形		0.41	0.26	0.14	中世以降
17	ピット	67	—	710-770	楕円形		0.43	0.37	0.16	古墳以降・全体図のみ
18	ピット	67	—	700-775	楕円形		0.45	0.37	0.14	古墳以降・全体図のみ
19	ピット	67	—	700-770	楕円形		0.40	0.32	0.07	古墳以降・全体図のみ
20	ピット									欠番
21	ピット	67	—	680-750	円形		0.23	0.20	0.18	古墳以降・全体図のみ
22	ピット	67	—	680-750	円形		0.24	0.21	0.18	古墳以降・全体図のみ
23	ピット	67	—	710-780	楕円形		0.30	0.26	0.03	古墳以降・全体図のみ
24	ピット	68	—	715-780	方形		0.38	0.34	0.27	縄紋か
25	ピット	68	—	715-780	円形		0.30	0.25	0.13	縄紋か
26	ピット	68	—	715-780	円形		0.20	0.19	0.14	縄紋か
27	ピット	68	—	715-780	楕円形		0.29	0.23	0.25	縄紋か
28	ピット	67	—	705-770	方形		0.23	0.18	0.13	縄紋か・全体図のみ
1	溝	62	28	725-785 ~ 690-785			38.10	0.23 ~ 0.45	0.03 ~ 0.14	中世以降
2	溝	62	28	715-785 ~ 690-785			31.00	0.25 ~ 0.72	0.03 ~ 0.16	中世以降
3	溝	62	28	715-780 ~ 710-780			6.70	0.23 ~ 0.48	0.02 ~ 0.22	中世以降
4	溝	62	28	680-775 ~ 730-775			51.50	0.15 ~ 0.50	0.02 ~ 0.07	中世以降
5	溝	62	29	695-775 ~ 710-750			36.80	0.20 ~ 0.65	0.04 ~ 0.08	中世以降
6	溝	62	29	695-770 ~ 685-770			12.50	0.20 ~ 0.50	0.06 ~ 0.09	中世以降
7	溝	62	29	720-770 ~ 675-770			56.00	0.20 ~ 0.90	0.02 ~ 0.27	中世以降
8	溝	62	29	710-765 ~ 670-765			38.40	0.20 ~ 0.45	0.03 ~ 0.29	中世以降
9	溝	63	29	715-735 ~ 685-740			27.80	0.10 ~ 0.70	0.05 ~ 0.18	中世以降
10	溝	63	29	715-735 ~ 675-745			37.30	0.30 ~ 0.80	0.18 ~ 0.24	中世以降
11	溝	63	29	715-735 ~ 690-740			24.70	0.10 ~ 0.50	0.11 ~ 0.23	中世以降
12	溝	63	29	715-735 ~ 675-740			37.00	0.20 ~ 0.45	0.11 ~ 0.23	中世以降
13	溝	62	29	710-770 ~ 705-770			5.55	0.15 ~ 0.30	0.03 ~ 0.07	中世以降
14	溝	62	29	730-770 ~ 705-765			24.80	0.15 ~ 0.45	0.02 ~ 0.23	中世以降
15	溝	62	30	710-765 ~ 705-765			4.60	0.20 ~ 0.40	0.05 ~ 0.08	中世以降
16	溝	62	30	730-785 ~ 725-785			5.30	0.20 ~ 0.60	0.03 ~ 0.06	中世以降
17	溝	63	30	720-745 ~ 700-740			19.80	0.20 ~ 0.50	0.02 ~ 0.09	中世以降
18	溝	69	32	720-775 ~ 700-760			15.70	0.10 ~ 0.50	0.01 ~ 0.08	古墳以降
19	溝	69	32	735-770 ~ 705-760			24.00	0.26 ~ 0.60	0.08 ~ 0.20	古墳以降
20	溝	69	32	735-770 ~ 705-770			27.70	0.24 ~ 0.74	0.03 ~ 0.12	古墳以降
21	溝	69	32	710-765 ~ 705-760			4.30	0.30 ~ 0.50	0.03 ~ 0.11	古墳以降
22	溝	69	32	725-775 ~ 725-770			3.30	0.50 ~ 0.80	0.02 ~ 0.04	古墳以降
23	溝	69	33	725-775 ~ 730-775			3.50	0.20 ~ 0.50	0.02 ~ 0.04	古墳以降
24	溝	69	33	705-770 ~ 700-770			3.80	0.30 ~ 0.36	0.03 ~ 0.05	古墳以降
25	溝	69	33	735-780 ~ 725-775			32.40	0.13 ~ 1.20	0.02 ~ 0.13	古墳以降
26	溝	69	33	730-770 ~ 725-775			5.50	0.18 ~ 0.40	0.04 ~ 0.08	古墳以降
27	溝	69	33	730-765 ~ 725-770			3.30	0.40 ~ 0.53	0.02 ~ 0.06	古墳以降
28	溝	69	—	720-775 ~ 715-775			1.00	0.14 ~ 0.18	0.03	古墳以降
29	溝	69	—	720-775 ~ 715-780			1.90	0.30 ~ 0.40	0.04 ~ 0.05	古墳以降
1	土坑	57	31	705-710	楕円形	N 49°-E	1.19	0.60	0.08	古墳以降
2	土坑	57	31	720-775	楕円形	N 51°-W	1.80	0.55	0.05	古墳以降
3	土坑	57	31	700-770	長方形	N 21°-W	1.76	1.41	0.29	古墳以降
4	土坑	68	31	715-780	楕円形	N 72°-W	0.63	0.48	0.14	縄紋か
5	土坑	68	31	715-780	不整形	N 72°-E	1.03	0.64	0.15	縄紋か
6	土坑	68	31	715-780	円形	N 56°-W	0.69	0.60	0.15	縄紋か

### 第3章 調査された遺構と遺物

No.	遺構種類	図	PI	位置	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	時期・備考
7	土坑	68	31	715-780	方形	N74°W	0.71	0.65	0.33	縄紋か
8	土坑	68	31	715-780	円形	N62°W	0.64	0.54	0.10	縄紋か

#### 17区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	グリッド	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
1	ピット	71	-	700-710	不整形	-	0.95	0.65	0.16	中近世か・全体図のみ
2	ピット	71	-	665-725	長方形	-	0.54	0.43	0.10	中近世か・全体図のみ
3	ピット	71	-	690-710	長方形	-	0.54	0.29	0.15	中近世か・全体図のみ
4	ピット	71	-	685-715	円形	-	0.45	0.43	-	中近世か・全体図のみ
1	溝	71	33	675-685 ~ 660-690	-	-	15.30	0.25 ~ 0.50	0.04	中近世か
2	溝	71	33	700-705 ~ 675-680	-	-	37.80	0.55 ~ 1.80	0.21	中近世か
3	溝	71	33	665-695 ~ 665-690	-	-	10.00	0.28 ~ 0.50	0.04	中近世か
4	溝	71	34	680-690 ~ 670-695	-	-	11.20	0.40 ~ 0.60	0.05	中近世か
5	溝	71	34	680-700 ~ 660-700	-	-	(18.90)	0.35 ~ 0.80	0.10	中近世か
6	溝	71	34	670-725 ~ 665-715	-	-	9.10	0.25 ~ 0.55	0.09	中近世か
7	溝	71	34	690-710 ~ 680-715	-	-	10.20	0.18 ~ 1.30	0.06	中近世か
8	溝	71	34	690-710 ~ 685-705	-	-	5.70	0.25 ~ 0.45	0.05	中近世か
9	溝	71	34	690-715 ~ 690-710	-	-	(2.50)	0.40 ~ 0.60	0.08	中近世か
10	溝	71	34	700-715 ~ 690-710	-	-	9.00	0.40 ~ 0.70	0.03	中近世か
11	溝	71	34	690-700 ~ 680-680	-	-	33.00	0.50 ~ 1.30	-	中近世か
12	溝	71	35	700-710 ~ 690-710	-	-	7.60	0.20 ~ 0.50	-	中近世か
13	溝	71	35	710-720 ~ 680-720	-	-	18.30	0.30 ~ 0.50	-	中近世か
14	溝	71	35	680-720 ~ 680-710	-	-	(16.50)	0.15 ~ 0.70	-	中近世か
15	溝	71	35	680-710 ~ 670-700	-	-	7.60	0.40 ~ 0.70	-	中近世か
16	溝	71	35	710-720 ~ 700-720	-	-	3.30	0.30 ~ 0.60	-	中近世か
17	溝	71	35	670-670 ~ 660-690	-	-	3.70	0.20 ~ 0.40	-	中近世か
18	溝	71	35	715-775 ~ 670-740	-	-	(13.00)	0.10 ~ 0.20	-	中近世か
19	溝	74	35	665-680 ~ 660-700	-	-	16.20	0.32 ~ 1.10	0.14 ~ 0.29	古墳以降
20	溝	74	36	660-690	-	-	2.40	0.75 ~ 0.80	0.14 ~ 0.25	古墳以降
21	溝	74	36	675-715 ~ 660-705	-	-	15.00	2.20 ~ 9.90	-	古墳以降
22	溝	74	36	700-715 ~ 695-715	-	-	6.70	0.30 ~ 2.00	0.07 ~ 0.24	古墳以降
23	溝	74	36	700-715 ~ 685-715	-	-	7.65	0.30 ~ 1.10	0.05 ~ 0.24	古墳以降
24	溝	74	36	695-720 ~ 685-715	-	-	8.10	0.40 ~ 0.65	0.10 ~ 0.17	古墳以降
25	溝	74	36	705-720 ~ 675-710	-	-	35.40	1.80 ~ 2.10	0.22 ~ 0.40	古墳以降
26	溝	74	36	690-715 ~ 675-715	-	-	17.80	0.70 ~ 2.00	0.33 ~ 0.40	古墳以降
27	溝	74	36	685-720	-	-	3.60	0.40 ~ 1.10	0.10 ~ 0.16	古墳以降
28	溝	74	37	695-715 ~ 675-710	-	-	20.80	0.20 ~ 0.92	0.03 ~ 0.10	古墳以降
29	溝	74	37	675-720 ~ 675-715	-	-	5.65	0.50 ~ 1.40	0.07 ~ 0.33	古墳以降
30	溝	74	37	675-720	-	-	1.80	0.40 ~ 0.45	0.07 ~ 0.15	古墳以降
31	溝	74	37	680-690 ~ 670-685	-	-	8.10	0.27 ~ 0.42	0.05 ~ 0.07	古墳以降
32	溝	74	37	680-690 ~ 675-690	-	-	6.80	0.15 ~ 0.40	0.02 ~ 0.06	古墳以降
33	溝	74	37	670-685-665-685	-	-	6.10	0.28 ~ 0.83	0.04 ~ 0.12	古墳以降
34	溝	74	37	675-700 ~ 660-700	-	-	14.20	0.25 ~ 0.60	0.03 ~ 0.18	古墳以降

#### 18区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	グリッド	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
1	溝	72	37	660-655 ~ 650-650	-	-	10.68	0.24 ~ 1.00	0.04	中近世か
2	溝	72	37	660-655 ~ 655-655	-	-	5.50	0.30 ~ 0.50	0.02	中近世か
3	溝	72	37	655-635 ~ 650-630	-	-	8.04	0.10 ~ 0.34	-	中近世か・全体図のみ
4	溝	72	38	670-665 ~ 660-655	-	-	16.40	0.28 ~ 1.50	-	中近世か・全体図のみ
5	溝	72	38	660-655	-	-	(1.94)	0.10 ~ 0.20	-	中近世か・全体図のみ
6	溝	72	38	675-665 ~ 670-650	-	-	14.50	0.38 ~ 0.50	-	中近世か・全体図のみ
1	ピット	72	-	660-665	方形	-	0.64	0.58	0.09	中近世か・全体図のみ
2	ピット	72	-	650-655	長方形	-	0.67	0.28	-	中近世か・全体図のみ

#### 19区遺構一覧表

No.	遺構種類	図	PI	グリッド	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	
1	溝	76	-	645-615 ~ 650-615	-	-	4.90	0.80 ~ 1.20	0.08 ~ 0.13	中世以降

## 遺物観察表

No.	図	PL	器種	残存	出土位置	口径	底径	器高	①胎土②焼成③色調	成形の特徴等
1	77	39	土師器 高环	脚部	1区2面	—	12.6	2.5	①粗砂 ②酸化塩 ③にぶい黄橙	内外面ともに基部横撫で。
2	77	39	土師器 高环	环へ脚部	3区1住	17.1	23.0	13.2	①黒色粒 ②酸化塩 ③橙	外面：环部ハケ目、脚部へら磨き、基部横撫で。 内面：脚へ基部ハケ目、基部横撫で。
3	77	39	土師器 甕	口へ脚部	3区1住	16.4	—	16.0	①粗砂 ②酸化塩 ③にぶい橙	外面：口縁部輪積み直上に指頭痕、脚部へら磨き。 内面：口縁へ脚部へら磨き。
4	77	39	土師器 甕	口へ脚部	3区1住	14.5	—	10.9	①粗砂 ②酸化塩 ③にぶい黄橙	外面：口縁部輪積み直上に単部 RL 塊状、脚部にも同様の塊状。内面：荒れが著しい。
5	77	39	土師器 甕	胴へ底部	3区1住	—	6.4	6.1	①粗砂 ②酸化塩 ③灰濁	外面：脚部へら磨き。 内面：脚部へら磨き。
6	77	39	土師器 甕	胴へ底部	3区1住	—	7.0	6.7	①白色粒 ②酸化塩 ③灰濁	外面：脚部へら磨き。 内面：撫で。
7	77	39	土師器 甕	胴へ底部	3区1住	—	7.0	9.8	①黒色粒 ②酸化塩 ③灰黄濁	外面：脚部へら磨り後、へら磨き、底部へら磨り。 内面：撫で。
8	77	39	須恵器 埴	体へ底部	3区2面	—	13.2	6.4	①粗砂 ②還元塩 ③灰	ロクロ整形。底部左回転糸切り後、付け高台。
9	77	39	土師器 甕	1/3	4区1住	12.5	6.4	26.8	①粗砂 ②酸化塩 ③にぶい橙	外面：口縁部荒れが著しい、胴部へら磨き。 内面：口縁部へら磨き、脚部荒れ。
10	77	39	須恵器 环	1/3	4区4溝	15.0	8.0	3.4	①粗砂 ②還元塩 ③灰	ロクロ整形。底部左回転へら切り後周辺部へら磨り。
11	77	39	土師器 高环	脚部	4区4溝	—	—	8.8	①粗砂 ②酸化塩 ③橙	外面：荒れが著しいが、へら撫でか。 内面：へら撫で。
12	77	39	須恵器 环	1/2	4区6溝	12.0	7.2	3.6	①白色粒 ②還元塩 ③灰	ロクロ整形。底部右回転糸切り後へら磨り。
13	77	39	須恵器 环	体へ底部	9区2溝	—	5.8	2.8	①白色粒 ②還元塩 ③灰	ロクロ整形。左回転糸切り後、周縁部へら磨り。
14	77	39	土師器 甕	口縁部片	11区2面	19.8	—	5.6	①粗砂 ②酸化塩 ③浅黄橙	内外面ともに荒れが著しいが、頸部へら磨きか。
15	78	39	土師器 甕	ほぼ完形	12区2面	10.9	2.0	8.8	①黒色粒 ②酸化塩 ③橙	外面：口縁部横撫で、胴部へら磨り後へら磨き。 内面：口縁部横撫で、胴部へら撫で後へら磨き。
16	78	39	土師器 甕	口縁部片	12区2面	13.2	—	4.9	①粗砂多 ②酸化塩 ③にぶい橙	外面：口縁部横撫で、へら磨き。 内面：撫で後へら磨き。17と同一個体。
17	78	39	土師器 甕	底部	12区2面	—	—	5.6	①粗砂多 ②酸化塩 ③橙	内外面とも荒れが著しい。16と同一個体。
18	78	39	円筒 埴輪	胴部片	15区表採	—	—	10.0	①黒色粒 ②酸化塩 ③橙	外面：タテハケ。 内面：オナメハケ。透穴は楕円形か。
19	78	40	土師器 环	底部片	15区表採	—	—	3.3	①黒色粒 ②酸化塩 ③にぶい赤橙	外面：口縁部横撫で、体へ底部へら磨りか。内外面ともに荒れが著しい。木葉形环か。
20	78	40	須恵器 甕	底部片	15区1土	—	11.0	3.1	①粗砂 ②還元塩 ③黄灰	ロクロ整形。底部周縁へら磨り。
21	78	40	須恵器 甕	口縁部片	15区4土	27.0	—	6.7	①粗砂 ②還元塩 ③灰白	ロクロ整形。
22	78	40	円筒 埴輪	胴部片	15区4土	—	—	—	①粗砂 ②酸化塩 ③橙	外面：タテハケ。 内面：オナメハケ。
23	78	40	須恵器 甕	口縁部片	15区3溝	—	—	—	①白色粒 ②還元塩 ③黒	ロクロ整形。
24	78	40	円筒 埴輪	胴へ底部片	15区3溝	—	17.9	17.0	①白色粒 ②酸化塩 ③橙	外面：タテハケ。 内面：タテナデ。
25	78	40	円筒 埴輪	底部片	15区3溝	—	—	—	①白色粒 ②酸化塩 ③橙	外面：タテハケ。 内面：タテナデ。
26	78	40	須恵器 环	1/5	16区3面	11.8	7.0	3.4	①白色粒 ②還元塩 ③灰白	ロクロ整形。
27	78	40	土師器 甕	底部	17区25溝	—	9.0	3.4	①白色粒 ②酸化塩 ③にぶい橙	外面：底部へら磨り。内外面とも荒れが著しい。



第3章 調査された遺構と遺物

番号	区	PI	器種	出土位置	①胎土②着色③色調	紋様の特徴等	備考
1区	79	40	深鉢 口縁部	935-475	①粗粒、繊維 ②良好 ③明黄	尖頭状の口唇部形状を呈す。口縁下に内形刺突を施し、波状紋や斜位の沈線を施す。口縁内側にキズミを付す。	田戸上層式併行 (道徳森2類)
2	79	40	深鉢 胴部	935-475	①細粒、白色粒、繊維 ②ふつう ③粗	刻みを付した隆帯を横位にめぐらす。部分的に条痕調整。器面の凹凸顯著。	茅山上層式
3	79	40	深鉢 口縁部	包含層	①細粒、白色粒、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	内側ぎの口唇部形状を呈す。内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
4	79	40	深鉢 口縁部	935-470	①粗粒、繊維 ②ふつう ③明黄	小波状口縁。内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
5	79	40	深鉢 口縁部	935-475	①細粒多、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
6	79	40	深鉢 胴部	930-455	①細粒、白色粒、繊維 ②ふつう ③粗	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
7	79	40	深鉢 胴部	935-475	①細粒、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
8	79	40	深鉢 胴部	包含層	①中・細粒、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
9	79	40	深鉢 胴部	930-460	①細粒、片岩、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
10	79	40	深鉢 胴部	包含層	①細粒、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
11	79	40	深鉢 胴部	包含層	①中・細粒、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
12	79	40	深鉢 胴部	包含層	①細粒、白色粒、繊維 ②ふつう ③粗	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
13	79	40	深鉢 底部	包含層	①細粒、片岩、繊維 ②ふつう ③にぶい黄	平底の底部破片。外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
14	79	40	深鉢 口縁部	包含層	①粗粒、繊維 ②ふつう ③灰濁	単節L R 繩紋を横位施紋する。口唇部にも施紋。	早期後半
15	79	40	深鉢 口縁部	935-475	①粗粒、繊維 ②ふつう ③粗	小突起を付す波状口縁。口縁部にコンバス紋を横位に施し、以下、単節L R、R L 繩紋を施す。内面研磨。	黒沢式
16	79	40	深鉢 胴部	包含層	①粗粒、白色粒 ②良好 ③粗	地紋に単節L R 繩紋を施し、横位帯状に集合沈線を施す。	諾儀b式
17	79	40	深鉢 口縁部	935-475	①粗粒 ②ふつう ③粗	口縁下に横位沈線を施す。	称名寺Ⅱ式
2区	80	40	深鉢 胴部	930-515	①細粒、片岩 ②良好 ③にぶい赤濁	山形押型紋を縦位帯状施紋する。	早期前半押型紋系
2	80	40	深鉢 胴部	915-475	①粗粒 ②良好 ③粗	山形押型紋を縦位帯状施紋する。	早期前半押型紋系
3	80	40	深鉢 胴部	905-485	①細粒 ②ふつう ③明黄	楕円押型紋を横位施紋する。無紋帯を残すが、No 5 では密接施紋する部分も見られる。No 4、5 と同一個体。	早期前半押型紋系
4	80	40	深鉢 胴部	930-510		No 3、5 と同一個体。	早期前半押型紋系
5	80	40	深鉢 胴部	930-510		No 3、4 と同一個体。	早期前半押型紋系
6	80	40	深鉢 口縁部	930-510	①粗粒 ②良好 ③にぶい赤濁	縦位に太沈線を施し、沈線間にハイガイと思われる貝殻片任意を充填施紋する。No 7 と同一個体。	田戸下層式
7	80	40	深鉢 胴部	935-515		No 6 と同一個体。	田戸下層式
8	80	41	深鉢 胴部	905-485	①粗粒多 ②ふつう ③粗	横位、斜位に沈線を施し、沈線間に貝殻片緑紋、C字状刺突を施す。No 9 と同一個体。	田戸下層式
9	80	41	深鉢 胴部	930-510		No 8 と同一個体。同様の紋様構成であるが、上位に縦位区画の刺突列が見られ、区画内に貝殻片緑紋を充填施紋する。	田戸下層式
10	80	41	深鉢 胴部	930-505	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙	太沈線を横位多段に施す。沈線は周回させず、間隔空けてめぐらせる。内面研磨。	田戸下層式
11	80	41	深鉢 胴部	925-520	①細粒、白色粒 ②ふつう ③にぶい橙	No 10 と同様の構成。	田戸下層式
12	80	41	深鉢 胴部	12号溝	①粗粒、白色粒、石英 ②良好 ③明赤濁	No 10 と同様の構成。	田戸下層式
13	80	41	深鉢 胴部	930-510	①粗粒 ②良好 ③にぶい濁	底部に近い部位、横位に沈線を施す。	田戸下層式
14	80	41	深鉢 胴部	930-505	①細粒、石英 ②ふつう ③明黄濁	縦位沈線を密接施紋する。短い沈線を間隔空けて重ねており、No 10 を縦にした構成となる。	田戸下層式

遺物観察表

番号	図	PL	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
15	80	41	深鉢 底部	935-510	①粗砂 ②良好 ③橙	無紋。やや鈍角な尖底になると思われる。	戸田上層式?
16	80	41	深鉢 口縁部	930-510	①粗砂、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	内削ぎの口唇部形状を呈す。沈線により区画し、区画内に波状の沈線を充填施装する。区画線上に部分的に竹管刺突を施す。口縁外端に刻みを付す。	鶴ヶ島台式
17	80	41	深鉢 口縁部	930-500	①細砂、繊維 ②ふつう ③にぶい赤橙	口縁部に波状の刺突列をめぐらせ、口唇部に条痕のような刻みを付す。内面条痕。	茶山層式
18	80	41	深鉢 口縁部	920-475	①粗砂、繊維 ②ふつう ③灰黄橙	絡糸体圧痕を横位にめぐらす。内面条痕。	早期後半条痕紋系
19	80	41	深鉢 胴部	1号溝	①粗砂、繊維 ②ふつう ③明赤橙	緩く外反する器形。斜格子目状に器系紋を施す。No.20、21と同一個体。	早期後半?
20	80	41	深鉢 胴部	900-475	②ふつう	No.19、21と同一個体。内湾する器形。	早期後半?
21	80	41	深鉢 胴部	900-475	②ふつう	No.19、20と同一個体。	早期後半?
22	80	41	深鉢 口縁部	915-485	①細砂、繊維 ②ふつう ③にぶい赤橙	内面に条痕を施す。口唇部に斜位の刻みを付す。補修孔が穿たれる。	早期後半
23	80	41	深鉢 胴部	930-510	①中・繊維多、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
24	81	41	深鉢 口縁部	935-510	①細砂、繊維 ②ふつう ③橙	内削ぎの口唇部形状を呈す。内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
25	81	41	深鉢 胴部	925-495	①中・粗砂、粗砂、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施すが、施設具は貝殻ではなく、柳筒状工具を用いている。	早期後半条痕紋系
26	81	41	深鉢 胴部	930-515	①中・繊維、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
27	81	41	深鉢 胴部	900-475	①中・繊維、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
28	81	41	深鉢 胴部	930-505	①細砂、繊維 ②ふつう ③橙	底部に近い部位。内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
29	81	41	深鉢 胴部	930-515	①中・繊維多、繊維 ②ふつう ③橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
30	81	41	深鉢 口縁部	930-505	①粗砂、繊維 ②ふつう ③黒橙	無筋 R1 縄紋を横位施装する。口縁内面研磨。No.31 と同一個体。	黒浜式
31	81	41	深鉢 胴部	930-505		No.30 と同一個体。	黒浜式
32	81	41	深鉢 胴部	包含層	①粗砂 ②ふつう ③褐色	斜位に刻みを付した浮線を 3 条横位に貼付する。	諾議 b 式
33	81	41	深鉢 胴部	935-515	①細砂多 ②良好 ③橙	単節 R1 縄紋を地紋とし、刻みを付した浮線を横位に貼付する。	諾議 b 式
34	81	41	深鉢 口縁部	包含層	①細砂、白色粒 ②ふつう ③にぶい黄橙	口縁がくの字状に内折する器形。単節 R1 縄紋を地紋とし、集合沈線による横帯構成をとる。	諾議 b 式
35	81	41	深鉢 胴部	920-495	①粗砂、白色粒 ②ふつう ③にぶい褐	単節 R1 縄紋を地紋とし、平行沈線による箱円状モチーフを複数描く。破片上端の新離痕から内折した痕跡が見られることから、内折する波状口縁の波頂部との部位と思われる。	諾議 b 式
36	81	42	深鉢 底部	920-495	①粗砂、白色粒 ②ふつう ③にぶい橙	波状口縁で、口縁が内折する器形。単節 R1 縄紋を地紋とし、沈線による幾何学モチーフ、沈線上に凹形刺突を施す。	諾議 b 式?
37	82	42	深鉢 胴部	915-485	①粗砂、白色粒 ②ふつう ③にぶい黄橙	集合沈線による横帯構成。沈線間に幾何学モチーフを描く。	諾議 b 式
38	82	42	深鉢 口縁部	925-500	①粗砂、白色粒 ②ふつう ③にぶい黄橙	波状口縁。波頂部を四角く折り取ることによって、小突起が左右対称に配される口縁部形状を作出する。口縁に沿って斜位に集合沈線を施す。波頂部に貼付紋を貼付。小突起間の口唇部に刻みを付す。	諾議 b～c 式
39	82	42	深鉢 胴部	920-500		No.37 と同一個体と思われる。横位集合沈線を施し、波頂部下の三角形区画内に弧状集合沈線を施す。	諾議 b～c 式
40	82	42	深鉢 口縁部	905-475	①細砂 ②ふつう ③にぶい褐	縦いキリバー状器形。口縁下に横位集合沈線を施し、以下、縦位展開するモチーフを描く。口縁に刻みを付す。	諾議 c 式
41	82	42	深鉢 口縁部	925-520	①粗砂 ②ふつう ③にぶい褐	緩く外反する器形。口縁下に横位集合沈線を施し、以下、縦位展開するモチーフを描く。紋様の転換点にボタン状貼付紋を貼付。口縁に刻みを付す。	諾議 c 式
42	82	42	深鉢 胴部	925-520	①細砂 ②ふつう ③にぶい褐	縦位区画、レンズ状集合沈線を施す。	諾議 c 式

### 第3章 調査された遺構と遺物

番号	区	PL	部種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
43	82	42	深鉢 底部	925-505	①細線、白色粒 ②ふつう ③にぶい黄橙	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L縄紋を施す。	諸磯b式
44	82	42	深鉢 底部	925-520	①細線、白色粒 ②ふつう ③にぶい橙	底部が張り出す器形で、推定底径8.4cm。横位集合沈線を施す。	諸磯b～c式
45	82	42	深鉢 底部	930-510	①細線、白色粒 ②ふつう ③にぶい黄橙	推定底径7.5cm。無紋。	前期後半
46	82	42	浅鉢 胴部	包含層	①粗砂、白色粒多 ②ふつう ③にぶい赤褐色	胴部下の部位。段を有する。	前期後半
47	82	42	深鉢 胴部	930-515	①細線、白色粒 ②ふつう ③浅黄橙	平截竹管による平行沈線を施す横帯の紋様帯をもつ。刺突列により区画されるようだ。	浮島式
48	82	42	深鉢 口縁部	南西大溝	①粗砂、白色粒 ②ふつう ③橙	波状口縁で広く外反する器形。口縁下に縦位短沈線帯を設け、変形爪形紋、刺突を施す。内面研磨。	浮島・興津系
49	82	42	深鉢 口縁部	930-505	①粗砂 ②ふつう ③にぶい橙	口縁下に縦位短沈線帯を設け、以下、竹管による刺突を多段に施す。刺突列は幅広と幅狭の2種類の竹管を用い、幅狭の内皮、幅広の外皮を交互に押接する。内面研磨。	浮島・興津系
50	82	42	深鉢 胴部	930-515	①粗砂 ②ふつう ③にぶい褐色	紋様帯を区画すると思われる刺突列、その下にロッキングを施す。	浮島・興津系
51	82	42	深鉢 口縁部	930-515	①粗砂 ②ふつう ③にぶい橙	斜位のロッキングを施す。	浮島・興津系
52	82	42	深鉢 口縁部	935-510	①細線多 ②ふつう ③にぶい黄橙	口縁が内湾する器形。単節R L縄紋を横位施す。	前期後半
53	82	42	深鉢 胴部	905-490	①細線多、金雲母 ②ふつう ③にぶい橙	縦位帯状に結節縄紋を施す。	五面ヶ台式
54	82	42	深鉢 胴部	920-480	①細線多、石英 ②良好 ③にぶい橙	広く外反する器形。単節L R縄紋を地紋とし、横位に沈線を施す。	加賀利E式
55	82	42	深鉢 胴部	930-505	①粗砂 ②ふつう ③にぶい橙	太沈線によるモチーフ、8の字付紋を施す。	魁之内I式
56	82	42	注口 注口部	表土	①細線多 ②ふつう ③橙	注口土器の注口の部位。	後期
3区 1	83	42	深鉢 口縁部	1号土坑	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	口縁が広く外反する器形。複数条の沈線をめぐらせて幅狭な口縁部紋様帯を区画。紋様帯内に貝殻片圧痕を充填施す。口縁内面に木押接が見られる。紋様帯下および内面には浅い条痕を施す。	茅山上層式
2	83	42	深鉢 胴部	915-420	①細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
3	83	42	深鉢 胴部	920-430	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい褐色	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
4	83	42	深鉢 胴部	920-435	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
5	83	42	深鉢 胴部	1号住居	①細線、繊維 ②ふつう ③橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
6	83	42	深鉢 胴部	920-435	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
7	83	42	深鉢 胴部	930-430	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
8	83	42	深鉢 底部	1号住居	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	平底の底部。残存部は無紋。	早期後半条痕紋系
9	83	42	深鉢 胴部	915-395	①中・細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	底径6.6cm。底部から立ち上がり、すぐ膨らむ器形。内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
10	83	42	深鉢 胴部	915-395	①細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	単節R L縄紋を横位施す。	黒沢式
11	83	42	深鉢 胴部	920-400	①細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	無節R 1、Lによる変形構成。	黒沢式
12	83	42	深鉢 胴部	920-430	①細線、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	単節R L縄紋を横位施す。	黒沢式
13	83	42	深鉢 胴部	表探	①粗砂 ②ふつう ③浅黄橙	単節L R縄紋を施し、沈線による曲線モチーフを描く。	加賀利E式
4区 1	84	43	深鉢 口～底	880-400	①粗砂、繊維 ②ふつう ③明赤褐色	推定口径30.6cm、推定器高30.1cm。波状口縁で、胴部下平に膨らみをもち、口縁が広く外反する器形。内外面に条痕を施す。口縁部に部分的に斜位の刻みを付す。	早期後半条痕紋系
2	84	43	深鉢 口縁部	4号溝	①細線、繊維 ②ふつう ③橙	台形状の突起を付す波状口縁。口縁に沿って刺突を施し、また波頂部から垂下させる。波頂部の上端に貝殻片圧痕を押し接する。No.3と同一個体。	茅山上層式

遺物観察表

番号	区	PL	部種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
3	84	43	深鉢 口縁部	885-410		No.2と同一個体。突起の内外面に貝殻押痕によると思われる刻みを付す。内面条痕。非貫通の補修孔が穿たれる。	茅山上層式
4	84	43	深鉢 口縁部	880-400	①粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	台形状の突起を付す波状口縁で、口縁が外反する。内外面に磨痕を施す。	茅山上層式
5	85	43	深鉢 口縁部	880-400	①粗礫、織維 ②ふつう ③灰褐色	波状口縁。内外面に条痕を施す。口唇部に半截竹管内皮によると思われる刺突を施す。	早期後半条痕紋系
6	85	43	深鉢 胴部	875-400	①粗砂、織維 ②ふつう ③褐色	横位に刺突を施す。内外面条痕。	茅山上層式
7	85	43	深鉢 口縁部	875-400	①中・粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	絡糸体圧痕を横位に1条めぐらせて幅狭な口縁部絞縁帯を区画。絞縁帯内に絡糸体圧痕を弧形状に施す。内外面条痕。	早期後半条痕紋系
8	85	43	深鉢 口縁部	880-400	①粗砂、織維 ②ふつう ③褐色	低い台形状突起を付す波状口縁で、縦く外反する器形。内外面に条痕を施す。	茅山上層式
9	85	43	深鉢 口縁部	875-400	①中・粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい赤褐色	内外面に条痕を施すが、条痕の上から口唇部に斜位、弧状の沈線を施している。口唇部に刻みを付す。	茅山上層式
10	85	43	深鉢 胴部	875-400	①粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
11	86	43	深鉢 胴部	880-400	①粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	内外面に条痕を施す。No.12と同一個体。	早期後半条痕紋系
12	86	43	深鉢 胴部	885-400		No.11と同一個体。	早期後半条痕紋系
13	86	43	深鉢 胴部	890-450	①粗礫、織維 ②ふつう ③明赤褐色	内外面に条痕を施す。幅広と幅狭の2種類の施紋具を用いている。	早期後半条痕紋系
14	86	43	深鉢 胴部	875-400	①中・粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
15	86	43	深鉢 胴部	875-400	①中・粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい黄褐色	外面に条痕を施す。No.16と同一個体。	早期後半条痕紋系
16	86	43	深鉢 胴部	875-400		No.15と同一個体。	早期後半条痕紋系
17	86	43	深鉢 胴部	875-400	①粗礫、白色粒、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
18	86	44	深鉢 胴部	880-400	①中・粗礫、織維 ②ふつう ③灰褐色	貝殻片圧痕を施す。	早期後半条痕紋系
19	86	44	深鉢 底部	880-400	①粗礫、織維 ②ふつう ③にぶい黄褐色	推定底径4.4cm。残存部は無紋。	早期後半条痕紋系
20	86	44	深鉢 口縁部	2号溝	①粗砂、白色粒、織維 ②ふつう ③にぶい黄褐色	0段多条R L織紋を横位施紋する。内面研磨。	前期前半
21	86	44	深鉢 胴部	包含層	①粗砂、織維 ②ふつう ③にぶい黄褐色	付加条織紋を施す。	黒浜式
22	87	44	深鉢 胴部	895-445	①粗砂、織維 ②ふつう ③灰白・褐色	縦く屈曲する器形。無節L r織紋を横位施紋する。No.23と同一個体。	黒浜式
23	87	44	深鉢 胴部	2号溝		No.22と同一個体。単節R L、無節L rの羽状構成。	黒浜式
24	87	44	深鉢 口縁部	2号溝	①中・粗礫 ②ふつう ③灰白	No.25と同一個体。内折する口縁の波頂部。平行沈線による楕円モチーフを対向させる。	諾磯b式
25	87	44	深鉢 口縁部	890-450		No.24と同一個体で、口縁が内折する。単節R L織紋を横位施紋し、内折部のみ集合沈線を施す。	諾磯b式
26	87	44	深鉢 口縁部	包含層	①中・粗礫、片岩 ②ふつう ③にぶい褐色	腕先状口縁で外反する。集合沈線による横帯構成で、波頂部の三角形区画内には弧状の集合沈線を施す。内折部にも集合沈線、弧状モチーフを描く。地にR L織紋を施紋。	諾磯b式
27	87	44	深鉢 胴部	890-450	①粗礫 ②ふつう ③にぶい褐色	縦く外反する器形。単節R L織紋を横位施紋する。	前期後半
28	87	44	深鉢 底部	895-450	①中・粗礫 ②ふつう ③褐色	底径11.6cm。単節R L織紋をまばらに施紋する。	前期後半
11区 1	87	44	深鉢 口縁部	包含層	①粗砂、白色粒 ②ふつう ③灰黄褐色	口縁下に列点を挟んだ沈線をめぐらせ、以下、幾何学モチーフを描き、区画内に列点を充填施紋する。	称名寺Ⅱ式
12区 1	87	44	深鉢 口縁部	800-065	①粗礫、白色粒、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	口縁下から燃糸紋Rを斜位、斜格子目状に施す。No.2、3と同一個体。	早期後半?
2	87	44	深鉢 口縁部	800-065		No.1、3と同一個体。	早期後半?
3	87	44	深鉢 胴部	800-065		No.1、2と同一個体。器面全面に燃糸紋を施す。	早期後半?
4	88	44	深鉢 胴部	800-065	①粗砂、織維 ②ふつう ③にぶい褐色	2条対の燃糸紋Rを斜位に押捺する。	花積下層式

第3章 調査された遺構と遺物

番号	図	PL	器種	出土位置	①胎土②着色③色調	紋様の特徴等	備考
5	88	44	深鉢 胴部	790-075	①粗砂、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	0段多条L R 縄紋を横位施紋する。	花楸下層式
6	88	44	深鉢 口縁部	825-035	①粗砂 ②ふつう ③灰黄	キャリバー状の器形。口縁下に竹管刺突をめぐらせ、沈線による連弧紋を施す。区画内にR L 縄紋を充填施紋する。	中期後半
7	88	44	深鉢 底部	2面	①粗砂 ②ふつう ③にぶい黄橙	底径4.8cm。底面に副代痕が見られる。	後期
14区 1	88	44	深鉢 口縁部	735-865	①粗砂 ②良好 ③にぶい橙	口唇部が肥厚する。単節R L 縄紋を施す。口唇部、肥厚部にも施紋。	井草式
2	88	44	深鉢 胴部	755-865	①細礫多、石英 ②ふつう ③にぶい黄橙	節の大きい器系較Rを縦位施紋する。	桶筒原式
3	88	44	深鉢 胴部	750-865	①中・細礫 ②ふつう ③にぶい黄橙	横位多段に沈線を施して区画、区画内にC字状刺突を挿んだ沈線を斜位に施し、斜位の沈線を充填施紋する。	田戸下層式
4	88	44	深鉢 胴部	750-865	①中・細礫 ②ふつう ③にぶい黄橙	No 3と同一個体？刺突に平截竹管内皮を用いる。	田戸下層式
5	88	44	深鉢 胴部	750-865	①中・細礫 ②ふつう ③橙	横位に沈線を施し、一部沈線に刺突を沿わせている。	田戸下層式
6	88	44	深鉢 口縁部	755-855	①細礫、繊維紋 ②ふつう ③明赤褐	波状口縁で、外削ぎの口唇部形状、口縁が緩く内湾する器形。口縁に沿って沈線と刺突列を施し、刻みを付した異線と断面状沈線を横位に施す。口縁内外端に刻みを付す。	田戸上層式
7	88	44	深鉢 口縁部	755-860	①粗砂 ②ふつう ③にぶい黄橙	緩い波状口縁で緩く内湾する器形。無紋で波頂部下にのみ、貼垂を施す。口縁内端に刻みを付す。	田戸上層式
8	88	44	深鉢 口縁部	755-880	①細礫、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	尖頭状口唇をもつ口縁部破片。平行沈線をまばらに斜位に施す。口縁外端に貝殻残縁による刻みを付す。	田戸上層式
9	88	44	深鉢 口縁部	745-860	①中・細礫、繊維 ②ふつう ③にぶい褐	口縁が緩く外反する器形。無紋で、口唇部のみ貝殻残縁を斜位に施す。	田戸上層式
10	88	44	深鉢 胴部	735-865	①粗砂、白色粒、繊維 ②ふつう ③橙	地紋に細密条痕を施し、3本沈線による波状紋を施す。	出流原式？
11	88	45	深鉢 口縁部	735-870	①細礫、金雲母、繊維 ②ふつう ③橙	波状口縁。口縁部に無紋帯を設け、細隆起線により区画、区画内に沈線を充填施紋する。区画線上に竹管による刺突を施す。内削ぎの口縁外端に刻みを付す。No 12～14と同一個体。	鶴ヶ島台式
12	88	45	深鉢 胴部	735-870		No 11, 13, 14と同一個体。口縁部較帯下層の段の部位。	鶴ヶ島台式
13	88	45	深鉢 胴部	735-860		No 11, 12, 14と同一個体。口縁部較帯下層の段の部位。	鶴ヶ島台式
14	88	45	深鉢 胴部	735-870		No 11～13と同一個体。	鶴ヶ島台式
15	88	45	深鉢 口縁部	760-865	①細礫、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内削ぎの口唇で、緩く外反する器形。外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
16	88	45	深鉢 胴部	760-885	①細礫、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	内外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
17	88	45	深鉢 胴部	750-865	①細礫、繊維 ②ふつう ③橙	外面に条痕を施す。	早期後半条痕紋系
18	88	45	深鉢 胴部	2面	①細礫、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	2条対の器系較Rを斜位に押捺する。	早期後半？
19	88	45	深鉢 胴部	735-870	①粗砂、繊維 ②ふつう ③灰黄	2条対の器系較Rを斜位に押捺する。	花楸下層式
20	88	45	深鉢 胴部	730-865	①粗砂、繊維 ②ふつう ③橙	緩く外反する器形。沈線を横位多段に施す。	黒浜式
21	89	45	深鉢 口縁部	745-855	①粗砂、繊維 ②ふつう ③明灰黄	緩く屈曲する器形。単節R L 縄紋を横位施紋する。	黒浜式
22	89	45	深鉢 口縁部	740-875	①粗砂、繊維 ②ふつう ③にぶい黄橙	緩く内湾する器形。単節R L 縄紋を横位施紋する。	黒浜式
23	89	45	深鉢 胴部	730-860	①細礫、繊維 ②ふつう ③黄灰	緩く屈曲する器形。無節L R 縄紋を横位施紋する。	黒浜式
24	89	45	深鉢 胴部	755-855	①粗砂、繊維 ②ふつう ③にぶい橙	L R 縄紋を横位施紋する。	黒浜式
25	89	45	深鉢 胴部	770-895	①細礫、繊維 ②ふつう ③灰黄褐	単節L R、R L 縄紋の羽状構成。	黒浜式
26	89	45	深鉢 胴部	755-870	①粗砂多 ②良好 ③にぶい赤褐	集合沈線による横帯構成。地紋に単節R L 縄紋を施紋。	諾磯b式
27	89	45	深鉢 胴部	770-890	①細礫 ②ふつう ③にぶい褐	縦位区画、横位レンズ状の集合沈線を施す。	十三菩提式

番号	図	PL	器種	出土位置	①胎土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
28	89	45	深鉢 胴部	765-885		№ 27, 29, 30 と同一個体。	十三菩薩式
29	89	45	深鉢 胴部	770-890		№ 27, 28, 30 と同一個体。紋様帯を区画する横位集合沈線が見られる。	十三菩薩式
30	89	45	深鉢 胴部	770-885		№ 27～29 と同一個体。逆弧状モチーフを描いている。	十三菩薩式
31	89	45	深鉢 胴部	770-885	①細線 ②ふつう ③にぶい槽	縦位区画、逆弧状集合沈線を施す。下端に紋様帯を区画する横位集合沈線が見られる。№ 32 と同一個体。	十三菩薩式
32	89	45	深鉢 胴部	770-885		№ 31 と同一個体。31 の下位の紋様帯の部位で、縦位逆弧状の集合沈線を施し、三角形区画に縦位の集合沈線を施す。	十三菩薩式
33	89	45	深鉢 胴部	北トレンチ 区	①細線 ②ふつう ③にぶい槽	沈線により弧状に区画し、区画内に単節 L R 縄紋を充填施紋する。	加曾利 E 式
34	89	45	深鉢 胴部	760-875	①細線多 ②ふつう ③にぶい槽	8 の字貼付紋を施す。	甕之内 1 式
35	89	45	深鉢 口へ底	740-870	①細線 ②ふつう ③にぶい槽	胴部下平に膨らみをもち、中ほどで 1 度すぼまって、そのまま開く筒形。推定口径 49cm、推定器高 70cm、底径 11cm。沈線により帯状モチーフを描き、単節 L R 縄紋を充填施紋する。	称名寺 1 式
36	89	45	深鉢 胴部	740-855	①細線、白色粒 ②ふつう ③明細灰	沈線により帯状モチーフを描き、単節 L R 縄紋を充填施紋する。	称名寺 1 式
37	89	45	深鉢 胴部	765-880	①細線多 ②ふつう ③粗灰	沈線による三角モチーフ。単節 L R 縄紋を充填施紋。	甕之内 2 式
38	89	45	深鉢 胴部	755-860	①細線多 ②ふつう ③にぶい黄褐色	沈線による三角モチーフ。単節 L R 縄紋を充填施紋。	甕之内 2 式
39	89	45	深鉢 胴部	765-885	①細線多 ②ふつう ③にぶい赤褐色	№ 40 と同一個体。胴部が屈曲する。屈曲部まで横帯紋を施紋。	加曾利 B 2 式
40	89	45	深鉢 口縁部	765-885		突起を付す波状口縁。波頂部下に凹形の透かしを入れる。横帯紋を多段に施す。№ 39 と同一個体。	加曾利 B 2 式
15 区 1	93	45	深鉢 口縁部	735-840	①粗砂粒やや多 ②ふつう ③にぶい黄褐色	口縁部上端とやや下がった位置に指頭押圧を伴う 2 条の隆帯。	後期前葉
2	93	45	深鉢 口縁部	表土	①砂粒多 ②ふつう ③にぶい槽	口縁からやや下がった位置に指頭押圧を伴う隆帯。	後期前葉
3	93	45	深鉢 口縁部	710-830	①砂粒多 ②ふつう ③にぶい赤褐色	口縁部内屈し、頸部に括れをもつ平口縁深鉢。風化により縄紋の有無不明。	高井東式
16 区 1	90	46	深鉢 口へ胴	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③明赤褐色	5 単位波状口縁。波頂部は低い 2 山状で、外方にやや肥厚。口頸部紋様は、波頂部直下に押圧を伴う楕円形貼付紋。波頂部直下と頸部の波頂部下に豚鼻状貼付紋。2 重の対向する弧線で菱形区画。区画内に貼付紋を繋ぐ ( ) 状の沈線紋。器面劣化のため不明だが沈線間に L R 縄紋。胴部紋様は重レンズ状紋。上下は 2 条の平行沈線で区画。2 と同一個体。28 と同一個体か？。口径 25.3cm。	天神原式
2	90	46	深鉢 口へ胴	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③にぶい赤褐色	5 単位波状口縁。波頂部は低い 2 山状で、外方にやや肥厚。口頸部紋様は、波頂部直下に押圧を伴う楕円形貼付紋。波頂部直下と頸部の波頂部下に豚鼻状貼付紋。2 重の対向する弧線で菱形区画。区画内に貼付紋を繋ぐ ( ) 状の沈線紋。器面劣化のため不明だが沈線間に L R 縄紋。胴部紋様は重レンズ状紋。上下は 2 条の平行沈線で区画。1 と同一個体。28 と同一個体か？。口径 25.0cm。	天神原式
3	90	46	深鉢 口へ胴	720-780	①砂粒やや少 ②ふつう ③黒褐色	5 単位波状口縁。頸部に縦い屈曲を有す。波頂部は低く 2 山状。波頂部下に縦長の貼付紋を付し、その周囲を U 字・O 字状沈線で囲む。波底部には、指頭押圧を伴う円形貼付紋。波頂部からこの貼付紋にかけ沈線で結び三角形区画。口縁部は弧線により区画。区画内にランダムな刺突を充填。胴下半の紋様不明。13 と同一個体か？。口径 19.7cm。	天神原式
4	90	46	深鉢 口へ胴	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③灰黄	頸部に括れをもち口縁部外反。口唇部に指頭押圧。頸部に 2 条の平行沈線。沈線間に刺突列。口径 22.9cm。	晩期前半
5	90	46	深鉢 口へ胴	710-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③赤褐色	口縁部が緩く外反する平口縁深鉢。山形の突起を付すが単位不明。口頸部には、上下を沈線で区画 (一部確認できない箇所あり) し、沈線による単位紋を施紋。器面劣化のため縄紋の有無不明。口径 29.6cm。	晩期前半
6	90	46	奇形 口へ底	715-780	①粗砂粒やや多 ②ふつう ③にぶい槽	口縁部に 2 山あるいは 3 山の突起。突起下に焼成前穿孔。胴部は人箱三叉紋。底部付近に 2 条の平行沈線。長径 14.6cm、短径推定 9.4cm、器高 5.8cm。	安行 3 c 式

第3章 調査された遺構と遺物

番号	図	PL	器種	出土位置	①粘土②焼成③色調	紋様の特徴等	備考
7	90	46	浅鉢 口～底	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③橙	正面に3個一対の2山の突起。2条の平行沈線。下位の沈線部に2個一対の焼成前穿孔。底部やや上げ底状。内面底部付近段差あり。口径17.5cm、器高6.9cm、底径5.6cm。	晩期前半
8	90	46	凹形 口～胴	715-785	①砂粒やや多 ②良好 ③にふい橙	口縁部に突起を付す欠けのため形状不明。口縁部無紋。頸部に2条の平行沈線。胴部は半内彫的な磨消滅紋。LR構紋。胎土・焼成ともに他の土器と異なり、搬入品か？。口径8.2cm。	大洞C1式
9	90	46	台付深 鉢？ 台部	715-775	①砂粒多 ②ふつう ③橙	無紋。ミガキ調整。台端面に幅広の浅い刻みあり。底径5.4cm。	晩期前半
10	90	46	深鉢 口縁部	690-770	①砂粒多 ②ふつう ③黒褐色	波状口縁深鉢。口縁部は肥厚し、やや屈曲。2条の平行沈線を施し、口唇部・沈線間・屈曲部に刻み。波底部に突起。	高井東式
11	90	46	深鉢 口縁部	2号溝	①砂粒やや少 ②ふつう ③にふい黄橙	緩い波状口縁か？。口縁部に2条の弧線。上位の弧線内に円形刺突。頸部に括れをもち、括れ下に2条の平行沈線。沈線間に円形刺突列。12と同一個体か？。	天神原式
12	90	46	深鉢 口縁部	2号溝	①砂粒やや少 ②ふつう ③灰褐色	緩い波状口縁。口縁部に波頂部を結ぶ2条の弧線。上位の弧線内に円形刺突。頸部に括れをもち、11と同一個体か？。	天神原式
13	90	46	浅鉢 胴部	720-780	①砂粒やや少 ②ふつう ③褐色	緩く屈曲する波状口縁深鉢。指頭押圧を伴う円形貼付紋。ランダムな刺突。3と同一個体か？。	晩期前半
14	91	47	深鉢 口～胴	8号土坑	①砂粒多 ②ふつう ③赤褐色	頸部に括れをもち口縁部外反。口唇部に指頭押圧。胴部はLR構紋か？。口径20.1cm。	晩期前半
15	91	47	浅鉢 口縁部	715-785	①粗砂粒多 ②ふつう ③灰黄褐色	口縁部やや外反。無紋。	晩期前半
16	91	47	深鉢 口～胴	715-785	①粗砂粒やや多 ②ふつう ③橙	口縁部内湾。2段の有段口縁。有段部に刺突列。	晩期前半
17	91	47	深鉢 口～胴	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③浅黄褐色	口縁部やや内湾。2段の有段口縁。	晩期前半
18	91	47	深鉢 口～胴	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③橙	口縁部内湾。2段の有段口縁。1段のみ指頭押圧。	晩期前半
19	91	47	深鉢 口縁部	715-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③黒褐色	口唇部に指頭押圧。無紋。	晩期前半
20	91	47	深鉢 口縁部	720-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③褐色	口縁部緩く内湾。無紋。	晩期前半
21	91	47	深鉢 口～胴	710-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③にふい黄橙	口縁部直立。2段の有段口縁。	晩期前半
22	91	47	深鉢 口～胴	710-780	①砂粒多 ②ふつう ③にふい黄橙	口縁部直線的に開く。無紋。26と同一個体か？。	晩期前半
23	91	47	深鉢 口～胴	715-780	①砂粒やや少 ②ふつう ③褐色	口縁部緩く内湾。口縁部に三日月状の貼付紋が1箇所認められる。無紋。口径19.3cm。	晩期前半
24	91	47	浅鉢 口縁部	20号溝	①粗砂粒やや多 ②ふつう ③黒褐色	口唇部に刻み。無紋。	晩期前半
25	92	47	深鉢 口～底	710-780	①砂粒多 ②ふつう ③にふい橙	口縁部緩く内湾。無紋。口径19.4cm、器高15.7cm、底径9.2cm。	晩期前半
26	92	47	深鉢 胴～底	715-780	①粗砂粒多 ②ふつう ③にふい橙	底部付近に押さえによる調整痕跡。無紋。22と同一個体か？。底径8.5cm。	晩期前半
27	92	48	深鉢 胴部	710-780	①粗砂粒やや多 ②ふつう ③にふい橙	無紋。17と同一個体か？。	晩期前半
28	92	48	深鉢 胴～底	710-780	①砂粒やや多 ②ふつう ③明赤褐色	無紋。底面に1条の沈線。鉢の可能性もあり。1・2と同一個体か？。底径6.1cm。	晩期前半
29	92	48	深鉢 胴～底	1号溝	①砂粒多 ②ふつう ③橙	底端部突出。無紋。底径8.7cm。	晩期前半
30	92	48	深鉢 胴～底	720-785	①砂粒やや多 ②ふつう ③にふい橙	底端部やや突出。無紋。底径9.2cm。	晩期前半
31	92	48	深鉢 胴～底	715-780	①砂粒多 ②ふつう ③にふい橙	無紋。底径7.9cm。	晩期前半
32	92	48	深鉢 胴～底	1号溝	①砂粒やや多 ②ふつう ③にふい橙	無紋。底径5.3cm。	晩期前半
17区 1	93	48	深鉢 胴～底	665-685	①粗砂粒多 ②ふつう ③橙	胴部無紋。底部木葉痕。底径8.6cm。	晩期前半？

## 石器計測表

No	区	PL	器種	現存	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
1	93	48	石鏃	完形	2区11溝	2.1	1.2	0.4	0.9	チャート	凹基
2	93	48	石鏃	完形	15区2面	2.4	1.6	0.4	1.0	チャート	凹基
3	93	48	石鏃	完形	2区920-495	(2.9)	(1.5)	(0.4)	1.5	チャート	凹基
4	93	48	石鏃	完形	14区包含層	1.9	1.4	0.3	0.7	チャート	平基
5	93	48	石鏃	完形	14区745-860	2.2	1.7	0.5	1.3	黒曜石	平基
6	93	48	石鏃	完形	16区715-780	(2.0)	1.4	0.5	1.2	チャート	有茎
7	94	48	石鏃	完形	16区715-780	2.1	1.3	0.4	0.8	チャート	有茎
8	94	48	石鏃	完形	16区715-780	(2.3)	1.4	0.5	1.3	黒色安山岩	有茎
9	94	48	石鏃	完形	16区715-780	(2.7)	1.3	0.4	1.0	黒色頁岩	有茎
10	94	48	石鏃	完形	16区715-780	(2.6)	1.5	0.5	1.4	チャート	有茎
11	94	48	石鏃	完形	16区720-780	(2.6)	1.4	0.5	1.3	チャート	有茎
12	94	48	石鏃	完形	17区675-695	3.0	1.2	0.5	1.1	玉髄	有茎
13	94	48	石鏃	完形	16区705-780	(2.8)	1.7	0.6	2.1	チャート	有茎
14	94	48	石鏃	完形	16区715-780	4.3	1.7	0.5	2.4	黒色頁岩	有茎
15	94	48	石鏃	完形	14区3溝	2.1	1.4	0.6	1.5	黒曜石	未製品
16	94	48	石鏃	完形	4区880-400	2.5	1.3	0.6	1.5	黒曜石	
17	94	49	石鏃か	完形	14区725-870	(6.2)	2.6	1.0	12.6	黒色安山岩	
18	94	49	石鏃	完形	16区720-775	(2.7)	1.7	0.6	1.8	黒色頁岩	
19	94	49	石鏃	完形	2区890-480	3.9	6.0	0.8	16.4	黒色安山岩	
20	95	49	石鏃か	完形	14区755-870	(8.5)	(3.3)	1.6	39.4	黒色頁岩	
21	95	49	スクレイパー	完形	2区925-515	2.9	5.3	1.3	15.1	黒色頁岩	
22	95	49	スクレイパー	完形	4区875-410	4.8	7.4	1.3	46.1	黒色頁岩	
23	95	49	スクレイパー	完形	2区930-505	3.7	(8.8)	1.4	45.0	黒色頁岩	
24	95	49	スクレイパー	完形	4区2溝	7.9	5.9	1.5	61.8	黒色頁岩	
25	95	49	打製石斧	完形	2区920-495	5.4	4.6	1.4	39.4	黒色頁岩	短冊・楕形
26	95	49	打製石斧	完形	4区表採	5.6	4.9	1.7	45.1	黒色頁岩	短冊・楕形
27	95	49	打製石斧	完形	2区925-495	6.7	5.1	1.7	59.9	黒色頁岩	短冊・楕形
28	95	49	打製石斧	完形	17区670-695	(7.4)	(4.2)	(1.6)	54.4	ホルンフェルス	短冊・楕形
29	95	49	打製石斧	完形	2区包含層	8.7	3.6	2.0	70.3	黒色頁岩	短冊・楕形
30	95	49	打製石斧	完形	4区880-400	9.8	4.5	1.6	94.5	黒色安山岩	短冊・楕形
31	95	49	打製石斧	完形	4区包含層	10.9	5.0	2.4	110.0	褐色泥岩	短冊・楕形
32	95	49	打製石斧	完形	14区745-860	13.4	4.4	1.9	140.0	黒色頁岩	短冊・楕形
33	95	49	打製石斧	完形	2区915-480	13.9	5.6	2.6	235.0	黒色頁岩	短冊・楕形
34	95	49	打製石斧	半完形	16区710-780	(5.7)	5.5	0.8	28.2	黒色頁岩	分銅型
35	95	49	打製石斧	完形	4区表採	7.7	5.2	2.4	115.0	ホルンフェルス	分銅型
36	96	49	打製石斧	完形	15区740-830	8.7	5.5	1.8	105.0	ホルンフェルス	分銅型
37	96	49	打製石斧	完形	2区12溝	8.5	6.4	2.3	160.0	ホルンフェルス	分銅型
38	96	49	打製石斧	完形	14区7溝	8.9	6.5	1.6	110.0	ホルンフェルス	分銅型
39	96	49	打製石斧	完形	17区675-685	9.8	6.9	1.6	135.0	ホルンフェルス	分銅型
40	96	49	打製石斧	完形	17区表採	11.5	5.7	2.3	160.0	ホルンフェルス	分銅型
41	96	49	打製石斧	半完形	15区740-835	(7.5)	6.2	1.5	69.8	黒色頁岩	分銅型
42	96	49	打製石斧	半完形	16区690-780	(7.4)	7.0	1.7	85.0	ホルンフェルス	分銅型
43	96	49	打製石斧	完形	16区725-780	12.5	5.9	2.1	155.0	ホルンフェルス	分銅型
44	96	49	打製石斧	完形	17区2面	12.3	6.6	1.3	115.0	ホルンフェルス	分銅型
45	96	49	打製石斧	完形	12区27上	11.5	8.0	2.2	240.0	ホルンフェルス	分銅型
46	97	49	打製石斧	完形	17区表採	11.8	8.3	2.7	290.0	ホルンフェルス	分銅型
47	97	49	打製石斧	完形	16区表採	12.0	8.6	2.4	235.0	ホルンフェルス	分銅型
48	97	49	打製石斧	完形	16区715-780	13.8	7.7	1.6	195.0	ホルンフェルス	分銅型
49	97	49	打製石斧	完形	16区705-775	15.5	10.1	2.4	425.0	ホルンフェルス	分銅型
50	97	49	打製石斧	完形	16区715-780	18.2	9.4	4.0	750.0	ホルンフェルス	分銅型
51	98	49	打製石斧	完形	16区715-780	20.0	11.4	3.0	725.0	ホルンフェルス	分銅型
52	97	50	打製石斧	半完形	15区740-835	(9.1)	11.7	(3.2)	365.0	ホルンフェルス	分銅型
53	98	50	礫石	完形	16区720-780	10.0	11.0	3.7	530.0	粗粒輝石安山岩	
54	98	50	岩板	完形	16区715-775	4.0	2.2	0.5	6.9	ホルンフェルス	1字紋
55	98	50	石鏃	完形	16区720-780	5.3	4.8	1.8	69.2	蛇紋岩	
56	98	50	磨製石斧	完形	4区表採	12.4	3.7	2.3	150.5	電玄武岩	
57	98	50	片岩製石器	完形	15区表採	13.7	3.7	1.5	110.5	黒色頁岩	
58	99	50	敲石	完形	16区715-785	8.2	6.8	5.5	360.5	粗粒輝石安山岩	
59	99	50	敲石	完形	16区720-780	9.4	7.0	6.1	485.0	粗粒輝石安山岩	
60	99	50	敲石	完形	16区720-780	13.2	8.8	8.5	1295.0	粗粒輝石安山岩	
61	99	50	敲石	完形	14区745-895	18.4	6.8	5.8	920.0	粗粒輝石安山岩	
62	99	50	凹石	完形	15区745-835	9.6	7.0	2.9	220.5	粗粒輝石安山岩	
63	99	50	凹石	完形	16区715-775	9.6	8.4	4.5	490.0	粗粒輝石安山岩	
64	99	50	凹石	完形	16区710-780	10.8	8.1	5.4	510.0	粗粒輝石安山岩	



### 第3章 調査された遺構と遺物

No.	図	PL	器種	残存	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
65	100	50	門石	完形	15区1面	13.1	7.8	3.2	490.0	粗粒輝石安山岩	
66	100	50	門石	完形	16区720-780	10.8	10.6	6.8	810.0	粗粒輝石安山岩	
67	100	50	多孔石	完形	16区5上	23.4	25.2	7.5	6.4kg	粗粒輝石安山岩	
68	100	51	石皿	半完形	2区895-480	(23.6)	18.4	7.0	3.5kg	粗粒輝石安山岩	
69	101	50	石皿	半完形	2区930-505	25.5	29.6	8.8	7.5kg	粗粒輝石安山岩	
70	101	51	臼	1/4	2区トレンチ	21.0	10.8	10.3	2.0kg	粗粒輝石安山岩	
71	101	51	五輪塔	完形	16区表探	25.0	25.4	15.0	10.6kg	粗粒輝石安山岩	

#### 古銭計測値

No.	図	PL	出土位置	直径	孔径	厚さ	備考
1	102	51	2区表探	2.5	0.6	0.2	元豐通宝か
2	102	51	7区	2.4	0.7	0.1	寛永通宝
3	102	51	11区表探	2.3	0.7	0.1	寛永通宝
4	102	51	11区表探	2.4	0.5	0.1	寛永通宝
5	102	51	12区表探	2.5	0.6	0.1	水滸通宝
6	102	51	12区表探	2.5	0.6	0.1	水滸通宝
7	102	51	12区表探	2.5	0.6	0.2	寛永通宝
8	102	51	12区表探	2.4	0.6	0.2	寛永通宝
9	102	51	12区表探	2.5	0.6	0.2	寛永通宝
10	102	51	12区	2.5	0.6	0.1	寛永通宝
11	102	51	12区	2.4	0.5	0.1	寛永通宝
12	102	51	15区表探	2.4	0.5	0.2	寛永通宝
13	102	51	16区表探	2.4	0.6	0.1	寛永通宝
14	102	51	16区表探	2.4	0.5	0.2	寛永通宝

#### 煙管計測値

No.	図	PL	出土位置	全長	火皿径	肩径	備考
15	102	51	4区表探	3.9	1.6	0.6	煙首
16	102	51	11区表探	6.3	1.4	0.9	煙首
17	102	51	17区28溝	7.6	1.5	0.9	煙首
18	102	51	17区28溝	5.9	1.0	1.2	煙首

#### 煙管計測値

No.	図	PL	出土位置	全長	口付径	肩径	備考
19	102	51	4区2溝	3.8	0.7	1.2	吸口
20	102	51	11区表探	6.0	0.4	0.9	吸口
21	102	51	13区5上	5.5	0.3	0.8	吸口
22	102	51	15区表探	6.2	0.4	0.9	吸口
23	102	51	16区表探	5.2	0.3	0.9	吸口

#### 火打金計測値

No.	図	PL	出土位置	全長	幅	厚さ	備考
24	102	51	12区	6.2	2.2	0.2	一部欠損

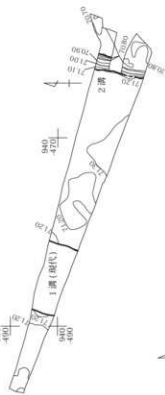
#### 鉄砲玉計測値

No.	図	PL	出土位置	直径	幅	厚さ	備考
25	102	51	12区	1.05	1.05	1.0	
26	102	51	14区3溝	1.35	1.35	1.3	

#### その他銅製品計測値

No.	図	PL	出土位置	全長	幅	厚さ	備考
27	102	51	14区3溝	7.1	1.6	0.7	毛抜きか

1区第1面全体図



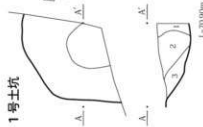
1区第2面全体図



2号溝



1号土坑



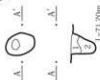
1号土坑

- 1 暗褐色土 ローム層、黒褐色土粒僅少、
- 2 黒褐色土 ローム層僅少、しまり強い、
- 3 暗褐色土 ローム主体、くずれたローム、

2号溝

- 1 黒色粘壤土の盛土、
- 2 暗褐色土 腐植質僅少の表土、
- 3 暗赤褐色土 腐植物質含む、やや砂質、
- 4 暗赤褐色土 やや砂質、
- 5 暗褐色土 やや砂質、
- 6 暗褐色土 地山暗褐色土粒、黒色土粒少量含む、

1号ビット



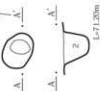
2号ビット



3号ビット



4号ビット



5号ビット



6号ビット



7号ビット



1～7号ビット

- 1 黒褐色土 暗褐色土粒多く含む、しまり強い、
- 2 黒褐色土 暗褐色土粒僅かに含む、しまり強い、

第9図

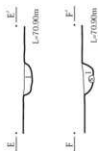
1区1・2面全体図、2号溝、1号土坑、1～7号ビット。





第10圖 2区1・2面全体図

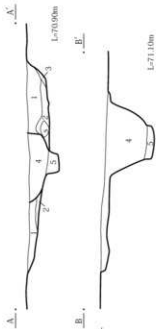
### 1・2・7号溝



7号溝  
1 暗褐色土、少量の礫石を含む。

7号溝  
2号溝  
トレンチ

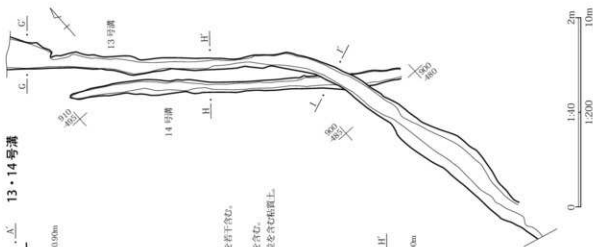
### 13・14号溝



1・2号溝  
1 暗褐色土、白色軽石を若干含む。  
2 暗褐色土  
3 暗褐色土、黒褐色土を含む。  
4 褐色土、黒褐色土を含む粘質土。  
5 砂層、小礫を含む。

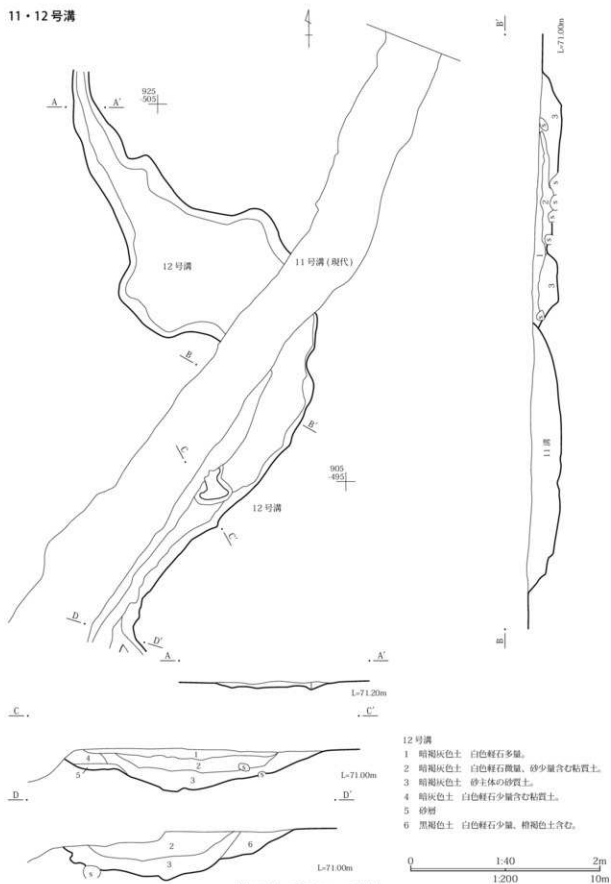


13号溝  
1 暗褐色土、砂、白色軽石を少量含む粘質土。  
2 砂層  
14号溝  
1 暗褐色土、砂、白色軽石を少量含む粘質土。  
2 砂層  
3 暗褐色土、砂を少量含む。

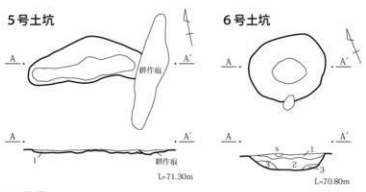
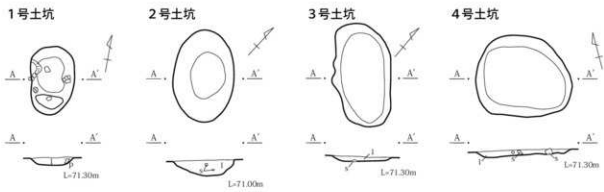


第11圖 2区1・2・7・13・14号溝

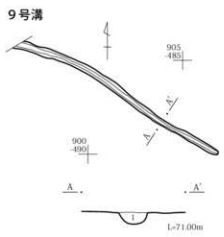
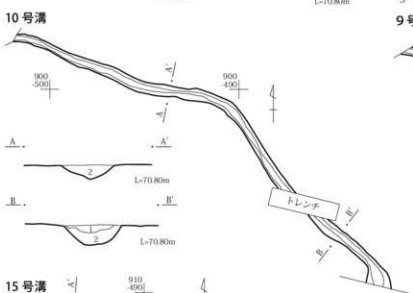
11・12号溝



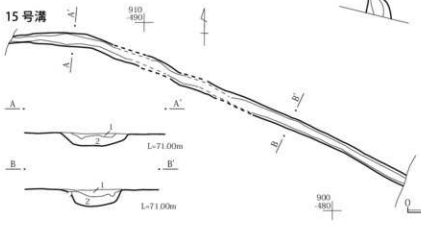
第12図 2区11・12号溝



- 1号土坑  
1 黒褐色土 白色軽石と焼土を少量含む。
- 2号土坑  
1 黒褐色土 暗褐色土を若干含む。
- 3・4号土坑  
1 黒褐色土 暗褐色土を少量含む。
- 5号土坑  
1 黒褐色土 白色軽石を若干含む。
- 6号土坑  
1 黒色土 粘性強い。  
2 灰黄褐色土 粘性あり。  
3 明黄褐色土 粘性あり。

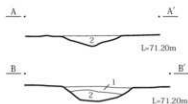
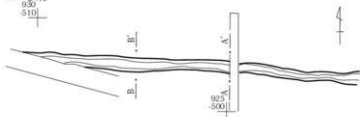


- 9号溝  
1 暗褐色土 白色軽石 (Hr-FA か) を少量含む粘質土。
- 10号溝  
1 As-B 層  
2 黒褐色土 地山の暗褐色粘質土を微量含む。
- 15号溝  
1 As-B 層  
2 黒褐色土 白色軽石を少量、灰色粘質土を含む。



第13図 2区1～6号土坑、9・10・15号溝

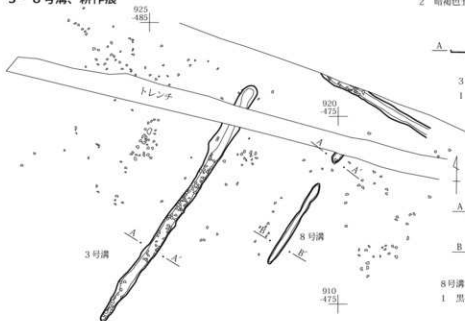
17号溝



17号溝

- 1 黒褐色土 As Cを少量含む。
- 2 暗褐色土 砂利が混じる。

3・8号溝、耕作痕



3号溝

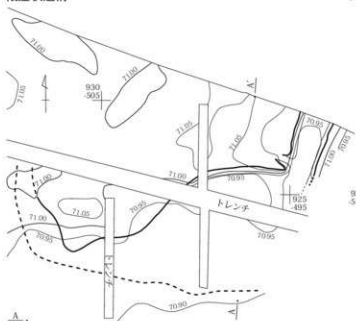
- 1 黒褐色土 暗褐色土を若干含む。



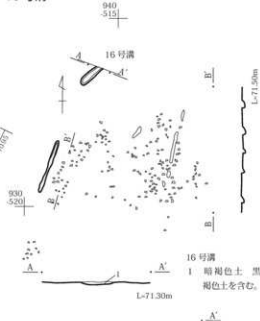
8号溝

- 1 黒褐色土 軽石と褐色土粒を少量含む。

段差状遺構



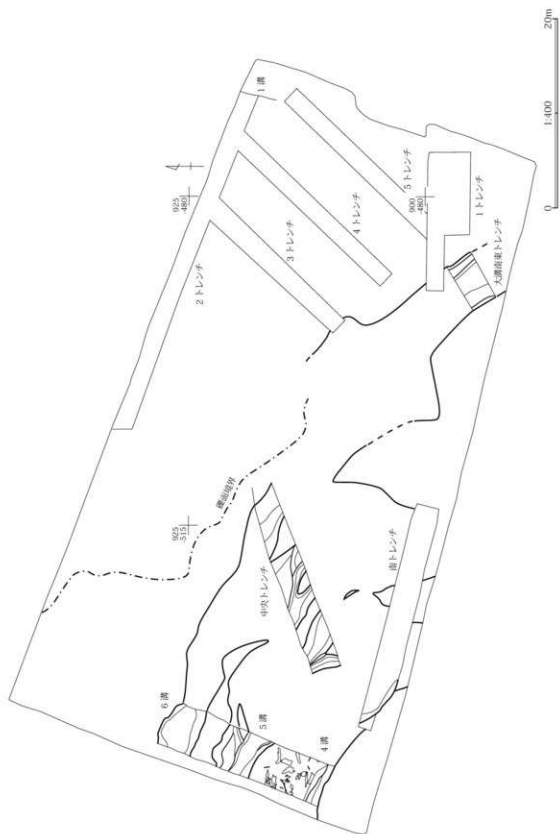
16号溝



16号溝

- 1 暗褐色土 黒褐色土を含む。

第14図 2区3・8・16・17号溝、耕作痕、段差状遺構



第15図 2区3面全体図



4～6号溝  
1 褐色褐色粘質土 白色軽石層 (H-FineAs-C) 少量含む。鉄分混入量多く、礫色味を帯びる。

2 暗褐色粘質土 白色軽石層 (H-FineAs-C) 多く含む。

3 暗褐色粘質土 白色軽石層 (H-FineAs-C) 少量含む。

4 暗褐色粘質土 砂アロック少量含む。

5 暗褐色粘質土 白色軽石層、砂多く含む。

6 暗褐色粘質土 白色軽石層多く含む。

7 暗褐色粘質土 白色軽石層層小に含む。黒色粘質土を含む。

8 暗褐色粘質土 白色軽石層層小に含む。

9 暗褐色粘質土 7層とは同し。

10 A-C 層

17 暗褐色粘質土 白色軽石少量含む。

18 暗褐色粘質土 白色軽石、砂多く含む。

19 暗褐色粘質土 白色軽石層小に含む。砂少量含む。

20 砂層

21 暗褐色粘質土 砂少量含む。

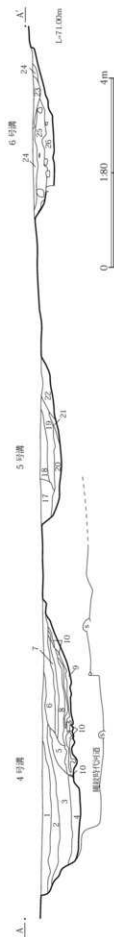
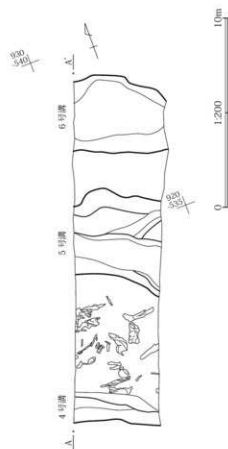
22 暗褐色粘質土

23 A-B 層

24 黒褐色粘質土 白色軽石少量含む。

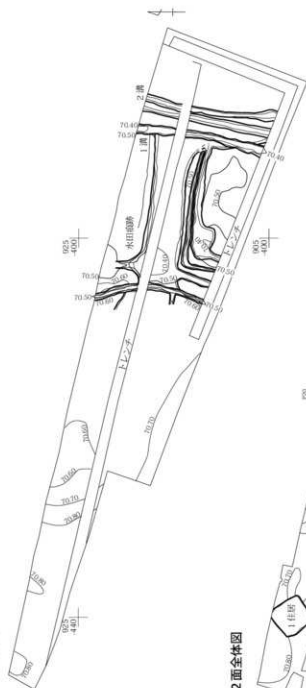
25 暗褐色粘質土 砂少量含む。

26 砂層 礫含む。少量含む。

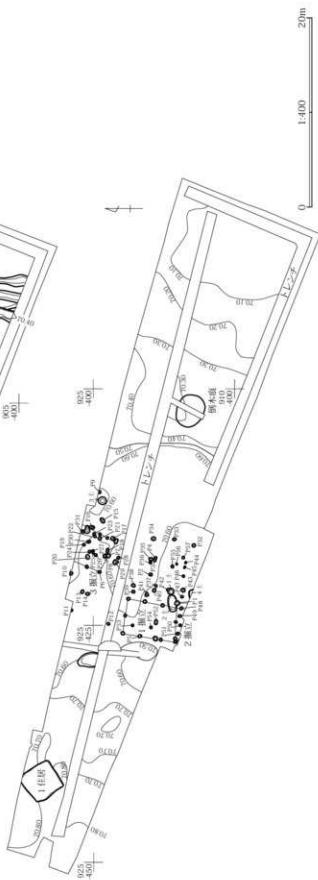


第16図 2区4～6号溝

3区第1面全体図



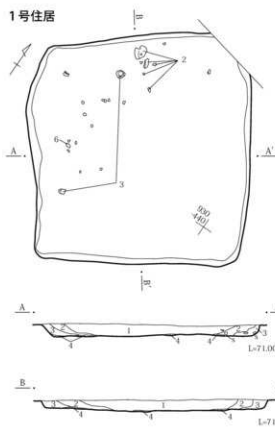
3区第2面全体図



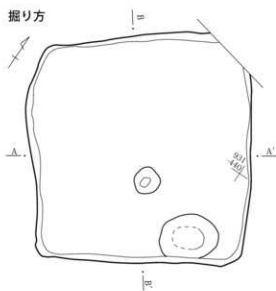
第17図 3区全体図



### 1号住居



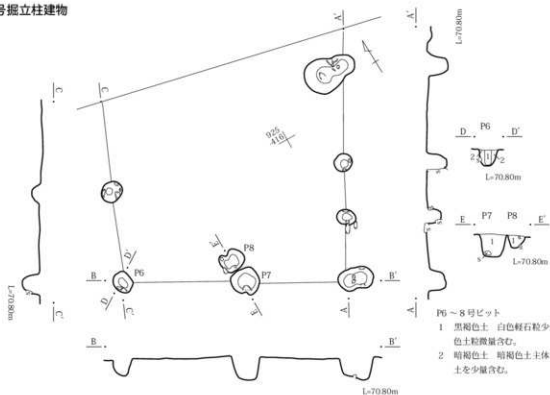
### 掘り方



#### 1号住居

- 1 黒褐色土 暗褐色土と白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色土と白色軽石を含む。
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土 黒褐色土を少量含む。(掘り方)

### 3号掘立柱建物

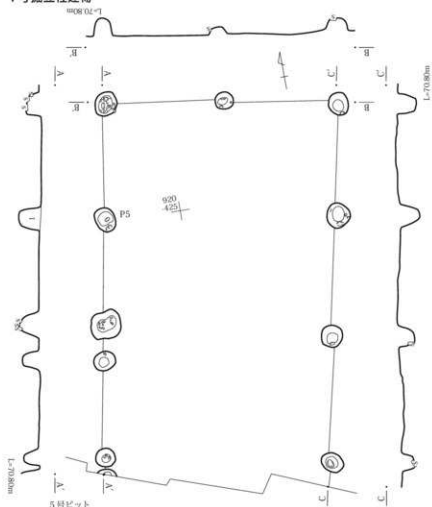


#### P6～8号ビット

- 1 黒褐色土 白色軽石少量、暗褐色土粒微量含む。
- 2 暗褐色土 暗褐色土主体で、1層土を少量含む。

第19図 3区1号住居・掘り方、3号掘立柱建物

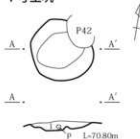
### 1号掘立柱建物



5号ピット

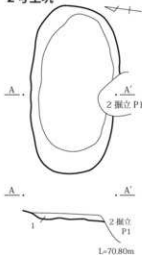
1 黒褐色土 白色軽石粒少量、暗褐色土粒微量含む。

### 1号土坑



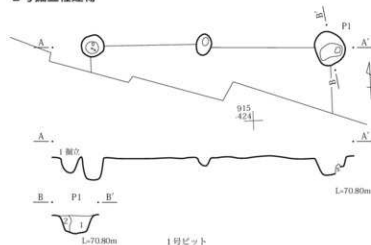
1 黒褐色土 白色軽石を微量含む。暗褐色土粒微量含む。

### 2号土坑



1 黒褐色土 白色軽石を微量含む。暗褐色土粒微量含む。

### 2号掘立柱建物



1号ピット

1 黒褐色土 白色軽石粒少量、暗褐色土粒微量含む。

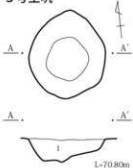
2 黒褐色土 白色軽石粒微量、暗褐色土粒少量含む。

1号ピット

1 黒褐色土 白色軽石粒少量、暗褐色土粒微量含む。

2 黒褐色土 白色軽石粒微量、暗褐色土粒少量含む。

### 3号土坑

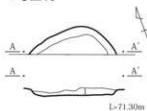


1 黒褐色土 褐色土粒を若干含む。



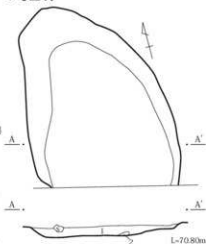
第20図 3区1・2号掘立柱建物、1～3号土坑

4号土坑



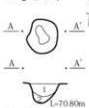
1 暗褐色土 白色軽石僅か、地山暗褐色土粒少量含む。

5号土坑

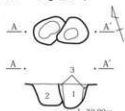


1 暗褐色土 暗褐色土と黒褐色土の混土。白色軽石を少量含む。しまりがなく、さらさらした土質。  
2 暗褐色土 1層よりも少ししまっている。

2号ビット



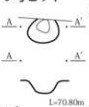
3・4号ビット



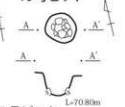
2~4号ビット

1 黒褐色土 白色軽石少量、暗褐色土粒微量含む。  
2 黒褐色土 白色軽石僅か、暗褐色土粒少量含む。  
3 暗褐色土 暗褐色土主体で、1層土を少量含む。

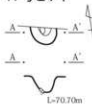
9号ビット



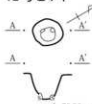
10号ビット



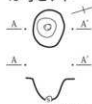
11号ビット



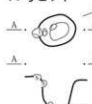
12号ビット



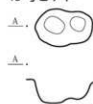
13号ビット



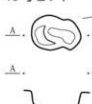
14号ビット



15号ビット



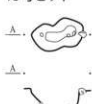
16号ビット



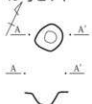
17号ビット



18号ビット



19号ビット



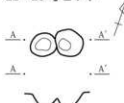
20号ビット



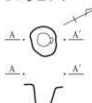
21号ビット



22・23号ビット



24号ビット



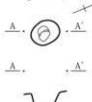
25号ビット



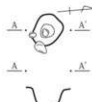
26号ビット



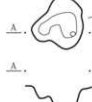
27号ビット



28号ビット



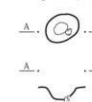
29号ビット



30号ビット



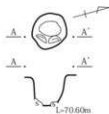
31号ビット



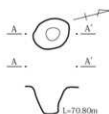
0 1:40 2m

第21図 3区4・5号土坑、2~4・9~31号ビット

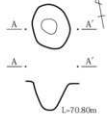
32号ビット



33号ビット



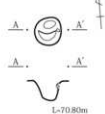
34号ビット



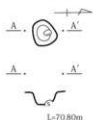
35号ビット



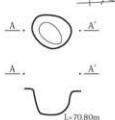
36号ビット



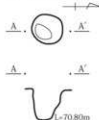
37号ビット



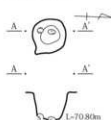
38号ビット



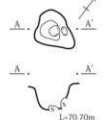
39号ビット



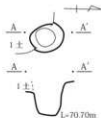
40号ビット



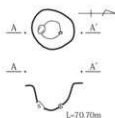
41号ビット



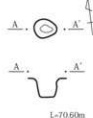
42号ビット



43号ビット



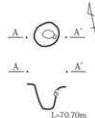
44号ビット



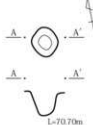
45号ビット



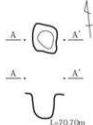
46号ビット



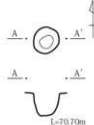
47号ビット



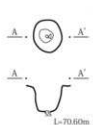
49号ビット



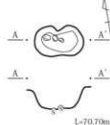
50号ビット



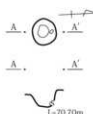
51号ビット



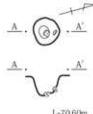
52号ビット



53号ビット



54号ビット



55号ビット



56号ビット



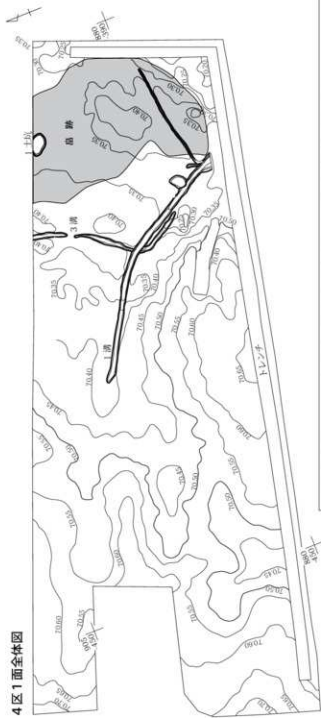
57号ビット



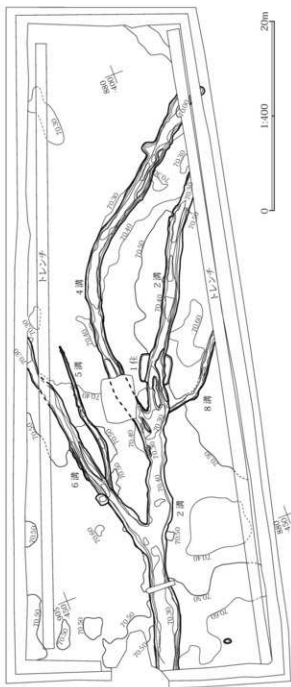
0 1:40 2m

第22図 3区32～47・49～57号ビット

4区1面全体図



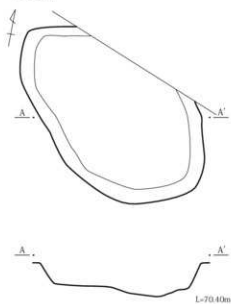
4区2面全体図



第23圖 4区全体図



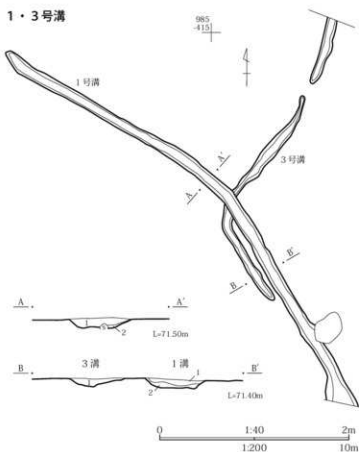
### 1号土坑



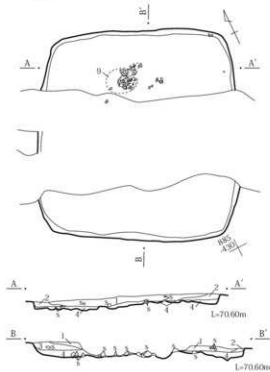
### 1・3号溝

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む砂質土。
- 2 暗褐色土 As-Bを少量含む粘質土。

### 1・3号溝



### 1号住居



### 掘り方

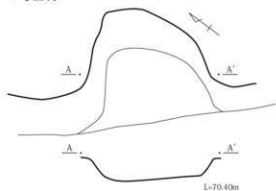


### 1号住居

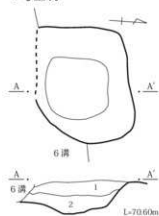
- 1 黒褐色土 白色軽石、黄褐色土粒を多量含む。
- 2 黒褐色土 白色軽石、黄褐色土粒、ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石を少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む。(掘り方)

第24図 4区1号土坑、1・3号溝、1号住居・掘り方

2号土坑



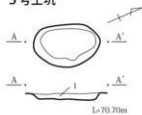
3号土坑



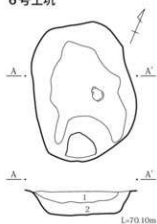
4号土坑



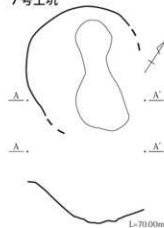
5号土坑



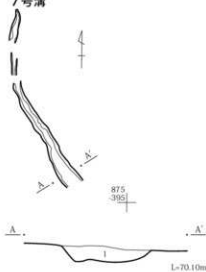
6号土坑



7号土坑



7号溝



3号土坑

1 暗褐色土 白色軽石少量、ローム粒微量含む。

2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

4号土坑

1 褐灰色土 白色軽石少量、砂、黄褐色土粒微量含む粘質土。

2 褐灰色土 白色軽石微量、砂と暗褐色土粒主体。

5号土坑

1 黒褐色土 白色軽石、黄褐色土粒少量含む。

6号土坑

1 黒褐色土 褐色土粒少量、白色微量含む粘質土。

2 黒褐色土 褐色土粒少量含む粘質土。

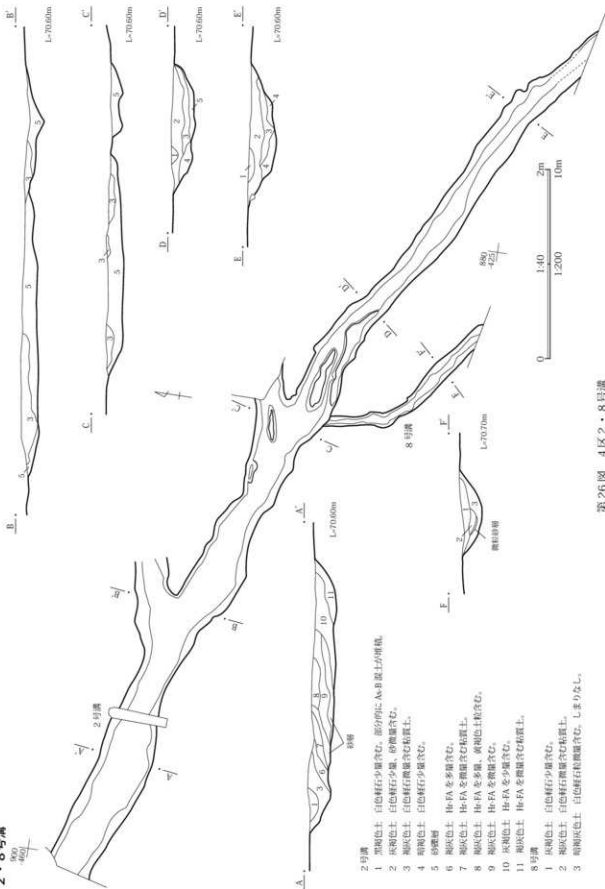
7号溝

1 砂層 黄褐色土砂粒主体、褐灰色粘質土ブロック少量含む。



第25図 4区2～7号土坑、7号溝

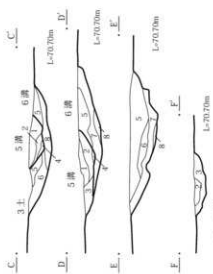
2・8号溝



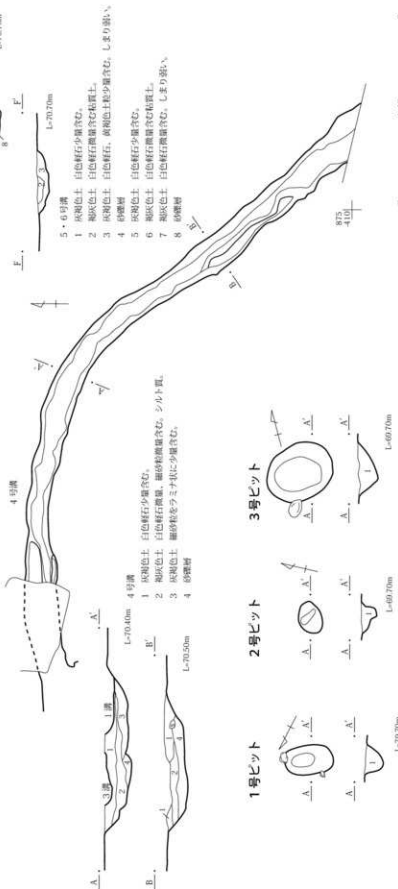
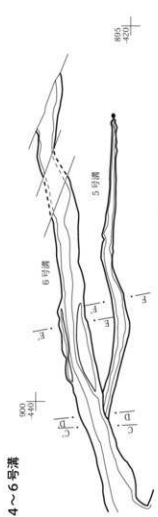
- 2号溝  
 1 灰褐色土 白色軽石少量含む、部分内にA・B混土が埋積。  
 2 灰褐色土 白色軽石少量、砂礫層含む。  
 3 灰褐色土 白色軽石少量含む粘層土。  
 4 暗褐色土 白色軽石少量含む。  
 5 砂礫層  
 6 灰褐色土 Hc-FAを多量含む。  
 7 灰褐色土 Hc-FAを微量含む粘層土。  
 8 灰褐色土 Hc-FAを多量、礫褐色土粘含む。  
 9 灰褐色土 Hc-FAを微量含む。  
 10 灰褐色土 Hc-FAを少量含む。  
 11 灰褐色土 Hc-FAを微量含む粘層土。  
 8号溝  
 1 灰褐色土 白色軽石少量含む。  
 2 灰褐色土 白色軽石少量含む粘層土。  
 3 暗褐色土 白色軽石少量含む、しまりなし。

第26図 4区2・8号溝

4～6号溝

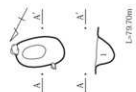


- 5・6号溝
- 1 灰褐色土 白色軽石少量含む。
  - 2 褐色土 白色軽石微量含む粘質土。
  - 3 灰褐色土 白色軽石、黄褐色土粒少量含む、しまり強い。
  - 4 砂礫層
  - 5 灰褐色土 白色軽石少量含む。
  - 6 褐色土 白色軽石微量含む粘質土。
  - 7 灰褐色土 白色軽石微量含む、しまり強い。
  - 8 砂礫層

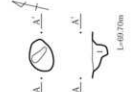


- 4号溝
- 1 灰褐色土 白色軽石少量含む。
  - 2 褐色土 白色軽石微量、細砂粒層を含む、シルト質。
  - 3 灰褐色土 細砂粒をツミヤ状に少量含む。
  - 4 砂礫層

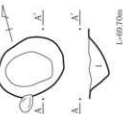
1号ビット



2号ビット

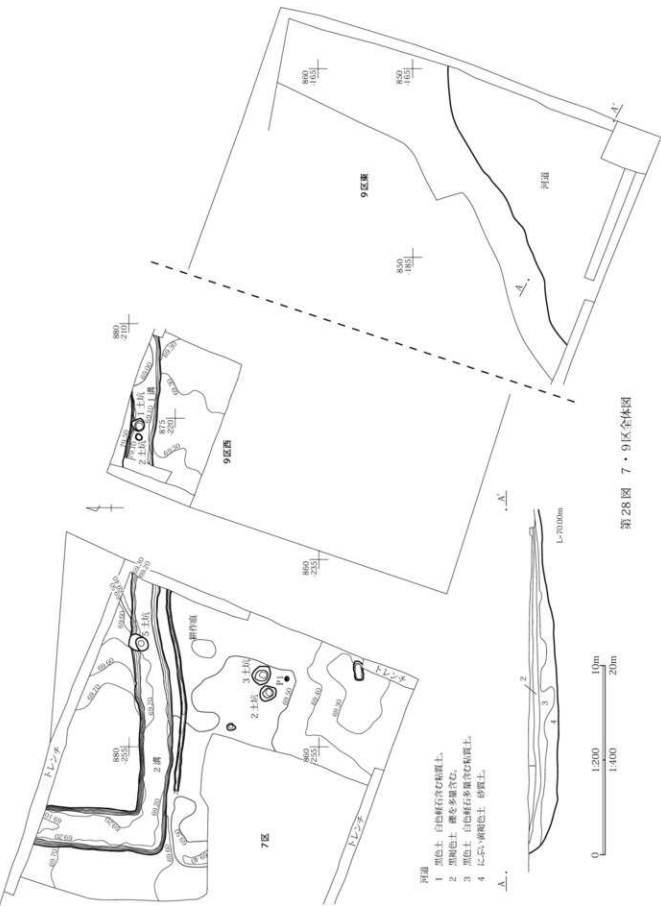


3号ビット



第27図 4区4～6号溝、1～3号ビット

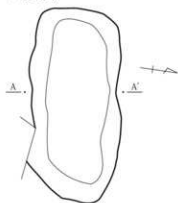
7・9区全体図



- 河川  
 1 黒色土 白色層を含む粘質土。  
 2 黒褐色土 礫多量を含む。  
 3 黒色土 白色層が多量を含む粘質土。  
 4 灰白・黄褐色土 砂質土。

第28図 7・9区全体図

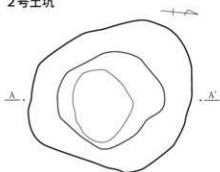
1号土坑



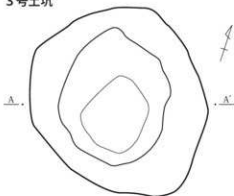
1号土坑

- 1 黒色土 As-Cを少量含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色土含む。

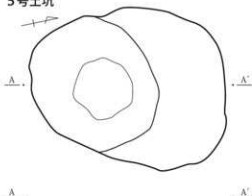
2号土坑



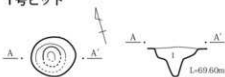
3号土坑



5号土坑

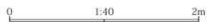


1号ビット

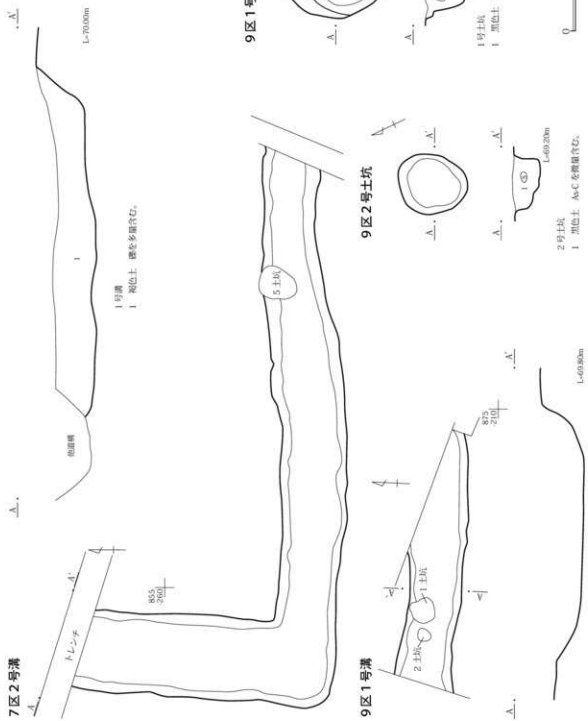


1号ビット

- 1 黒褐色土 黄褐色土少量含む。



第29図 7区1～3・5号土坑、1号ビット



第30图 7区2号溝、9区1号溝、1・2号土坑



第31図 11区全体図



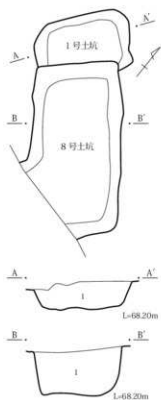


第32図 11区段差状遺構、1号土坑、1号溝

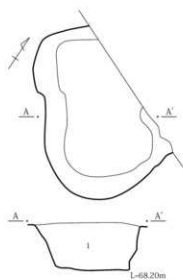


第33圖 12区全体図

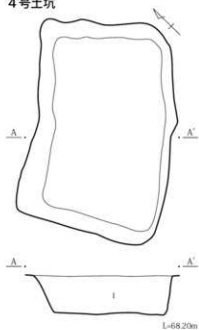
1·8号土坑



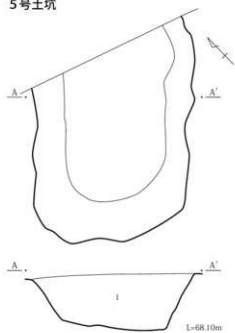
2号土坑



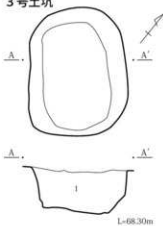
4号土坑



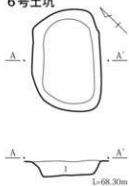
5号土坑



3号土坑



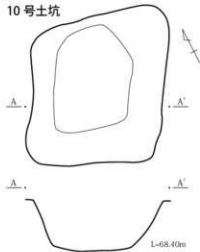
6号土坑



9号土坑



10号土坑



1~5号土坑

1 褐灰色土 As-B 混土、砂质、人为的埋土。

6·9号土坑

1 褐灰色土 As-B 混土、砂质。

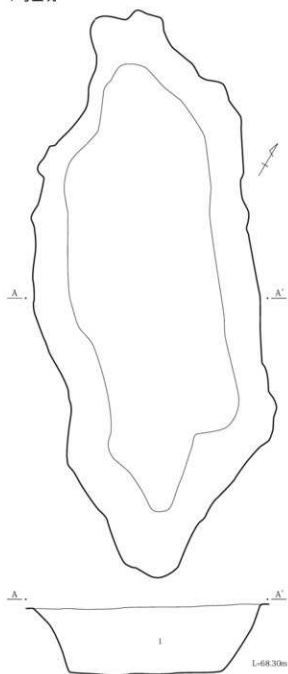
8号土坑

1 褐灰色土 As-B 混土、粘质、人为的埋土。

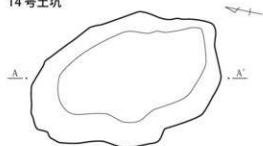
0 1:40 2m

第34图 12区1~6·8~10号土坑

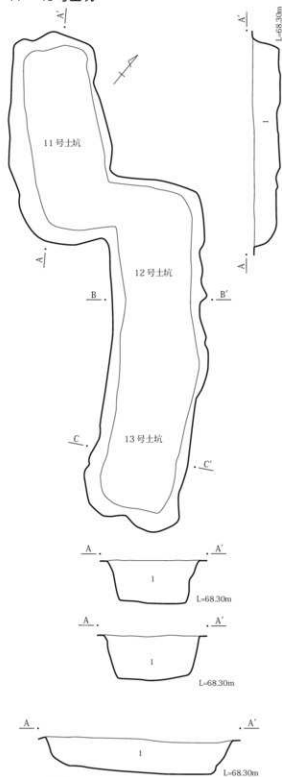
7号土坑



14号土坑



11~13号土坑

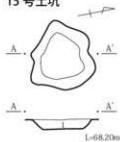


- 7号土坑  
 I 褐灰色土 As-B 混土、砂质。  
 11~14号土坑  
 I 褐灰色土 As-B 混土、粘质、人为的埋土。

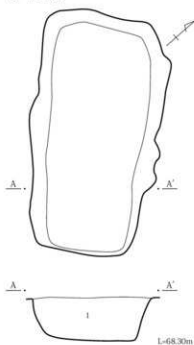
0 1:40 2m

第35图 12区7·11~14号土坑

15号土坑



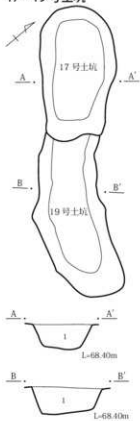
16号土坑



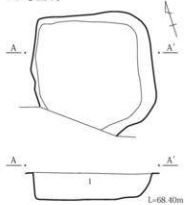
20·21号土坑



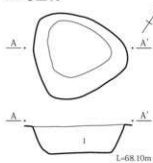
17·19号土坑



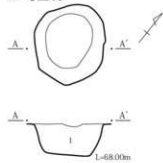
18号土坑



22号土坑



23号土坑

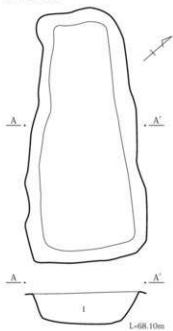


- 15·17~19号土坑  
 1 褐灰色土 As-B 混土。  
 16号土坑  
 1 褐灰色土 As-B 混土, 粘质, 人为的埋土。  
 20~23号土坑  
 1 褐灰色土 As-B 混土, 人为的埋土。

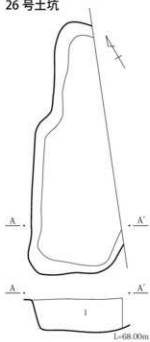
第36图 12区15~23号土坑

0 1:40 2m

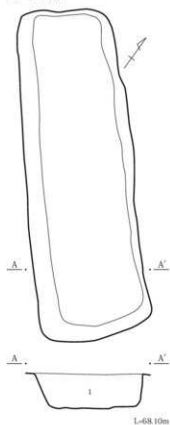
24号土坑



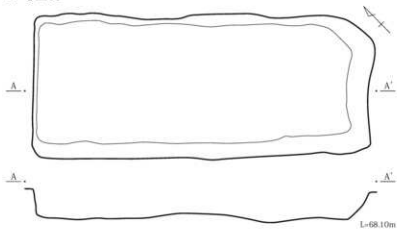
26号土坑



25号土坑



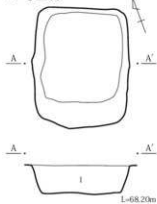
27号土坑



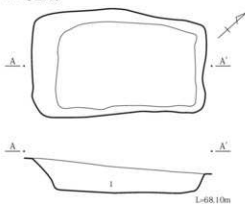
28号土坑



29号土坑



32号土坑



24号土坑

1 褐灰色土 As-B混土, 人为的埋土。

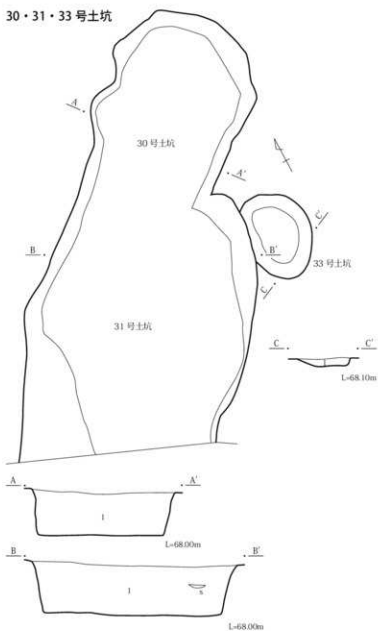
25~29、32号土坑

1 褐灰色土 As-B混土。

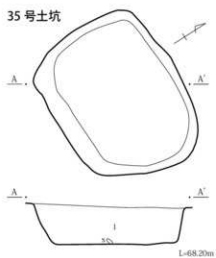
第37图 12区24~29、32号土坑

0 1:40 2m

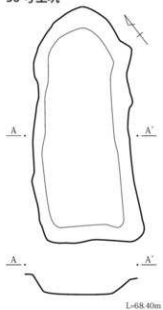
30·31·33号土坑



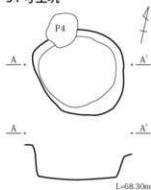
35号土坑



36号土坑

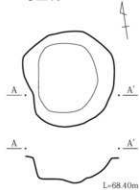


34号土坑



30·31号土坑  
1 褐灰色土 As-B层土、人高的埋土。

37号土坑



33·35·38号土坑  
1 褐灰色土 As-B层土。

38号土坑



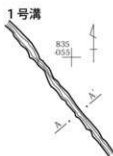
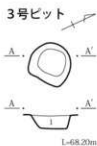
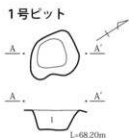
0 1:40 2m

第38图 12区30·31·33~38号土坑

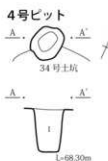


第 39 图 12 区 39 ~ 47 · 49 号土坑





1号溝  
1 に近い黄褐色土 As-B 混土、純層に近い。

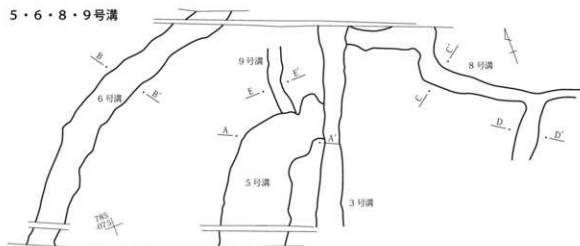


1・3・4号ビット  
1 褐色土 As-B 混土。



7号溝  
1 褐色土 粘質。

**5・6・8・9号溝**

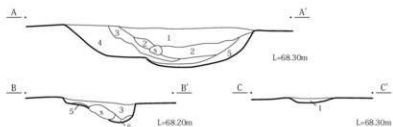
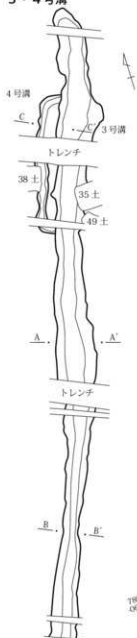


5・6・8・9号溝  
1 褐色土 As-A を少量含む砂質土。  
2 褐色土 As-A を含む粘質土。



第40図 12区1・3・4号ビット、1・5～9号溝

### 3・4号溝



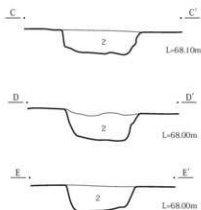
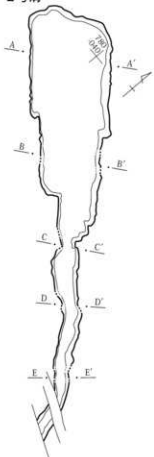
#### 3号溝

- 1 褐灰色土 As-B 混土。
- 2 褐灰色土 As-B 混土、粘質。
- 3 褐灰色土 砂質。
- 4 灰黄褐色土 粘質。
- 5 黒褐色土 粘質。

#### 4号溝

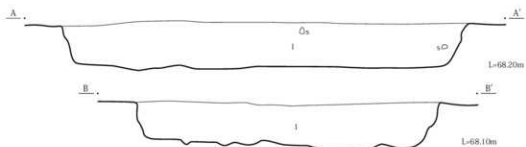
- 1 褐灰色土 As-B 混土、褐灰粘質土ブロック含む。

### 2号溝



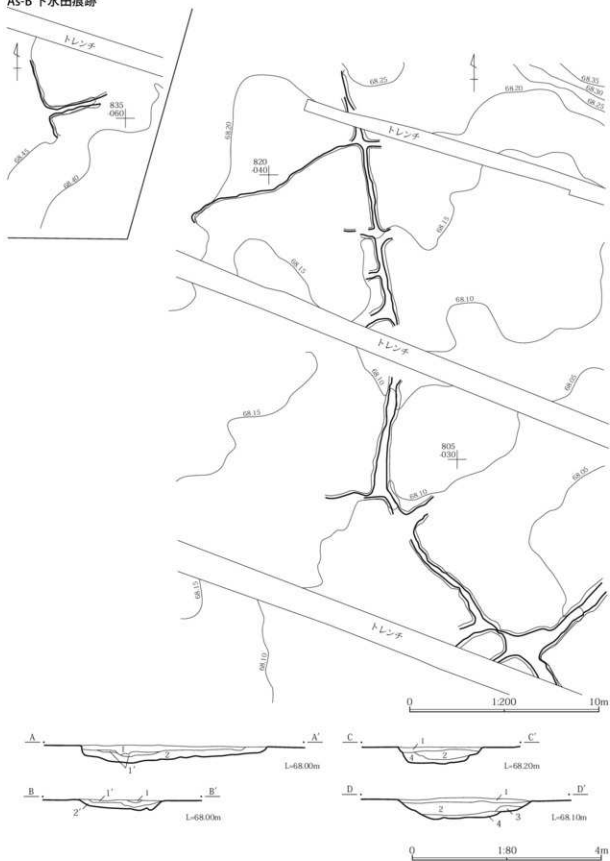
#### 2号溝

- 1 褐灰色土 As-B 混土、砂質。
- 2 褐灰色土 黒褐色粘質土を多量含む。

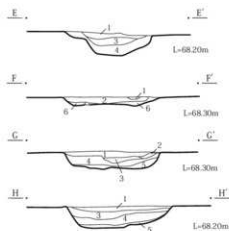
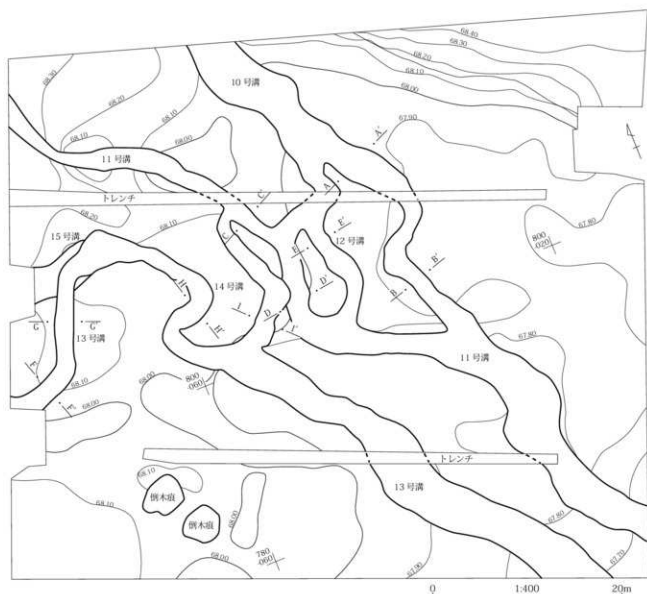


第41図 12区2～4号溝

As-B 下水田痕跡



第42図 12区As-B下水田痕跡、10・11号溝



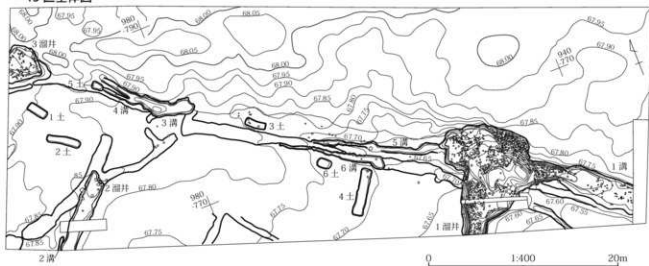
10～14号溝

- 1 黒褐色土 Hr-FA, As-C, 砂粒ブロック少量含む, 粘質。
- 2 灰黄褐色土 砂粒。
- 3 黒褐色土 粘質。
- 4 黒褐色土 砂粒を多量含む, やや粘質。
- 5 褐色土 砂粒を多量含む, やや粘質。
- 6 黒褐色土 礫を少量含む, 粘質。

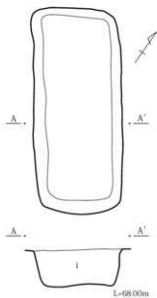


第43図 12区10～15号溝

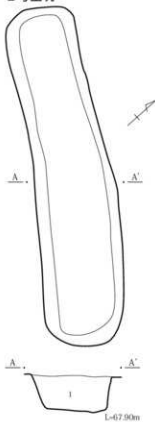
13区全体图



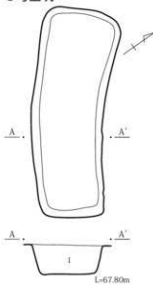
1号土坑



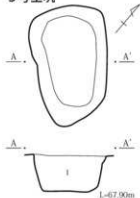
2号土坑



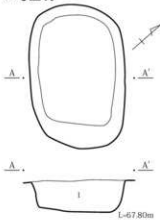
3号土坑



5号土坑



6号土坑



1~3号土坑

1 褐灰色土 As-B 混土。人为的埋土。褐灰粘質土含砂。

5号土坑

1 褐灰色土 人为的埋土。

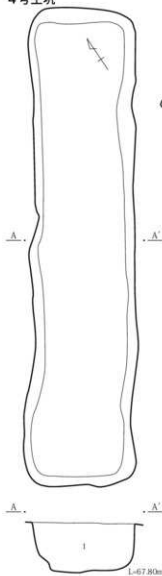
6号土坑

1 褐灰色土 As-B 混土。人为的埋土。黑色粘質土含砂。

0 1:40 2m

第44图 13区全体图、1~3·5·6号土坑

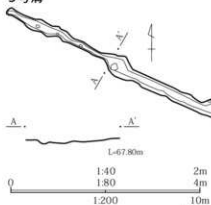
### 4号土坑



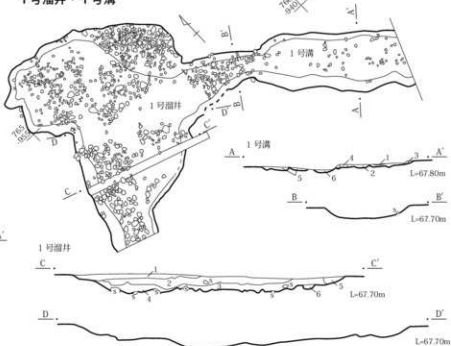
### 4号土坑

1 褐灰色土 As-B 混土。人為的埋土。黑色粘質土含む。

### 5号溝



### 1号溜井・1号溝



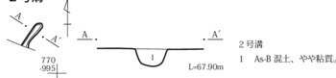
### 1号溝

- 1 褐灰色土 やや粘質。礫を含む。
- 2 褐灰色土 礫を多量含む砂質土。
- 3 褐灰色土 砂粒を多量含む。
- 4 褐灰色土 砂粒を多量含む砂質土。
- 5 褐灰色土 粘質土ブロック少量含む。
- 6 褐灰色土 礫を多量含む。

### 1号溜井

- 1 灰黄褐色土 As-B 混土。やや粘質。
- 2 褐灰色土 As-B 混土。礫少量含む。
- 3 灰黄褐色土 砂質土。
- 4 褐灰色土 やや粘質。
- 5 褐灰色土 砂質土。
- 6 灰黄褐色土 砂質土。

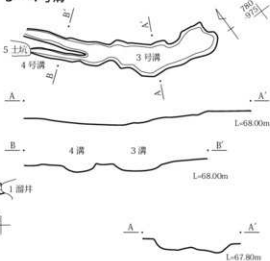
### 2号溝



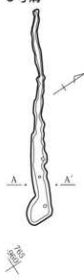
### 2号溝

- 1 As-B 混土。やや粘質。

### 3・4号溝

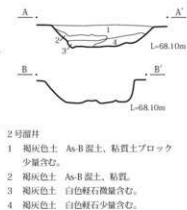
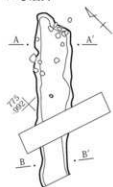


### 6号溝



第45図 13区4号土坑、1~6号溝、1号溜井

2号溜井



2号溜井

- 1 褐灰色土 As-B 泥上、粘質土ブロック少量含む。
- 2 褐灰色土 As-B 泥上、粘質。
- 3 褐灰色土 白色軽石微量含む。
- 4 褐灰色土 白色軽石少量含む。

3号溜井

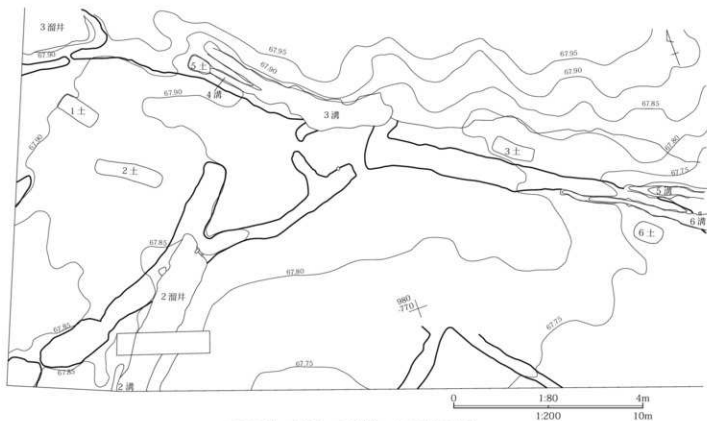
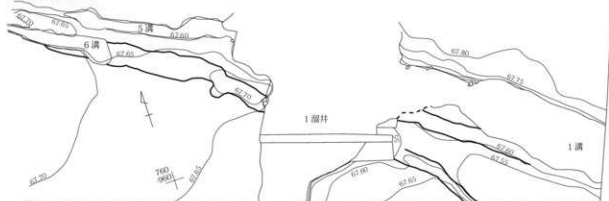


3号溜井

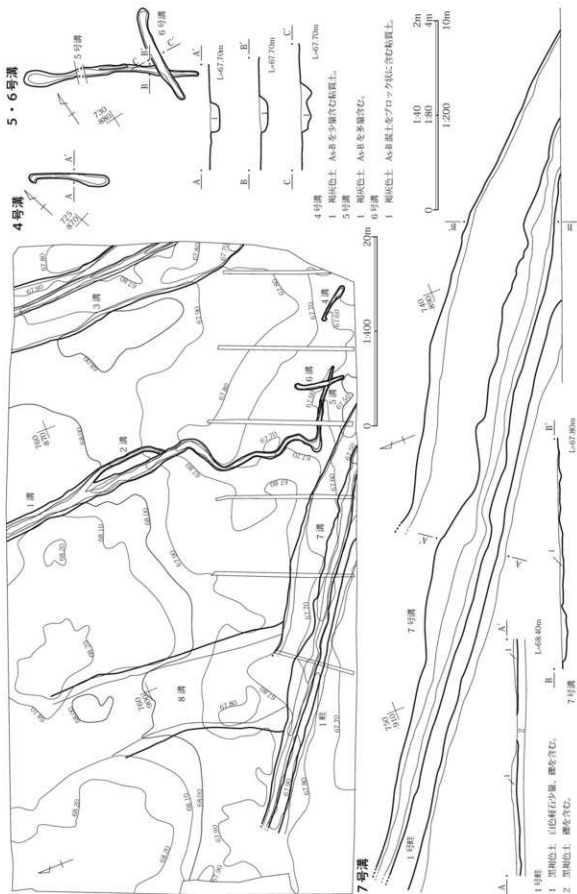
- 1 灰黄褐色土 砂質土。
- 2 黒褐色土 礫を少量含む。
- 3 褐灰色土 礫を少量含む砂質土。
- 4 黒褐色土 粘質土。
- 5 黒褐色土 やや粘性あり、礫を少量含む。
- 6 褐灰色土 礫を多量含む砂質土。



As-B 下水田痕跡

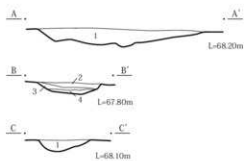
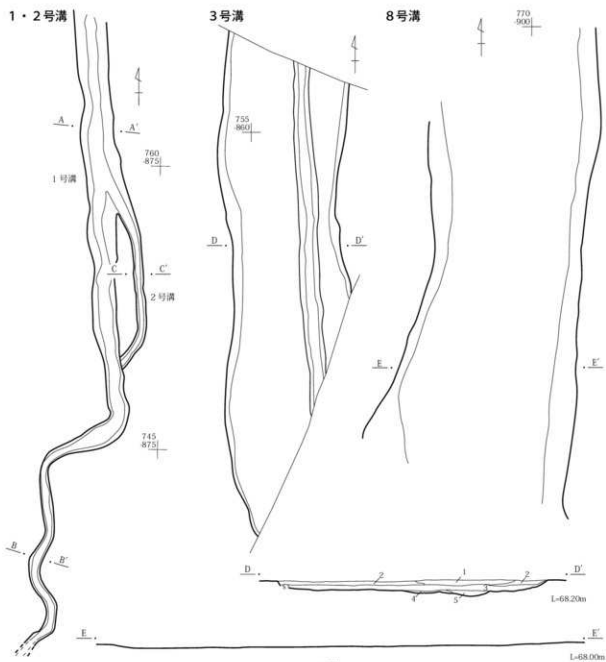


第46図 13区2・3号溜井、As-B下水田痕跡



第47図 14区全体図、4～7号溝、1号柱





1号溝

- 1 灰黄褐色土 やや砂質。
- 2 褐色土 白色軽石少量含む。
- 3 褐色土 白色軽石含む粘質土。
- 4 褐色土 砂質。

2号溝

- 1 褐色土 礫を多量、褐色土粒少量含む。

3号溝

- 1 暗褐色土 礫少量、黒褐色土をブロック状に含む。
- 2 灰黄褐色土 小礫、砂粒少量含む。
- 3 灰黄褐色土 小礫を含む。
- 4 暗褐色土 礫を含む、粘性強い。
- 5 褐色土 砂粒を含む、流水の痕跡あり。

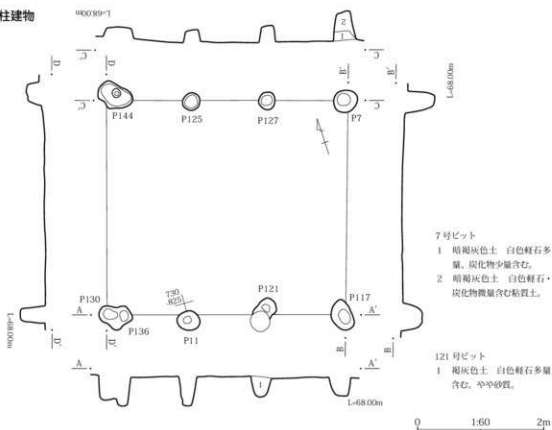


第48図 14区1～3・8号溝

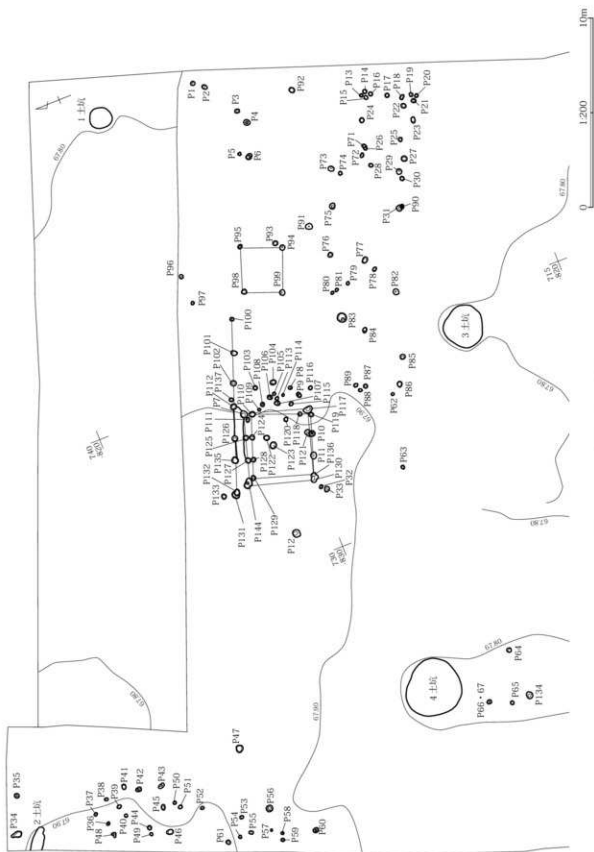
15区1・2面全体図



1号掘立柱建物

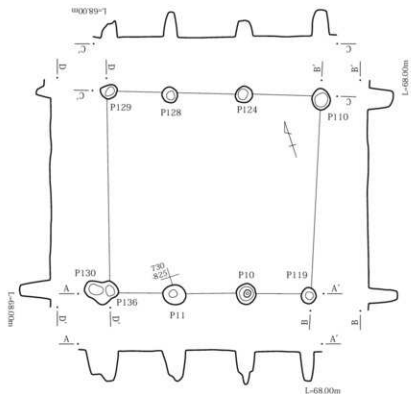


第49図 15区1・2面全体図、1号掘立柱建物

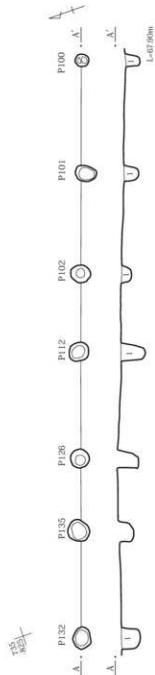


第50図 15区土坑、ビット全体図

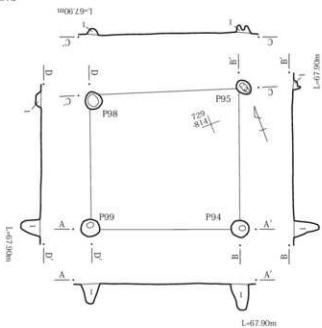
2号掘立柱建物



1号櫓列



3号掘立柱建物

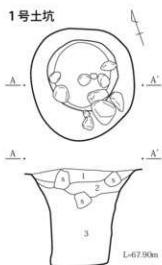


3号掘立柱建物 94・95・98・99号ビット  
 1号櫓列 100～102・112・132号ビット  
 1 層灰土 白色軽石多量含む砂質土。



第51図 15区2・3号掘立柱建物、1号櫓列

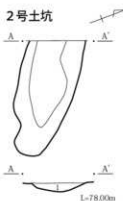
1号土坑



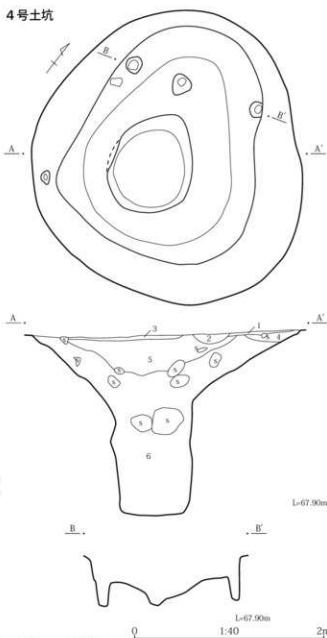
1号土坑

- 1 灰黄褐色土 粘質土と砂の混土。
- 2 灰黄褐色土 粘質土主体。
- 3 褐灰色土 粘質土主体で砂粒を微細含む。

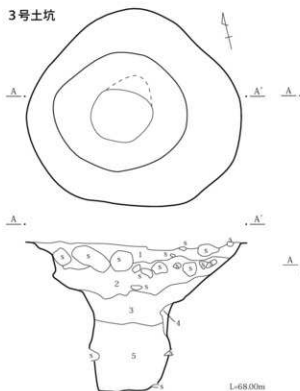
2号土坑



4号土坑



3号土坑



3号土坑

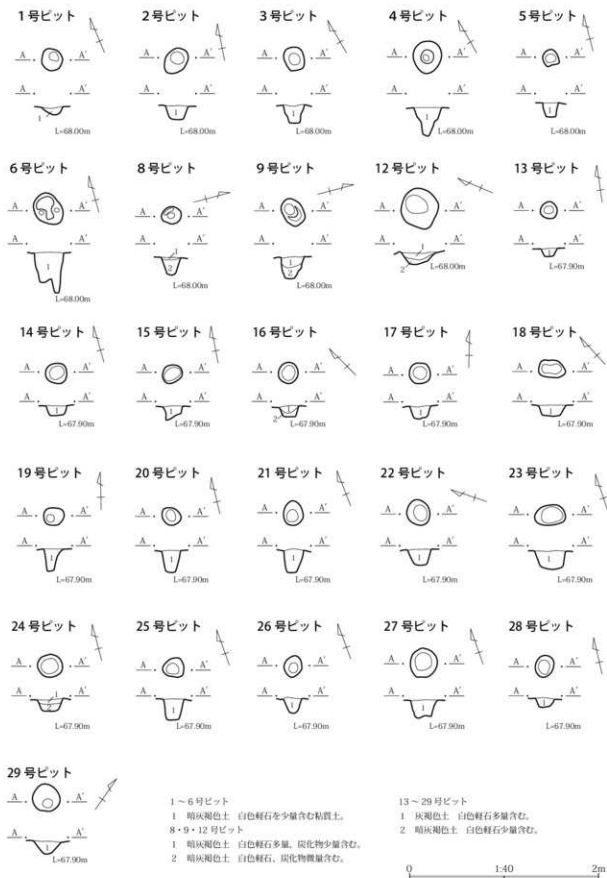
- 1 褐灰色土 白色軽石を多量含む砂質土。20～50cm大の礫を含む。
- 2 褐灰色土 白色軽石を少量含む砂質土。10～20cm大の礫を含む。
- 3 褐灰色土 やや砂質。小礫を含む。
- 4 褐灰色土 粘質土。
- 5 黒褐色土 白色軽石微細含む。

4号土坑

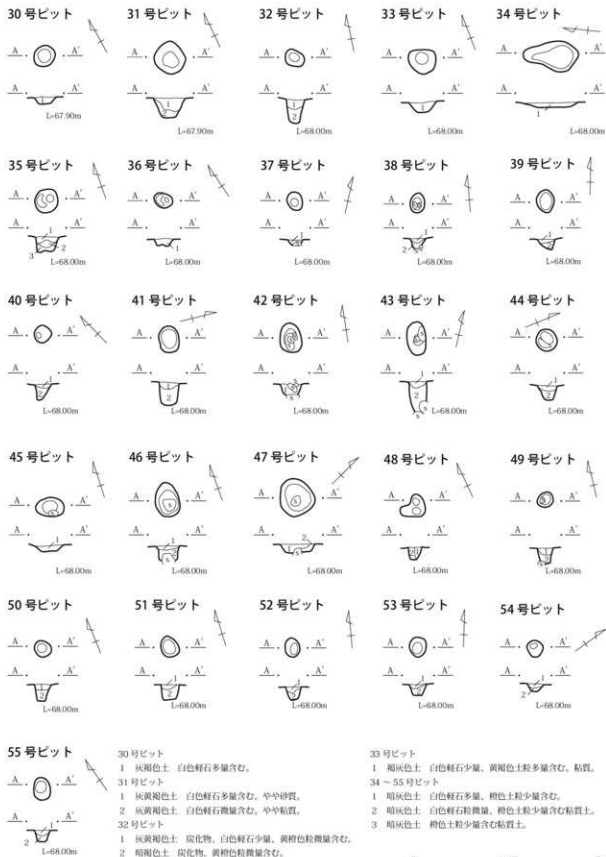
- 1 灰黄褐色土 白色軽石を多量含む。やや砂質。
- 2 褐灰色土 白色軽石を少量含む。やや粘質。
- 3 褐灰色土 やや粘質。
- 4 褐灰色土 白色軽石を多量含む。やや粘質。
- 5 褐灰色土 30～50cm大の礫を多量含む。
- 6 黒褐色土 20～50cm大の礫を多量含む粘質土。

第52図 15区1～4号土坑

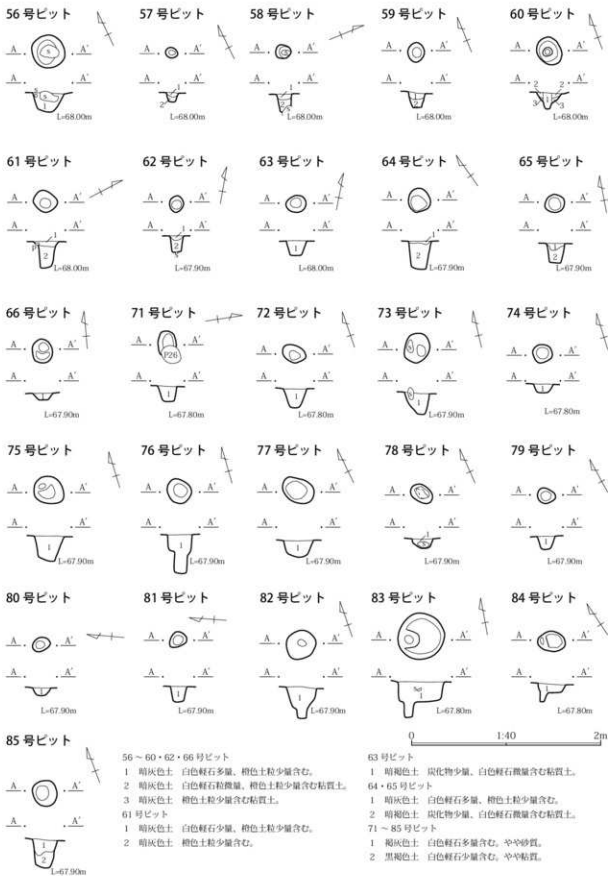
0 1:40 2m



第53図 15区1～6・8・9・12～29号ビット

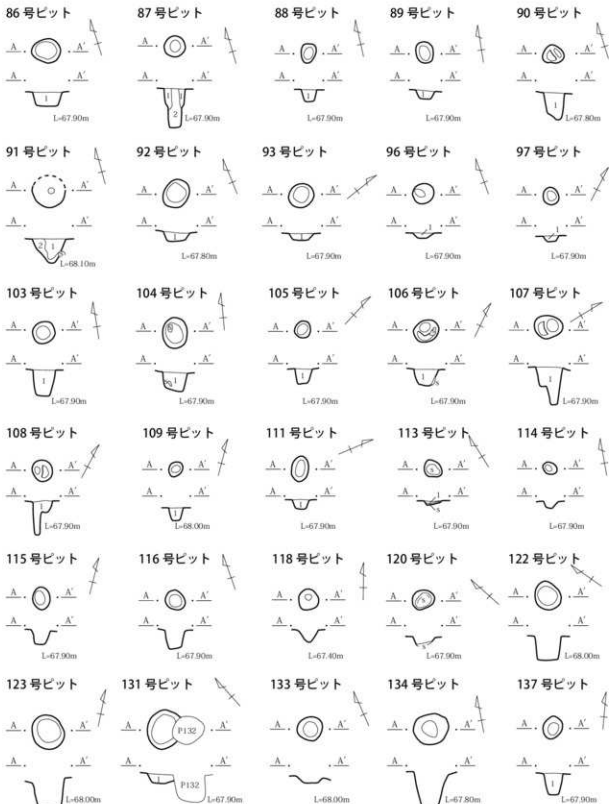


第54図 15区30～55号ビット



第55図 15区56・71～85号ビット





86・88～90・92・93・96・97・103～109・  
111・113・131・137号ビット

1 褐灰色土 白色軽石多量含む。やや砂質。

2 黒褐色土 白色軽石少量含む。やや粘質。

87号ビット

1 褐灰色土 白色軽石多量含む。やや砂質。

2 褐灰色土 白色軽石微量含む。やや粘質。

91号ビット

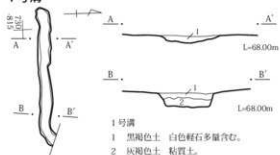
1 褐灰色土 白色軽石少量含む。

2 褐灰色土 明黄褐色粘質土を多量含む。



第56図 15区 86～93・96・97・103～109・111・113～116・118・120・122・123・131・133・134・137号ビット

### 1号溝



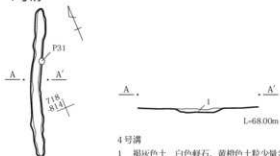
- 1号溝  
1 黒褐色土 白色軽石多量含む。  
2 灰褐色土 粘質土。

### 2号溝



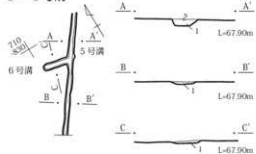
- 2号溝  
1 灰褐色土 白色軽石少量、炭化物微量含む。

### 4号溝



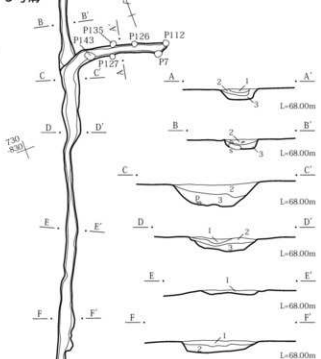
- 4号溝  
1 灰褐色土 白色軽石、黄褐色土粒少量含む。やや砂質。

### 5・6号溝



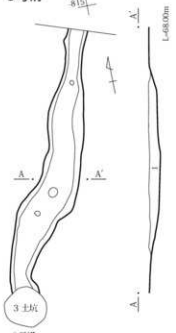
- 5・6号溝  
1 黄褐色土 白色軽石、明黄褐色土粒少量含む。やや砂質。

### 3号溝



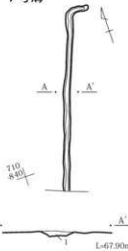
- 3号溝  
1 灰褐色土 白色軽石微量含む粘質土。  
2 灰黄褐色土 白色軽石少量含む。やや砂質。  
3 灰褐色土 白色軽石、小礫を少量含む砂質土。

### 8号溝



- 8号溝  
1 灰褐色土 白色軽石少量、炭微量含む。やや砂質。

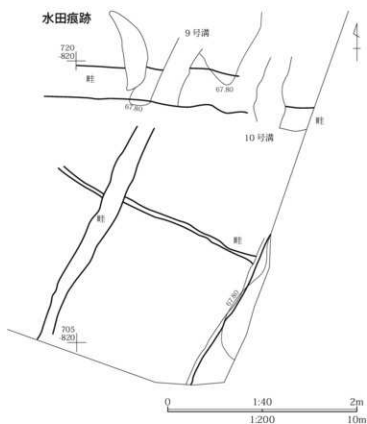
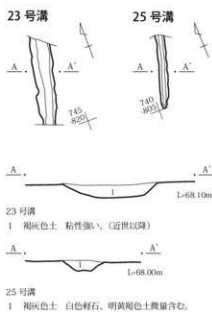
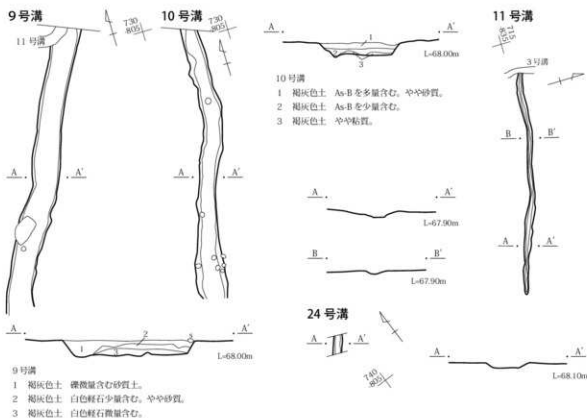
### 7号溝



- 7号溝  
1 灰黄褐色土 白色軽石少量含む。やや粘質。

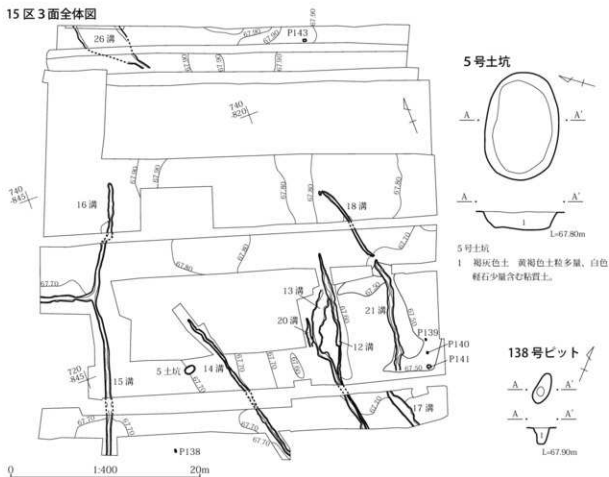


第57図 15区1~8号溝

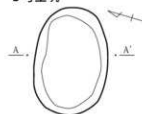


第58図 15区9～11・23～25号溝、水田痕跡

15区3面全体図



5号土坑



5号土坑  
1 褐灰色土 黄褐色土粒多量、白色軽石少量含む粘質土。

138号ピット



12・13・20号溝



139号ピット



140号ピット



141号ピット



143号ピット



138号ピット

1 黒褐色土 Hr-FAを少量含む粘質土。

139～141号ピット

1 褐灰色土 白色軽石少量含む。

143号ピット

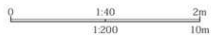
1 褐灰色土 Hr-FAを少量含む。やや砂質。

12・13号溝

1 褐灰色土 白色軽石多量含む。砂質。

2 褐灰色土 砂質。しまりあり。

3 褐灰色土 白色軽石少量含む。砂質。

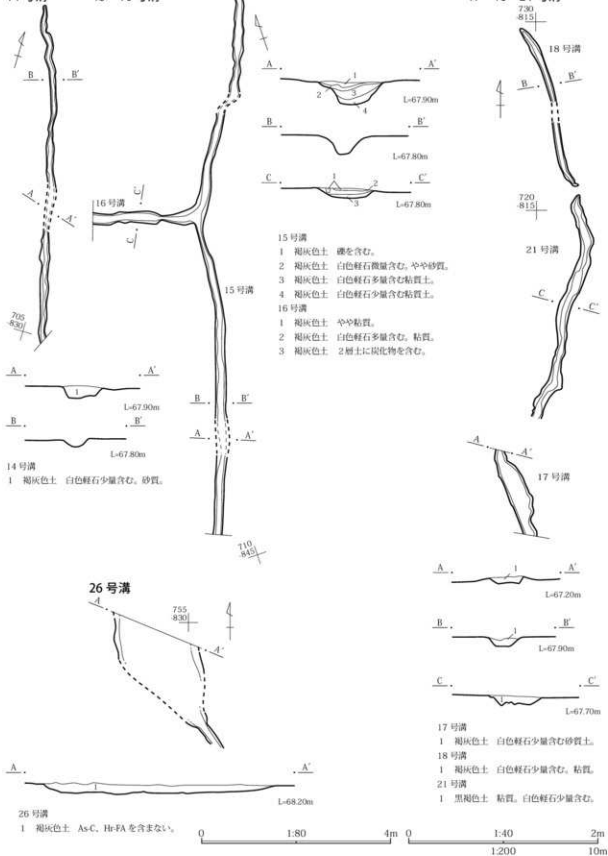


第59図 15区3面全体図、5号土坑、12・13・20号溝、138～141・143号ピット

14号溝

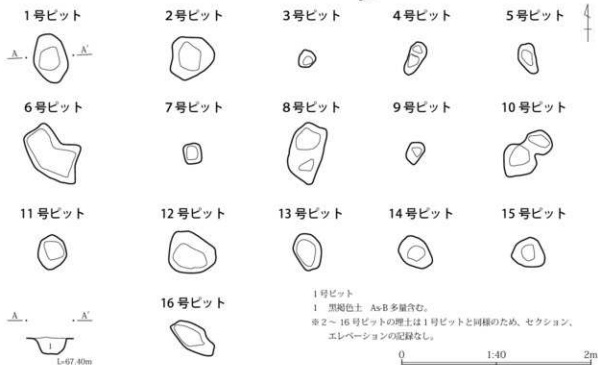
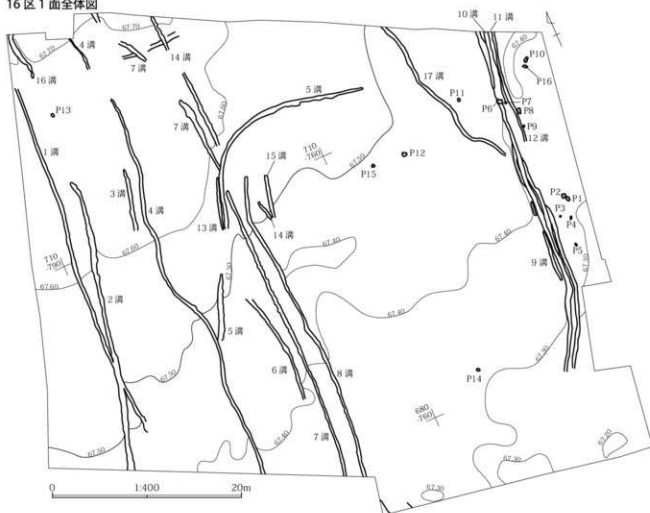
15・16号溝

17・18・21号溝

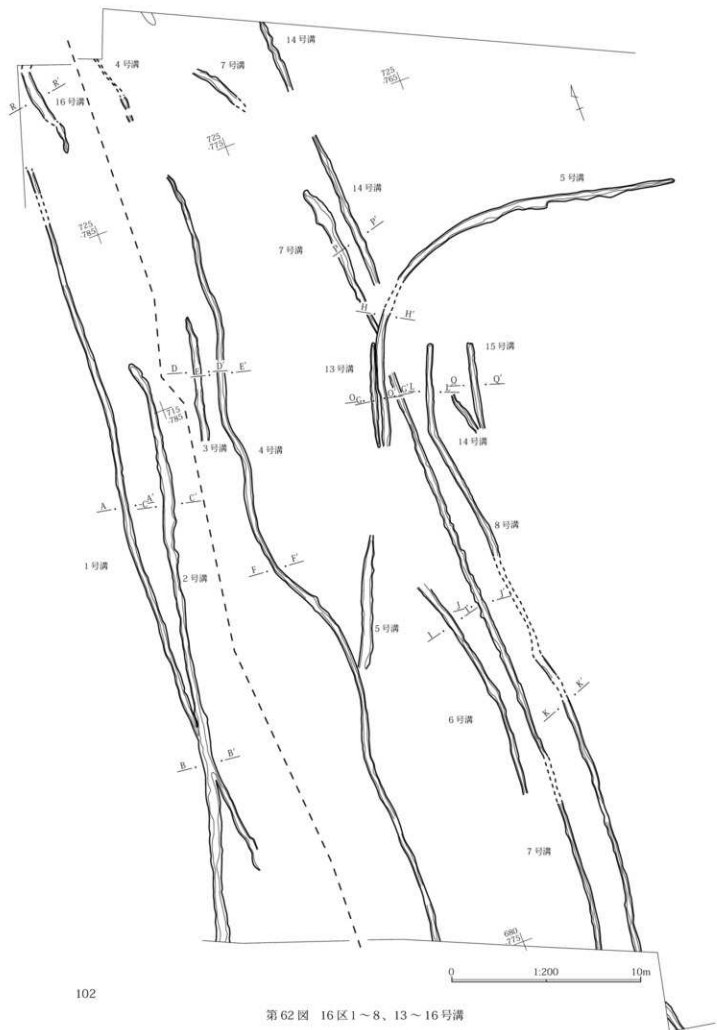


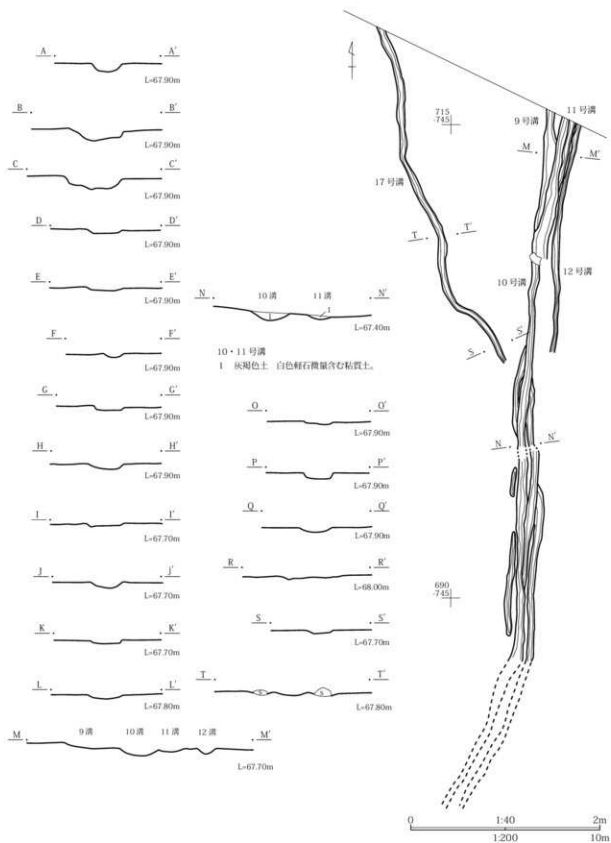
第60図 15区 14～18・21・26号溝

# 16区1面全体図



第 61 図 16区1面全体図、1～16号ビット

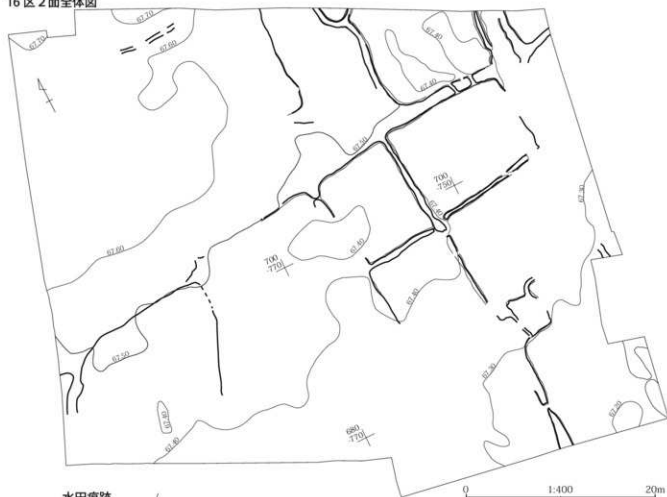




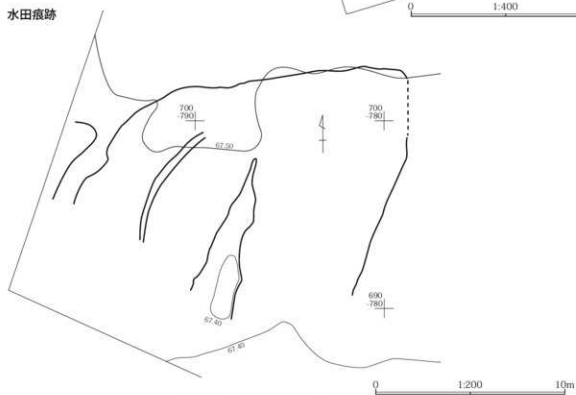
第63图 16区1~17号溝



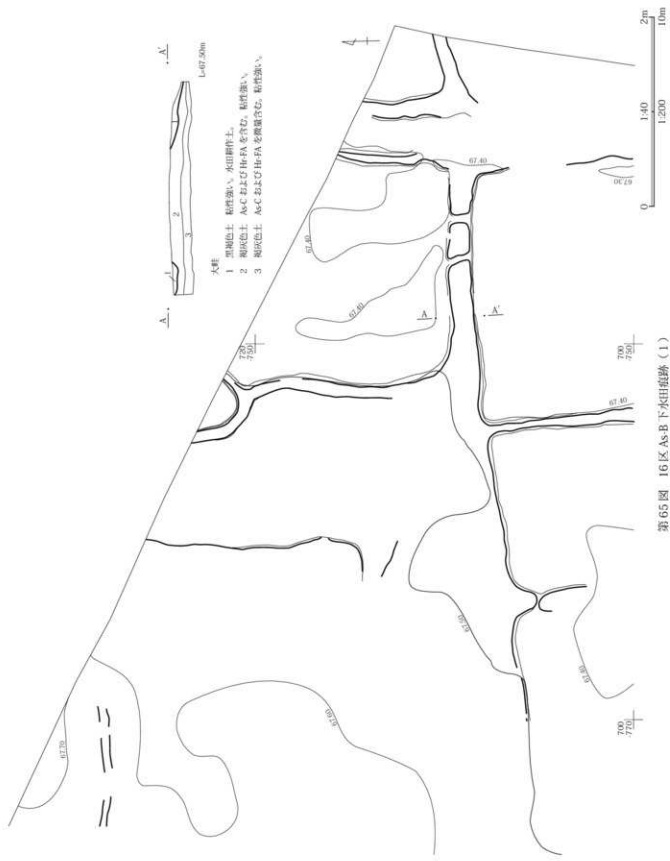
16区2面全体図



水田痕跡



第64図 16区2面全体図、水田痕跡



第65圖 16区As-B下水田配跡(1)

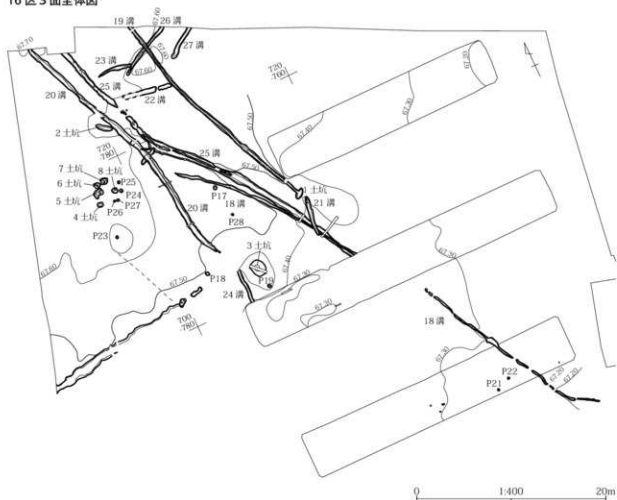


- 1 黒褐色土 粘性強い。水田耕作土。
- 2 褐色土 As-CおよびHr-FAを含む。粘性強い。
- 3 褐色土 2層と同質。やや軽石の含有が少ない。

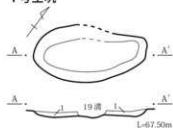


第66図 16区As-B下水田痕跡(2)

16区3面全体図

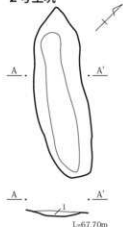


1号土坑



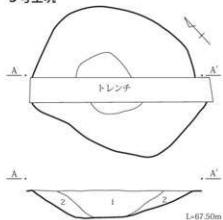
1 潮灰色土 Hr-FA 多量含む。粘質。

2号土坑



1 潮灰色土 白色軽石微量含む。

3号土坑

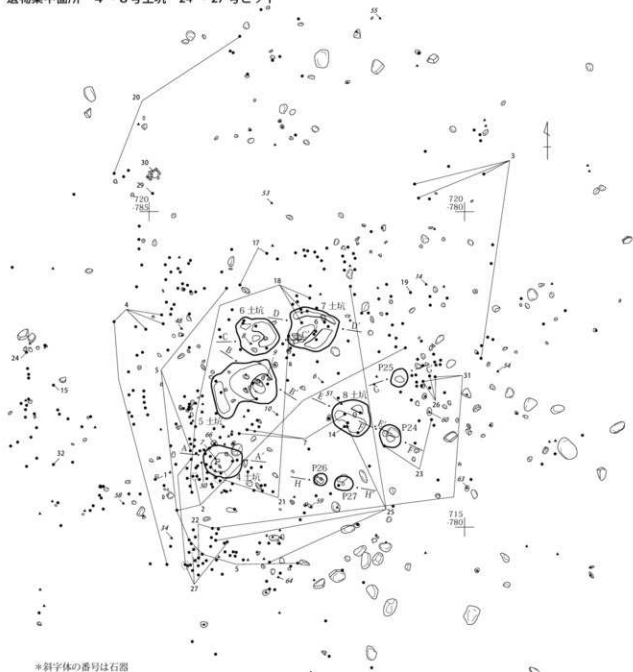


1 潮灰色土 白色軽石微量含む。粘質。

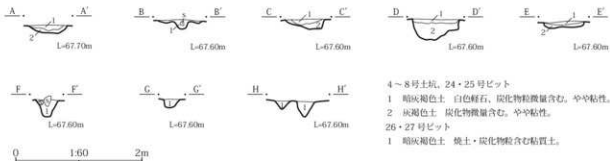
2 潮灰色土 白色軽石微量含む。やや砂質。

第67図 16区3面全体図、1～3号土坑

遺物集中箇所・4～8号土坑・24～27号ピット

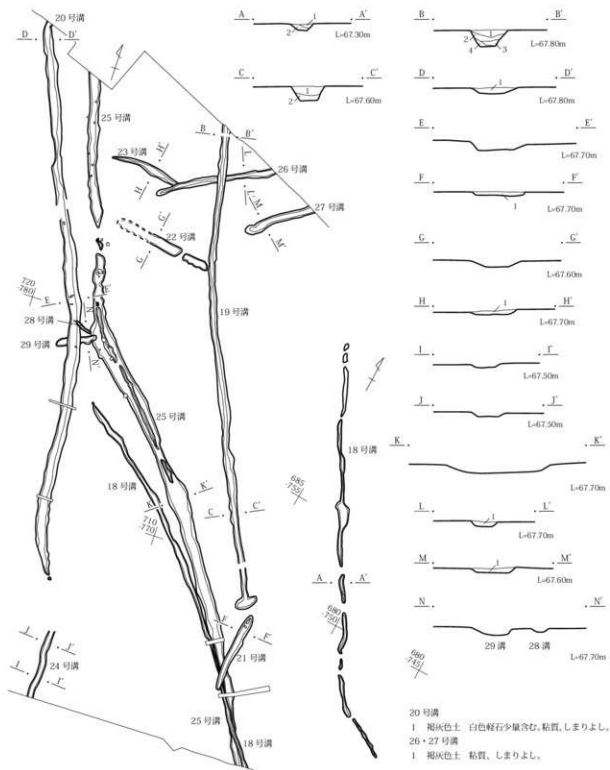


\*斜字体の番号は石器



- 4～8号土坑、24・25号ピット  
 1 暗灰褐色土 白色軽石、炭化物粒微量含む、やや粘性。  
 2 灰褐色土 炭化物微量含む、やや粘性。  
 26・27号ピット  
 1 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒含む粘質土。

第 68 図 16 区 4～8号土坑、24～27号ピット



18号溝

1 褐灰色土 白色軽石微量含む。やや砂質。

2 褐灰色土 白色軽石少量含む。粘質。

19・21・23号溝

1 褐灰色土 白色軽石少量含む。粘性あり。

2 褐灰色土 白色軽石少量含む。粘性、しまりあり。

3 褐灰色土 白色軽石多量含む。粘性、しまりあり。

4 褐灰色土 白色軽石微量含む。

20号溝

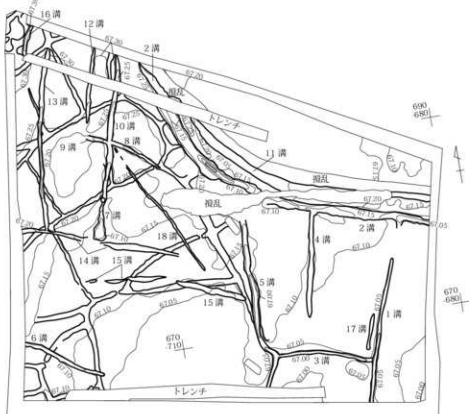
1 褐灰色土 白色軽石少量含む。粘質、しまりよし。

26・27号溝

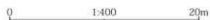
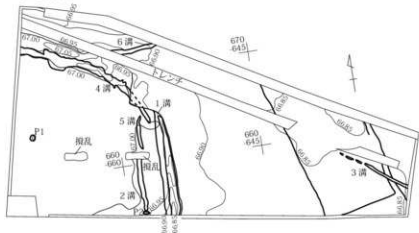
1 褐灰色土 粘質、しまりよし。

第69図 16区18～29号溝

17区全体図



18区全体図

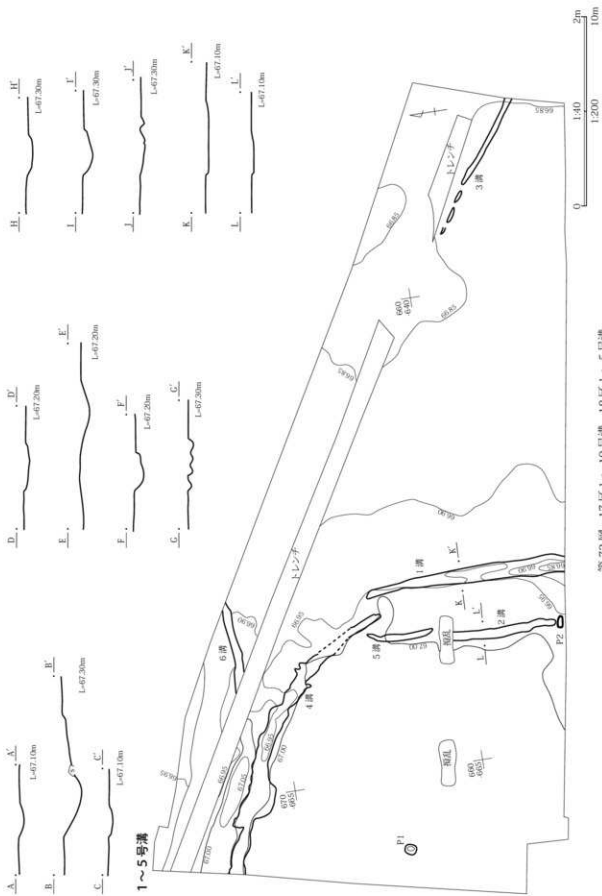


第70図 17・18区全体図



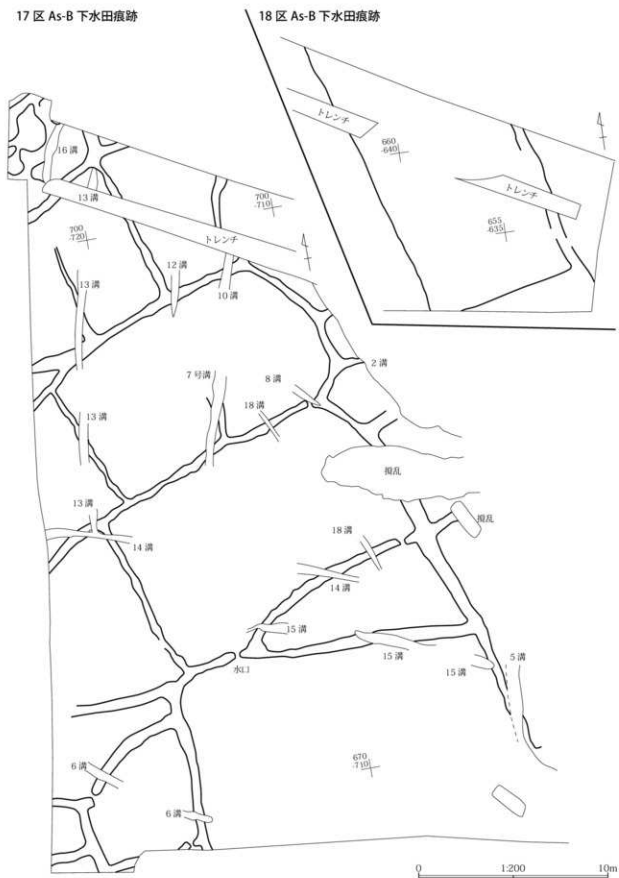
第71図 17区1～18号溝



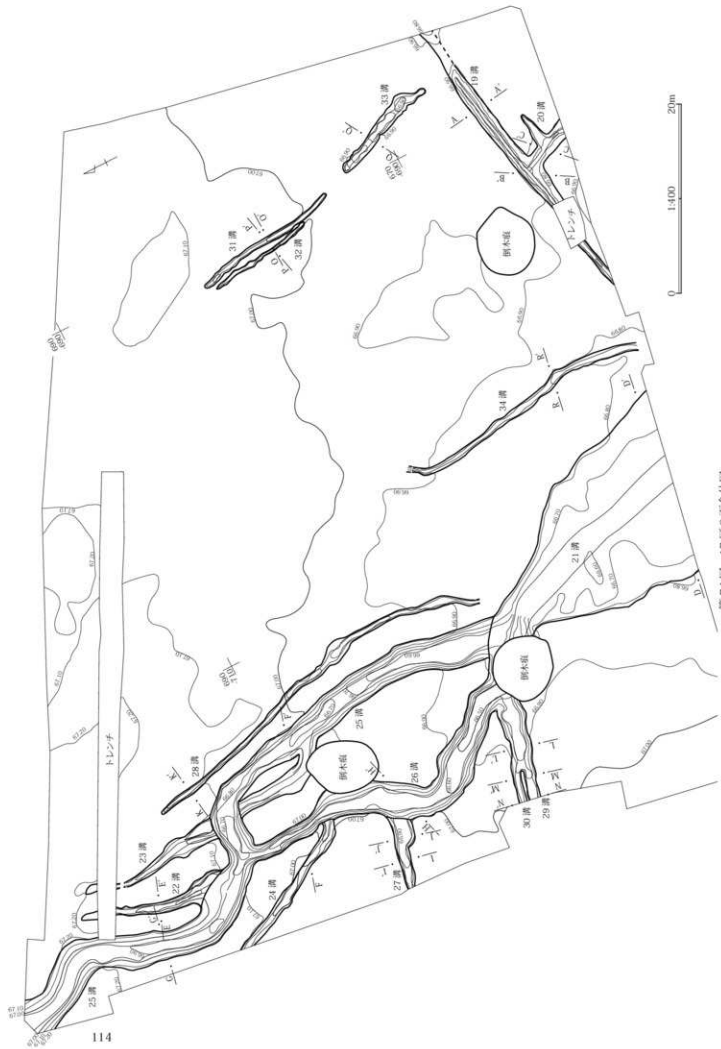


17区 As-B 下水田痕跡

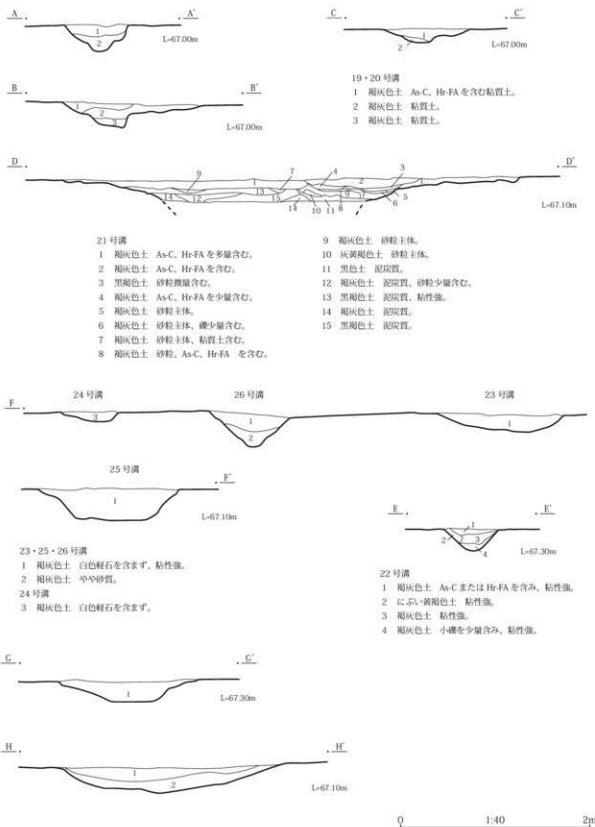
18区 As-B 下水田痕跡



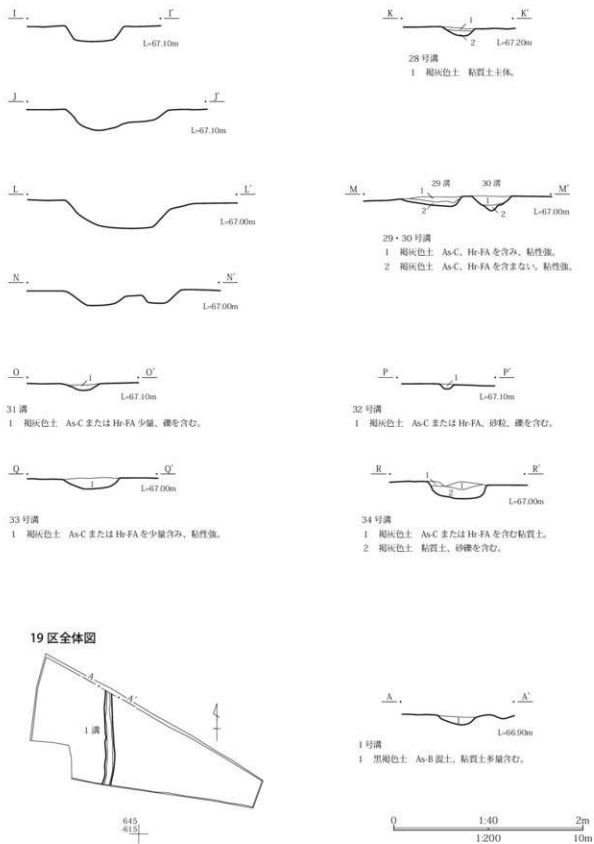
第73図 17・18区 As-B 下水田痕跡



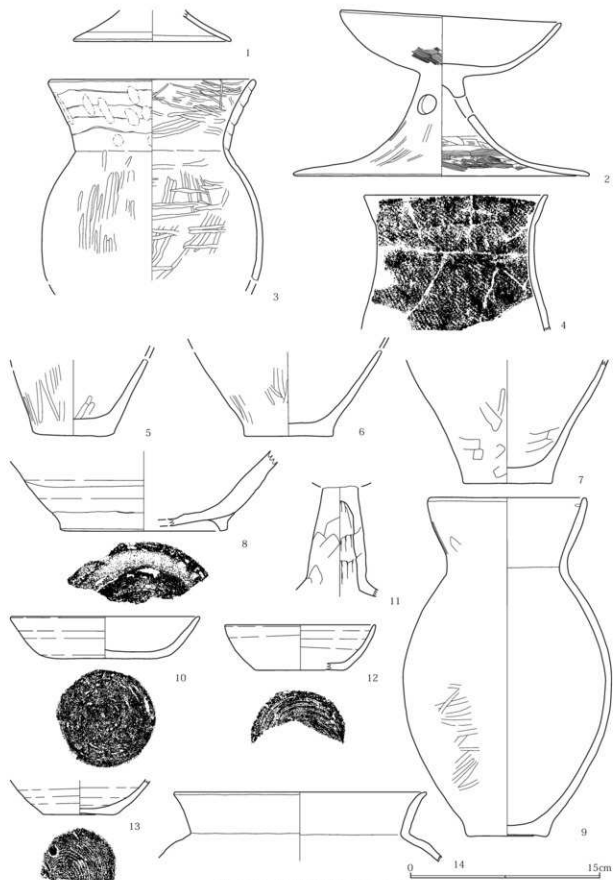
第74図 17区2面全体図



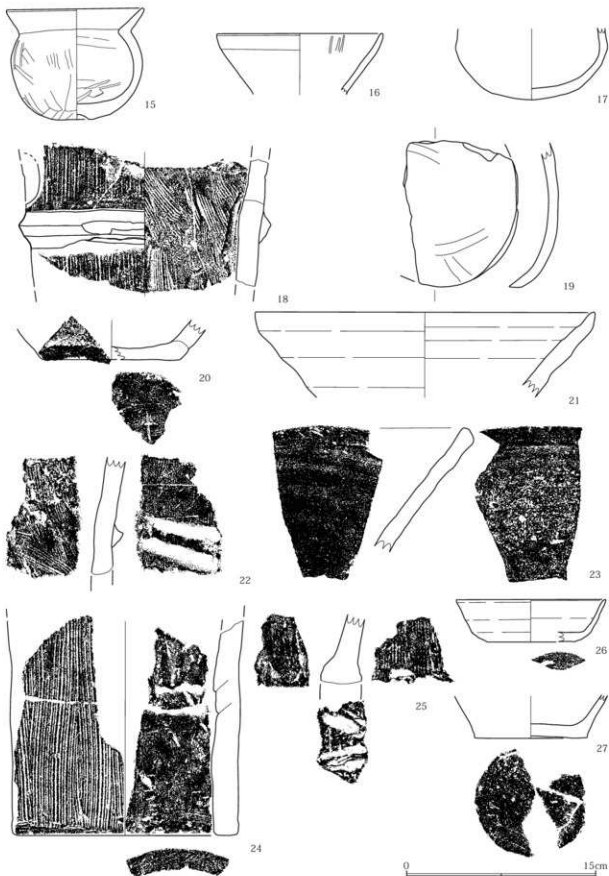
第75図 17区 19～26号溝



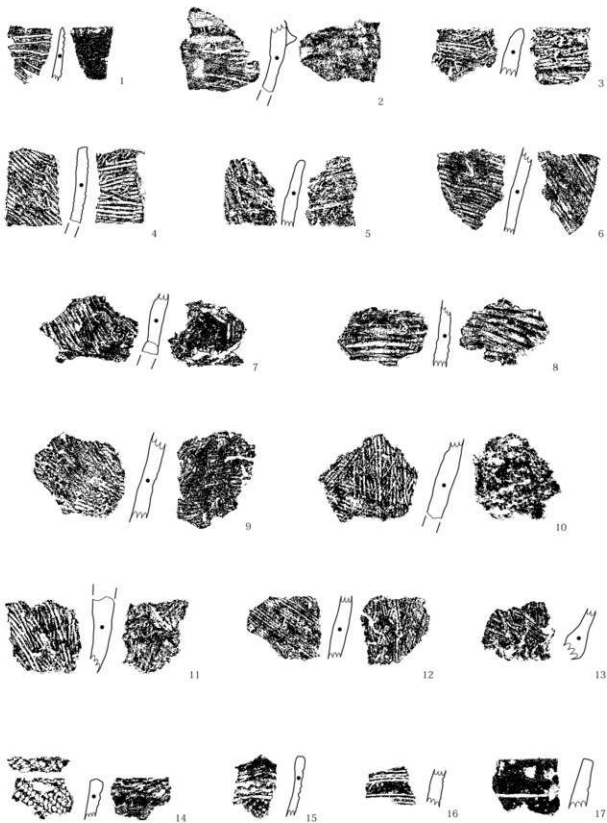
第76図 17区27～34号溝、19区全体図



第 77 図 古墳時代以降の土器 (1)

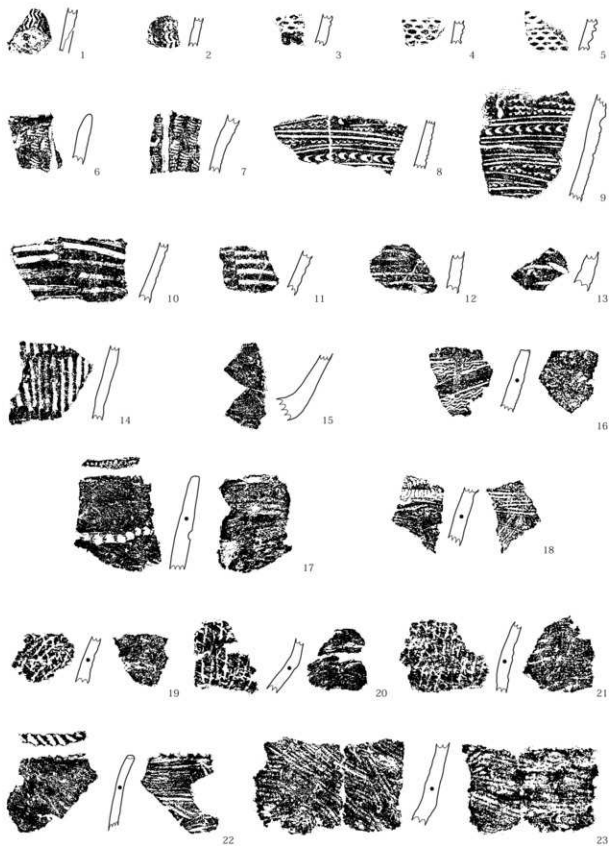


第 78 図 古墳時代以降の土器 (2)

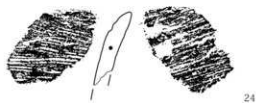


第79图 1区出土土器

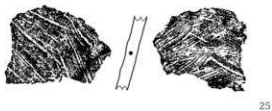




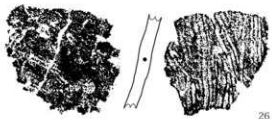
第80图 2区出土土器(1)



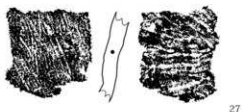
24



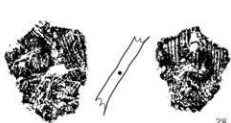
25



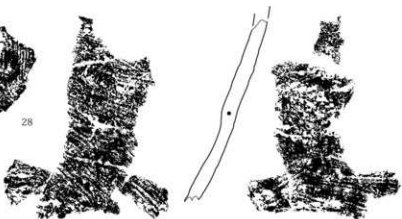
26



27



28



29



30



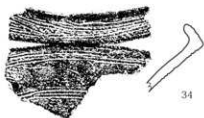
31



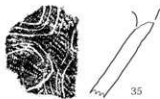
32



33



34



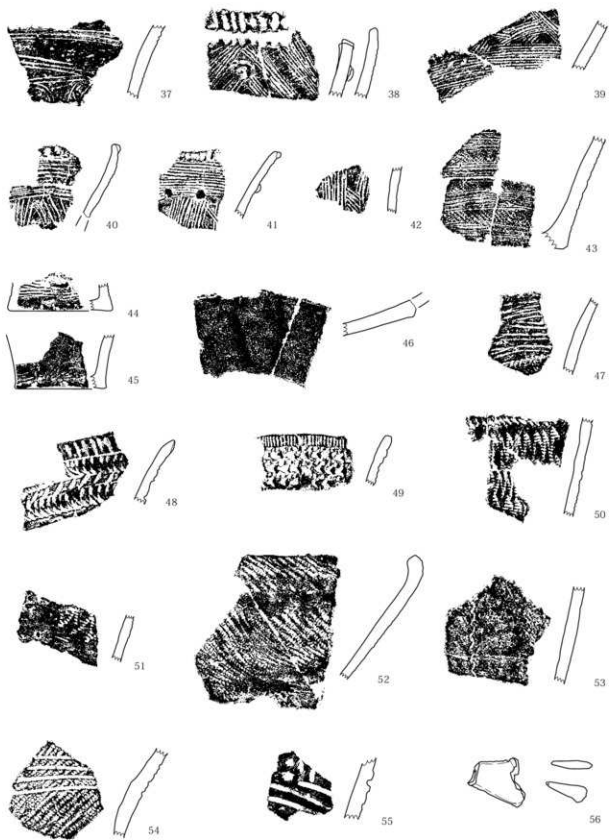
35



36

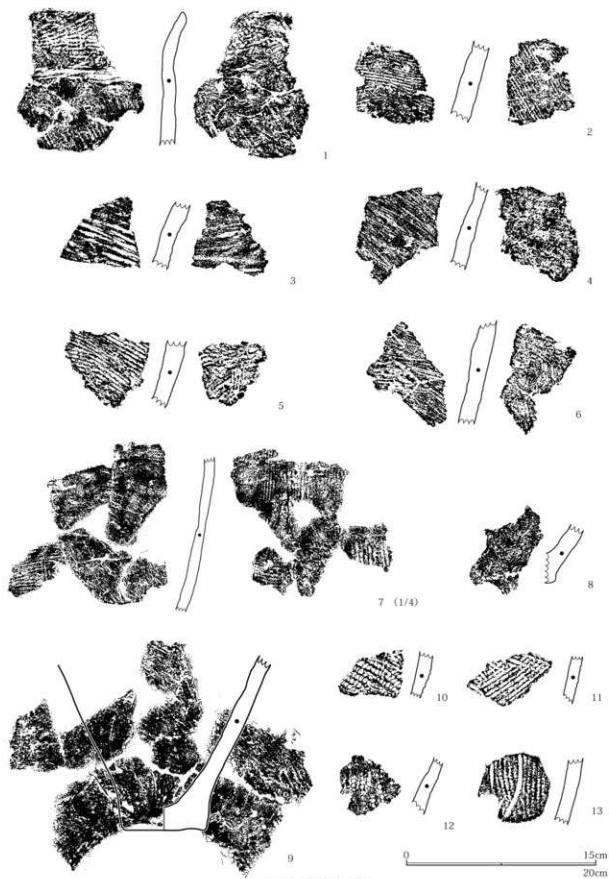
第81图 2区出土土器(2)

0 15cm

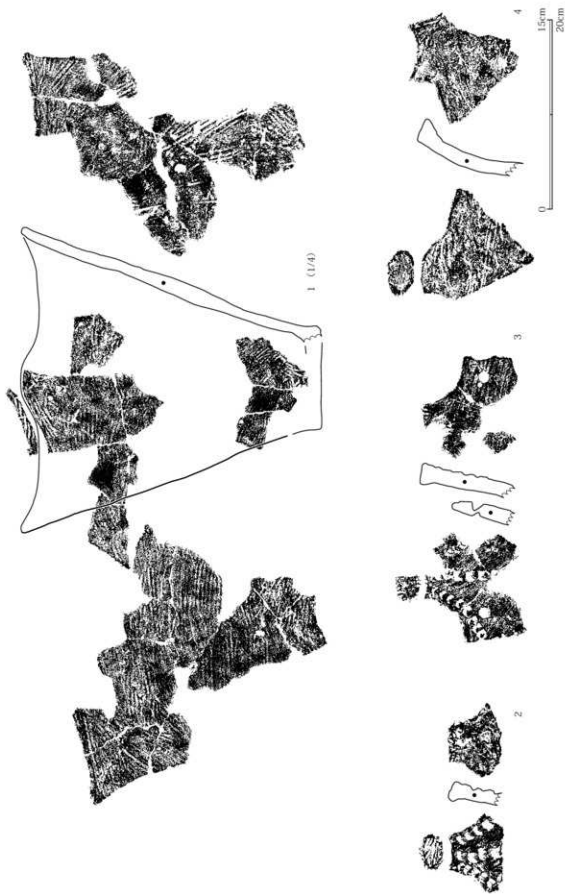


第82图 2区出土土器(3)

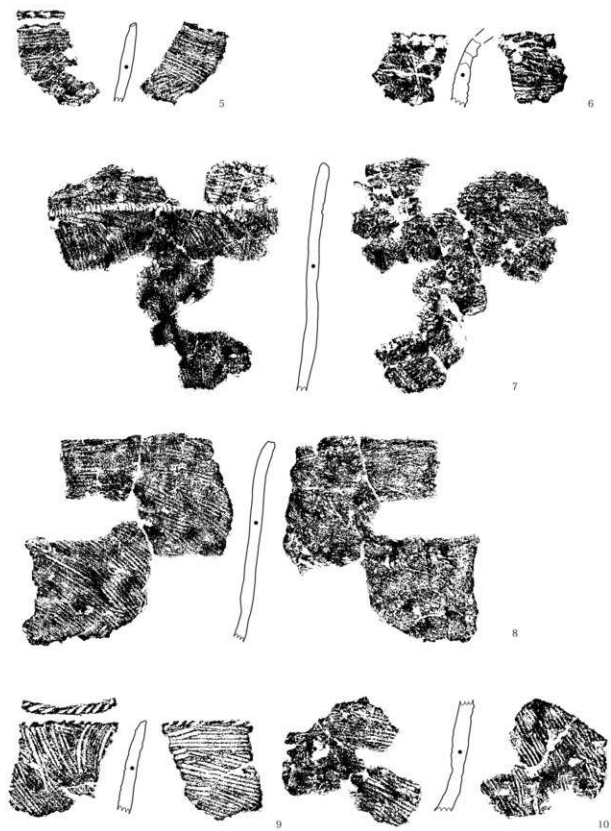
0 15cm



第83图 3区出土土器

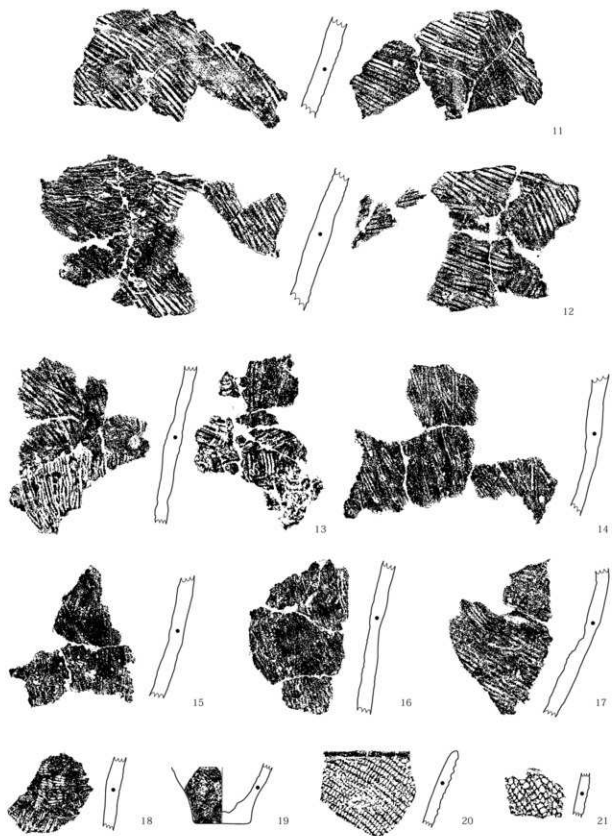


第84图 4区出土玉器(1)

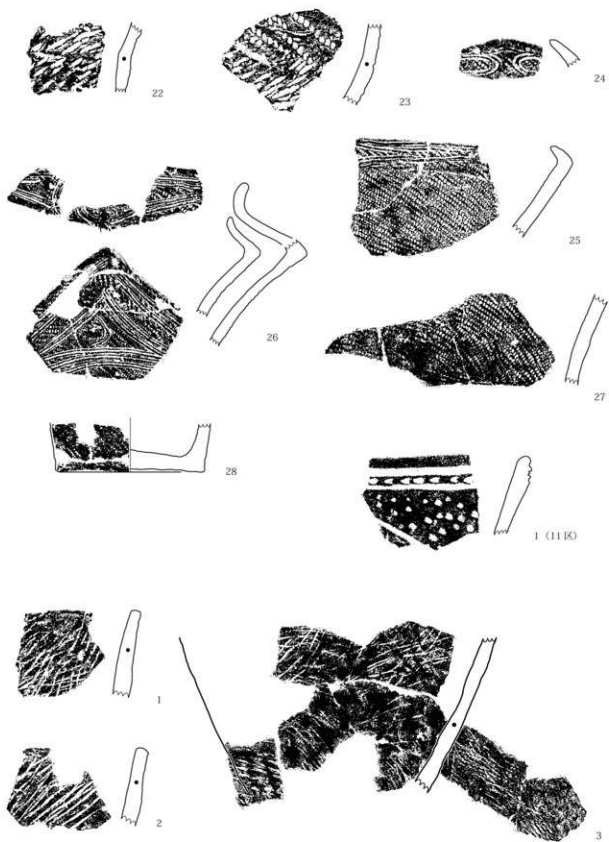


第85图 4区出土土器(2)

0 15cm



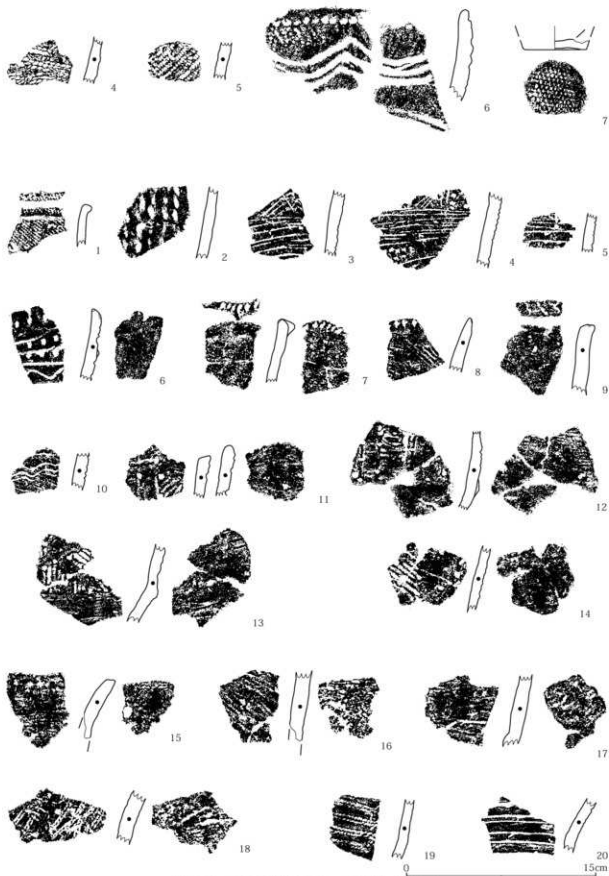
第 86 图 4区出土土器(3)



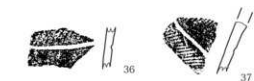
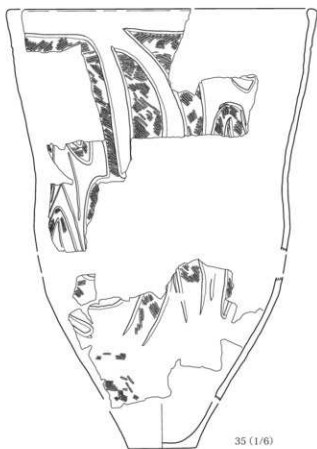
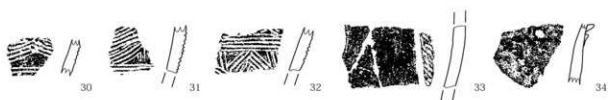
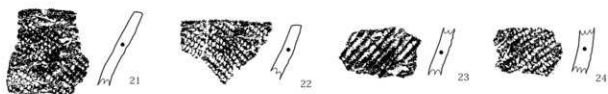
第87图 4区出土土器(4)、11区出土土器、12区出土土器(1)

0 15cm

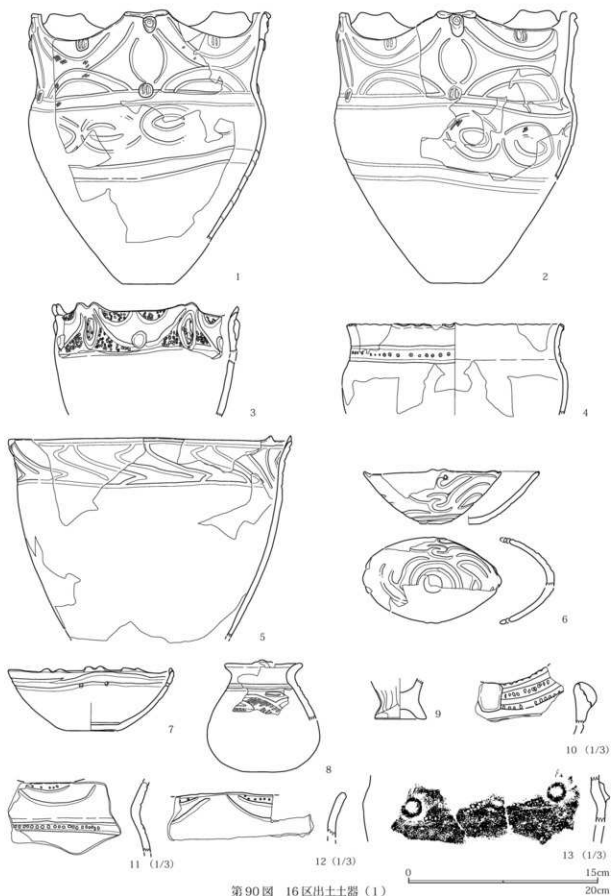




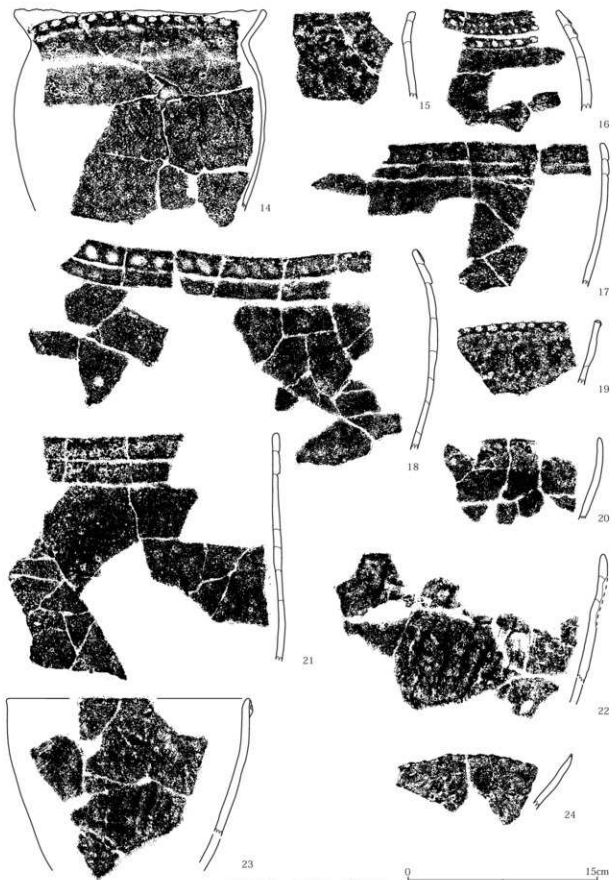
第 88 图 12 区出土土器 (2)、14 区出土土器 (1)



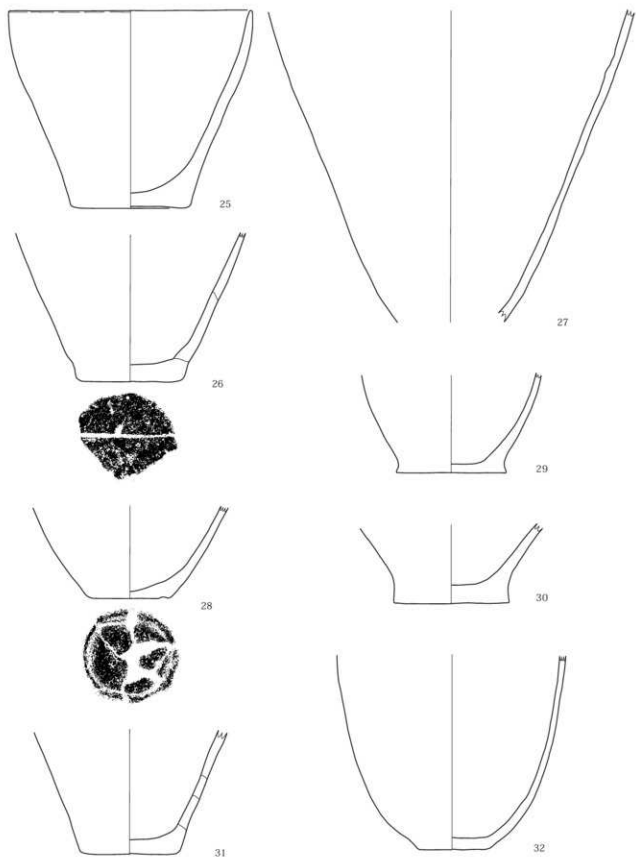
第89图 14区出土土器(2)



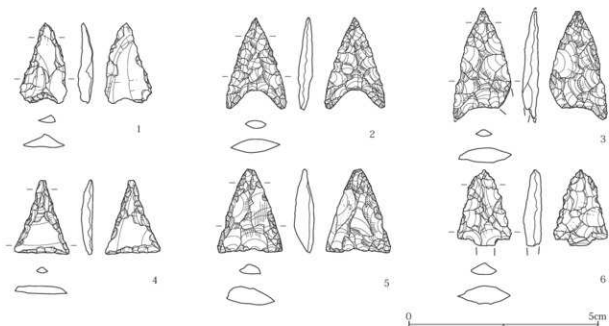
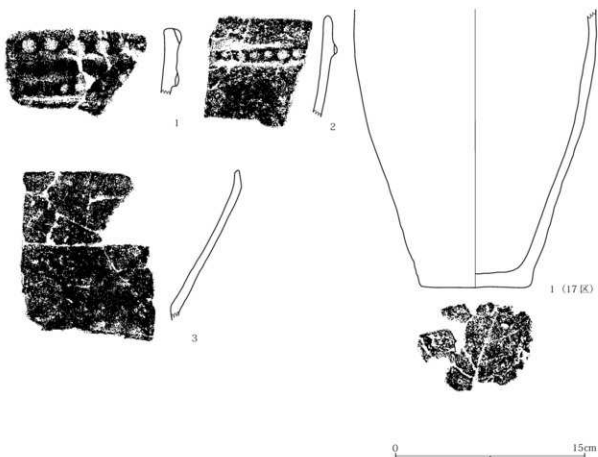
第90图 16区出土土器(1)



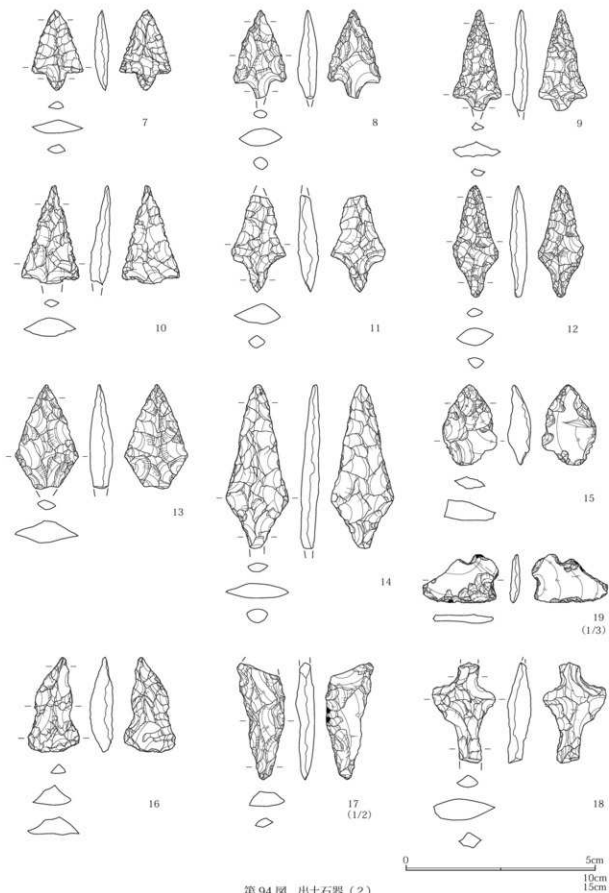
第91图 16区出土土器(2)



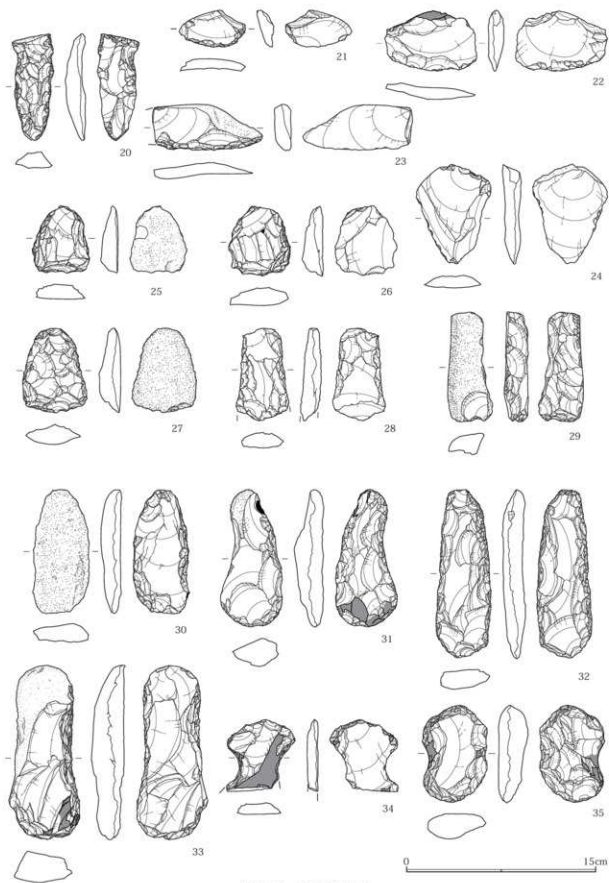
第92图 16区出土土器(3)



第93图 15·17区出土土器、出土石器(1)

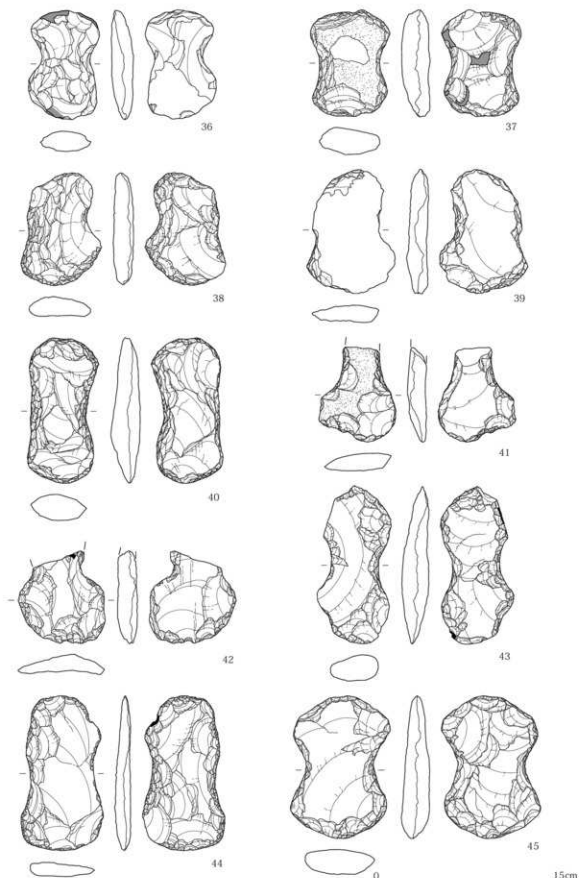


第94图 出土石器(2)



第95图 出土石器(3)

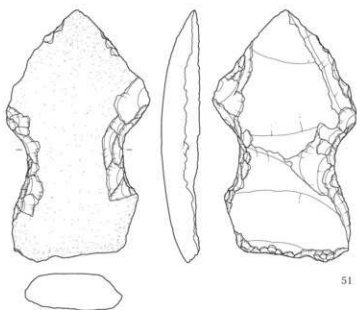




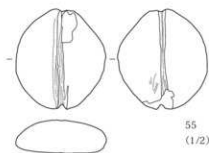
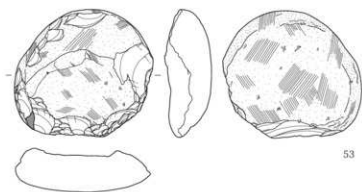
第96图 出土石器(4)



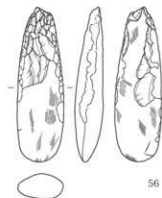
第97图 出土石器(5)



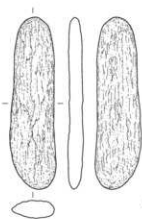
51

55  
(1/2)

53



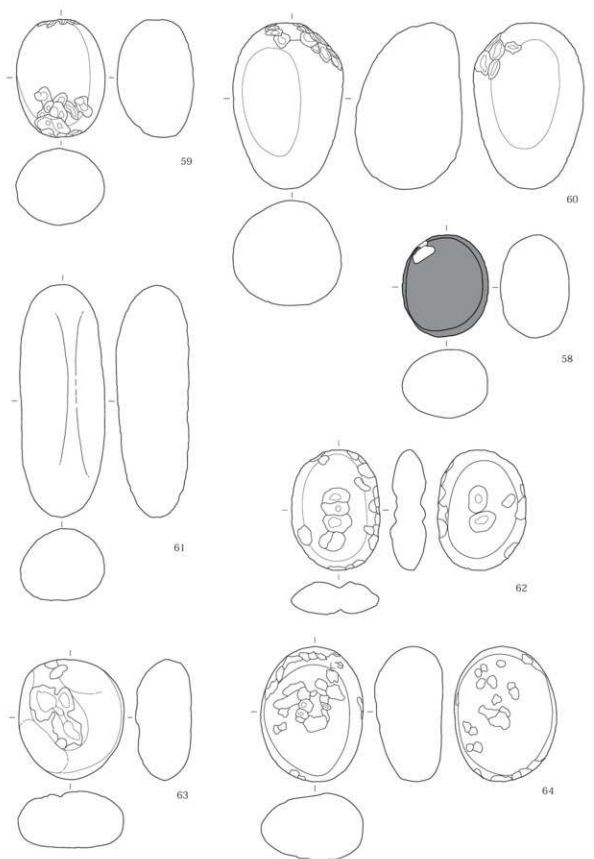
56

54  
(1/1)

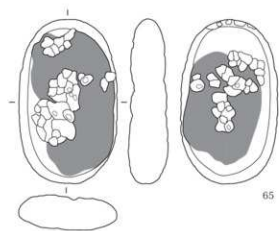
57



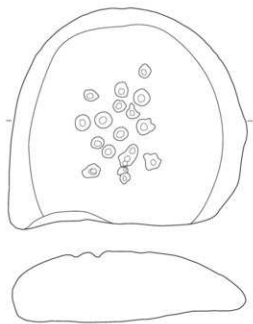
第98图 出土石器(6)



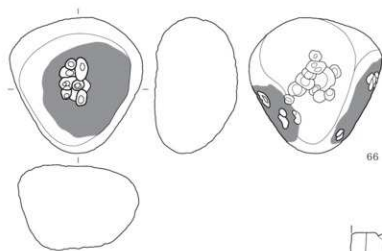
第99圖 出土石器(7)



65



67  
(1/4)



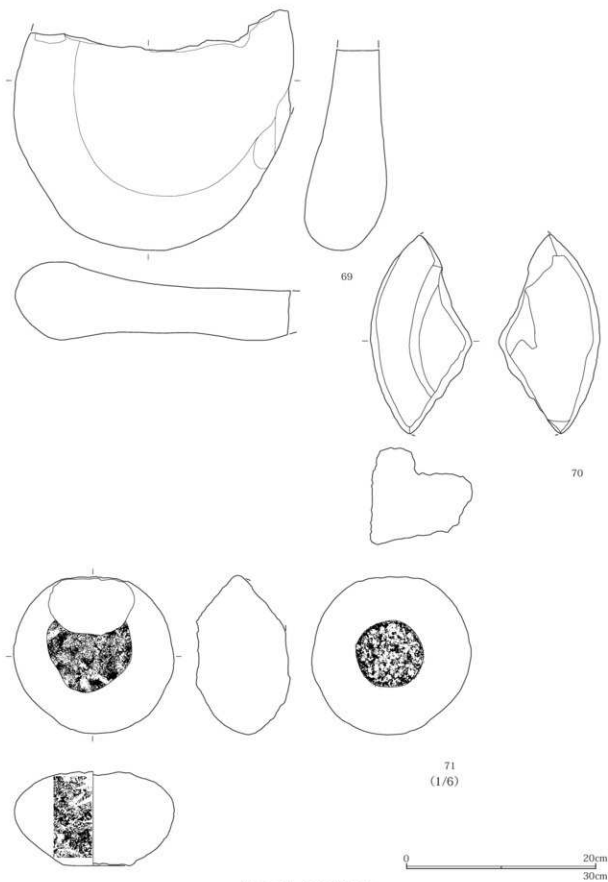
66



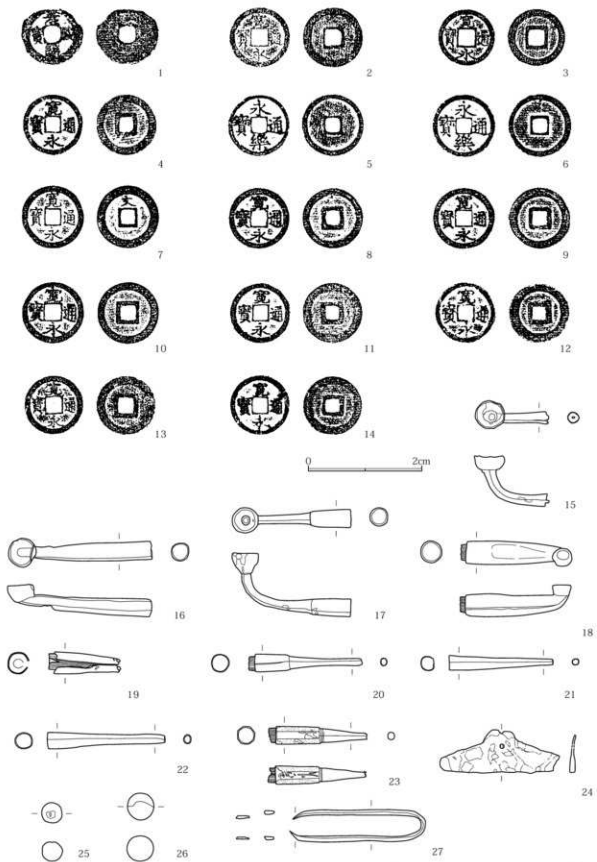
68  
(1/4)



第100圖 出土石器(8)



第101圖 出土石器(9)



第102図 銭、金属製品

## 第4章 自然科学分析

### 群馬県菅塩遺跡群における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

#### 菅塩遺跡群におけるテフラ分析

##### 1. はじめに

群馬県中央部とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになってきている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された菅塩遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析、火山ガラス比分析、屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、2区2号トレンチ②、2区2号トレンチ④、2区耕作痕、2区北壁、2区1号倒木痕、2区2号倒木痕、3区北壁、4区4号トレンチ②、7区10号トレンチ②、9区13号トレンチ③、9区14号トレンチ④、11区南トレンチ①、11区北トレンチ②、12区北トレンチ①、13区25号トレンチ①、14区北トレンチ①、16区トレンチ①、17区26号トレンチ①、17区28号トレンチ②、18区29号トレンチ③、20区1号トレンチ①の21地点である。

##### 2. 土層の層序

###### (1) 2区2号トレンチ②

2区2号トレンチ②では、埋没谷が検出された。埋没谷の基盤は、褐灰色粘質土（層厚10cm以上）からなる（図1）。谷の埋積層は、下位より砂に富む暗灰褐色泥層（層厚11cm以上）、黒褐色泥層（層厚8cm）、砂混じり暗褐色泥層（層厚9cm）、黒褐色泥層（層厚20cm）、成層したテフラ層（層厚9cm）、黒褐色泥層（層厚15cm以上）からなる。これらのうち成層したテフラ層は、下部のかすかに成層した黄灰色粗粒火山灰層（層厚6cm）と、上部の桃色細粒火山灰層（層厚3cm）からなる。

###### (2) 2区2号トレンチ④

2区2号トレンチ④では、下位より黒褐色泥層（層厚2cm以上）、灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、黒褐色泥層（層厚16cm）、白色軽石を多く含む黒褐色泥層（層厚8cm、軽石の最大径8mm）、白色軽石混じり暗褐色泥層（層厚23cm、軽石の最大径6mm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、灰褐色土（層厚13cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚29cm）が認められる（図2）。

###### (3) 2区北壁

2区北壁では、下位より白色軽石混じり黒灰褐色土（層厚9cm、軽石の最大径2mm）、暗灰褐色砂質土（層厚11cm）、灰褐色作土（層厚24cm）が認められる（図3）。

###### (4) 2区1号倒木痕

2区1号倒木痕では、黄灰色細粒軽石層（軽石の最大径4mm、試料1）が堆積しており、さらにこれを切った耕作痕が認められる。2号倒木痕でも、軽石の堆積（試料1）が認められる。

###### (5) 3区北壁



#### 第4章 自然科学分析

3区北壁では、下位より白色軽石混じり暗灰色粘質土（層厚10cm以上、軽石の最大径10mm）、黒泥層（層厚2cm）、暗灰褐色砂質土（層厚23cm）、灰褐色作土（層厚25cm）が認められる（図4）。

##### (6) 4区4号トレンチ②

4区4号トレンチ②では、下位より黄灰色砂質土（層厚12cm以上）、砂混じり黒灰褐色土（層厚16cm）、固結した灰色土（層厚2cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚13cm）が認められる（図5）。

##### (7) 7区10号トレンチ②

7区10号トレンチ②では、亜円礫層（層厚3cm以上、礫の最大径99mm）の上位に、下位より灰色砂層（層厚8cm）、暗灰褐色土（層厚8cm）、灰色土（層厚13cm）、若干色調が暗い灰色土（層厚14cm）、亜円礫混じりで若干色調が暗い灰色表土（層厚25cm、礫の最大径68mm）が認められる（図6）。

##### (8) 9区13号トレンチ③

9区13号トレンチ③では、亜円礫層（層厚8cm以上、礫の最大径213mm）の上位に、下位より暗褐色泥炭層（層厚16cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚2.5cm）、黒泥層（層厚2cm）、白色軽石混じり灰白色粗粒火山灰層

（層厚0.8cm、軽石の最大径9mm）、黒泥層（層厚3cm）、桃色細粒火山灰層ブロック混じり暗灰褐色土（層厚16cm）、砂混じり灰色土（層厚15cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚19cm）が認められる（図7）。

##### (9) 9区14号トレンチ④

9区14号トレンチ④では、下位より黒泥層（層厚4cm以上）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）、黒灰色砂質土（層厚12cm）、若干色調が暗い灰色土（層厚9cm）、若干色調が暗い灰色砂質土（層厚7cm）、若干色調が暗い灰色土（層厚18cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚31cm）が認められる（図8）。

##### (10) 11区南トレンチ①

11区南トレンチ①では、下位より暗褐色泥層（層厚8cm以上）、褐色泥炭層（層厚19cm）、黒褐色泥層（層厚17cm）、白色軽石（最大径5mm）や灰白色軽石（最大径2mm）を多く含む黒泥層（層厚5cm）、黒灰色砂質土（層厚5cm）、灰褐色作土（層厚15cm）が認められる（図9）。

##### (11) 11区北トレンチ②

11区北トレンチ②では、下位より褐色泥炭層（層厚11cm以上）、暗灰褐色泥層（層厚14cm）、白色軽石（最大径7mm）や灰白色軽石（最大径4mm）を多く含む黒灰色泥層（層厚15cm）、黒泥層（層厚2cm）、灰褐色作土（層厚16cm）が認められる（図10）。

##### (12) 12区北トレンチ①

12区北トレンチ①では、下位より暗灰褐色泥層（層厚10cm以上）、白色軽石混じり暗灰色泥層（層厚15cm、最大径11mm）、黒泥層（層厚1cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）、灰色砂質土（層厚14cm）、砂混じり灰色土（層厚8cm）、灰褐色作土（層厚13cm）が認められる（図11）。

##### (13) 13区25号トレンチ①

13区25号トレンチ①では、下位より黒泥層（層厚5cm以上）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）、灰色砂質土（層厚5cm）、砂を多く含む灰色土（層厚9cm）、砂混じり灰色土（層厚13cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚11cm）が認められる（図12）。

##### (14) 14区北トレンチ①

14区北トレンチ①では、下位より黒灰色土（層厚13cm）、黄灰色粘質土（層厚12cm）、灰褐色作土（層厚11cm）が認められる（図13）。ここでは、黒灰色土から縄紋時代後期の土器が検出されている。

## (15) 16区トレンチ①

16区トレンチ①では、下位より灰色粘質土（層厚33cm以上）、黄灰色粘質土（層厚5cm）、白色軽石混じり灰色土（層厚12cm、軽石の最大径9mm）、黒泥層（層厚7cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、暗灰色砂質土（層厚4cm）、黄色がかかった灰色土（層厚8cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚13cm）が認められる（図14）。

## (16) 17区26号トレンチ①

17区26号トレンチ①では、下位より灰色粘質土（層厚10cm以上）、マンガン粒子混じり暗灰色粘質土（層厚6cm）、白色軽石混じり灰色粘質土（層厚8cm、軽石の最大径4mm）、黒泥層（層厚5cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、若干灰色がかかった褐色砂質土（層厚4cm）、黄色がかかった灰色土（層厚6cm）、若干色調が暗い灰色表土（層厚10cm）が認められる（図15）。

## (17) 17区28号トレンチ②

17区28号トレンチ②では、下位より暗灰色粘質土（層厚5cm以上）、灰色粘質土（層厚7cm）、黒泥層（層厚4cm）、最下部に灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）をもつ桃灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、灰褐色砂質土（層厚5cm）、灰色土（層厚4cm）、黄灰色土（層厚9cm）、灰色表土（層厚15cm）が認められる（図16）。

## (18) 18区29号トレンチ③

18区29号トレンチ③では、下位より灰色土（層厚6cm以上）、暗灰色土（層厚10cm）、黒色土（層厚2cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、砂混じり灰色土（層厚5cm）、灰褐色土（層厚9cm）、黄灰褐色土（層厚4cm）、灰色粘質土（層厚6cm）、鉄分を多く含む灰色土（層厚3cm）、褐色がかかった灰色土（層厚3cm）、マンガン粒子混じりで褐色がかかった灰色土（層厚11cm）、灰色表土（層厚12cm）が認められる（図17）。

## (19) 20区1号トレンチ①

20区1号トレンチ①では、下位より白色軽石混じり黒灰色泥層（層厚11cm以上、軽石の最大径6mm）、黒灰色砂質土（層厚5cm）、灰色粘質土（層厚7cm）、垂円礫混じり黄褐色土（層厚5cm、最大径51mm）、灰褐色作土（層厚12cm）が認められる（図18）。

## 3. テフラ検出分析

## (1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するために、上述11地点において、テフラ層について、またテフラ以外の土層を対象に基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、60点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

## (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。2区2号トレンチ②では、試料11から試料7にかけて、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径2.9mm）が少量ずつ含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料11から試料3にかけては、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径5.9mm）が認

められる。軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、試料7により多く含まれる傾向にある。成層したテフラ層の下部の試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.1mm）がとくに多く含まれている。軽石の産状から、試料11以下に、比較的良く発泡した灰白色軽石と、発泡がさほど良くない白色軽石で各々特徴づけられるテフラの降灰層率があると考えられる。

2区2号トレンチ④では、試料3のテフラ層に、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径4.6mm）がとくに多く含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料2には、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径2.1mm）が比較的多く認められる。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.6mm）がとくに多く含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

2区耕作痕の試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.8mm）と、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径3.2mm）が比較的多く含まれている。前者の班品としては斜方輝石や単斜輝石、後者の班品には角閃石や斜方輝石が認められる。

2区北壁の試料4には、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径3.7mm）と、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径2.1mm）が比較的多く含まれている。前者の班品として角閃石や斜方輝石、後者の班品として斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料2には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.7mm）と、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径1.8mm）が多く含まれている。前者の班品としては斜方輝石や単斜輝石、後者の班品には角閃石や斜方輝石が認められる。2区1号倒木痕の試料1には、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径2.6mm）が多く含まれている。軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また2区2号倒木痕の試料1にも、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径3.0mm）が多く含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

3区北壁の試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.0mm）が多く含まれている。軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4区4号トレンチ②では、試料1に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径1.6mm）が少量含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

7区10号トレンチ②では、いずれの試料にも比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径1.3mm）が少量ずつ含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。9区13号トレンチ③では、試料2のテフラ層に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径5.1mm）がとくに多く含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料1のテフラ層には、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径8.9mm）が多く含まれている。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。また、9区14号トレンチ④の試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.0mm）がとくに多く含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

11区南トレンチ①では、試料2に発泡がさほど良くない白色軽石（最大径4.0mm）と、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径2.9mm）が比較的多く含まれている。前者の班品として角閃石や斜方輝石、後者の班品として斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.7mm）と、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径2.1mm）が多く含まれている。前者の班品としては斜方輝石や単斜輝石、後者の班品には角閃石や斜方輝石が認められる。11区北トレンチ②では、試料5および試料3に、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径2.2mm）が認められる。軽石の量は、試料3により多く含まれている。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。

12区北トレンチ①では、試料5および試料3に、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径5.4mm）が含まれている。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。試料5には、ほかに比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径2.7mm）も含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料1の粗粒火山灰層には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.1mm）がとくに多く含まれている。軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

13区25号トレンチの試料2および試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.7mm）が含まれている。この軽石は、とくに試料1に多く含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

16区トレンチ①では、試料4に発泡がさほど良くない白色軽石（最大径2.1mm）が少量含まれている。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。試料2および試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.9mm）が含まれている。この軽石は、試料1にとくに多く含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

17区26号トレンチ①では、試料4に発泡がさほど良くない白色軽石（最大径2.6mm）や、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径0.9mm）が比較的多く含まれている。前者には角閃石や斜方輝石が、また後者には斜方輝石や単斜輝石が班品として認められる。試料2には、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径0.9mm）が少量含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料1のテフラ層には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.1mm）が多く含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

17区28号トレンチ②では、試料4および試料3に、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径4.9mm）が含まれている。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。また試料3には、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径0.9mm）がごくわずかに含まれている。この軽石の班品としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料2や試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.4mm）が含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、試料1のテフラ層にとくに多く含まれている。

18区29号トレンチ③では、試料4および試料2に、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径2.1mm）が少量ずつ含まれている。この軽石の班品には、角閃石や斜方輝石が認められる。また試料2および試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.3mm）が含まれている。この軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、試料1のテフラ層に多く含まれている。

20区1号トレンチ①では、試料3に発泡がさほど良くない白色軽石（最大径4.0mm）や、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径2.3mm）が比較的多く含まれている。前者の班品として角閃石や斜方輝石、後者の班品として斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.6mm）が比較的多く含まれている。軽石の班品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

#### 4. 火山ガラス比分析

##### (1) 分析試料と分析方法

菅塩遺跡で比較的下位に認められる粘質の土層の層位や年代に関する資料を得るために、2区2号トレンチ、4区4号トレンチ②、7区10号トレンチ②の8点の試料を対象に火山ガラス比分析を行うことにした。分析の手順は次の通りである。

#### 第4章 自然科学分析

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により 1/4-1/8mm の粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で、火山ガラスの色調形態別組成を求める。

#### (2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図 13 に、その内訳を表 2 に示す。2 区 2 号トレンチの試料 15 や試料 13 には、分厚い中間型ガラス、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラスが比較的多く含まれている。4 区 4 号トレンチ②では、試料 5 や試料 1 に中間型ガラスや繊維束状に発泡した軽石型ガラスが、ごく少量含まれている。7 区 10 号トレンチ②でも、中間型ガラスやスポンジ状に発泡した軽石型ガラスが、少量含まれている。

#### 5. 屈折率測定

##### (1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析によりテフラが検出された試料を中心とした 9 点について、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により屈折率の測定を行った。

##### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を表 2 に示す。2 区 2 号トレンチ②には、無色透明のバブル型ガラスが少量含まれており、その屈折率（ $n$ ）は 1.500 土である。重鉱物としては、斜方輝石のほか、単斜輝石や角閃石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.705-1.711 である。

2 区 2 号トレンチ④の試料 3 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.513-1.518 である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.710 である。試料 2 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.502-1.504 である。重鉱物としては、斜方輝石のほか、単斜輝石や角閃石が認められる。斜方輝石と角閃石の屈折率（ $\gamma$ ,  $n_2$ ）は、各々 1.707-1.711 と 1.672-1.677 である。また試料 1 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.525-1.530 である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.707-1.710 である。

2 区 1 号倒木痕の試料 1 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.515-1.521 である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.707-1.711（modal range: 1.708-1.710）である。

4 区 4 号トレンチ②の試料 5 には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、黒雲母や角閃石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.705-1.710 である。また試料 1 にも、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、黒雲母や角閃石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.710 である。

7 区 10 号トレンチ②の試料 6 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.514-1.520 である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.710 である。

9 区 13 号トレンチ③の試料 2 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.513-1.520 である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.710 である。試料 1 に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.501-1.503 である。重鉱物としては、斜方輝石や角閃石が認められる。斜方輝石と角閃石の屈折率（ $\gamma$ ,  $n_2$ ）は、各々 1.707-1.711 と 1.672-1.677 である。

## 6. 考察

菅塩遺跡におけるテフラ検出分析の結果、3種類の軽石が検出された。もっとも下位にある軽石は、比較的良好に発泡した灰白色軽石で、班品に斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、火山ガラスや斜方輝石の屈折率なども考慮すると、3世紀終末～4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石 (As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000) に由来すると考えられる。

中位にある軽石は、発泡がさほど良くない白色軽石で、班品に角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、火山ガラスや斜方輝石および角閃石の屈折率なども考慮すると、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名ニッ岳洪川テフラ (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、または6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名伊香保ニッ岳軽石 (Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992) に由来すると考えられる。本遺跡とテフラの分布の関係からは、前者の可能性がより高いと思われる。最上位にある比較的良好に発泡した淡褐色軽石には、班品に斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、火山ガラスや斜方輝石の屈折率などを合わせて考慮すると、1108 (天仁元) 年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ (As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979) に同定される。

2区2号トレンチ②の埋没谷の基盤層の上部 (試料13) に含まれるテフラのうち、火山ガラスについては、色調や形態さらに屈折率などから、約2.4～2.5万年前\*2に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰 (AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995) や約1.3～1.4万年前\*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992) に由来する可能性が考えられる。また斜方輝石の屈折率は、後者が含まれていることを支持する。したがって、より下位の土層をより詳細に調査分析する必要があるが、基盤の褐色粘質土については、いわゆる上部ローム層 (新井, 1962) の最上部に相当する可能性がある。また、埋没谷部では試料11以下のAs-CやHr-FAの降灰層準があると考えられる。さらに成層したテフラ層は、As-Bに同定される。

2区2号トレンチ④において認められる2層のテフラ (試料3と試料1) は、下位よりAs-CとAs-Bに同定される。そして、それらの間の層準に濃集する白色軽石 (試料2) は、Hr-FAに由来する可能性が高い。

2区耕作痕の覆土に含まれているテフラについては、軽石の岩相から、As-BとHr-FAに由来すると考えられる。このことから耕作痕については、As-Bより上位にあると思われる。2区北壁では、試料4付近に、As-CやHr-FAの降灰層準があると考えられる。また試料2付近に、As-Bの降灰層準があると推定される。2区1号倒木痕の軽石層 (試料1) は、屈折率測定の結果を合わせると、As-Cに同定される。また2区2号倒木痕で認められた軽石層 (試料1) も、As-Cに同定されよう。

3区北壁の試料1に含まれるテフラは、As-Bに由来すると考えられる。ここでは、その下位から疑似畦畔が検出されている。したがって、疑似畦畔が最終的に形成されたのは、As-B降灰後と考えられる。

4区4号トレンチ②の試料1の土層に含まれるテフラ粒子は、軽石の特徴や火山ガラスや斜方輝石の屈折率などからAs-Cに由来すると考えられる。したがってこの土層付近にAs-Cの降灰層準のある可能性が考えられる。7区10号トレンチ②の試料6に含まれるテフラについても、軽石の特徴や火山ガラスや斜方輝石の屈折率などからAs-Cに由来すると考えられる。

9区13号トレンチ③で認められた2層のテフラは、下位よりAs-CとHr-FAに同定される可能性が高い。またその上位の土層に含まれる桃色細粒火山灰層のブロックは、層相からAs-Bの上部に由来すると考えられる。9区14号トレンチ④で認められた試料1、また13区25号トレンチの試料1テフラ層は、いずれもAs-Bに同定される。

#### 第4章 自然科学分析

11区南トレンチ①では、試料2にAs-CとHr-FAの降灰層準があると考えられる。また試料1に、As-Bの降灰層準があると考えられる。また11区北トレンチ②では、軽石の産状から試料3付近に、As-CとHr-FAの降灰層準があると考えられる。12区北トレンチ①では、試料5付近に、As-CとHr-FAの降灰層準があると思われる。また試料1のテフラ層は、As-Bに同定される。

16区トレンチ①の試料4に含まれる白色軽石は、Hr-FAに由来すると考えられる。また試料1のテフラ層は、As-Bに同定される。

17区26号トレンチ①では、試料4付近にAs-CやHr-FAの降灰層準があると推定される。また試料1のテフラ層は、As-Bに同定される。17区28号トレンチ②では、試料4以下の層準にHr-FAの降灰層準があると考えられる。そして試料1のテフラ層は、As-Bに同定される。18区29号トレンチ③では、試料4付近にHr-FAの降灰層準があると考えられ、試料1のテフラ層は、As-Bに同定される。さらに20区1号トレンチ①では、試料3付近にAs-CとHr-FA、試料1にAs-Bの降灰層準があると考えられる。

#### 7. まとめ

菅塩遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラス比分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間C軽石(As-C、3世紀終末～4世紀初頭)、極名ニッ岳渋川テフラ(Hr-FA、6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B、1108年)などを検出することができた。

\*2 放射性炭素(14C)年代。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.  
新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定-テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.  
新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.  
新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法-研究対象別分析法」, p.138-148.  
荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研専報, 14, 45p.  
池田寛子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995)南九州。始良カルデラ起源の太蔞軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代。第四紀研究, 34, p.377-380.  
町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-。科学, 46, p.339-347.  
町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.  
松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.  
村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ヒストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代。地質雑, 99, p.787-798.  
坂口 一(1986)極名ニッ岳起源FA-F層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.  
早田 勉(1989)6世紀における極名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.  
早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no.53, p.2-7.  
早田 勉(1995)テフラからさぐる浅間山の活動史。御代田町誌自然編, p.22-43.  
早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.  
友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.  
若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.  
新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法-研究対象別分析法」, p.138-148.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
2区2号トレンチ②	1	++++	淡褐	2.1
	3	+	白	1.0
	5	+	白	2.3
	7	++	白, 灰白	5.9, 2.9
	9	+	白, 灰白	2.0, 1.8
2区2号トレンチ④	11	+	白, 灰白	2.3, 1.2
	2	++++	淡褐	1.6
	3	++	白	2.1
2区2号トレンチ③	2	++++	灰白	4.6
	1	+++	淡褐>白	1.8, 3.2
2区北壁	2	+++	淡褐>白	1.7, 1.8
	4	++	白, 灰白	3.7, 2.1
2区1号側本廂	1	+++	灰白	2.6
2区2号側本廂	1	+++	灰白	3.0
3区北壁	1	+++	淡褐	2
4区4号トレンチ②	1	+	灰白	1.6
	3	-	-	-
	5	-	-	-
7区10号トレンチ②	2	+	灰白	1.2
	4	+	灰白	1.2
	6	+	灰白	1.3
9区13号トレンチ③	1	++++	白	8.9
	2	++++	灰白	5.1
9区14号トレンチ④	1	++++	淡褐	2
11区南トレンチ①	1	+++	淡褐>白	1.7, 2.1
	2	++	白>灰白	4.0, 2.9
	3	-	-	-
	5	-	-	-
	7	-	-	-
11区北トレンチ②	9	-	-	-
	1	-	-	-
	3	++	白	2.2
	5	+	白	1.3
	7	-	-	-
9	-	-	-	

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
12区北トレンチ①	1	++++	淡褐	2.1
	3	++	白	5.4
	5	++	白, 灰白	2.7, 2.7
	7	-	-	-
13区25号トレンチ①	1	+++	淡褐	1.7
2	+	淡褐	1.0	
14区北トレンチ①	1	-	-	-
16区トレンチ①	1	++++	淡褐	1.9
	2	+	淡褐	0.9
	4	+	白	2.1
	5	-	-	-
	6	-	-	-
	8	-	-	-
10	-	-	-	
17区26号トレンチ①	1	+++	淡褐	2.1
	2	+	灰白	0.9
	4	++	白>灰白	2.6, 0.9
	5	-	-	-
	7	-	-	-
17区28号トレンチ②	1	++++	淡褐	1.4
	2	+	淡褐	1.3
	3	+	白>灰白	2.7, 0.9
	4	++	白	4.9
18区29号トレンチ③	1	+++	淡褐	1.3
	2	+	白, 淡褐	2.1, 1.1
	4	+	白	0.9
	5	-	-	-
	20区1号トレンチ①	1	++	淡褐
3	++	白>灰白	4.0, 2.3	

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない, 最大径の単位は, mm.

表2 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
2区2号トレンチ②	13	0	0	0	6	3	2	239	250
	15	1	0	0	11	3	1	234	250
4区4号トレンチ②	1	0	0	1	0	0	1	248	250
	3	0	0	0	0	0	0	250	250
	5	0	0	0	2	0	0	248	250
7区10号トレンチ②	2	0	0	0	4	1	0	245	250
	4	0	0	0	5	1	0	244	250
	6	0	0	0	1	0	0	249	250

数字は粒子数, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.

表3 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n2)
2区2号トレンチ②	13	1.500 ±	opx-cpx, ho	1.705-1.711	-
2区2号トレンチ④	1	1.525-1.530	opx-cpx	1.707-1.710	-
	2	1.502-1.504	opx-ho, cpx	1.707-1.711	1.672-1.677
	3	1.513-1.518	opx-cpx	1.706-1.710	-
4区4号トレンチ②	1	1.515-1.520	opx-cpx, (bi)ho	1.706-1.710	-
4区4号トレンチ③	5	-	opx-cpx, (bi)ho	1.705-1.710	-
7区10号トレンチ②	6	1.514-1.520	opx-cpx	1.706-1.710	-
9区13号トレンチ③	1	1.501-1.503	opx-ho	1.707-1.711	1.672-1.677
9区13号トレンチ④	2	1.513-1.520	opx-cpx	1.706-1.710	-
2区1号側本廂	1	1.515-1.521	opx-cpx	1.707-1.711 (1.708-1.710)	-

屈折率は温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)による, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石, bi: 黒雲母, () は, 量が少ないことを示す.



第4章 自然科学分析

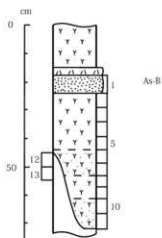


図1 2区2トレ②

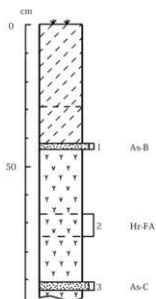


図2 2区2トレ④

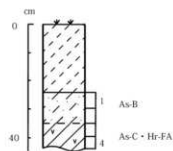


図3 2区北壁

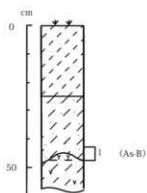


図4 3区北壁

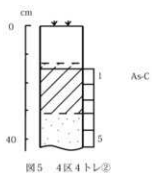


図5 4区4トレ②

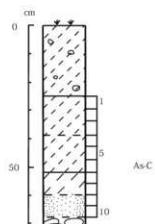


図6 7区10トレ②

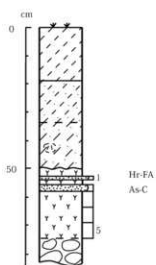


図7 9区13トレ③

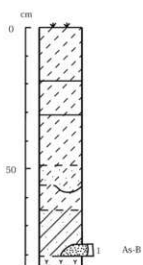


図8 9区14トレ④

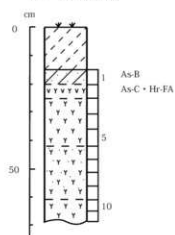


図9 11区南トレ①

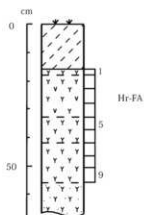


図10 11区北トレンチ②

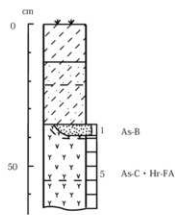


図11 12区北トレンチ①

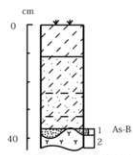


図12 13区25トレンチ①

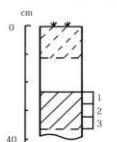


図13 14区北トレンチ①

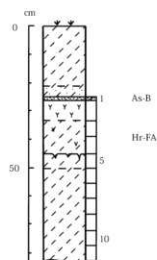


図14 16区トレンチ①

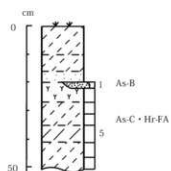


図15 17区26トレンチ①

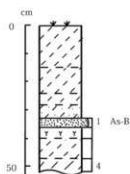


図16 17区28トレンチ②

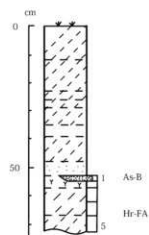


図17 18区29トレンチ③

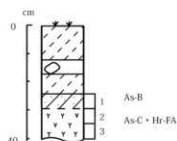


図18 20区1トレンチ①



## 菅塩遺跡群におけるプラント・オパール分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

### 2. 試料

調査地点は、2区耕作痕、2区北壁、9区13号トレンチ③、9区14号トレンチ④、11区南トレンチ①、11区北トレンチ②、12区北トレンチ①、13区25号トレンチ①、16区トレンチ①、17区26号トレンチ①、17区28号トレンチ②、18区29号トレンチ③、19区トレンチ①、20区1号トレンチ①の14地点から採取された計37点である。

### 3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスピース法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40  $\mu\text{m}$ のガラスピースを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20  $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10<sup>-5</sup>g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。

### 4. 結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1～図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

### 5. 考察

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

#### 1) 2区耕作痕

耕作痕（試料1）について分析を行った。その結果、イネが検出されたが、密度は1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

#### 2) 2区北壁

As-B混層（試料1）とAs-C・Hr-FA混層（試料2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出されたが、密度は800個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる（以下についても同様）。

#### 3) 9区13号トレンチ③

Hr-FA直上層（試料1）、Hr-FA直下層（試料2）、As-C直下層（試料3）について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

#### 4) 9区14号トレンチ④

現表土の下層（試料1）からAs-B直下層（試料5）までの各層について分析を行った。その結果、現表土の下層（試料1）からAs-Bの上層（試料3）までの各層からイネが検出された。このうち、現表土の下層（試料1）とAs-Bの上層（試料3）では密度が4,200個/gおよび3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。試料2では密度が500個/gと低い値である。

#### 5) 11区南トレンチ①

As-C・Hr-FA混層（試料2）およびその上層（試料1）と下層（試料3）について分析を行った。その結果、As-C・Hr-FA混層（試料2）とその上層（試料1）からイネが検出された。このうち、As-C・Hr-FAの上層（試料1）では密度が3,700個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C・Hr-FA混層（試料2）では、密度が700個/gと低い値である。

#### 6) 11区北トレンチ②

As-C・Hr-FA混層（試料2）およびその上層（試料1）と下層（試料3）について分析を行った。その結果、As-C・Hr-FA混層（試料2）とその上層（試料1）からイネが検出された。このうち、As-C・Hr-FA混層（試料2）では密度が4,500個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C・Hr-FAの上層（試料1）では密度が700個/gと低い値である。

#### 7) 12区北トレンチ①

As-Bの上層（試料1）と直下層（試料2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、As-Bの上層（試料1）では密度が3,800個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-B直下層（試料2）では密度が700個/gと低い値である。

#### 8) 13区25号トレンチ①

As-B直下層（試料1）について分析を行った。その結果、イネが検出されたが、密度は900個/gと低い値である。

9) 16区トレンチ①

As-B直下層(試料1)、Hr-FA混層(試料2)、およびその下位層(試料3、4)について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)、Hr-FA混層(試料2)、Hr-FAの下層(試料3)からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)とHr-FA混層(試料2)では密度が3,000個/gおよび3,400個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Hr-FAの下層(試料3)では密度が600個/gと低い値である。

10) 17区26号トレンチ①

As-B直下層(試料1)、As-C・Hr-FA混層(試料2)、およびその下位層(試料3、4)について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)、As-C・Hr-FA混層(試料2)、As-C・Hr-FAの下層(試料3)からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)とAs-C・Hr-FA混層(試料2)では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C・Hr-FAの下層(試料3)では密度が500個/gと低い値である。

11) 17区28号トレンチ②

As-B直下層(試料1)およびその下位層(試料2、3)について分析を行った。その結果、As-Bの下層(試料2)からイネが検出されたが、密度は600個/gと低い値である。

12) 18区29号トレンチ③

As-B直下層(試料1)、Hr-FA混層(試料2)、Hr-FAの下層(試料3)について分析を行った。その結果、Hr-FA混層(試料2)からイネが検出されたが、密度は500個/gと低い値である。

13) 19区トレンチ①

As-B混層(試料1)とその下層(試料2)について分析を行った。その結果、両者からイネが検出されたが、密度は800個/gおよび700個/gと低い値である。

14) 20区1号トレンチ①

As-B混層(試料1)について分析を行った。その結果、イネが検出されたが、密度は800個/gと低い値である。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、9区14号トレンチ④の現表土下層とAs-Bの上位層、11区南トレンチ①のAs-C・Hr-FA上層、11区北トレンチ②のAs-C・Hr-FA混層、12区北トレンチ①のAs-B上層、16区トレンチのAs-B直下層とHr-FA混層、17区26号トレンチ①のAs-B直下層とAs-C・Hr-FA混層では、イネが比較的多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

また、2区耕作痕、2区北壁のAs-B混層とAs-C・Hr-FA混層、11区南トレンチ①のAs-C・Hr-FA混層、12区北トレンチ①のAs-B直下層、13区25号トレンチ①のAs-B直下層、16区トレンチ①のHr-FA下層、17区26号トレンチ①のAs-C・Hr-FA下層、17区28号トレンチ②のAs-B下層、18区29号トレンチ③のHr-FA混層、19区トレンチ①のAs-B混層とその下層、20区1号トレンチ①のAs-B混層などでも、少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

- 杉山貞二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学。同成社、p.189-213。  
藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―。考古学と自然科学、9、p.15-29。  
藤原宏志・杉山貞二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田地の探査―。考古学と自然科学、17、p.73-85。

表1 普通道跡におけるプラント・オパール分析結果  
 検出密度 (単位: × 100 個/g)

分類群	2区製作道		9区13号トレンチ③			9区14号トレンチ④			11区南トレンチ①			11区北トレンチ②			12区北トレンチ①				
	1	2	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	1	2	3			
イネ	15	8	8	42	5	38					37	7	7	45			38	7	
ヒエ属型																			
Echinochloa type																			
ヨシ属	15	8	23	141	6	17	36	5	10	158	30	15	60	22	23		8	22	
Phragmites																			
スズキ属型	37	38	30	261	114	39	78	37	66	30	85	30	15	23	22	8	37	8	22
Miscanthus type																			
タケ亜科	90	91	143	141	36	99	113	84	66	40	37	15	52	218	60	38	135	38	30
Bambusoideae																			
おもな分類群の測定生産量 (単位: kg / m <sup>2</sup> · m)																			
イネ	0.44	0.22	0.22	1.23	0.14	1.13					1.10	0.22	0.22	1.32			1.10	0.22	
Echinochloa type																			
ヨシ属	0.94	0.48	1.43	8.88	0.38	1.09	2.26	0.35	0.63	10.00	1.89	0.94	3.79	1.42	1.42		0.47	1.42	
Phragmites																			
スズキ属型	0.46	0.47	0.37	3.24	1.41	0.48	0.96	0.46	0.82	3.77	1.06	0.37	0.19	0.28	0.28	0.09	0.46	0.09	0.28
Miscanthus type																			
タケ亜科	0.43	0.44	0.69	0.68	0.17	0.48	0.54	0.40	0.32	0.19	0.18	0.07	0.25	1.05	0.29	0.18	0.65	0.18	0.14
Bambusoideae																			

※試料の乾比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: × 100 個/g)

分類群	13区25①			16区トレンチ①			17区26号トレンチ①			17区28号トレンチ②			18区29号トレンチ③			19区①			20区1		
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2		
イネ	9	30	34	6	30	30	5					6			5			8	7	8	
ヒエ属型																					
Echinochloa type																					
ヨシ属	15	5	6	6	18	12	6	6	13	11	5	6			6			8	7	75	
Phragmites																					
スズキ属型	30	5	12	5	37	42	5	6	17	11	20	18	33	23	30	22		68		68	
Miscanthus type																					
タケ亜科	30	112	88	112	98	96	181	48	47	29	80	30	92	64	45	37		90		90	
Bambusoideae																					
おもな分類群の測定生産量 (単位: kg / m <sup>2</sup> · m)																					
イネ	0.27	0.88	1.00	0.17	0.90	0.88	0.15					0.17			0.16			0.22	0.22	0.22	
Echinochloa type																					
ヨシ属	0.94	0.31	0.37	0.38	1.15	0.76	0.38	0.82	0.73	0.31	0.38	0.48	0.47	0.48	0.47			4.74		4.74	
Phragmites																					
スズキ属型	0.37	0.06	0.15	0.06	0.45	0.52	0.06	0.07	0.21	0.14	0.25	0.22	0.40	0.29	0.37	0.28		0.84		0.84	
Miscanthus type																					
タケ亜科	0.14	0.54	0.42	0.54	0.47	0.46	0.87	0.23	0.23	0.14	0.38	0.14	0.44	0.31	0.22	0.18		0.43		0.43	
Bambusoideae																					

※試料の乾比重を1.0と仮定して算出。

第4章 自然科学分析

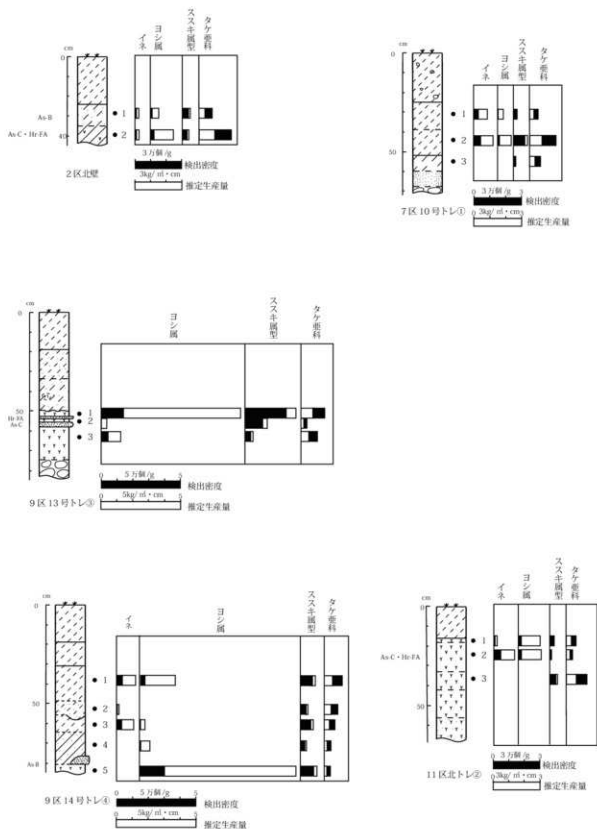


図1 プラント・オバー分析結果(1)

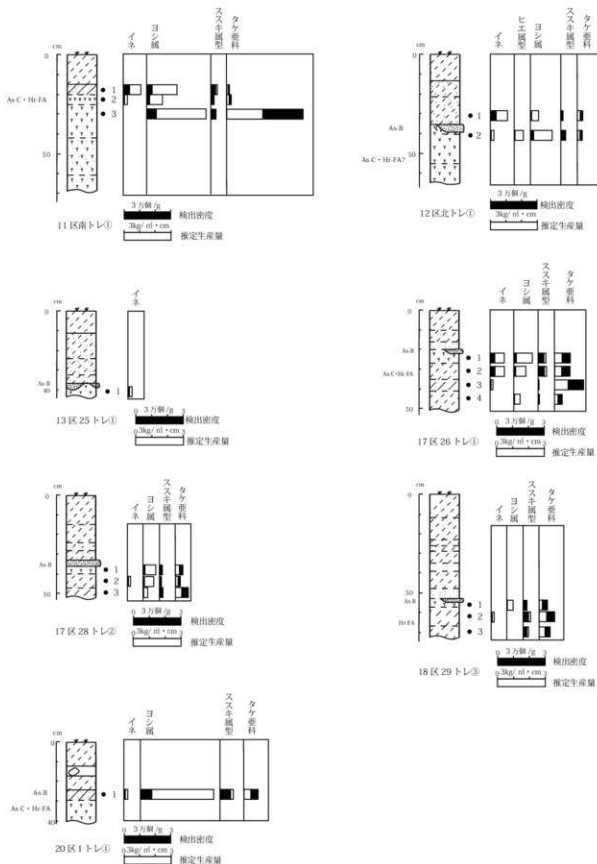
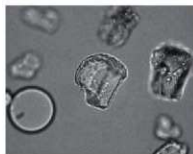


図2 プラント・オパール分析結果(2)



第4章 自然科学分析



イネ 9区14号トレンチ④ (試料5)



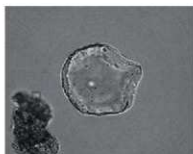
イネ 11区北トレンチ② (試料2)



イネ 16区トレンチ (試料2)



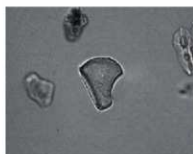
キビ族型 11区南トレンチ① (試料1)



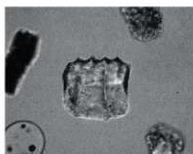
ヨシ属 9区14号トレンチ④ (試料5)



ススキ属型 2区耕作痕 (試料1)



ススキ属型 9区13号トレンチ③ (試料2)



ネザサ節型 11区南トレンチ① (試料3)



ネザサ節型 16区トレンチ① (試料4)



シバ属 7区10号トレンチ② (試料2)



表皮毛起源 2区耕作痕 (試料1)

植物柱胞体 (プラント・オパール) 顕微鏡写真 50  $\mu$ m

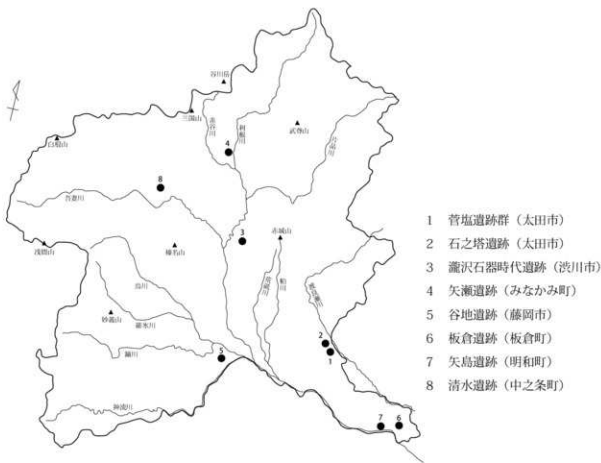
## 第5章 成果と課題

本遺跡では、縄紋時代から近現代にかけての遺構と遺物が調査された。主な遺構はAs-B降下以前及び降下後の水田痕跡、古墳時代前期の住居2軒、中世以降の掘立柱建物6棟などである。また、縄紋時代早期から前期および晩期の遺物が比較的まとまって出土している。

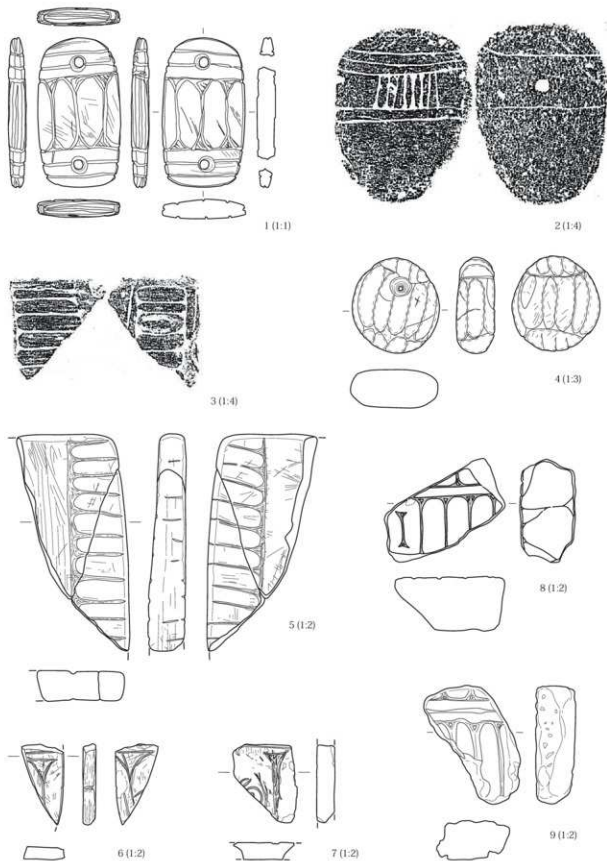
16区出土の岩版は本遺跡の縄紋晩期の文化を考える上で貴重な資料といえる。岩版は、縄紋時代晩期の東北地方と関東地方で発達し、土版と並んで同一の機能を持った遺物と考えられている。本遺跡で出土した岩版の石材はホルンフェルスで、長さ4.9cm、幅2.2cm、厚さ0.5cmである。各面に刻まれた紋様が対称的であるため、表裏及び天地を決定することは困難である。仮に比較的平坦な面を裏面、緩やかに湾曲している面を下面として実測している。

表および裏面の特徴としては対向する3対の三角形を有し、その頂点を結んで沈線が刻まれている。上下に2本ずつ平行する沈線を施し、それぞれが遺物を全周する。内側の沈線には径4mm前後の貫通孔が穿たれ、両面から穿孔されている。上下左右の各面には、沈線が1本ずつ刻まれている。

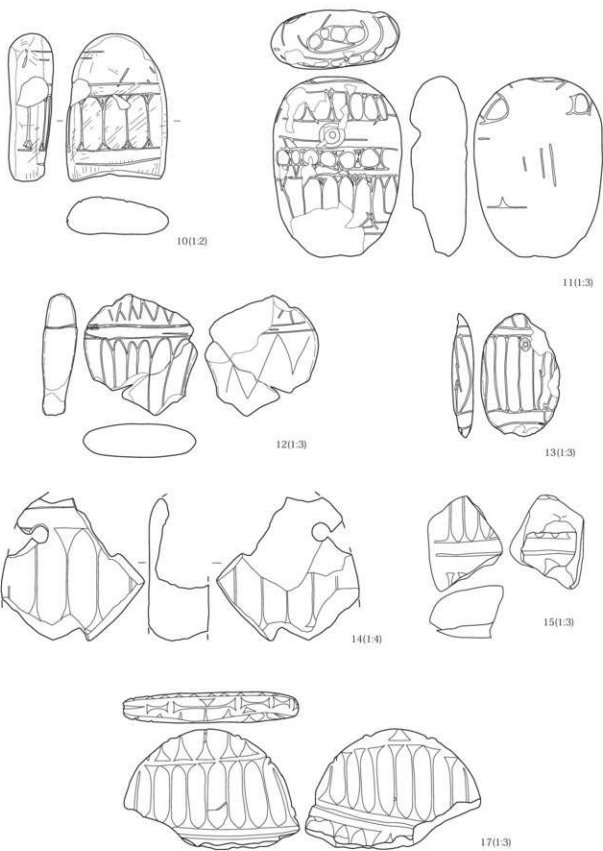
県内で出土した岩版の多くが凝灰岩製で、大きさは完形であれば10cm以上と推定されるものがほとんどである。このことを考慮すると、本遺跡の遺物を一概に岩版としてよいものかは疑問が残る。時間と紙面の都合上、十分に検討することができなかったが、最後に群馬県内出土の1字紋を有する岩版・土版を提示し、今後の課題とした。



第103図 岩版・土版出土遺跡

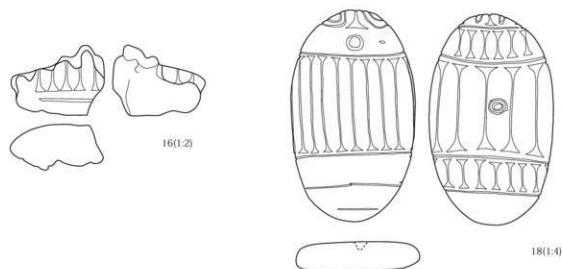


第104図 県内出土岩版・土版(1)



第 105 图 奥内出土岩版・土版 (2)

第5章 成果と課題



第106図 県内出土岩版・土版(3)

県内出土岩版・土版一覧表

No.	出土遺跡	長さ(km)	幅(km)	最大厚(km)	重量(g)	石材
1	菅根遺跡群	4.0	2.2	0.5	6.9	ホルンフェルス
2	石之塔遺跡	18.4	14.4	—	—	不明
3	石之塔遺跡	9.8	10.8	—	—	不明
4	龍沢石器時代遺跡	7.6	7.0	3.0	111.5	白色凝灰岩
5	矢瀬遺跡	11.5	5.6	1.9	73.7	白色軟質凝灰岩
6	矢瀬遺跡	4.2	3.5	0.8	14.9	流紋岩
7	矢瀬遺跡	4.5	2.3	0.6	6.7	流紋岩
8	矢瀬遺跡	5.5	5.6	2.7	50.9	白色軟質凝灰岩
9	矢瀬遺跡	6.3	5.4	2.1	32.9	白色軟質凝灰岩
10	矢瀬遺跡	7.8	5.4	2.3	72.2	白色軟質凝灰岩
11	谷地遺跡	14.3	10.2	4.5	565.0	凝灰岩
12	谷地遺跡	9.8	6.8	2.35	70.0	凝灰岩
13	谷地遺跡	8.9	9.0	2.6	170.0	凝灰岩
14	板倉遺跡	7.6	7.6	3.1	—	不明
15	矢島遺跡	7.6	5.9	4.1	—	不明
16	矢島遺跡	14.0	9.5	2.4	—	土版
17	矢島遺跡	4.9	3.7	2.5	—	土版
18	清水遺跡	22.3	13.2	3.1	—	土版

引用・参考文献

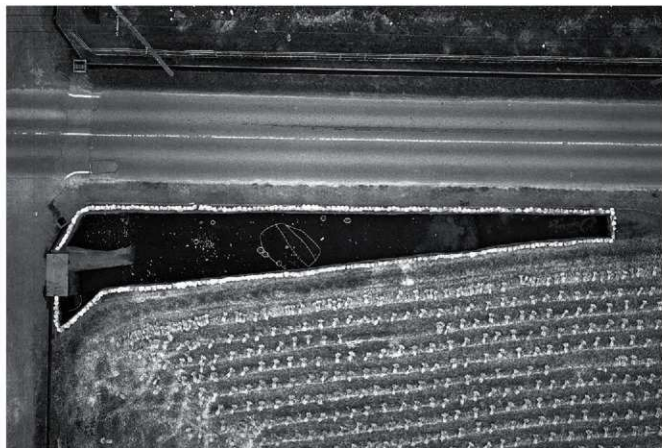
- 稲野彰子 1982『関東地方における岩版・土版の文様』『史学』第52巻第2号  
 稲野彰子 1983『岩版』『縄文文化の研究』9  
 小林修 2008『龍沢石器時代遺跡の1字文土偶』『史跡龍沢石器時代遺跡Ⅱ』渋川市教育委員会  
 小林達雄 1967『縄文晩期における土版・岩版』研究の前提。『物質文化』第10号  
 鷹野光行 1977『関東地方の土版の分類について』『古代文化』第29巻第10号  
 外山和夫 2008『龍沢石器時代遺跡の岩版類(1)』『史跡龍沢石器時代遺跡Ⅰ』渋川市教育委員会  
 堀越正行 1993『1字文土偶、その系統と分布』『埼玉考古』第30号  
 米田耕之助 1983『土版』『縄文文化の研究』9

岩版・土版出土遺跡文献

- 2・3『石之塔遺跡』振塚本町教育委員会 1987  
 4『龍沢石器時代遺跡Ⅱ』渋川市教育委員会 2008  
 5～10『上野北部遺跡群Ⅱ』丹後野町教育委員会 2005  
 11～13『谷地遺跡』藤岡市教育委員会 1988  
 14『板倉町史』別巻9 板倉町史編さん委員会 1989  
 15～17『矢島遺跡』明和村教育委員会 1991  
 18『群馬県史』資料編1 1988

# 写 真 图 版





1区第2面全景 (上が南)

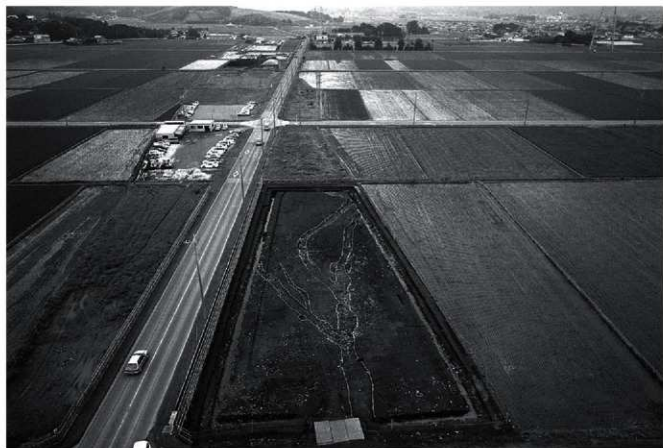


2区1・2面全景 (西)

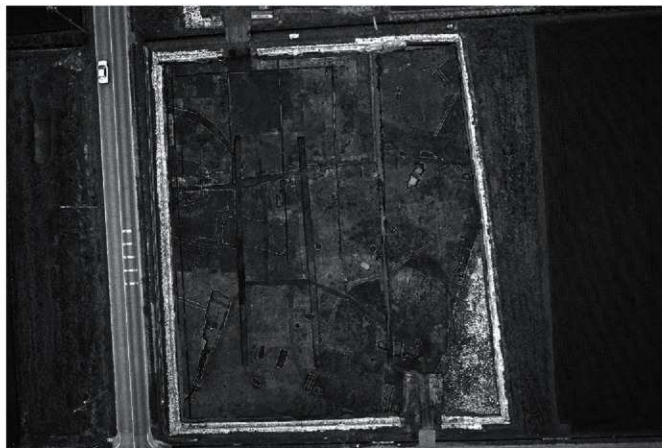




3区2面全景 (西)



4区2面全景 (西)



12区1・2面全景（上が西）



13区1面全景（西）



14区1面全景(南)



15区2面全景(東)

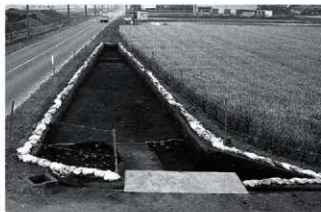


16区2面全景(西)

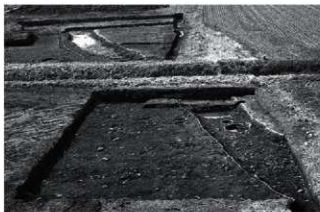


17・18区1面全景(北)

PL.6



1区1面全景(西)



7・9区2面全景(西)



12区2面全景(北)



16区1面全景(南)



17区2面全景(西)



19区1面全景(西)



1区1号土坑(北)



2区1号土坑(南)





2区2号土坑 (南東)



2区3号土坑 (南東)



2区4号土坑 (南)



2区5号土坑 (南)



2区6号土坑 (南)



2区1・2号溝 (南)



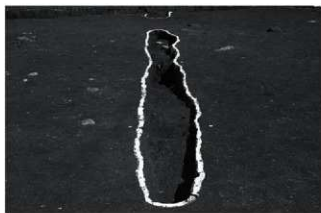
2区3号溝 (南)



2区4~6号溝 (南東)



2区7号溝 (南東)



2区8号溝 (南)



2区9号溝 (南東)



2区10号溝 (東)



2区12号溝 (南西)



2区13号溝 (南)



2区14号溝 (南東)



2区15号溝 (東)



2区16号溝(南)



2区17号溝(東)



2区段差状遺構(東)



2区畠跡(南西)



3区1号溝(北)



3区2号溝(南)



3区水田痕跡(東)



3区1号住居遺物出土状況(南)





3区1号住居(南)



3区1・2号掘立柱建物(北)



3区3号掘立柱建物(南)



3区ピット群・土坑(西)



4区跡先痕(上が西)



4区1号住居 (北西)



4区1号住居遺物出土状況 (西)



4区1・3号溝 (南東)



4区1号土坑 (南東)



4区2号土坑 (南西)



4区3号土坑(南)



4区4号土坑(北)



4区5号土坑(東)



4区6号土坑(南西)



4区7号土坑(南西)



4区2号溝(南東)



4区4号溝(南東)



4区5・6号溝(東)



4区7号溝 (南東)



4区8号溝 (南東)



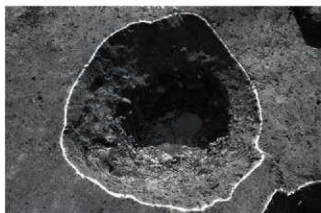
4区1～3号ビット (南西)



7区1号土坑 (南)



7区2号土坑 (西)



7区3号土坑 (東)



7区5号土坑 (西)



7区2号溝 (西)





9区1・2号土坑(北)



9区1号溝(西)



11区段差状遺構(東)



11区1号土坑(南)



11区1号溝(西)



12区1号土坑(西)



12区2号土坑(東)



12区3号土坑(東)



12区4号土坑 (北)



12区5号土坑 (北)



12区6号土坑 (北)



12区7号土坑 (南東)



12区8号土坑 (東)



12区9号土坑 (南東)



12区10号土坑 (南)



12区11号土坑 (南西)

PL.16



12区12号土坑(北西)



12区13号土坑(南東)



12区14号土坑(南西)



12区15号土坑(東)



12区16号土坑(西)



12区17号土坑(西)



12区18号土坑(北)



12区19号土坑(東)



12区20号土坑 (東)



12区21号土坑 (西)



12区22号土坑 (東)



12区23号土坑 (東)



12区24号土坑 (北西)



12区25号土坑 (北西)



12区26号土坑 (南)



12区27号土坑 (東)





12区 28号土坑 (北)



12区 29号土坑 (北)



12区 30号土坑 (北東)



12区 31号土坑 (北)



12区 32号土坑 (南)



12区 33号土坑 (南)



12区 34号土坑 (南東)



12区 35号土坑 (西)



12区 36号土坑 (南)



12区 37号土坑 (南)



12区 38号土坑 (南)



12区 39号土坑 (東)



12区 40号土坑 (西)



12区 41号土坑 (南東)



12区 42号土坑 (南)



12区 43号土坑 (南東)



12区44号土坑(南西)



12区45号土坑(南東)



12区46号土坑(東)



12区47号土坑(東)



12区49号土坑(北西)



12区1号溝(北西)



12区2号溝(南東)



12区3号溝(南)



12区4号溝 (北)



12区5号溝 (南)



12区6号溝 (北東)



12区7号溝 (南)



12区8号溝 (南東)



12区9号溝 (南)



12区As-B下水田痕跡 (南東)



12区10～15号溝 (東)





13区1号土坑(南東)



13区2号土坑(西)



13区3号土坑(東)



13区4号土坑(南)



13区5号土坑(東)



13区6号土坑(東)



13区1号溜井(上が北)



13区2号溜井(北)



13区3号溜井(東)



13区1号溝(東)



13区2号溝(北)



13区3・4号溝(西)



13区5号溝(東)



13区6号溝(東)



14区1号溝(北)



14区2号溝(南)



14区3号溝 (北西)



14区4号溝 (東)



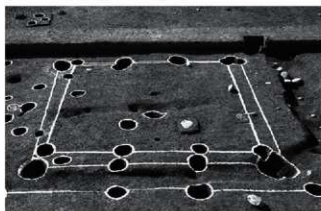
14区5号溝 (東)



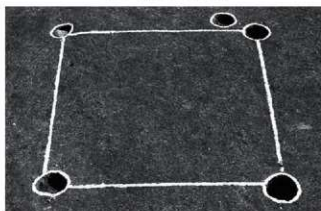
14区6号溝 (南)



14区7号溝および畦 (西)



15区1・2号掘立柱建物 (北)



15区3号掘立柱建物 (西)



15区1号柵列 (西)



15区1号土坑(東)



15区2号土坑(東)



15区3号土坑(西)



15区4号土坑(南東)



15区5号土坑(西)



15区1号溝(西)



15区2号溝(西)



15区3号溝(南)





15区4号溝 (南)



15区5号溝 (南)



15区6号溝 (東)



15区7号溝 (北)



15区8号溝 (北)



15区9号溝 (南)



15区10号溝 (北)



15区11号溝 (西)



15区12・13号溝(南)



15区14号溝(南東)



15区15号溝(南)



15区16号溝(南西)



15区17号溝(北西)



15区18号溝(北西)



15区20号溝(北)



15区21号溝(北)



15区23号溝(南)



15区24号溝(南)



15区25号溝(南)



15区26号溝(南西)



16区1号溝(北)



16区2号溝(北)



16区3号溝(南)



16区4号溝(南)



16区5号溝(西)



16区6号溝(南)



16区7号溝(南)



16区8号溝(北)



16区9~12号溝(北)



16区10・12号溝(南)



16区13号溝(南)



16区14号溝(北)



16区15号沟(北)



16区16号沟(北)



16区17号沟(北西)



16区水田痕迹(西)



16区As-B下水田痕迹(南西)



16区As-B下水田痕迹大畦(西)



16区As-B下水田痕迹畦(西)



16区As-B下水田痕迹水口(南)





16区1号土坑(南東)



16区2号土坑(南東)



16区3号土坑(南西)



16区4~8号土坑全景(東)



16区4号土坑(東)



16区5号土坑(東)



16区6号土坑(東)



16区7号土坑(東)



16区8号土坑(東)



16区遺物集中箇所(北)



16区岩版出土状況(南)



16区18号溝(南東)



16区19号溝(南東)



16区20号溝(北西)



16区21号溝(南)



16区22号溝(東)



16区23号溝(西)



16区24号溝(北)



16区25号溝(南東)



16区26号溝(北東)



16区27号溝(北東)



17区1号溝(北)



17区2号溝(南東)



17区3号溝(西)





17区4号溝 (南)



17区5号溝 (北)



17区6号溝 (西)



17区7号溝 (北)



17区8号溝 (東)



17区9号溝 (西)



17区10号溝 (南)



17区11号溝 (西)



17区12号溝 (南)



17区13号溝 (南)



17区14号溝 (東)



17区15号溝 (東)



17区16号溝 (北)



17区17号溝 (北)



17区18号溝 (南東)



17区19号溝 (北東)



17区20号溝(南)



17区21号溝(北西)



17区22号溝(北西)



17区23号溝(北西)



17区24号溝(北西)



17区25号溝(北西)



17区26号溝(南東)



17区27号溝(西)



17区28号溝(北西)



17区29・30号溝(西)



17区31・32号溝(北西)



17区33号溝(南西)



17区34号溝(南)



18区1号溝(北)



18区2号溝(南)



18区3号溝(東)



18区4号溝 (西)



18区5号溝 (南)



18区6号溝 (東)



5区範囲確認トレンチ (東)



6区範囲確認トレンチ (東)



8区範囲確認トレンチ (東)



10区範囲確認トレンチ (南東)



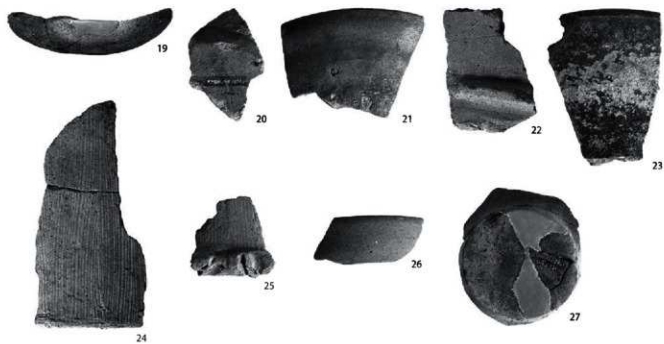
20区範囲確認トレンチ (東)



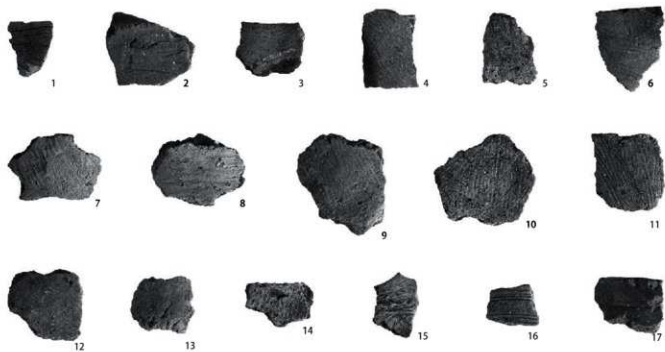


古墳時代以降の遺物 (1)

PL.40



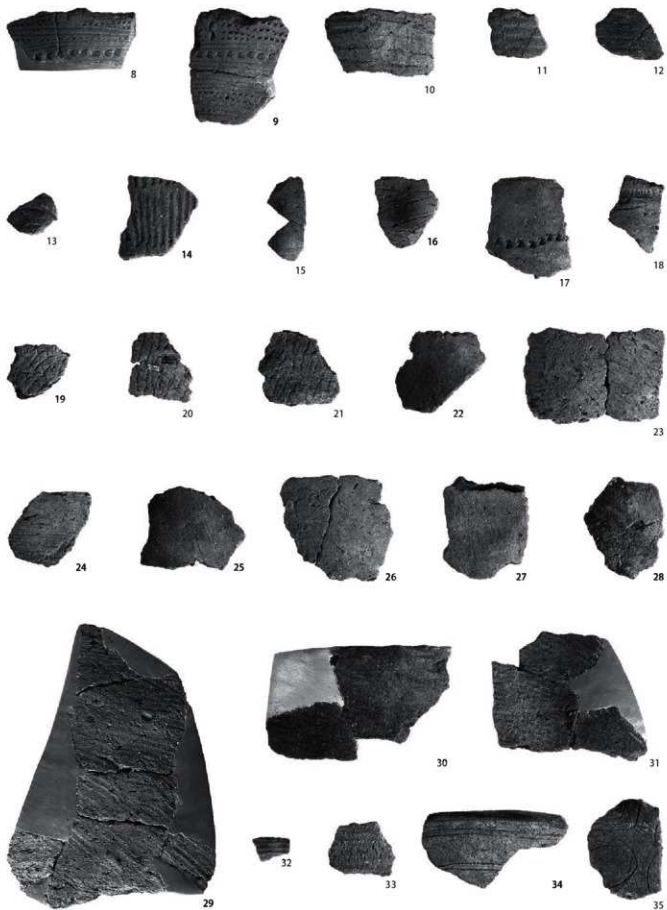
古墳時代以降の遺物（2）



1区出土縄紋土器



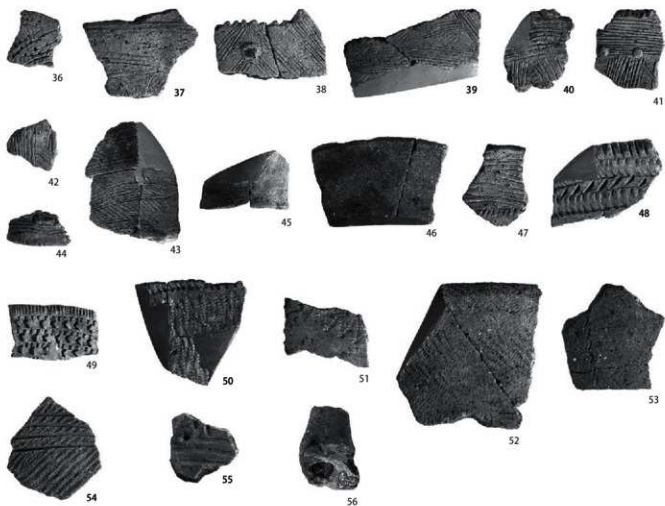
2区出土縄紋土器（1）



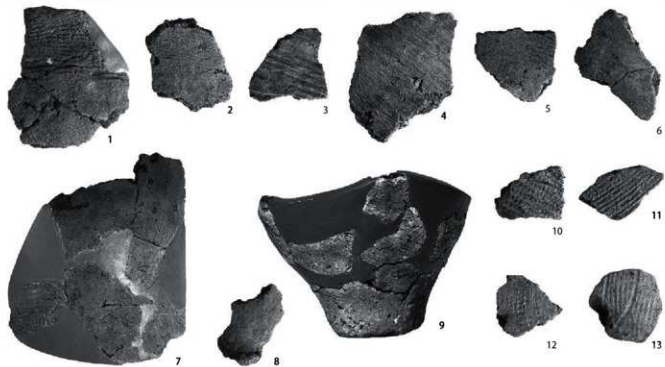
2区出土绳纹土器(2)



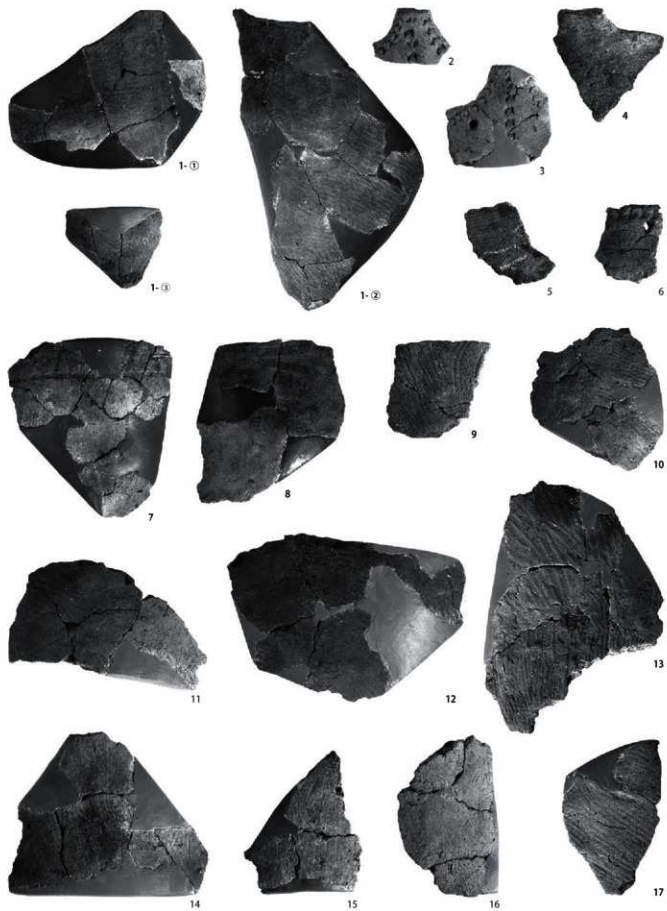
PL.42



2区出土绳纹土器 (3)

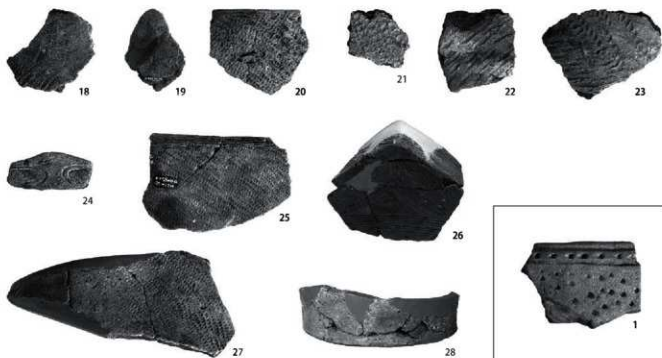


3区出土绳纹土器



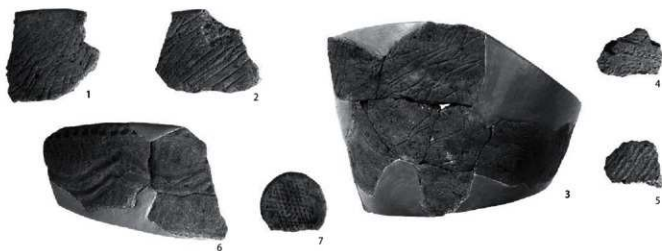
4区出土绳纹土器(1)

PL.44

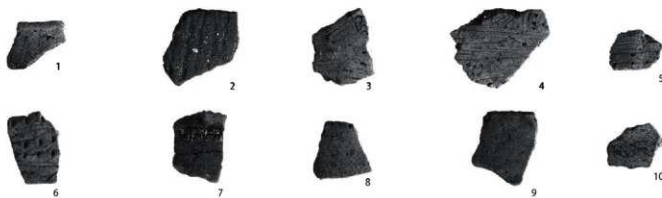


4区出土繩紋土器 (2)

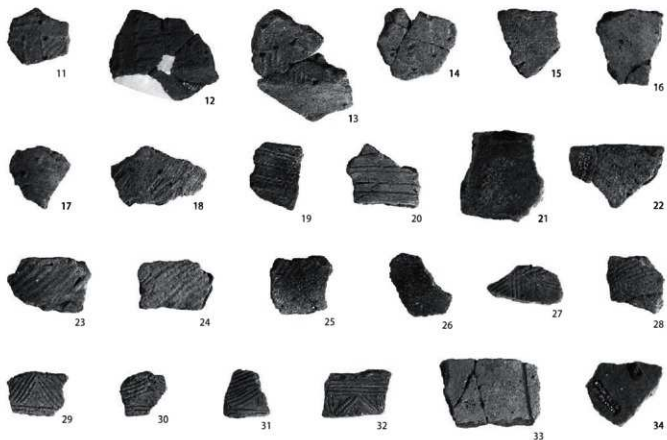
11区出土繩紋土器



12区出土繩紋土器



14区出土繩紋土器 (1)

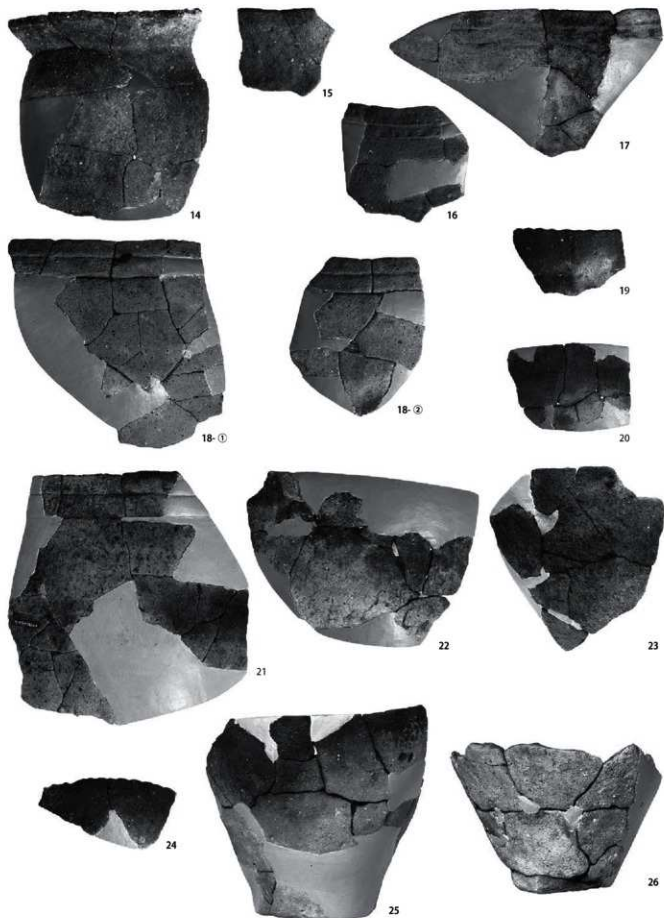


14区出土繩紋土器(2)

15出土繩紋土器



16区出土縄紋土器(1)



16区出土縄紋土器(2)



27



28



29



30



31



32

16区出土縄紋土器



1

17区出土縄紋土器



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16

出土石器 (1)



出土石器 (2)





52



53



55



56



57



54



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



69



68



70



71

出土石器 (4)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27

その他の製品

## 報 告 書 抄 録

書名ふりがな	すがしおいせきぐん
書 名	菅塩遺跡群
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	451
編著者名	齊田智彦 / 相京建史 / 橋本淳 / 石田真
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20081204
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北碓町下箱田7 8 4 番地2
遺跡名ふりがな	すがしおいせきぐん
遺 跡 名	菅塩遺跡群
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしすがしおまち
遺跡所在地	群馬県太田市菅塩町
市町村コード	10444
遺跡番号	T0455
北韓（日本測地系）	362019
東経（日本測地系）	1392054
北韓（世界測地系）	362030
東経（世界測地系）	1392042
調査期間	20020301-20031130/20070109-20070126
調査面積	43017
調査原因	道路建設工事
種 別	集落 / 田畑
主な時代	縄紋早期・前期・晩期
遺跡概要	集落・縄紋・縄紋土器 + 石器 / 集落 - 古墳・竪穴住居 2+ 土坑 6+ 溝 51 / 集落 - 中近世・土坑 71+ 溝 100 / 田畑 - 中近世 - 畠 + 水田痕跡
特記事項	縄紋時代晩期の I 字紋が刻まれた岩版
要約	太田市の八王子丘陵南に位置する本遺跡からは、縄紋時代早期後半から前期前半及び晩期前半の遺物が出土している。16 区から出土した縄紋時代晩期の岩版には I 字紋と呼ばれる紋様が施されており、貴重な資料となっている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 451 集

## 菅塩遺跡群

北関東自動車道（伊勢崎～沼田）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 20 年 11 月 27 日印刷

平成 20 年 12 月 4 日発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田 784 番地の 2

電話 0279-52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmatbun.org/>

印刷／株式会社 開文社印刷所

